山形県埋蔵文化財センター調査報告書第172集

万治ヶ沢遺跡発掘調査報告書

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

万治ヶ沢遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第172集

2009

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

万治ヶ沢遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書172集

平成 21 年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

B地点全景（南西から）

A地点全景（南から）

ＳＱ1032窯跡確認状況（西から）

ＳＱ1032窯跡完掘状況（西から）

ＳＱ1033窯跡完掘状況（南西から）

ＳＱ1024窯跡完掘状況（南から）

Ｂ地点全景（東から）

Ｂ地点西側主要部Ｋ～Ｑ・９～14付近完掘（右手前ＳＱ1023窯跡）（北東から）

ＳＸ1021性格不明遺構出土遺物

ＳＱ1046窯跡出土遺物

坏体部外面黒斑（30ー96）

坏体部外面黒斑（51ー348）

坏体部外面黒斑（25ー31）底部立ち上がり部に横方向の回転ケズリ

坏体部外面黒斑（29ー83）底部立ち上がり部に手持ちヘラケズリ

長胴甕体部黒斑（44ー264）

鍋体部黒斑（43ー258）

小型平底甕体部黒斑（42ー246）

小型平底甕体部黒斑（42ー247）

平成19年度理化学分析資料番号１（挿図番号28―72）

平成19年度理化学分析資料番号２（挿図番号32―113）

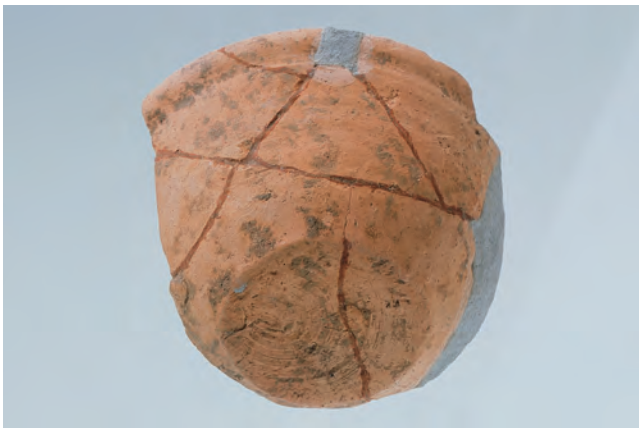
平成19年度理化学分析試料番号３（挿図番号53―382）

平成19年度理化学分析試料番号４（挿図番号30―95）

平成19年度理化学分析試料番号５（挿図番号38―187）

平成19年度理化学分析試料番号６（挿図番号29―81）黒斑

平成19年度理化学分析試料番号７（挿図番号30―90）



平成19年度理化学分析試料番号８（41―231）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、万治ヶ沢遺跡の調査成果をまとめたものです。

万治ヶ沢遺跡は、山形県西部の庄内地方南部の鶴岡市にあります。鶴岡市は庄内平野の南部に位置し、西は日本海、東に出羽三山をのぞむ自然景観豊かなところです。歴史的にも縄文時代以来数多くの遺跡が確認されており、庄内地方では唯一の古墳である菱津古墳や、県指定史跡の荒沢窯跡群など重要な遺跡も多く含まれています。江戸時代には徳川四天王の筆頭である酒井氏が入部し、以後約250年にわたって酒井氏の城下町として発展してきました。最近は歴史小説の舞台として脚光を浴びるなど、歴史的風土の豊かな土地柄です。

この度、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）の建設事業に伴い、工事に先立って万治ヶ沢遺跡の発掘調査を実施しました。調査では縄文時代の土器や石器をはじめ、平安時代の土器や木炭を焼成した遺構と共に、たくさんの平安時代の土器が見つかり、古代の山形県の歴史を探る上で多大な成果を得ることが出来ました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を保護するとともに、祖先の歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙や普及、並びに学術研究や教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成21年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　山口常夫

凡　　例

1　本書は、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設に係る「万治ヶ沢遺跡」の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、調査説明会資料などの内容に優先し、本書を持って本報告とする。

3　調査は日本道路公団東北支社（平成17年度）及び、国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所（平成18～20年度）の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　本書の執筆は鈴木良仁が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、佐東秀行、安部実、長橋至、伊藤邦弘、黒坂雅人が監修した。

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りで、現地調査で登録した記号をそのまま用いた。遺構の性格についてはⅤ章で整理した。

ＳＫ…土坑	ＳＱ…窯跡	ＳＬ…炉跡	ＳＰ…ピット
ＥＬ…被熱跡	ＳＸ…性格不明遺構	ＲＰ…登録土器	ＲＱ…登録石器
Ｐ…土器	Ｑ…石器	Ｓ…自然礫	

7　遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示した。土器実測図において、断面が黒塗りの遺物は須恵器をあらわす。

8　遺物観察表の（　）内数値は図上復元による推定値を示し、出土地点のＦは覆土を示す。また、Ⅲ章「遺構と遺物」において、本文中の（　）内数値は残存値を示す。

9　基本層序および遺構覆土の色調記載については、2002年版農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

10　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。(敬称略)

秋田県埋蔵文化財センター　石澤宏基

秋田県埋蔵文化財センター　磯村亨

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　佐々木清文

秋田県教育庁払田柵調査事務所　高橋学

調 査 要 項

遺　跡　名	万治ヶ沢（まんじがさわ）遺跡		
遺 跡 番 号	平成16年度登録		
所　在　地	山形県鶴岡市大字矢引字万治ヶ沢		
調査委託者	日本道路公団東北支社（平成17年度）		
	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所（平成18～20年度）		
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
受 託 期 間	平成17年４月１日～平成18年３月31日（現地調査・整理作業）		
	平成18年４月１日～平成19年３月31日（整理作業）		
	平成19年４月１日～平成20年３月31日（整理作業）		
	平成20年４月１日～平成21年３月31日（整理作業）		
現 地 調 査	平成17年５月９日～８月20日		
調査担当者	平成17年度	調査第三課長	渋谷孝雄
		主任調査研究員	黒坂雅人
		主任調査研究員	鈴木良仁（調査主任）
		調　査　員	向出博之
	平成18年度	調査第三課長	渋谷孝雄
		専門調査研究員	黒坂雅人
		調　査　員	黒坂広美（調査主任）
	平成19年度	調　査　課　長	長橋至
		整　理　課　長	野尻侃
		専門調査研究員	黒坂雅人
		主任調査研究員	鈴木良仁（調査主任）
	平成20年度	整　理　課　長	安部実
		調　査　課　長	長橋至
		課　長　補　佐	黒坂雅人
		主任調査研究員	鈴木良仁（調査主任）
調 査 指 導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室（平成17年度）		
	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室（平成18～19年度）		
	山形県教育庁文化遺産課（平成20年度）		
調 査 協 力	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所		
	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所		
	鶴岡市教育委員会		
	山形県教育庁庄内教育事務所		
委 託 業 務	基準点測量業務　有限会社石井測量設計事務所		
	地形・遺構測量（俯瞰撮影）業務　株式会社ワクニ		
	理化学分析業務　パリノ・サーヴェイ株式会社		

理化学分析業務　株式会社日鐵テクノリサーチ

発掘作業員	秋山弘夫	阿部継行	五十嵐梅子	五十嵐嘉世	五十嵐しげ子	伊藤喜久子
	伊藤礼子	遠藤春子	大瀧慎吾	熊坂兼一	小松和子	小松恒雄
	小松ミハ子	今野茂二	今野重義	今野篤次	今野ミトリ	斉藤春雄
	佐藤明子	佐藤一夫	佐藤京子	佐藤サクノ	佐藤定恵	佐藤幸子
	佐藤世基	佐藤隆	佐藤隆幸	佐藤田鶴子	佐藤千江	佐藤トキミ
	佐藤登	佐藤美恵	佐藤美枝子	佐藤美佐子	佐藤翠	佐藤ミヤエ
	佐藤ヤエノ	佐藤庸子	瀬尾茂	瀬尾節子	瀬尾奉子	武田桂三
	長谷川謙三	本間京子	三浦節			

（五十音順）

整理作業員	安孫子道子	阿部実生	伊藤純子	伊藤みち子	岩田しげ子	宇野道子
	榎本茂樹	貝羽美津子	加藤慶則	齋藤峰子	佐藤美由紀	白川美幸
	菅原仁美	鈴木澄子	鈴木美紀子	丹野玲子	塚崎智子	新関講二
	服部三枝子	船山留美子	古内節子	本間加代子	三橋弘子	村山郁子
	吉野茂子					

（五十音順）

目　　次

Ⅰ　調査の経過
　1　調査に至る経緯…… 1
　2　調査の経過…… 1
　3　調査の概要…… 2
　4　整理の概要…… 2
Ⅱ　遺跡の位地と環境
　1　地理的環境…… 4
　2　歴史的環境…… 4
Ⅲ　遺構と遺物
　Ａ地点
　1　Ａ地点の概略…… 8
　2　平安時代の遺構…… 8
　3　縄文時代の遺構…… 21
　4　遺構外出土遺物…… 22
　Ｂ地点
　1　Ｂ地点の概略…… 22
　2　平安時代の遺構と遺物…… 23
　3　平安時代の遺構外出土の遺物…… 32
　4　縄文時代の遺構と遺物…… 37
Ⅳ　理化学分析
　1　平成17年度万治ヶ沢遺跡出土土器の胎土分析……138
　2　平成18年度万治ヶ沢遺跡の自然化学分析……143
　3　平成19年度万治ヶ沢遺跡出土赤焼土器の胎土分析……156
　4　平成19年度万治ヶ沢遺跡出土鉄滓の理化学分析……163
Ⅴ　調査のまとめ
　1　Ａ地点について……172
　2　Ｂ地点について……172

報告書抄録…… 巻末

表

表１　遺跡地名表……4
表２　Ａ地点出土遺物（１）……19
表３　Ａ地点出土遺物（２）……20
表４　遺物観察表（１）……54
表５　遺物観察表（２）……55
表６　遺物観察表（３）……56
表７　遺物観察表（４）……57
表８　遺物観察表（５）……58
表９　遺物観察表（６）……59
表10　遺物観察表（７）……60
表11　遺物観察表（８）……61
表12　遺物観察表（９）……62
表13　遺物観察表（10）……62
表14　遺物観察表（11）……62
表15　遺物観察表（12）……62
表16　遺物観察表（13）……63
表17　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（１）……64
表18　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（２）……66
表19　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（３）……68
表20　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（４）……70
表21　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（５）……72
表22　Ｂ地点遺構別器種重量グラフ（１）……74
表23　Ｂ地点遺構別器種百分比グラフ（１）……75
表24　Ｂ地点遺構別器種重量グラフ（２）……76
表25　Ｂ地点遺構別器種百分比グラフ（２）……77
表26　Ｂ地点遺構別器種重量表……78
表27　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（１）……79
表28　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（２）……80
表29　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（３）……81
表30　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（４）……82
表31　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（５）……83
表32　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（６）……84
表33　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（７）……85
表34　Ｂ地点坏・高台坏器高・底径指数（８）……86
表35　Ｂ地点土師器焼成遺構一覧……174
表36　Ｂ地点出土土師器　器種分類表……187

図　版

第１図　調査概要図……3
第２図　遺跡位置図……5
第３図　地形分類図……6
第４図　土層柱状図……7
第５図　Ａ・Ｂ地点遺構配置図……9
第６図　Ａ地点遺構配置図……11
第７図　Ｂ地点遺構配置図……13
第８図　Ｂ地点平安時代遺構分布概念図……15
第９図　Ａ地点遺物分布図……17
第10図　ＳＱ1001～1006・ＳＱ1023窯跡実測図……38
第11図　ＳＱ1007・1019～1020・1037窯跡、ＳＸ1021～1022性格不明遺構、ＳＫ1036・1054土坑実測図……39
第12図　ＳＱ1018・1040～1041・1044窯跡、ＳＰ1055ピット実測図……40
第13図　ＳＱ1025～1027窯跡、ＳＸ1010～1012・1059性格不明遺構実測図……41
第14図　ＳＱ1028～1030窯跡実測図……42
第15図　ＳＱ1024・1032窯跡、ＳＫ1031土坑、ＳＸ1049性格不明遺構実測図……43
第16図　ＳＱ1024・1032窯跡実測図……45
第17図　ＳＱ1033窯跡、ＳＸ1034性格不明遺構実測図……47
第18図　ＳＱ1039・1045～1048窯跡実測図……49
第19図　ＳＱ1042～1043・1053窯跡、ＳＫ1057～1058土坑実測図……50
第20図　ＳＫ２～５・59・77・82土坑、ＳＬ42炉跡、ＳＰ47ピット実測図……51
第21図　ＳＸ70・85性格不明遺構、ＳＱ81窯跡実測図……52
第22図　ＳＸ83性格不明遺構実測図……53
第23図　ＳＱ1001～1002・1004～1007出土遺物実測図……87
第24図　ＳＱ1007・1018出土遺物実測図……88
第25図　ＳＱ1020、ＳＸ1021出土遺物実測図……89
第26図　ＳＸ1021～1022、ＳＱ1023～1024出土遺物実測図……90
第27図　ＳＱ1024～1026出土遺物実測図……91
第28図　ＳＱ1026～1028出土遺物実測図……92
第29図　ＳＱ1028～1029出土遺物実測図……93
第30図　ＳＱ1030・1032出土遺物実測図……94
第31図　ＳＱ1032出土遺物実測図……95
第32図　ＳＱ1032、ＳＸ1034出土遺物実測図……96
第33図　ＳＸ1034、ＳＫ1036、ＳＱ1037出土遺物実測図……97
第34図　ＳＱ1039～1041・1044出土遺物実測図……98

第35図　ＳＱ1044・1046出土遺物実測図……99
第36図　ＳＱ1046出土遺物実測図（１）……100
第37図　ＳＱ1046出土遺物実測図（２）……101
第38図　ＳＱ1047～1048、ＳＸ1049出土遺物実測図 ……102
第39図　ＳＸ1049出土遺物実測図（１）……103
第40図　ＳＸ1049出土遺物実測図（２）……104
第41図　グリッド出土遺物実測図（１）……105
第42図　グリッド出土遺物実測図（２）……106
第43図　グリッド出土遺物実測図（３）……107
第44図　グリッド出土遺物実測図（４）……108
第45図　グリッド出土遺物実測図（５）……109
第46図　グリッド出土遺物実測図（６）……110
第47図　グリッド出土遺物実測図（７）……111
第48図　グリッド出土遺物実測図（８）……112
第49図　グリッド出土遺物実測図（９）……113
第50図　グリッド出土遺物実測図（10）……114
第51図　グリッド出土遺物実測図（11）……115
第52図　グリッド出土遺物実測図（12）……116
第53図　グリッド出土遺物実測図（13）……117
第54図　グリッド出土遺物実測図（14）……118
第55図　ＳＱ1001・1018、ＳＸ1022、
　　グリッド出土遺物実測図 ……119
第56図　ＳＸ1049、グリッド出土遺物実測図 ……120
第57図　鉄滓実測図 ……121
第58図　Ｂ地点出土石製品・石器実測図 ……122
第59図　Ａ地点・Ｂ地点出土石器実測図 ……123
第60図　Ａ地点出土石器・石製品実測図 ……124
第61図　Ａ地点出土土器実測図 ……125
第62図　Ａ地点・Ｂ地点出土土器実測図 ……126
第63図　Ｂ地点遺物分布図（１）須恵器 ……127
第64図　Ｂ地点遺物分布図（２）土師器坏 ……128
第65図　Ｂ地点遺物分布図（３）土師器坏 ……129
第66図　Ｂ地点遺物分布図（４）土師器坏 ……130
第67図　Ｂ地点遺物分布図（５）土師器高台付坏 ……131
第68図　Ｂ地点遺物分布図（６）土師器甕 ……132
第69図　Ｂ地点遺物分布図（７）土師器甕 ……133
第70図　Ｂ地点遺物分布図（８）土師器塝 ……134
第71図　Ｂ地点遺物分布図（９）土師器 ……135
第72図　Ｂ地点遺物分布図（10）土師器 ……136
第73図　Ｂ地点遺物分布図（11）その他 ……137
第74図　Ｂ地点土師器器種分類図（１）……182
第75図　Ｂ地点土師器器種分類図（２）……183
第76図　Ｂ地点坏外形集成図（１）……184
第77図　Ｂ地点坏外形集成図（２）……185
第78図　Ｂ地点土師器坏変遷図 ……186

写真図版

巻頭写真１　Ｂ地点全景・Ａ地点全景
巻頭写真２　ＳＱ1032・1033・1024窯跡完掘状況
巻頭写真３　Ｂ地点全景・Ｂ地点西側主要部
巻頭写真４　ＳＸ1021性格不明遺構、ＳＱ1046窯跡出土遺物
巻頭写真５　土器体部外面黒斑
巻頭写真６　平成19年度理化学分析試料
写真図版１　調査区（Ａ地点・Ｂ地点）
　　全景航空写真・Ａ地点遠景航空写真
写真図版２　Ａ地点全景航空写真
写真図版３　Ｂ地点全景航空写真
写真図版４　遺跡遠景、Ａ地点調査風景、Ａ地点・Ｂ地点調査前状況
写真図版５　Ａ地点・Ｂ地点調査状況、調査説明会、
　　Ｂ地点遺物出土状況
写真図版６　Ｂ地点ＳＱ1001～1003窯跡完掘状況
写真図版７　Ｂ地点ＳＱ1028～1030窯跡完掘状況
写真図版８　Ｂ地点ＳＸ1049性格不明遺構、ＳＱ1032窯跡完掘状況、
　　ＳＱ1032窯跡前庭部土層断面
写真図版９　Ｂ地点ＳＱ1001・1002・1003窯跡
写真図版10　Ｂ地点ＳＱ1004・1005・1006窯跡
写真図版11　Ｂ地点ＳＱ1004・1005・1006・1023窯跡
写真図版12　Ｂ地点ＳＱ1007・1019・1020・1037窯跡、
　　ＳＸ1022性格不明遺構
写真図版13　Ｂ地点ＳＱ1025・1026・1027窯跡
写真図版14　Ｂ地点ＳＱ1018・1040・1041・1044窯跡、ＳＰ1055ピット
写真図版15　Ｂ地点ＳＸ1010・1011・1012・1049・
　　1059性格不明遺構、ＳＱ1028・1029・1030窯跡
写真図版16　Ｂ地点ＳＱ1024・1032窯跡
写真図版17　Ｂ地点ＳＱ1039・1045・1046・1047・1048窯跡
写真図版18　Ｂ地点ＳＱ1033窯跡
写真図版19　Ｂ地点ＳＱ1042・1043・1053窯跡、ＳＫ1057土坑
写真図版20　Ａ地点ＳＫ２・３・４・５土坑
写真図版21　Ａ地点ＳＬ42炉跡、ＳＫ59・82土坑、
　　ＳＸ70・83・85性格不明遺構、ＳＱ81窯跡
写真図版22　Ｂ地点出土土器（１）

写真図版23　Ｂ地点出土土器（２）
写真図版24　Ｂ地点出土土器（３）
写真図版25　Ｂ地点出土土器（４）
写真図版26　Ｂ地点出土土器（５）
写真図版27　Ｂ地点出土土器（６）
写真図版28　Ｂ地点出土土器（７）
写真図版29　Ｂ地点出土土器（８）
写真図版30　Ｂ地点出土土器（９）
写真図版31　Ｂ地点出土土器（10）
写真図版32　Ｂ地点出土土器（11）
写真図版33　Ｂ地点出土土器（12）
写真図版34　Ｂ地点出土土器（13）
写真図版35　Ｂ地点出土土器（14）
写真図版36　Ｂ地点出土土器（15）
写真図版37　Ｂ地点出土土器（16）
写真図版38　Ｂ地点出土土器（17）
写真図版39　Ｂ地点出土土器（18）
写真図版40　Ｂ地点出土土器（19）
写真図版41　Ｂ地点出土土器（20）
写真図版42　Ｂ地点出土土器（21）
写真図版43　Ｂ地点出土土器（22）
写真図版44　Ｂ地点出土土器（23）
写真図版45　Ｂ地点出土土器（24）
写真図版46　Ｂ地点出土土器、土製品（25）
写真図版47　Ｂ地点出土土製品（26）
写真図版48　Ａ・Ｂ地点出土石器、Ｂ地点出土鉄滓（27）
写真図版49　Ａ地点出土土器（28）
写真図版50　Ａ・Ｂ地点出土土器（29）
写真図版51　Ｂ地点出土土器調整（１）
写真図版52　Ｂ地点出土土器調整（２）
写真図版53　Ｂ地点出土土器・土製品（１）
写真図版54　Ｂ地点出土土器・土製品（２）

Ⅰ　調査の経過

1　調査に至る経緯

万治ヶ沢遺跡は、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）の建設事業に先立ち、山形県教育委員会によって平成16年度に行われた日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）に関わる事業予定地内の遺跡詳細分布調査によって発見された。平成16年８月３日～12日にかけての山形県教育委員会によるＢ調査（試掘調査）によって、縄文時代の遺跡として新規に登録されたものである。

県教育委員会による試掘調査を受け、山形県埋蔵文化財センターでは本調査に向け、遺構や遺物の分布状況の把握のために平成16年12月１日から３日にかけて１次調査を実施した。その結果、県教育委員会によって新規に登録された範囲のほかに、平安時代の遺物の散布地が確認された。県教育委員会によって登録された範囲をＡ地点と呼称し、１次調査によって新たに確認された範囲をＢ地点と呼称することになった。

万治ヶ沢遺跡をはじめ、行司免遺跡や興屋川原遺跡などが平成16年度に新規に登録され、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）の事業予定地に遺跡範囲が含まれる遺跡について、当時の日本道路公団東北支社と山形県教育委員会との間で遺跡の取り扱いについて協議が行われた。その結果、建設事業に先立つ記録保存のための緊急発掘調査を、財団法人山形県埋蔵文化財センターが行うことになった。

2　調査の経過

調査予定地内に伐採された木材が多数散在しており、調査に支障をきたすことから、４月25日から28日にかけて、バックホーとキャリアダンプを導入して伐採木の処理を現地調査に先行して行った。

５月10日に万治ヶ沢遺跡・玉作２遺跡ほか５遺跡の日本海沿岸東北自動車道建設に関わる発掘調査の合同鍬入れ式調査を行司免遺跡地内で行った。日本海沿岸東北自動車道建設事業に関わる７遺跡の合同調査事務所を行司免遺跡に隣接する事業用地内に設け、各遺跡にはユニットハウスを設置して器材置場や休憩場とした。しかし、万治ヶ沢遺跡の場合は、調査区近くまでの車両の進入は不可能なので、県道に面した事業用地内に駐車場とユニットハウスを置き、器材置場とした。駐車場から調査区までは比高差が40メートルほどあり、進入路も尾根伝いの山道を利用し、徒歩で移動した。進入路は足場も悪く、粘土質の土壌のため雨の後などは足元が危険なため、危険箇所に階段や手すりを設置した。また調査区の南側を沢が流れており、下流には集落があるため、沢に土砂が流れ込まないように土留めの柵を設置するなど、環境整備にも配慮した。

現地調査は５月９日から８月20日までの延べ104日、実質71日間行った。現地調査は、調査区設定、表土除去、面整理と遺構検出、遺構精査と記録、器材撤収の順で行った。調査区設定の後、重機の進入路が北東側の県道に面した事業予定地しか確保できないことと、排土置場がＡ地点とＢ地点の間にある凹地であることから、重機によるＡ地点の表土除去を先に行い、その後にＢ地点を行った。表土除去が終了したところから人力による面整理を行い、遺構の検出に努めた。

Ｂ地点は南側に開けた凹斜面に立地するため、遺構検出面までの土砂の堆積の多さや、１次調査の結果からＡ地点よりも遺構や遺物の分布が密であることが予想されたため、Ｂ地点の調査を先行し、Ｂ地点の調査に目途が立った時点でＡ地点の面整理以降の調査を行うこととした。

Ａ地点・Ｂ地点とも植林された杉の切り株が多数存在したが、Ａ地点は遺構や遺物の分布が希薄なことから、調査に支障がないと判断したので、切り株はそのままにした。Ｂ地点については遺物や遺構が多く分布し、遺構と重なっていることが予想されたので、切り株を除去することにした。

現地調査の経過は以下のとおりである。

５月９日～13日

９日に合同調査事務所を設置し、11日重機を導入してからＡ地点の表土除去を行う。

５月16日～20日

18日にＡ地点の表土除去を終了し、Ｂ地点の表土除去に入る。

５月23日～27日

27日でＢ地点の表土除去終了。

５月30日～６月３日

委託業務の基準点測量を行う。

６月６日～24日

Ｂ地点の面整理と切り株の処理

６月27日～７月１日

雨のため現場作業中止の日が多い。

７月４日～８日

５日に上郷地区地権者現地見学のため来跡。

Ｂ地点の面整理と遺構確認作業を行うが、天候不順のため作業中止の日が多い。

７月11日～14日

Ａ地点の面整理を行う。Ｂ地点の面整理と遺構確認を行う。

７月19日～22日

Ａ地点の面整理と遺物分布図作成開始する。

Ｂ地点面整理と遺構精査を開始する。

７月25日～８月５日

Ａ・Ｂ地点の遺構精査と記録作業を行う。

８月４日に委託業務の遺構測量を行う。

８月６日

現地調査説明会を行う。約140名が参加者。

８月８日～12日

遺構精査と記録作業を行う。

８月19日～20日

写真撮影と機材撤収を行う。

3　調査の概要

調査区のグリッド座標はＸ系平面直角座標（世界測地系）を用い、Ｘ座標（南北方向）はアラビア数字、Ｙ座標（東西方向）はアルファベットで表した。Ｂ地点の調査範囲の大部分は斜面で、遺物の量が多いことや、遺構も多数検出されることが予想されたことから、遺物の出土地点をより限定させるために２ｍ四方のグリッドを用いた。

万治ヶ沢遺跡は遺跡内にＡとＢの２地点があることから、整理の段階での遺物の混合を防ぐために、Ａ地点のＹ座標はアルファベットの小文字を用いてＢ地点との区別を図った。Ｘ座標は－143870.000を０として、Ａ地点・Ｂ地点とも共通とした。それより南方向は数が増加し、北方向は数が減少するようにした。Ｙ座標は、Ａ地点では－96620.000を基準としａを与え、Ｂ地点では－96560.000を基準としてＡを与えた。グリッドの呼称はＹ軸とＸ軸との組み合わせで、北西角の杭を基準とし、Ａ地点は「ｔ・９」、Ｂ地点は「Ｔ・９」というように表記した。

遺物の取り上げはグリッドを基本とし、遺構出土のものに関しては遺構名とグリッドを併記して取り上げた。

現地調査の撮影器材はデジタルカメラのほかに、35㎜判カメラ、６×７の中判カメラ、４インチ×５インチの大判カメラを用いた。フィルムは、35㎜判カメラはリバーサルフィルムだけを用い、中判と大判カメラはリバーサルフィルムとモノクロフィルムを併用した。遺物撮影は６×７の中判カメラを用い、リバーサルフィルムを使用した。

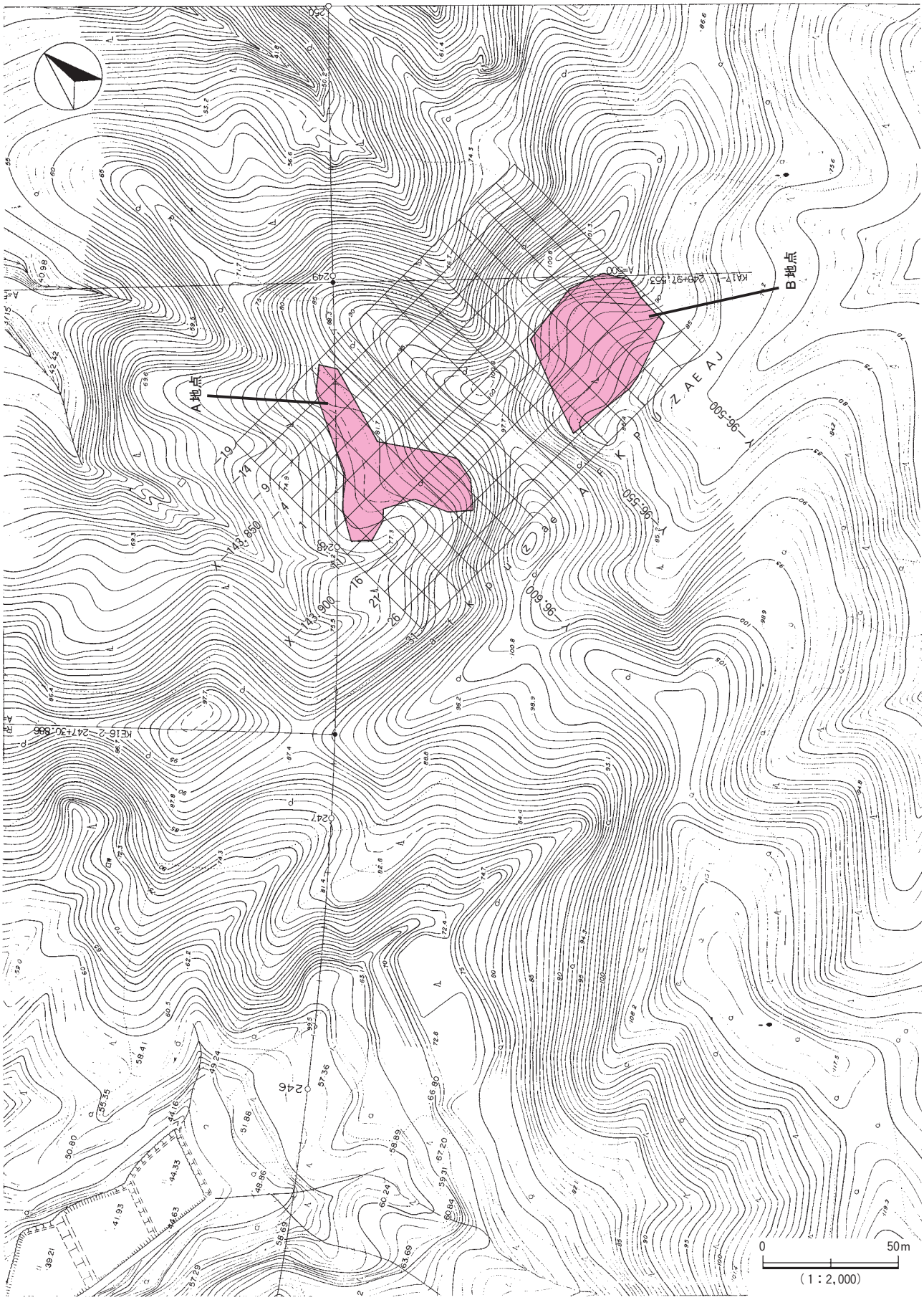
4　整理の概要

平成17年度は発掘調査写真の点検と注記、図面の点検と校正を行った。遺物の整理作業は洗浄・ネーミングと接合を行った。出土した土器の中で、縄文土器と土師器は脆いものが多かったので、バインダー処理を行い、表面をコーティングして劣化を防いだ。

平成18年度は遺構図のトレースを行った。接合・復元をしながら、報告書掲載用の遺物の選び出しを行い、一部の遺物について実測を行った。

平成19年度の整理作業は、遺物実測・トレースと、報告書掲載の挿図の作成を行った。また、報告書掲載遺物の写真撮影をおこない、現場・遺構関係の写真の選び出しを行った。あわせて観察表や地名表の作成を行った。

平成20年度は本文の執筆・編集作業と印刷、遺物・記録類の収納作業を行った。



第１図　調査概要図

Ⅱ　遺跡の位地と環境

1　地理的環境

鶴岡市は山形県西部、庄内地方の南半分を占め、北は庄内平野、西側は日本海に面し、南と東側は山地に囲まれ、出羽・朝日山地の西部に位置する。

遺跡の立地する熊野長峰は、藤倉山中起伏山地に区分され、地形的には山地および丘陵地である。水系的には一級河川の赤川水系に属し、大戸川を経て大山川に注ぎ、赤川に合流する。遺跡は熊野長峰の北側の緩斜面に立地し、表層地質的には泥岩主体の砂岩・礫岩からなる固結堆積物で、土壌的には褐色森林土壌で覆われている。遺跡の付近では赤色風化がみられ、遺跡近くの大谷地区から矢引地区に通じる旧道には、小豆色の土色から名づけられたともいわれている「小豆坂」が存在する。

標高はＡ地点の中央部で約80～81m、Ｂ地点の中央部で約88～89mを測る。Ａ地点とＢ地点は南北に走る尾根によって分断されており、地形的には同じ遺跡内での２地点というより、まったく別の２遺跡といってよい。

遺跡はＪＲ羽越本線水沢駅から南西に約2.8kmの､熊野長峰北側から連なる尾根上の緩斜面に位置する。 Ａ地点からは眺望が開け、北東に広がる庄内平野や鳥海山、北には高館山や荒倉山を望むことが出来る。遺跡が所在する矢引地区は、昭和30年までは西田川郡上郷村に属していた。

表１　遺跡位置図地名表

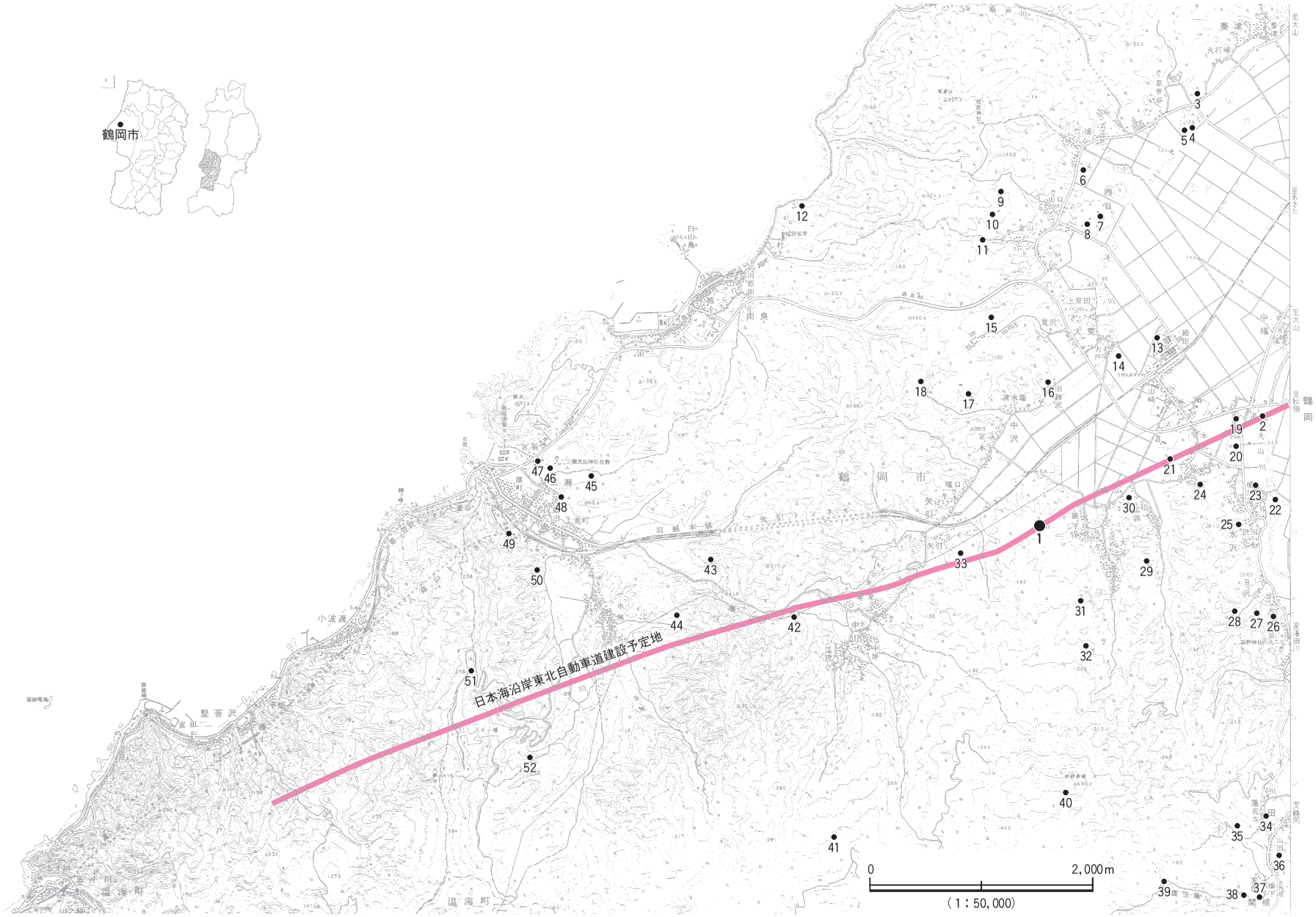
番号	遺跡名	種　別	時　代	番号	遺跡名	種　別	時　代
1	万治ヶ沢遺跡	集落跡・窯跡	縄文・平安	27	石山墳墓	墳墓	平安・中世
2	行司免遺跡	墓域	奈良・平安	28	地蔵堂山経塚遺跡	経塚	平安・中世
3	菱津古墳	古墳	古墳	29	広浜稲跡遺跡	城館跡	鎌倉
4	火打崎Ｂ遺跡	集落跡	古墳	30	大広Ａ遺跡	集落跡	縄文
5	火打崎Ａ遺跡	集落跡	縄文	31	大広菊台遺跡	祭祀跡	平安・中世
6	西日経塚遺跡	経塚	中世	32	大広Ｂ墳墓	墳墓	平安・中世
7	山口Ｂ遺跡	集落跡	古墳	33	矢引経塚遺跡	経塚	古墳
8	山口Ａ遺跡	集落跡	縄文	34	田川蓮華庵寺	寺院跡	奈良・平安・中世
9	山口Ｃ遺跡	窯跡	平安	35	柴田山遺跡	集落跡	縄文
10	金山Ａ須恵器窯	窯跡	平安	36	関根Ｃ遺跡	集落跡	縄文
11	金山Ｂ墳墓	墳墓	平安・中世	37	関根Ｆ遺跡	集落跡	縄文
12	由良金山窯跡	窯跡	平安	38	関根Ｄ・Ｄ′遺跡	集落跡	旧石器・縄文
13	水沢遺跡	集落跡	平安	39	関根Ｅ遺跡	集落跡	縄文
14	大戸遺跡	集落跡	平安	40	熊野神社跡	社寺跡	不明
15	荒沢窯跡	窯跡	奈良・平安	41	中山遺跡	集落跡	縄文
16	中沢遺跡	集落跡	平安	42	西向遺跡	集落跡	縄文
17	玉林坊遺跡	寺院跡	中世	43	御林Ａ・Ｂ遺跡	集落跡	旧石器・縄文
18	麓山遺跡	集落跡	縄文	44	稲の山館遺跡	城跡跡	中世
19	鳥塚墳墓	墳墓	平安	45	浦田遺跡	集落跡	奈良・平安・中世
20	丸山集落跡	集落跡	縄文	46	宮の前遺跡	集落跡	弥生
21	木の下館跡	城館跡	中世	47	段塚墳墓	墳墓	中世
22	中里Ｄ遺跡	集落跡	奈良・平安	48	旗本台遺跡	集落跡	縄文
23	稲川遺跡	集落跡	平安	49	定福館遺跡	城館跡	中世
24	水沢城の下遺跡	墳墓	平安・中世	50	木谷地沢墳墓	墳墓	中世
25	中山遺跡	集落跡	縄文	51	山田墳墓	墳墓	中世
26	石山稲遺跡	稲跡	中世	52	鴻之巣寺遺跡	寺院跡	中世

Ａ地点は北西方向に開けた斜面に立地しており、日当たりも良い。調査区の南西部には沢があり、その始まりには水量は少ないが湧水（ｋ・11グリッド付近）がある。遺構や遺物の多くは斜面の平坦部に位置していた。一方Ｂ地点は、調査区の南側にある沢を取り囲むようにして東側以外が尾根に囲まれ、Ａ地点の視界の開放的な景観に対して、視界の閉鎖的な景観をなす。調査区南側の沢は比較的水量が多く、渇水期でも水が枯渇することはなかった。三方が尾根に囲まれていることによって、この地方には珍しく風に悩まされることはなかったが、台風通過のときは沢伝いに強風が吹き込むことがあった。

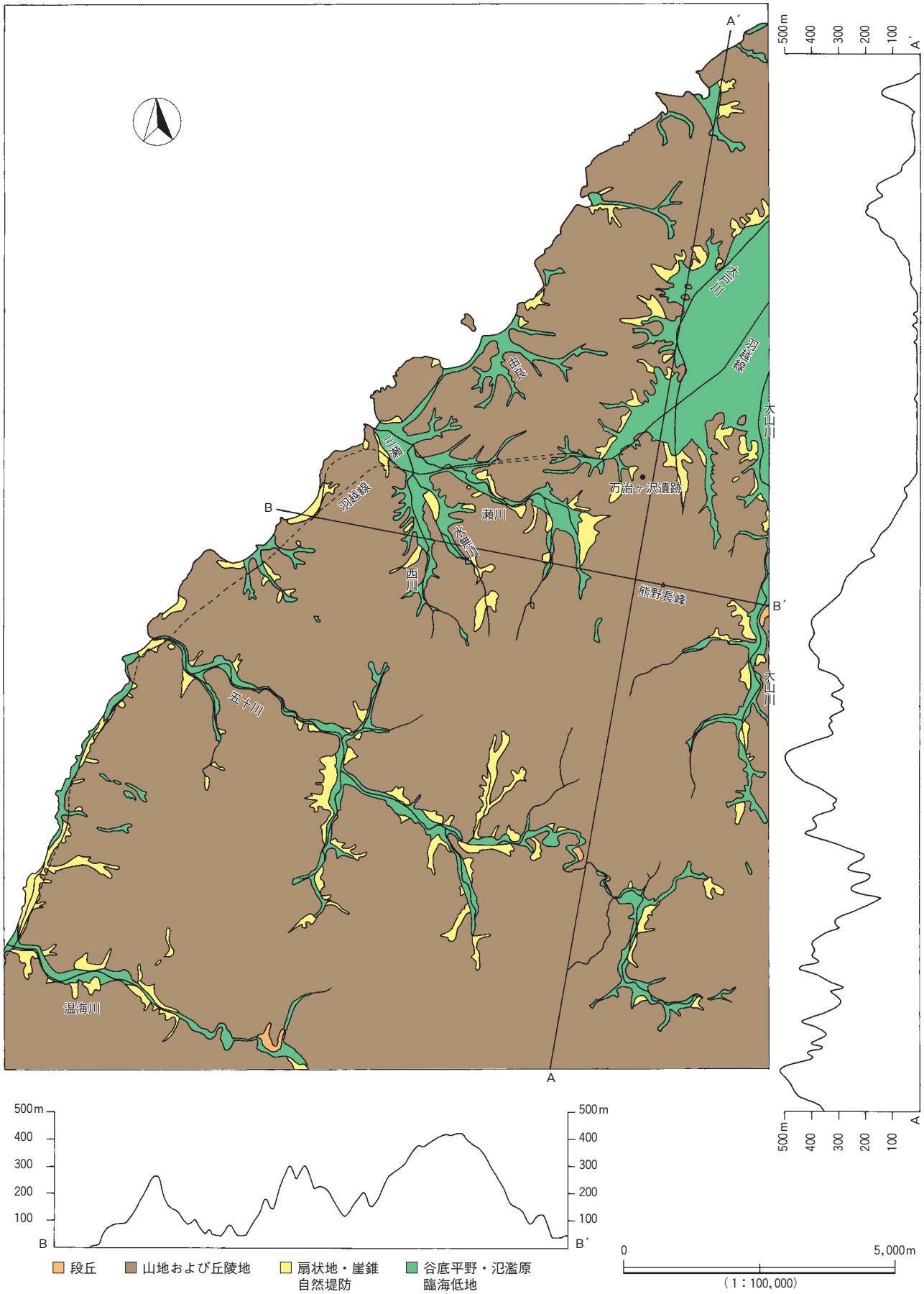
2　歴史的環境

鶴岡市の旧市域の遺跡分布は、金峰山・虚空蔵山を中心とした主に南西部の山地や丘陵に縄文時代や中世の遺跡が多く分布し、古墳時代から平安時代の遺跡は平野部に多く分布する。弥生時代の遺跡は三瀬の気比神社内の宮の前遺跡から土器片が見つかっている。これまで、庄内地方では平野部を中心に、ほ場整備や工業団地の造成などの開発事業に伴い、遺跡の事前調査が行われてきた。その結果平野部では、おもに古墳時代から平安時代にかけての遺跡が多数調査され、その実態が明らかになりつつある。しかしながら、万治ヶ沢遺跡が立地するような山地においては、遺跡が多数存在するにもかかわらず、開発に伴う遺跡の事前調査は少なく、近隣の例では、平成14年に当センターが調査を行った西向遺跡がある。

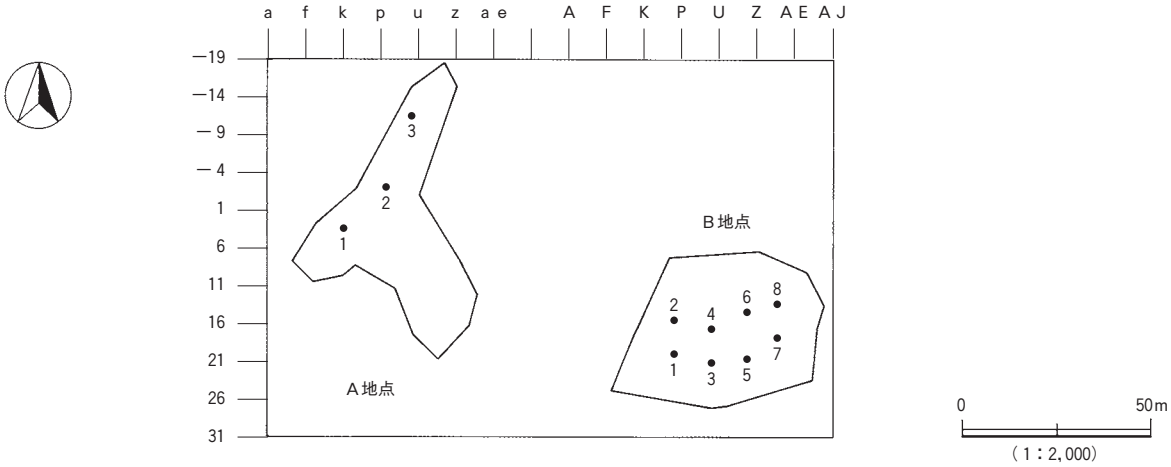
西向遺跡は万治ヶ沢遺跡と同じ上郷地区に所在する縄文時代中期前葉の遺跡で、北陸の新保・新崎系土器がまとまった量が出土し、中核集落と考えられている。そのほか周辺で調査が行われ、ある程度遺跡の内容が明らかになった遺跡として、奈良～平安時代に操業していた荒沢窯跡群がある。これまで財団法人致道博物館と立正大学によって調査が行われ、昭和33年に県指定史跡に指定されている。また、城館・経塚・墳墓など中世の遺跡が多く確認されていることも鶴岡市の遺跡分布の特色といえる。



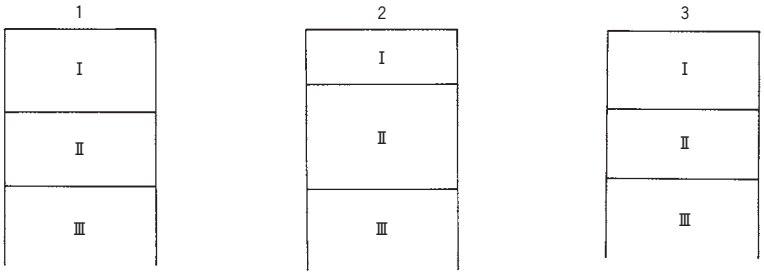
第２図　遺跡位置図「国土地理院発行の２万５千分の１地形図（三瀬）を１／２縮小して使用」



第３図　万治ヶ沢遺跡周辺の地形と断面図・土地分類基本調査「三瀬・温海」(1991) をもとに作図

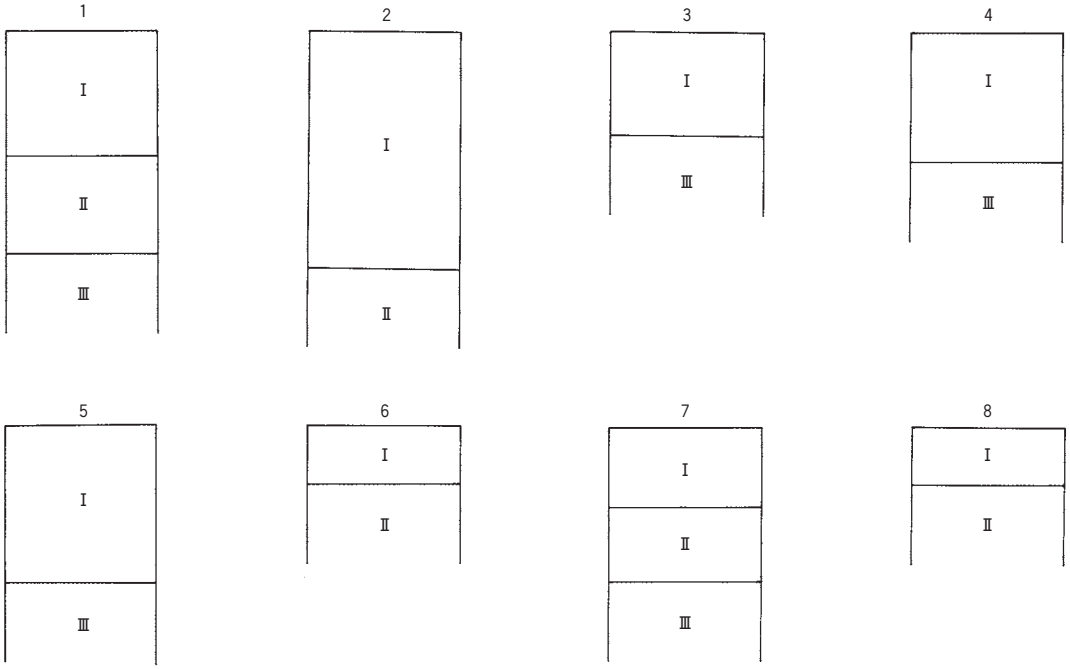


A地点土層柱状図



Ⅰ　10ＹＲ２／３　黒褐色シルト　腐葉土
Ⅱ　7.5ＹＲ３／３　暗褐色砂質シルト　木の根がはる　有機物を含む
Ⅲ　7.5ＹＲ４／３　褐色シルト　地山　木の根がはる

B地点土層柱状図



Ⅰ　10ＹＲ２／３　黒褐色シルト　腐葉土
Ⅱ　7.5ＹＲ３／３　暗褐色砂質シルト　木の根がはる　有機物を含む
Ⅲ　7.5ＹＲ４／３　褐色シルト　地山　木の根がはる

0 50cm
（1：20）

第４図　土層柱状図

Ⅲ　遺構と遺物

Ａ地点・Ｂ地点とも遺構記号は現地調査で登録した分類記号をそのまま踏襲したので、必ずしも遺構の性格と分類記号が一致していない遺構があるが、本章では現地調査で登録した記号をそのまま用い、Ｖ章のまとめで、遺構の性格について整理を行う。文中の木炭は原料の木材の形態を保っているものを指す。木炭粒は木材の形態を保っていないもので細かいものを指し、木炭片は木炭粒より大きいものを指す。

また、Ｂ地点から出土した遺物を対象に、胎土分析や年代測定などの理化学分析を行った。理化学分析の結果はⅣ章に記載してある。胎土分析で赤焼土器の呼称を用いているが、委託時点ではまだ赤焼土器の呼称を用いていたため、本書では訂正せずにそのまま用いた。おおむね、坏はⅠ１類に、内黒坏はⅠ５類・Ⅱ３・４類に、長胴甕はⅤ１・２類に、小型平底甕はⅤ３～９類に、堝はⅥ類に該当する。なお荒沢窯跡出土の須恵器に関しては、鶴岡市教育委員会から分析資料を提供していただいた。

Ａ　地　点

１　Ａ地点の概略

Ａ地点の調査では10基の土坑、69基のピット、３基の性格不明遺構、炉跡と考えられる焼土を１基登録した。

検出した遺構は、大きく縄文時代と考えられるものと、平安時代と考えられるものがある。登録遺物は91点で、内訳は、自然礫１点、縄文土器片80点、石器８点、平安時代の土師器２点である。

縄文時代と考えられる遺構はⅢ層を掘り込んでおり、掘り方もしっかりしているものが多い（第20図）。そのほとんどはピットである。検出当初はｐ・５グリッド付近で検出されたピット群が竪穴住居を構成すると考えたが、その後の検討で、ピットの配列に竪穴住居の柱穴を構成するような配列が見られないことから、竪穴住居を構成するものではないと判断した。また明確に遺物を伴う遺構はなかった。ピットは調査区西側のやや平坦な範囲に多く分布する。

縄文時代の遺物としては土器と石器があるが、遺物の出土量はそれほど多くない。また、縄文時代と考えられるピットと遺物の分布に有意な関連性は見受けられなかった（第６図）が、ｉ～ｊ・８～７グリッド付近で約２ｍ四方に遺物の集中地点が見られた。付近は平坦部であることから、現地調査では遺構は検出できなかったが、住居などの遺構が存在した可能性も考えられる。遺物の分布は第９図に示した。また、表２・３は登録遺物の一覧である。

平安時代と考えられる遺構は、土坑と炭窯と考えられる遺構である。時期を決定できるような遺物は伴っていないが、Ⅱ層を掘り込んでおり、縄文時代と考えられる遺構より掘り方が浅いものが多い。時期不明の礫群としてＳＸ83がある。

遺物の分布も多くなく、調査区北側と、縄文時代の遺物に混じって少量出土した（第６・９図）程度である。

２　平安時代の遺構

最初に平安時代の遺構について記述し、続いて遺物について記述する。その後縄文時代の遺構について記述し、続いて遺物について記述する。

ＳＫ２土坑（第20図）

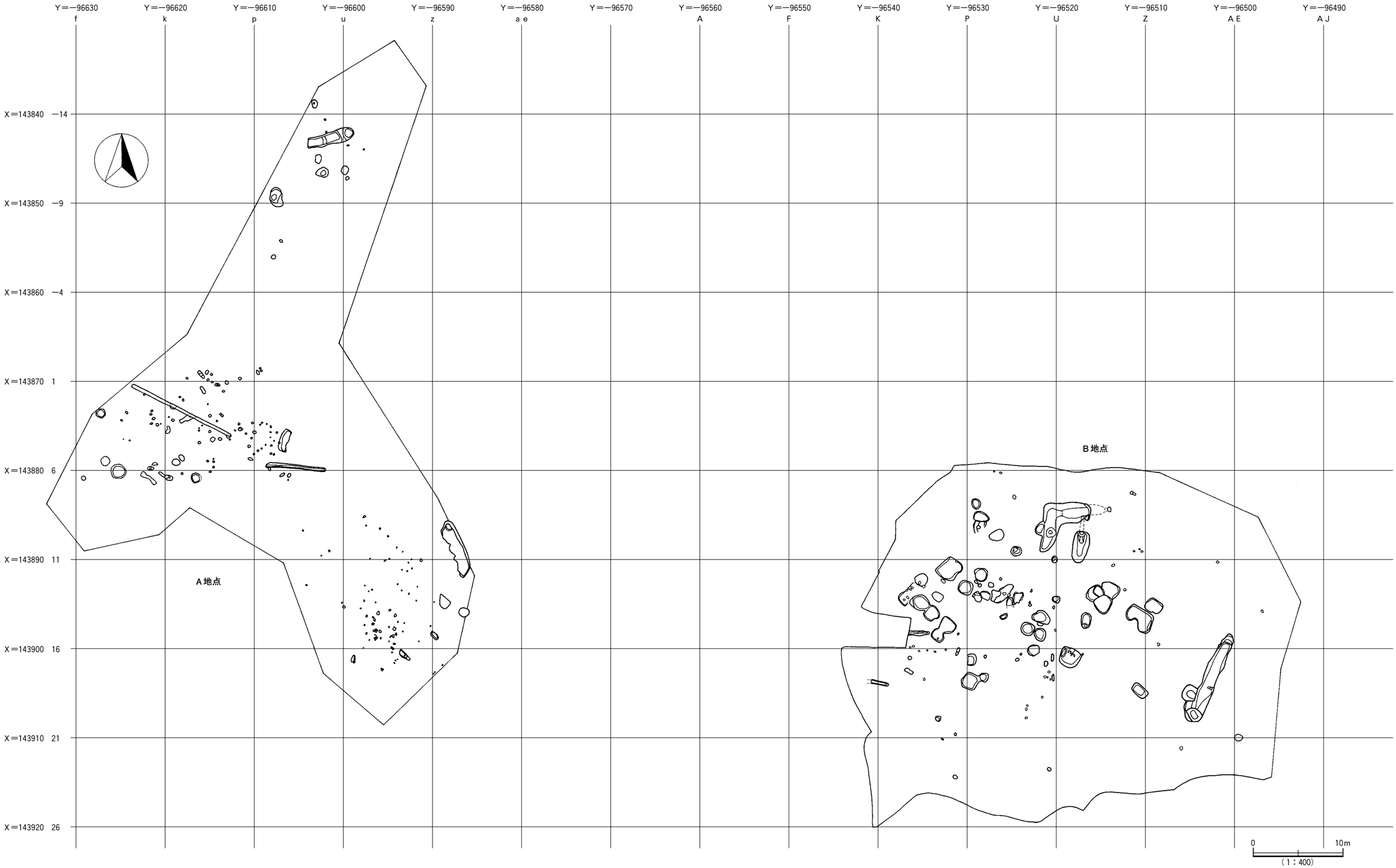
ｈ・６グリッドに位置し、長軸175㎝、短軸170㎝、深さ37㎝を測る。調査区西側に位置し、平面形はほぼ円形で、底面は凹凸がある。覆土は１層のみで黒褐色をなし、固くしまる。遺物を伴わないが、Ⅱ層を掘り込んでいることから、平安時代と考えられる。

ＳＫ３土坑（第20図）

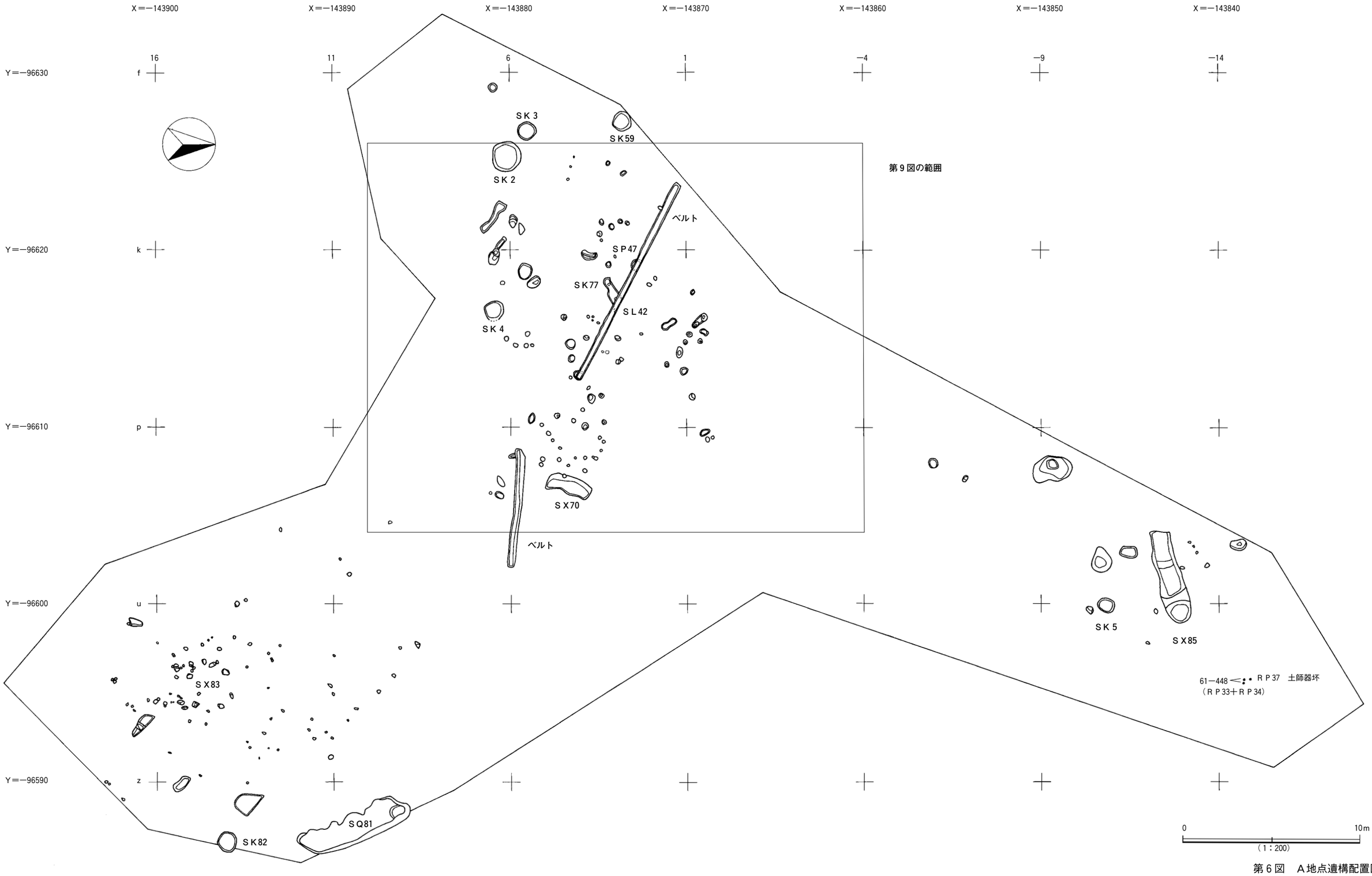
ｇ・５グリッドに位置し、長軸110㎝、短軸105㎝、深さ24㎝を測る。ＳＫ２と隣接し、調査区西側に位置する。平面形はほぼ円形で、覆土は３層からなる。床面は緩い凹型である。遺構の西側の覆土上半に木炭片を含み、縁辺ほどその密度が濃い。遺物を伴わないが、Ⅱ層を掘り込んでいることから、平安時代と考えられる。

ＳＫ５土坑（第20図）

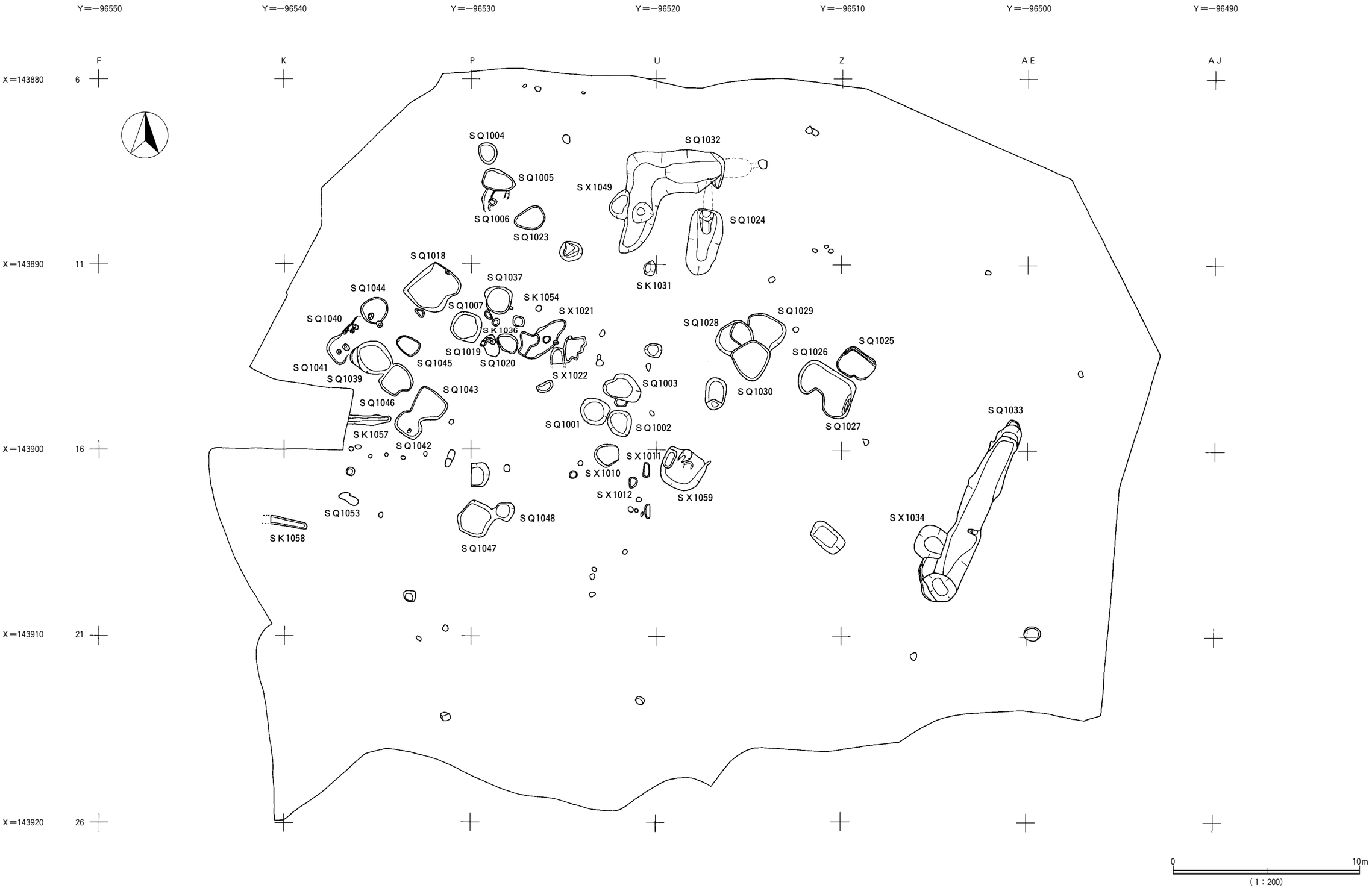
ｕ・－11グリッドに位置し、長軸100㎝、短軸80㎝、



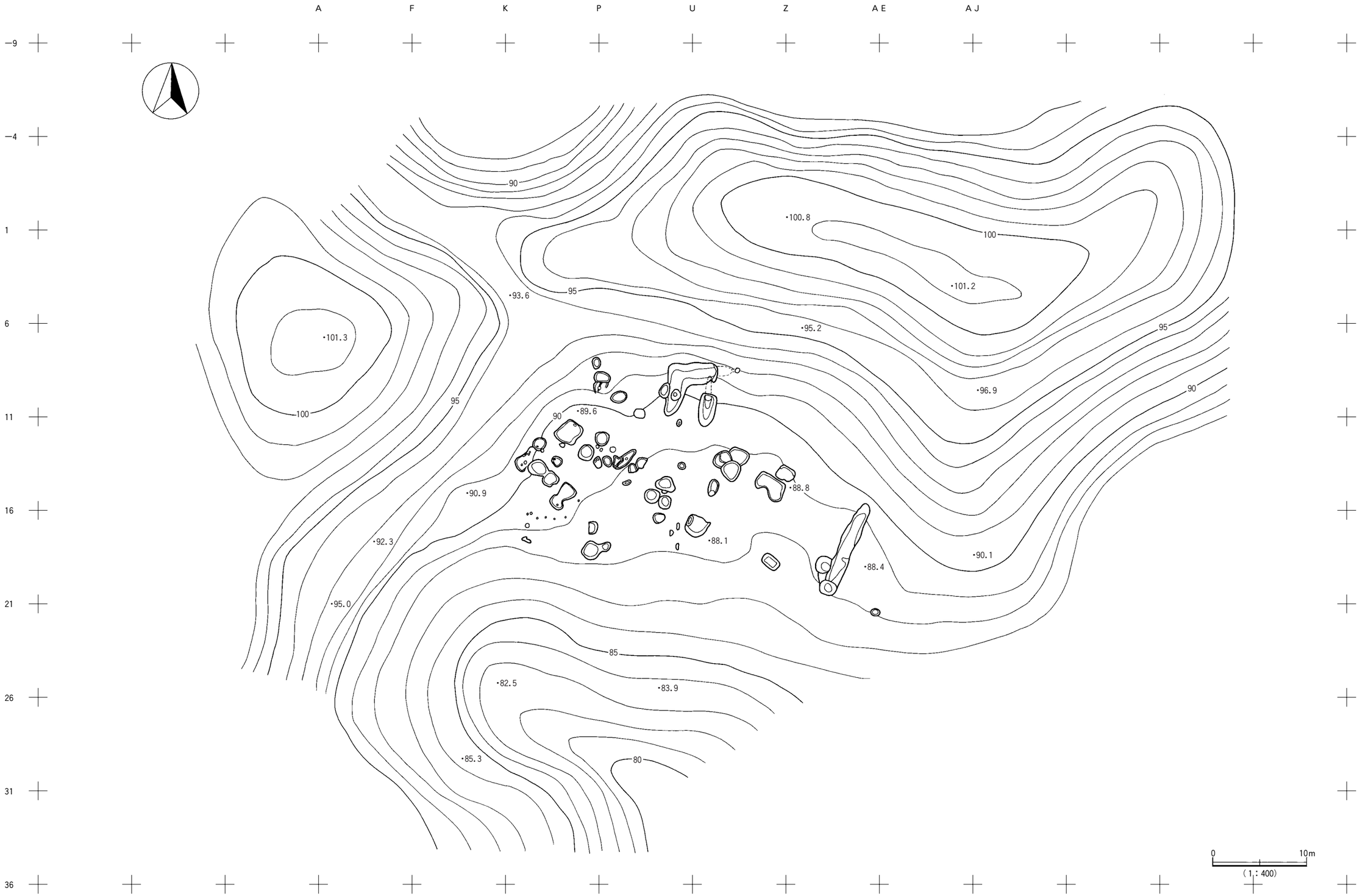
第５図　Ａ・Ｂ地点遺構配置図



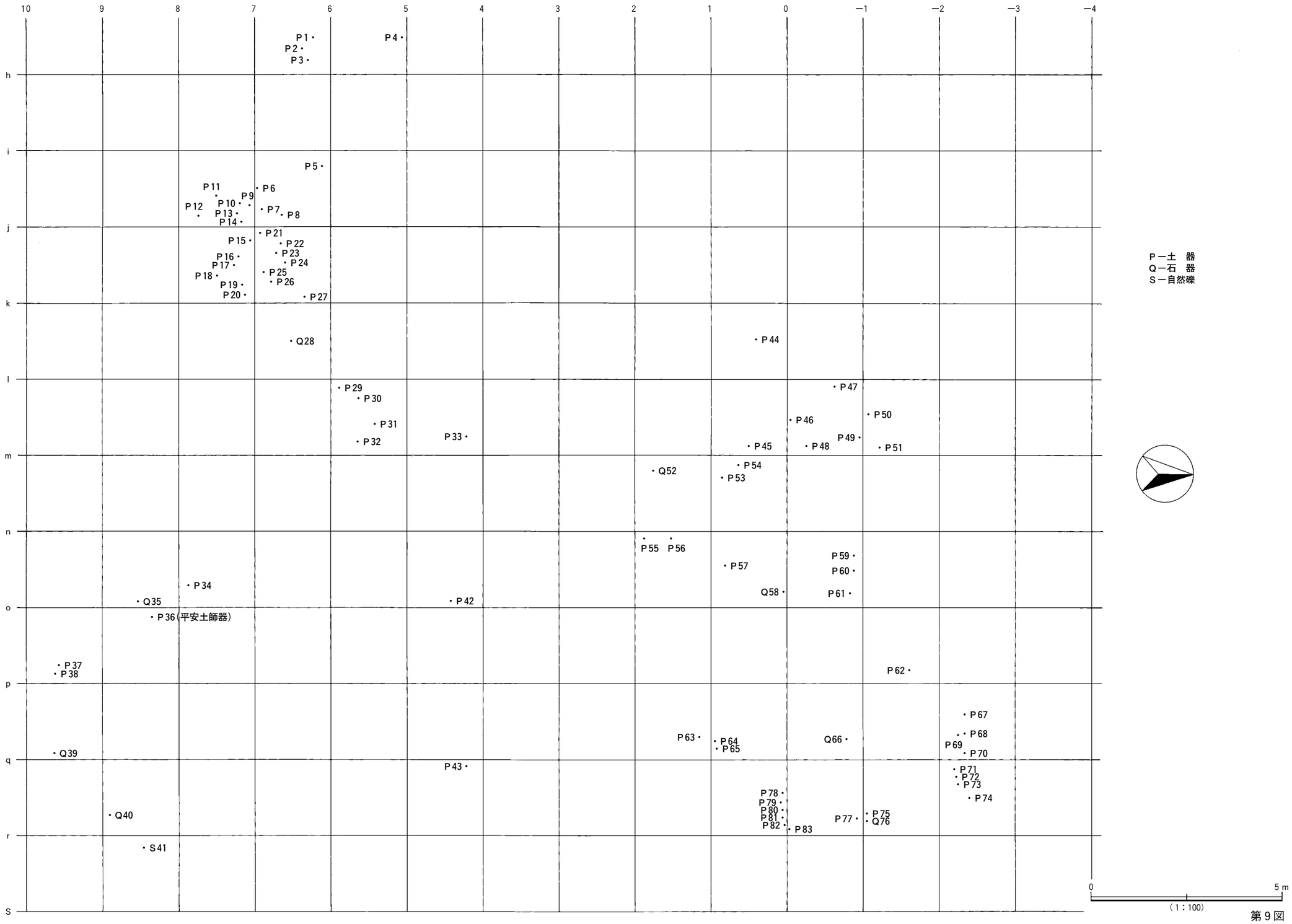
第６図　Ａ地点遺構配置図



第７図　Ｂ地点遺構配置図



第８図　Ｂ地点平安時代遺構分布概念図



P－土　器
Q－石　器
S－自然礫

第９図　Ａ地点遺物分布図

表２　Ａ地点出土遺物（１）　　種別　土器　Ｐ　石器　Ｑ　自然礫　Ｓ　番号は第９図の番号と一致する

種別	番号	登録番号	接合関係	挿図番号	遺物番号	グリッド	標高(m)	種別	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	時代	時期	備考(数字は遺物番号と一致する)
P	1	89				g・6	79.926	土器	体部？	31	21	7	縄文	不明	
P	2	91		62	483	g・6		土器					縄文		
P	3	90				g・6	80.016	土器	深鉢体部	46	38	6.5	縄文	不明	摩滅著しい
P	4	29				g・5		土器	深鉢体部	44	39	6	縄文	不明	摩滅著しい
P	5	28				i・6	80.571	土器	深鉢体部	28	44	10	縄文	不明	摩滅著しい
P	6	26				i・6	80.796	土器	深鉢体部	29	33	13	縄文	不明	摩滅著しい
P	7	20		62	470	i・6	80.908	土器					縄文		
P	8	83				i・6	80.813	土器	深鉢体部	43	35	11	縄文	中期	ＲＬの縄文
P	9	25				i・7	80.980	土器		37	41	11	縄文	不明	体部にＲＬの縄文
P	10	24		62	471	i・7	80.980	土器					縄文		
P	11	22		62	472	i・7	80.838	土器					縄文		
P	12	23				i・7	80.805	土器	深鉢体部	44	48	10	縄文	不明	ＲＬの縄文
P	13	21				i・7	80.964	土器	深鉢体部	25	38	10	縄文	不明	
P	14	82		62	475	i・7	80.968	土器					縄文		
P	15	16				j・7	80.996	土器	深鉢口縁	85	53	18	縄文	中期	口縁部縦方向の沈線・横方向の隆線
P	16	81				j・7	80.865	土器	深鉢体部	42	36	11	縄文	中期？	摩滅著しい
P	17	80		61	458	j・7	80.865	土器					縄文		
P	18	14				j・7	80.955	土器	深鉢体部	43	52	10	縄文	中期？	横方向の隆線
P	19	13	ＲＰ79	61	457	j・7	81.051	土器					縄文		458と同一個体か
P	20	79	ＲＰ13	61	457	j・7	80.969	土器					縄文		
P	21	84		62	477	j・6	80.921	土器					縄文		
P	22	18		61	456	j・6	80.861	土器					縄文		
P	23	85		62	478	j・6	80.867	土器					縄文		
P	24	17				j・6	81.085	土器	深鉢体部	38	28	10	縄文	不明	無文
P	25	86				j・6	81.026	土器	深鉢体部	41	34	12	縄文	中期？	摩滅著しい
P	26	15				j・6	81.041	土器	深鉢体部	23	21	9	縄文	不明	摩滅著しい
P	27	87		61	454	j・6	81.029	土器					縄文		
Q	28	88		60	441	k・6	81.160	石器					縄文		
P	29	12				l・5	81.323	土器	深鉢体部	33	58	11	縄文	中期？	摩滅著しい
P	30	11		62	484	l・5	81.361	土器					縄文		
P	31	10		62	469	l・5	81.417	土器					縄文		
P	32	41		61	455	l・5	81.440	土器					縄文		
P	33	27				l・4	81.407	土器					縄文	不明	細片
P	34	8				n・7	81.457	土器	深鉢体部	40	43	9.5	縄文	後期？	ＲＬ縄文
Q	35	6		60	444	o・8	81.556	土器					縄文		
P	36	7		61	450	o・8	81.657	土師器	長胴甕				平安		土師器
P	37	5		62	481	o・9	81.716	土器					縄文		
P	38	4		62	482	o・9	81.725	土器					縄文		
Q	39	3		58	429	p・9	82.070	石器					縄文		
Q	40	2		60	439	q・8	82.387	石器					縄文		
S	41	1				r・8	82.501	自然礫							
P	42	9				n・4	81.673	土器	不明				縄文	不明	細片
P	43	40				q・4	82.027	土器	深鉢体部	26	26		縄文	中期？	ＲＬの縄文
P	44	70				k・0	80.209	土器	深鉢体部	30	22	6	縄文	不明	摩滅著しい
P	45	71				l・0	80.610	土器	深鉢体部	34	26	7	縄文	不明	摩滅著しい
P	46	69		61	460	l・－1	80.350	土器					縄文		
P	47	68				l・－1	80.023	土器	底部	45	56	8	縄文	不明	

表３　Ａ地点出土遺物（２）

種別	番号	登録番号	接合関係	挿図番号	遺物番号	グリッド	標高(m)	種別	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	時代	時期	備考（数字は遺物番号と一致する）
P	48	31				l・－1	80.436	土器	深鉢口縁	19	45	10	縄文	不明	摩滅著しい
P	49	67		61	466	l・－1	80.050	土器					縄文		
P	50	32				l・－2	79.904	土器	口縁部	21	52	11	縄文	不明	
P	51	66		61	463	l・－2	80.036	土器					縄文		
Q	52	74		60	443	m・1	81.068	石器					縄文		
P	53	73		61	464	m・0	80.910	土器					縄文		
P	54	72		61	461・462	m・0	80.807	土器					縄文		
P	55	65		62	476	n・1	80.443	土器					縄文		
P	56	64		61	453	n・1	81.350	土器					縄文		
P	57	30		62	473	n・0	81.305	土器					縄文		
Q	58	63		59	437	n・0	81.117	石器					縄文		
P	59	62				n・－1	80.507	土器	深鉢体部	18	26	14	縄文	中期？	横方向の隆帯
P	60	61				n・－1	80.574	土器	深鉢体部	32	39	8	縄文	不明	体部無文
P	61	56				n・－1	80.718	土器	不明				縄文	不明	細片
P	62	54				o・－2	80.592	土器	深鉢体部	23	24	8	縄文	不明	摩滅著しい
P	63	76	ＲＰ78	62	474	p・1	81.441	土器					縄文		
P	64	77				p・0	81.420	土器	深鉢底部	79	64	16	縄文	中期？	
P	65	78	ＲＰ76	62	474	p・0	81.398	土器					縄文		
Q	66	59		60	440	p・－1	80.975	石器					縄文		
P	67	52				p・－3	80.617	土器	深鉢体部	32	38	7	縄文		ＬＲの縄文・459と同一個体？
P	68	51				p・－3	80.703	土器	浅鉢	24	74	12	縄文	中期	隆線・沈線
P	69	49				p・－3	80.724	土器	深鉢体部	25	35	7	縄文	中期	横方向の隆線・沈線
P	70	50				p・－3	80.715	土器	深鉢体部	24	36	11	縄文	中期	横方向の沈線・ＬＲの縄文・ＲＰ49と同一個体
P	71	55				q・－3	80.808	土器	口縁部	17	40	11	縄文	中期？	横方向の隆帯・横方向の沈線
P	72	48	ＲＰ52・58	61	459	q・－3	80.920	土器					縄文		
P	73	58	ＲＰ48	61	459	q・－3	80.818	土器	深鉢体部	38	64	7	縄文	後期	ＬＲの縄文・459と同一個体？
P	74	53				q・－3	80.823	土器	深鉢体部	18	31	6	縄文	不明	体部に縄文？
P	75	45		61	467	q・－2	80.913	土器					縄文		
Q	76	46		60	447	q・－2	80.913	石器					縄文		
P	77	47				q・－1	80.931	土器	深鉢体部	36	39	8	縄文	不明	ＲＬの縄文・横方向の沈線
P	78	38				q・0	81.193	土器	底部	44	55	14	縄文	不明	摩滅著しい
P	79	75		62	479・480	q・0		土器					縄文		
P	80	42		61	465	q・0	81.224	土器					縄文		
P	81	43				q・0	81.241	土器	深鉢体部	21	34	9	縄文	不明	ＲＬの縄文
P	82	39				q・0	81.247	土器	深鉢体部				縄文	不明	細片
P	83	44				q・－1	81.259	土器	深鉢体部	33	29	7	縄文	不明	
P		19						土器	深鉢体部	23	22	10	縄文	中期？	
P		33	ＲＰ34	61	448	w・－15	82.902	土器					縄文		
P		34	ＲＰ33	61	448	w・－15	82.893	土器					縄文		
P		37				w・－15	82.880	土師器	坏				平安		
P		60					80.384	土器					縄文		

深さ25cmを測る。平面形は南北方向に長い楕円形をなす。床面はゆるい凹型である。覆土は２層からなり、上層は木炭粒と焼土を含み、下層は地山を含む。遺物を伴わないが、Ⅱ層を掘り込んでいることから平安時代と考えられる。

ＳＫ59土坑（第20図）

ｇ・２グリッドに位置し、長軸110cm、短軸104cm、深さ14cmを測る。平面形はほぼ円形で、覆土は２層からなる。床面は凹型をなす。上層は木炭粒を大量に含み、焼土も混じる。下層は焼土で被熱して出来たものである。遺物を伴わないが、Ⅱ層を掘り込んでいることから平安時代と考えられる。

ＳＫ４土坑（第20図）

ｌ・６グリッドに位置し、長軸（115）cm、短軸110cm、深さ22cmを測る。西側が削平されてしまったが、ほぼ円形である。床面はゆるい凹型である。覆土は２層からなり、上層は木炭粒と焼土を含む。下層は地山を含む。遺物を伴わないが、Ⅱ層を掘り込んでいることから平安時代と考えられる。

ＳＫ82土坑（第20図）

ａａ･14グリッドの北西向きの斜面に位置し、長軸110cm、短軸108cm、深さ35cmを測る。平面形はほぼ円形で、ＳＱ1081とともに、Ａ地点では最も標高の高いところに位置する。覆土は３層あり、床面の焼土は被熱してできたものである。本来は床面に広く被熱した範囲が広がっていたと考えられる。遺物の出土は無かった。斜面に位置していることからⅡ層は確認できなかったが、覆土や掘り込みの様子から平安時代と考えられる。

ＳＱ81窯跡（第21図）

ａａ・10グリッドの南西向きの斜面に位置し、長軸（668）cm、短軸（208）cm、標高は遺構中央部で87.27ｍである。平面形は南北方向に長い形をなす。表土の直下で確認し、ほとんど覆土はない状態であった。南西側は斜面により崩れてしまった可能性も考えられる。長軸方向に直行するように緩やかな凹凸がある。遺構の両端に窪んだ部分がある。土器などの遺物の出土は無かったが、床面からは木炭が出土した。斜面に位置していることからⅡ層は確認出来なかったが、表土直下で確認できたことや、覆土の様子から、平安時代と考えられる。

３　縄文時代の遺構

ＳＬ42炉跡（第20図）

ｌ・３グリッドに位置する。土層観察のためのトレンチ掘りを行った時に、断面で焼土が確認できたため、その断面を手がかりに平面で確認したものである。層位的にはＳＫ77の覆土上面に位置すると思われる。伴う遺物はなかったが、Ⅲ層を掘り込んでいることから、縄文時代と考えられる。

ＳＰ47ピット（第20図）

ｋ・２グリッドに位置しＳＬ42と同じように、土層観察のためのトレンチ掘りを行った時に断面で確認でき、断面を手がかりに平面で確認したものである。平面形は不明だが、断面では幅60cmを測る。伴う遺物はなかったが、Ⅲ層を掘り込んでいることから、縄文時代と考えられる。

ＳＫ77土坑（第20図）

ｌ･２～３グリッドに位置し、残存値で長軸（170）cm、短軸（60）cmを測る。断面の観察からⅢ層を掘りこんでおり、層位的にはＳＬ42より古い。断面はＵ字型をなす溝状の遺構である。東側の床面より人頭大の礫が出土したが、被熱や加工の痕跡は無かった。Ⅲ層を掘り込んでおり、縄文時代と考えられる。

ＳＸ70性格不明遺構（第21図）

ｑ・４グリッドの平坦部に位置し、長軸250cm、短軸138cm、深さ73cmを測る。平面形は不整な長方形で、覆土は礫や炭化粒を含む。遺物の出土は無かった。Ⅲ層を掘り込んでいることから、縄文時代と考えられる。

ＳＸ80性格不明遺構（第22図）

ｖ～ｗ・14～16グリッドの北西向きの斜面の等高線に平行な平坦面に位置する。礎石のような扁平な人頭大からそれよりも大きい花崗岩や安山岩の礫が分布し、ほぼ長方形に分布している様子が見受けられた。付近から時期を決定するような遺物の出土はなかった。礫がⅡ層中にあることから、平安時代以降と考えられる。

ＳＸ85性格不明遺構（第21図）

ｔ・－13グリッドの南西向きの斜面に位置する。長軸520cm、短軸151cmを測る。平面形は長円形で、覆土は礫を含んだシルト、または礫層である。床面は凹凸があり、被熱や人為的な掘削の痕跡は無く、遺物は伴わない。プ

ラン確認の段階では、プランの形状や立地から半地下式の窯跡の可能性を考えたが、覆土の状態や壁の状況から人為的なものではないと判断した。

4　遺構外出土遺物

土　器

平安時代

448・449は回転糸切りの土師器坏である。Ｂ地点の土器の分類に当てはめると、坏（Ｉ）の１類に分類できる。450は土師器甕の体部で、非ロクロ成形と思われる。外面はハケメ調整が施され、内面はナデ調整が施される。Ａ・Ｂ地点を通して外面ハケメ調整の土師器は本例のみである。

縄文時代

451は､外面はＲＬとＬＲの２種類の原体で施文を行う。ＲＬの原体は節が太く短い。内面は貝殻条痕を施す。452は深鉢の口縁部の取手である。453は口縁部で、沈線で区画し、内側をＬＲの縄文で施文する。454・455は同一個体と考えられ、口唇部に竹管による刺突と沈線で施文されている。内面は横方向のミガキが施される。456は遺存状態不良である。口唇部に刻み目があり、ＬＲの縄文が施文され、横方向の沈線がある。457・458は同一個体と考えられる。地文はＲＬの縄文で、沈線で区画される。459は波状口縁で、ＬＲの地文を沈線で区画する。460は地文のＲＬの縄文を山形やクランク文の沈線で区画する。461・462は同一個体と考えられる。沈線を施す。463は地文のＲＬの縄文に､粘土紐を貼り付けた隆線がある。464は器面が摩滅しているが、ＲＬの縄文が施文される。465はＲＬの縄文と､縄文の先端部を押圧している。466は体部だが遺存状態が悪い。467～473はＲＬの縄文が施文される。474は表面が摩滅している。475は表面に縦方向の太いナデがある。縄文が施文されるが、撚りは不明である。476はＬＲの縄文が施文される。477・478はＲＬの縄文が施文される。479・480は同一個体と考えられ、ＲＬの縄文が施文される。481・482は同一個体と考えられ、羽状縄文が施文される。483･484は底部で、483は急角度で立ち上がり、484は緩やかに立ち上がる。

石　器

435は剥片である。表皮があることから剥離の最初の段階の剥片である。436は平基無茎の石鏃で、先端部が欠損している。437は厚みのある縦長剥片を用いた縦長の石匙である。腹面の右側辺に背面から急角度の剥離を施して打面とし、そこから背面（背面左側の剥離面）にむけて押圧剥離を行っている。腹面を中心に全体的に光沢がみられ、使い込まれた感じである。438も437と同じような剥離を行う。本来は先端が尖っていたと思われるが、欠損したために刃部を平坦に再生したと考えられる。439は節理が発達している。先端部に二次加工がある。削器の欠損品の可能性もある。440は縦長の剥片を素材とし、背面両側辺と腹面右側辺から下部にかけて刃部をつくりだす。441～446は剥片である。443は先端がヒンジ・フラクチャーになる。446は縞状の筋が入る黒曜石の剥片である。447は安山岩製の凹石である。

Ｂ　地　点

1　Ｂ地点の概略

Ｂ地点の調査では、主な遺構として陥し穴２基、焼土を伴う遺構28基、土坑６基、性格不明遺構６基、地下式の木炭窯３基を確認した。Ａ地点と同じように、縄文時代と平安時代の遺構である。

縄文時代と明確に考えられる遺構は、２基の陥し穴で、遺物としては縄文土器と石器が出土した。

Ｂ地点の遺構と遺物の中心をなすのは平安時代のもので、多数の遺構を検出し、多数の遺物が出土した。重機による表土除去の段階で鉄滓が出土し、精査で遺構に伴って出土することが期待されたが、遺構に伴って出土したものは１点もなかった。土師器は焼成不良のものが多く、器面の剥落や土中で胎土が溶け出したものも多く、全形はわかっても、ケズリやミガキなどの調整が観察できないものもあった。

遺物観察表のグリッド毎出土点数は、接合した破片の出土地（遺構・グリッド）をあらわしている。カッコ内の数字は破片数を表している。23－１はＳＱ1001・Ｓ15（１）となっており、ＳＱ1001のＳ・15グリッドから１点出土していることを表す。23－５はＳＱ1002（２）＋Ｔ11（１）となっており、ＳＱ1002で取り上げた遺物が２点、Ｔ・11グリッドで取り上げた遺物が１点の計３点が接合していることを表す。Ｆは遺構の覆土で取り上げたことを示している。復元された遺物の帰属であるが、

破片が複数のグリッドや遺構、あるいは遺構とグリッドにまたがる場合があるが、遺構で取り上げられた破片がある場合には遺構に帰属させた。複数のグリッドにまたがっている場合には、破片数の多さよりも、より本来の器形をあらわしている方に帰属させたので、破片数が少ないグリッドの帰属になっている場合がある。グリッド毎の出土点数を示すことにより、復元された土器の破片の散らばりや、接合関係を客観的に示そうとしたものである。

2　平安時代の遺構と遺物

最初に平安時代の遺構と、そこから出土した遺物について記述し、続いて平安時代の遺構外出土の遺物について記述する。その後に縄文時代の遺構と遺物について記述する。

ＳＱ1001窯跡（第10図・第23図）

Ｓ・14～15グリッドの比較的平坦な面に位置し、長軸155㎝、短軸140㎝、深さ44㎝を測る。平面形はほぼ円形である。覆土には焼土や木炭粒を含み、東側の壁と床のほぼ全面に弱い被熱の痕跡が認められた。底面は凹凸がなく平坦面が多くなだらかで、壁は比較的急に立ち上がる。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏・内黒坏・平底甕・長胴丸底甕のほか、製塩土器片などが出土している。遺物の遺存状態は悪く、器形がわかるまで復元できたものはなく、平底甕の底部と、長胴丸底甕と考えられる口縁部を図示した。プラン確認の際の観察では、ＳＱ1002に切られていた。

ＳＱ1002窯跡（第10図・第23図）

Ｓ～Ｔ・14～15グリッドの比較的平坦な面に位置し、長軸138㎝、短軸135㎝、深さ38㎝を測る。平面形は楕円形をなす。覆土の１層目には焼土があり、３層目は木炭粒や木炭片を大量に含み、黒褐色をなす。東側の壁や床面のほぼ全面に弱い被熱の痕跡が認められた。底面は凹凸がなくなだらかで、壁もなだらかに立ち上がる。プラン確認の際の観察ではＳＱ1001を切っている。

遺物は覆土からの出土で、土師器坏・平底甕・長胴丸底甕のほか、須恵器壺片や支脚などが出土している。遺物の遺存状態は悪く、土師器坏・土師器長胴甕・須恵器壺を図示した。５は須恵器の壺の肩の部分で、ヘラ状の工具で押しなでた後にナデ調整を行った様子がうかがえる。その後に２本で１単位の沈線をめぐらす。

ＳＱ1003窯跡（第10図）

Ｓ～Ｔ・13～14グリッドの比較的平坦な面に位置し、長軸（180）㎝、短軸（167）㎝、深さは西側で（45）㎝を測るが、遺構の大半（東側）は杉の根により破壊されているため、本来の大きさや平面形は不明である。断面観察ができた遺構西側の観察では、覆土は３層あり、壁や床面は被熱して赤色化していた。床面の直上には炭が堆積している。

遺構のほとんどが破壊されているために遺物の出土数は少なく、土師器の坏の破片が出土したのみで、図示できる物はなかった。

ＳＱ1004窯跡（第10図・第23図）

Ｐ・７～８グリッドの南向きの斜面に位置し、Ｂ地点から見つかったら遺構の中では最も標高が高い。長軸114㎝、短軸95㎝、深さ51㎝を測る。平面形は楕円形をなす。覆土は１層のみであるが、土器が覆土の中程から同一レベルで出土しており、分層できた可能性がある。床はやや凹凸があって傾斜しており、北側の壁はなだらかに立ち上がる。壁や床面が被熱した痕跡は認められなかった。

遺物は覆土中から土師器の坏や甕類が出土した。その内、坏を３点図示した。６は器厚がほぼ均一でロクロメはあまり目立たない。７は他の２点に比べ口縁部に厚みを持ち、口縁部の外側に面を持つ。８は６より体部が急に立ち上がる。

ＳＱ1005窯跡（第10図・第23図）

Ｐ・８グリッドの南向きの斜面に位置する。長軸182㎝、短軸112㎝、深さ（34）㎝を測る。平面形は斜面の山側の２辺が直線の方形基調をなす。床面のほぼ全面と、壁に被熱した痕跡が認められた。床面の直上には炭が厚く堆積していた。床面は凹凸がなく比較的平坦である。プラン確認の段階ではＳＱ1006を切っていることが確認できた（写真図版10）。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や甕類が出土している。遺存状態は悪く、器形がわかるまで復元できたものはなく、土師器坏と堝を図示した。９の坏は内面に黒斑が認められ、口縁部の直下に厚みを持つ。11は堝で焼成不良だがカキメ調整が見られる。内面に黒色の木炭粒が付着している。

ＳＱ1006窯跡（第10図・第23図）

Ｐ・９グリッドの南向きの斜面に位置する。プラン確認の段階では周囲より色の濃い茶褐色の楕円形プランが確認できた（写真図版10）が、掘り進めるうちにプランの輪郭がはっきりしなくなり、最終的には焼土の一部しか確認できなかった。焼土の南西部に被熱の痕跡があるので、周辺の落ち込みくらいまで本来の遺構が広がっていた可能性がある。確認できた焼土はＳＱ1005の床面と同じように、床面が被熱した焼土である。確認できた焼土は長軸46㎝、短軸42㎝である。

遺物はプランを確認した段階で取り上げたものを含み、床面や壁面が明確に確認できなかったことから、本遺構以外のものも含む可能性がある。土師器の坏や甕類が出土した。遺存状態は悪く、土師器坏１点を図示した。12の坏は体部が急角度で立ち上がる器形で、内外面に炭化粒が付着している。

ＳＱ1023窯跡（第10図・第26図）

Ｑ・９グリッドの南向きの斜面に位置し、長軸171㎝、短軸134㎝、深さ24㎝ を測る。平面形は山側に直線を持つ方形基調を呈し、ほかの遺構との切り合い関係はない。覆土は焼土や木炭粒を含む。床面は南東部分を除いてほとんどが被熱して焼土化しており、やや凹凸があるが比較的平坦である。遺構西側の方が被熱の痕跡が強い。

遺物の出土量は少なく、土師器坏のみの出土である。遺存状態も悪く、坏の断面１点を図示した。51は内面に炭化粒が付着している。

ＳＱ1007窯跡（第11図・第23・24図）

Ｏ～Ｐ・12グリッドの傾斜変換線付近に位置し、長軸166㎝、短軸161㎝、深さ53㎝を測る。平面形はほぼ円形をなす。覆土は木炭粒を少量含む層が多く、床面に近い層ほど木炭粒が多くなる。覆土中に焼土を含む。床面の大部分と壁の一部が被熱し、焼土化している。特に西側でその傾向が強い。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物は覆土の上層や中層からも出土しているが、小型の破片が多い。下層からは比較的依存状態の良い大型の破片が出土した。土師器の坏や甕などが出土しており、土師器坏４点と土師器鉢１点を図示した。土師器の坏は法量的に大きい13と、それより小さい14と17に分かれる。13は底部に炭化粒が付着している。17は体部外面に黒斑が見られる。15は脚付きの鉢で、外面はケズリを施し、内面はハケメ調整を行う。

ＳＱ1019窯跡（第11図）

Ｐ・12～13グリッドの平坦部に位置する。焼土のみの確認で、長軸（121）㎝、短軸（98）㎝ を測る。確認できた焼土は床面が被熱して出来たものである。本来の形は不明だが、床面のほかに壁もあったと考えられる。焼土は平坦であるが、木の根によって欠落している部分がある。

遺物は土師器の坏が少量出土しているが、遺存状態が悪く、図示できるものはなかった。

ＳＱ1020窯跡（第11図・第25図）

Ｐ～Ｑ･12～13グリッドの平坦部に位置し､長軸108㎝、短軸75㎝、深さ14㎝を測る。平面形は長円形をなす。覆土は木炭粒や木炭片・焼土を含み、火山灰と見られる白色シルトをブロック状に含む。床面に僅かであるが被熱した痕跡が認められた。壁には被熱の痕跡はなかった。床面は平坦で、壁は急に立ち上がる。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や甕が出土しており、土師器坏３点を図示した。25は胎土が緻密で焼成が良く、口唇部に厚みを持つ。体部外面から底部にかけて暗褐色の部分がある。26の上半部は褐色だが、下半部は暗褐色の部分が多い。口縁部の内外に炭化物とみられる付着物がある。27は焼成不良のため、内外面の器面の剥落が目立つ。底部に炭粒が付着している。

ＳＸ1021性格不明遺構（第11図・第25・26図）

Ｑ～Ｒ・12～13グリッドの平坦部に位置する。東西方向に細長い浅い掘り込みで、長軸304㎝、短軸162㎝を測る。西側の最深部で深さは23㎝である。プランは確認できたが、しっかりと掘りこんでいる様子ではなかった。床面や壁面には被熱した痕跡は認められず、覆土からは焼土や木炭粒が出土した。

遺物は覆土からの出土で、比較的多くの遺物が出土し、遺存状態の良いものが多い。土師器の坏、甕、鉢、堝、製塩土器などが出土した。土師器坏14点、堝２点、鉢２点、甕１点、製塩土器１点を図示した。28・29は胎土が緻密である。外面の上半部は横方向のミガキを施し、下半部は横方向の回転ケズリを行う。底部は切り離し後に回転ケズリ調整を行う。内面上半部は横方向、下半部は縦方向のミガキ調整を行い、黒色処理を行う。30は見込

みが広く、内面はしっかりと焼けているが、外面は器面の剥落が見られる。31は外面底部の立ち上がり部分に横方向の手持ちのヘラケズリを施す。体部下半には黒斑が認められる。32は焼成良好で、内面の体部立ち上がり部分に粘土の接合の痕跡がみられる。マキアゲ・ミズビキ法による、粘土の接合痕と考えられる。33は胎土が緻密で、内面が黒褐色に変色している部分があり、外面に炭粒が付着している。34・36は胎土が緻密で、外面のロクロメは目立たず、内面は平滑である。34は内外面に木炭粒が付着し、断面が黒褐色の部分がある。35は焼成不良で器面の剥落が著しい。37は焼成不良で、胎土が黄橙色をなし白っぽい。38は底径に対して口径が小さく、器面が剥落している。39は内外面の器面の剥離と、体部外面から底部にかけて黒斑がみられる。40は口縁直下に厚みを持つ。41はあまりロクロメが目立たない。42は脚付の鉢である。体部を穿孔して脚の先端を挿入し、接合部にナデ調整を行う。43・45は鉢に分類した。43は体部外面にケズリ調整を施す。44は製塩土器で、ほかの種別より混入物の割合が多く、輪積みの痕跡が明瞭である。46は長胴甕の体部で、体部外面はタタキ、内面はアテ痕がみられ、丸底の長胴甕と考えられる。47は台付の鉢で、台の部分に黒斑が見られ、外面に炭粒が付着している。焼成不良で、器面の剥落が見られる。

ＳＸ1022性格不明遺構（第11図・第26図）

Ｒ･13グリッドの平坦部に位置し､残存値は長軸(94.0)㎝、短軸（75.0）㎝、深さ（24.0）㎝を測る。平面形は長円形をなしていたと考えられる。覆土は、上面に火山灰と思われる白色シルトをブロック状に含む層があり、それ以外は焼土や木炭粒を含む層である。焼土は二次堆積である。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏、甕などが出土しており、そのうち坏３点を図示した。48は小振りの坏で、焼成不良により器面の剥落が見られる。49は比較的焼成が良好で、口縁部の直下に厚みを持つ。体部外面に小さな黒斑がある。50は接合している破片の片方は黒色で、もう片方は褐色なので破損後に被熱している可能性がある。

ＳＫ1036土坑（第11図・第33図）

Ｐ・12グリッドの平坦部に位置し、長軸50㎝、短軸48㎝、深さ25㎝を測る。平面形は不正形な方形である。掘り込みはしっかりとしており、覆土は焼土と木炭粒や木炭片が混在し、固く締まる。

遺物は土師器の坏が少量出土した。遺存状態は悪く、坏の断面を１点図示したのみである。51は焼成不良で、内面に炭粒が付着している。

ＳＱ1037窯跡（第11図・第33図）

Ｐ・11～12グリッドの平坦部に位置し、長軸154㎝、短軸146㎝､深さ45㎝を測る。平面形はやや不正形な円形を呈する。覆土の最上層に焼土があり、被熱し固く焼き締まっていたが、北半分は木の根によって破壊されていた。本遺構の南西部（ＳＱ1007との間）に焼土があり、それと一体であった可能性もある。焼土の上には人頭大の円礫が複数あった。円礫は木の根に添うように位置し、焼土に本来的に伴うものかどうかは不明である。ただ、人頭大の円礫は、地山および調査区南側の沢には含まれないことから、人為的に持ち込まれたものであると考えられる。覆土の中層は木炭粒を僅かに含み、下層は比較的木炭粒を多く含む。床面はほぼ平坦で、北側の壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁の北東側と、床面の北東部分で、僅かであるが被熱の痕跡を認めた。

遺物は覆土からの出土で、特に上層と中層からの出土が多い。比較的多くの遺物が出土したが、器種は土師器の坏と甕に限定される。122・123は焼成不良で、器面の剥落がある。共に胎土は黄橙色をなし白っぽい。124は底部切り離し後に回転ヘラケズリ調整を行い、底部の立ち上がり部分にケズリを施す。器面の内外面とも黒褐色を呈する。125は底部のタタキ成形を行う長胴丸底甕で、底部に黒斑がある｡126も口縁の形や器厚から長胴丸底甕と考えられる。127はロクロ成形で、体部下半部には縦方向のハケメ調整が施され、内面には横方向のカキメがある。長胴平底甕と考えられる。128・129は平底甕で、ロクロ成形で内外面とも無調整である。２点とも比較的焼成は良好である。

ＳＫ1054土坑（第11図）

Ｑ・12グリッドの平坦部に位置し、長軸68㎝、短軸62㎝、深さ27㎝を測る。平面形は不正形な方形をなす。ＳＫ1036と同様に掘り込みはしっかりとしており、覆土は焼土と木炭粒が混在し、固く締まる。遺物の出土は無い。

ＳＱ1018窯跡（第12図・第24図）

Ｎ～Ｏ・11グリッドの傾斜変換線付近に位置し、長軸

308㎝、短軸266㎝、深さ65㎝を測る。平面形は基本的に方形状だが、南東側の斜辺が湾曲する。覆土は最下層が木炭粒主体の層で、その上に焼土主体の層が堆積し、南側が焼土の量が多い。この焼土は固く焼きしまってはいないが、被熱して焼土化したと考えられる。その焼土主体の層の上に炭主体の層が堆積する。火山灰らしき灰白色のシルトをブロック状に含む層もある。北東斜辺にピットが１基あり、深さは12㎝である。

床面は北隅と南辺を結ぶように緩やかな凹面をなし、壁は東側が比較的急にたちあがり、西側は緩やかに立ち上がる。床の南西角の一部（ＥＬ１）と、南東側の斜辺の凸部分（ＥＬ２）が被熱しており、赤色で硬化している。ＥＬ１は被熱した部分がやや窪んでいる。南側の壁の一部（ＥＬ３）も被熱し赤色変化しているが、ＥＬ１・２ほど被熱の痕跡は強くない。また、本遺構の南側に焼土があるが、本遺構との関係は不明である。

遺物は覆土からの出土で、覆土下層の炭主体の層と焼土主体の層の上からの出土である。土師器の坏や甕などが出土しており、坏３点、甕２点、堝２点を図示した。18は口縁付近の断面に黒色化した部分がある。胎土は浅黄橙色をなし、白っぽい。19は胎土が緻密で、器面の内外面に横方向の明確なミガキを施す。口縁部の内外面に炭化物とみられる付着物があり、口縁が厚い。20は器高が高く口径が小さい器形で、外面上半部に暗褐色に変色した部分がある。口縁部に厚みを持つ。21・22は口縁の形や器厚から平底甕と考えられる。21は焼成が良好であるが、22は焼成不良で器面の摩滅が著しい。23・24は堝である。23は焼成が良好である。接合する一方が暗褐色化しており、もう一方は明褐色で色が異なる。

ＳＱ1040窯跡（第12図・第34図）

Ｌ・12グリッドに位置し、南東向きの斜面に位置する。ＳＱ1041とＳＱ1044の間に位置する。北西部（山側）に壁がある。焼土の残存値は、長軸75㎝、短軸64㎝である。焼土は被熱したもので、やや凹凸がある。木の根によって一部撹乱を受けている。ＳＱ1041との前後関係や明確な境界は不明である。

遺物は土師器の坏や甕が出土している。坏１点を図示した。137は底部を欠損していて底部の状態は不明だが、坏に分類しておく。胎土が緻密で混入物は少ない。外面は口縁付近に横方向のミガキを行い、下半部に横方向の回転ケズリを施す。内面の口縁付近に横方向のミガキを行い、体部は縦方向のミガキを施して、黒色処理を行う。

ＳＱ1041窯跡（第12図・第34図）

Ｌ・13グリッドに位置し、南東向きの斜面に位置する。北東方向にはＳＱ1040がつらなり、南東にはＳＱ1039が隣接する。北西（山）側から南側には立ち上がりがあることから、ＳＱ1040と同じような形態の遺構と考えられる。焼土の残存値は、長軸148㎝、短軸110㎝、深さ20㎝を測る。西側の立ち上がり部分から東側の床面にかけて被熱し焼土化している。床面は比較的平坦である。

遺物は覆土からの出土で土師器の坏や甕が出土している。坏１点と平底甕１点を図示した。138は胎土が緻密だが焼きむらがあり、内面は比較的良く焼けているが、外面は焼きのあまいところがある。139は平底甕の下半部で、破片がＳＱ1039からも出土している。

ＳＱ1044窯跡（第12図・第34・35図）

Ｍ・11～12グリッドの南東斜面に位置し、ＳＱ1040・ＳＱ1041と等高線に沿うように立地している。長軸146㎝、短軸144㎝、深さ14㎝で、平面形はほぼ円形である。床面は南側に窪みがあるがほぼ平坦で、ＳＰ1055を切っている。覆土は１層のみで木炭粒や焼土を含んでいる。北側の床面や壁に弱い被熱の痕跡が認められた。

遺物は床面とその直上から多くの土師器の坏や甕が出土した。出土状況から一括性の高い遺物といえる。坏９点、甕１点を図示した。140は焼成不良のため、器面の剥落が著しい。141も焼成不良で、内面に器面の剥落がみられる。外面底部に黒斑が見られる。140・141共に胎土は浅黄橙色で白っぽい。142・143は比較的焼成が良く、142はロクロナデがほとんど目立たず、143は体部が外面に端反る。144・145は焼成が不良で器面の剥落が見られる。146は焼成が比較的良い。見込みが広く、体部は内碗気味に立ち上がる。147は見込み部分に暗褐色の部分がある。148は焼成不良で器面に剥落がある。149は丸底長胴甕で、口縁と底部付近に黒斑がある。口縁部の残された部分は水平で、口唇部が遺存するように観察されたが、通常この器種は「く」の字型の口縁が付くものであり、本来この器形なのかは検討を要する。

ＳＱ1025窯跡（第13図・第27図）

Ｙ～Ｚ・13グリッドに位置し、南東向きの傾斜変換線付近に位置する。ＳＱ1026と、ＳＱ1027に近接する。長

軸186㎝、短軸150㎝、深さ40㎝を測り、平面形は隅丸方形の一角が欠けたような形をしており、北東側（山側）に溝がある。深さは５～10㎝ほどである。覆土は木炭粒・焼土を多く含み、床面中央付近に堆積している層は、焼土と炭が縞状に堆積していることから、複数回の被熱が考えられる。床面には緩やかに波打つような起伏がある。床面中央部付近で被熱によりわずかに黒色や赤色に変化した部分が認められた。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や堝・甕、須恵器坏などが出土しており、土師器坏４点と、須恵器坏１点を図示した。55は胎土が緻密で、底部は切り離し後にヘラケズリ調整を行う。外面の口縁部付近は横方向のミガキを行い、下半部は横方向の回転ケズリを行う。内面の口縁付近は横方向、下半部縦方向のミガキ調整を行い、内面の黒色処理を施す。56・58はともに焼成不良で、56は外面のロクロナデは目立たず、内面は平滑である。器面の剥落が見られる。口縁部に厚みを持つ。58も口縁に厚みを持つ。57は比較的焼成良好で、内面に木炭粒が付着している。口縁に厚みを持つ。59は復元できた唯一の須恵器坏で内面に煤状の付着物があり、使用されたことが考えられる。

ＳＱ1026窯跡（第13図・第27・28図）

Ｘ～Ｙ・13～14グリッドの平坦面に位置する。平面形はＳＱ1027との境界は不明であるが、ＳＱ1027と合わせた形で凹型をなし、その北西側が本遺構である。単体では北東側に直線を持つ方形基調である。長軸は焼土の南東端までで200㎝、短軸は198㎝、深さ38㎝を測る。覆土は床面付近には焼土範囲と重なるように木炭粒や焼土を多く含む層が分布している。床面は緩やかな起伏があり、広い範囲が被熱して焼土化している。特に北東側（山側）でその傾向が強く、北東側は壁の一部も被熱していた。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏、甕、堝、須恵器の甕などが出土している。土師器坏３点、甕１点、鉢１点、須恵器甕１点を図示した。60は焼成不良で歪みがある。61・62ともに焼成不良で、61は器面の剥落があり、62は口縁部に厚みを持つ。63は長胴甕で、口縁の形や器厚から丸底と考えられる。64は堝との判別が付きにくいが、内面底部の屈曲具合から平底と判断し、器厚が薄いことから鉢と判断した。外面に縦方向のケズリが施される。65は須恵器の甕で、上半部の破片は見つからなかった。残存部の割れ口がほぼ水平になることや、破片の割れ方の様子から意識的に上半部が打ち割られたと考えられる。破片によっては赤褐色に変色しているものもあることから、破片になった段階で一部の破片は二次焼成を受けたと考えられる。内面のアテ具は上端部は同心円状のアテ具を用い、下端部は平行状のアテ具を用いている。

ＳＱ1027窯跡（第13図・第28図）

Ｙ～Ｚ・14グリッドの平坦面に位置する。平面形はＳＱ1026と合わせて凹型をなす。長軸は225㎝、短軸（133）㎝、深さ28㎝を測る。ＳＱ1026とＳＱ1027を通した長軸は333㎝である。覆土は木炭粒と焼土ブロックを含む。床面は緩やかな起伏がある。床面の南東側に溝があり、深さは５～10㎝前後である。中央部付近で、僅かであるが被熱によって、赤色や黒色に土色変化している部分が認められた。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏、甕、堝が出土している。坏３点と甕２点を図示した。66は焼成不良で器面の摩滅が著しい。67は比較的焼成が良好で、口縁に厚みを持つ。68は器面の剥落があり、底部が厚めである。69は長胴甕と考えられる。焼成不良で器面の剥落が見られる。70は底部が欠落しているが、内面底部の傾きから、平底甕と考えられる。比較的焼成が良好である。

ＳＸ1010性格不明遺構（第13図）

Ｓ・14～15グリッドの平坦面に位置する。焼土のみの確認である。付近には同じように、焼土のみ確認されたＳＸ1011とＳＸ1012がある。ＳＸ1010は長軸138㎝、短軸130㎝、中央部の標高88.14ｍを測る。被熱しており、ＳＱ1019やＳＱ1040の焼土が面的に広い範囲が被熱しているのに対し、本遺構の場合は焼土の厚みが厚く、ＳＱ1019やＳＱ1040と熱の伝わり方が異なる印象を受ける。遺物の出土は無かった。

ＳＸ1011性格不明遺構（第13図）

Ｔ・16グリッドの平坦部に位置する。焼土のみの確認である。焼土の残存値は、長軸76㎝、短軸38㎝、中央部の標高87.93ｍを測る。焼土の状態はＳＸ1010と同じような伝わり方と考えられる。

遺物は土師器の坏や甕が出土したが、遺存状態が悪く、図示できるものは無かった。

ＳＸ1012性格不明遺構（第13図）

Ｔ・16グリッドの平坦部に位置する。焼土のみの確認

である。焼土の残存値は、長軸58㎝、短軸50㎝、中央部の標高87.95㎝を測る。本遺構の焼土の状態は、ＳＸ1010やＳＸ1011と同じような状態である。

遺物は、土師器の坏や甕が出土したが、遺存状態が悪く、図示できるものは無かった。

ＳＸ1059性格不明遺構（第13図）

Ｕ～Ｖ・16グリッドの平坦部に位置する。南西側にはＳＸ1010･ＳＸ1011･ＳＸ1012が位置する。長軸は254㎝、短軸は240㎝､深さは49㎝を測る。平面形は不正形な隅丸方形をなす。底面には凹凸があり、粘土層を掘り込んでいた。湧水が集まりやすく湿気を帯びる。被熱の痕跡は無く、遺物の出土も無かった。

ＳＱ1028窯跡（第14図・第28・29図）

Ｖ～Ｗ・12～13グリッドの平坦に位置する。切り合い関係は、ＳＱ1029を切っており、ＳＱ1030に切られている。平面形は、切り合い関係があるものの、本来はほぼ円形をなしていたと考えられる。長軸は208㎝（ａ－ａ′方向）、短軸135㎝、深さ48㎝を測る。覆土は木炭粒と焼土を含む層が多く､東側に炭を多く含む層が分布する。Ｗ･13グリッド杭の南約60㎝の床面に、人頭大の扁平な礫があった。床面の東側が一段低くなり、楕円形をなす。遺構の北側には被熱の痕跡が見られ、赤色化している。特に一段低くなった東側のほぼ一面が被熱しており、特に北側が被熱の痕跡が強い。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や内黒坏、甕、堝などが出土している。坏を８点、甕を１点図示した。71は比較的焼が良く口縁部に厚みを持つ。底部に黒斑がある。72は体部外面に赤褐色の部分が広い範囲で見られるが、内面には見られない。胎土の断面観察でも外面の表面に膜状に見られる。口縁部に厚みを持つ。外面に木炭粒が付着している。73は外面下半部に横方向の回転ケズリを施し、内面は無調整である。見込み部分に器面の剥落が見られるが、マキアゲ・ミズビキ技法による粘土の接合面と思われる。口縁部に厚みを持つ。74は焼成良好で、内面に緋襷様の黒色の部分があり、緋襷と見られる。内面立ち上がり部分にはマキアゲ・ミズビキ技法によると思われる粘土の接合痕が見られる。75は焼成が良好で、外面の口縁に黒褐色の部分が見られる。76～79は焼成良好で、口縁に厚みを持つ。特に、79は顕著である。80は焼成良好で、器厚が薄い。器面内面の剥落が著しい。

ＳＱ1029窯跡（第14図・第29図）

Ｗ～Ｘ・12グリッドの平坦部に位置する。平面形は切り合い関係があり本来の形は失われているが、隅丸の三角形をしていたと考えられる。３基の切り合い関係では一番古い。残存値は長軸205㎝、短軸195㎝（ａ－ａ′方向）、深さ30㎝ を測る。覆土は床面付近に木炭粒主体の層が分布し、焼土を含む層も壁の近くに分布する。床面は、中央部付近で２箇所木の根の撹乱によって焼土が欠落している。床面中央部を中心に、被熱によって赤色化した部分が認められた。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や、内黒坏、甕、堝が出土した。81～85・87は坏で比較的焼成が良好である。81は外面体部中央に黒斑があり、口縁に厚みを持つ。83は回転切り離し後に、底部立ち上がり部分に手持ちヘラケズリ調整を施す。外面の立ち上がり部分に黒斑が見られ、内面にも黒斑の抜けが見られる。外面下半部の焼きは良いが、内面や外面上半部の焼きは甘い。84も体部の内外面に黒斑が見られる。85の口縁付近は固く焼きしまっているが、見込みや底部付近は口縁より焼きが甘い。外面に赤褐色が強い部分が見られる。86は胎土が緻密で、体部は直線的に立ち上がり、器厚もほぼ均一である。焼成不良のため、器面の剥落や摩滅が見られる。87は胎土が緻密で、口縁部に厚みを持つ。88は平底甕の底部で、焼成不良である。

ＳＱ1030窯跡（第14図・第30図）

Ｗ・13グリッドの平坦部に位置する。平面形は台形をなし、３基の切り合い関係では一番新しい。長軸220㎝（ｂ－ｂ′方向）､短軸210㎝、深さ23㎝を測る。覆土は南側の床面直上で焼土が多く、その上には焼土と木炭粒を含んだ層が堆積する。床面は多少の起伏があり、北西部分を除いた大部分で被熱の痕跡が認められた。特に南東側の床面と、南半部の壁でその傾向が著しい。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や内黒坏、甕、堝などが出土している。土師器坏４点を図示した。89は焼成良好で特に外面は焼き締まり、見込み部分は黒褐色を呈する。90は焼成良好で、体部の一部に黒斑らしきものが認められる。口縁が厚く、91と共に特徴的な形をなす。91も焼成良好で、底部の立ち上がり部分に黒斑を認める。口縁は内外とも屈曲し特徴的である。体部外面に赤褐色の濃い部分がある。92は底部切り離し後、底部に

ヘラケズリ調整を行う。外面下半部に横方向の回転ケズリを行う。見込み付近は焼成不良である。体部の内外面に木炭粒が付着している。

ＳＱ1032窯跡（第15～16図・第30～32図）

Ｔ～Ｗ・８～９グリッドの南向き斜面に、主軸が等高線と平行するように位置する。窯の主体部が等高線に平行するように岩盤を掘り抜いており、主体部に直交するように前庭部がある。東西方向は770㎝、南北方向は560㎝を測る。主体部の内部には、地山を掘り込んだ時の工具痕が、床面と壁の立ち上がり部分に残っていた。第13図のｆ－ｆ′の縦断面で､左側の一段下がったところが焚口、そこから右が燃焼室と考えられ、前庭部と呼称した場所が作業場と考えられる。平面形でも一度閉塞するように両側の壁が張り出し、縦断面と平面の所見が一致すると考えられる。西側の焚口付近から焼成室の一部の天井は崩落したと考えられるが、焼成室の一部から煙出しまでは遺存し、煙出しの壁も被熱している。通常の遺構のように平面形での検出には至らず、前庭部と呼称した山側の面に被熱の痕跡が認められ、被熱の痕跡を頼りに本遺構の存在を確認した（巻頭写真２）。焼成室西半分の天井が崩落した状況で、西半分の崩落した天井と、天井の残っている東側の焼成室内の堆積土を除去した。東側の焼成室内には、天井と堆積した土砂との間に20㎝ほどの空間が認められた。焼成室の奥の部分に堆積していた土砂は、凝灰岩質の砂礫で、地山の岩盤が風化したものと思われる。上の堆積層は比較的さらさらしており、下部ほど湿気を帯びる。拳大から人頭大の凝灰岩の礫が混入しており、天井が崩落したものが流れ込んで堆積したと思われる。床面近くになるにつれて木炭粒の量が多くなり、床面はほとんどが木炭粒で、厚いところで約２～３㎝前後堆積していた。

天井が残っていた部分の焼成室内からは木炭の出土はなく、木炭は搬出されたと考えられる。Ｖ・８グリッドからは多くの土師器がまとまって出土した（第30図93～94・96～103・31図109～111）。第15図の土層断面（ｅ－ｅ′）の１層からの出土である。これらの土器は、ＳＱ1032での取り上げになっているが、ＳＱ1032に伴うものでなく、ＳＱ1032の埋没時よりも新しい土器群である。

Ｔ・８～９グリッドにかけての部分を前庭部と呼称した。覆土は木炭片を多く含む層の上位に焼土を多く含む層があり、同一層序でも下位には木炭片や木炭粒が多く、上位は焼土が多いという傾向が観察された。また、Ｔ・９グリッドにある窪みは、ＳＸ1049と関わりがあると考えられ、その覆土では土層断面（ｅ－ｅ′）の８・10層に相当すると考えられる。

遺物は前述のように前庭部覆土や窯体堆積土からの出土で、ＳＱ1032の床面からの出土はなかった。土師器坏のほかに平底甕や長胴甕・鉢などが出土している。93～107は坏で､96は外面底部の立ち上がり部分に黒斑がある。99は内外面に木炭粒が付着している。102は外面の一部に火ハネが見られる。104は体部外面に赤褐色の強い部分がある。106は体部中ほどに黒斑がある。108～110は甕に分類した。108は焼成良好で器厚が厚い。頸部と体部の境に突帯を持つ。今回の調査では本例のみの出土である。109･110は長胴甕で丸底甕と考えられるものである。111と112は鉢である。111は下端部に接合面が見られ、平底になると考えられる。111と112はそれぞれ別の鉢に細分したが、111が平底と考えられることから、112と同じ形状になる可能性もある。112は脚付の鉢に分類した。外面は立ち上がり部分に一段ケズリを入れて面をつくり、その部分に穴を穿孔し、手捏ねで成形した脚を挿入している。内面はハケメで調整しているが、脚の突端が内面に突き出ている。

ＳＱ1024窯跡（第15～16図・第26～27図）

Ｕ～Ｖ・９～10グリッドの、主軸が等高線と直交するように位置する。平面形は等高線と直交するように掘り込んでおり、煙出しと考えられる部分はＳＱ1032と切り合い関係にある。長軸は520㎝、幅180㎝を測る。覆土は北側に堆積した８・９と、南側に堆積した６・７があり、その上に堆積した５、２・３、１・４があるこのうち、８は粘土が主体で、崩落した天井の可能性がある。８が天井だったとすれば、６・７は天井崩落後の堆積と考えられる。被熱の痕跡は認められたが、窯体全面が顕著に被熱しているという状況ではなかった。

Ｃ－Ｃ′断面にあるように､発掘所見では床面から煙出しへの立ち上がり部分に突起があり、不自然な印象を受けるが、幅50～60㎝ほどで手元も暗く、不自由な体勢の中で、手の感覚と僅かな色の変化を頼りに発掘を行ったので、掘り過ぎか掘り残しの可能性もあり得る。

ＳＱ1032との切り合い関係は、煙出しと考えられる部

分がＳＱ1032の窯体右側に接続しており、ＳＱ1032側から凝灰岩質の礫で塞がれていた。礫はＳＱ1032の窯体側の方が被熱し、ＳＱ1032窯体内のほかの部分と同色だったことから、煙道が塞がれた後にＳＱ1032の使用によって被熱したと考えられる。よって、ＳＱ1024の煙道を切ってＳＱ1032の窯体が掘られたと考えられることから、ＳＱ1032が新しく、本遺構のほうが古いと考えられる。

遺物は覆土からの出土で、窯底からの出土はなかった。坏のほかに甕や製塩土器が出土している。52は体部がほぼ直線に立ち上がり、比較的焼成が良好である。53の体部下半外面はタタキ、内面はアテが見られる。54の製塩土器は輪積の痕跡が明瞭である。

ＳＸ1049性格不明遺構（第15図・第38～40図）

Ｓ～Ｔ・９グリッドに位置し、ＳＱ1032の前庭部に位置する。長さ160㎝、幅100㎝を測る。平面形は玉子型をなし、ＳＱ1032の前庭部を掘り込んでいることから、ＳＱ1032前庭部より新しいと考えられる。断面は横方向に丸くふくらむ。遺構西側を中心に僅かな被熱の痕跡が見られた。すぐ東側にある窪みは本遺構と関連があると考えられる。

遺物は全て覆土からの出土で、土師器坏、甕、堝、須恵器甕、支脚など比較的多くの遺物が出土している。193～212は土師器の坏である。193は焼成が不良で、内面は比較的平滑だが、外面は器面の摩滅が見られる。194は比較的大型で、胎土は緻密である。焼成時に出来たと思われる亀裂がみられ、火ハネも見られる。胎土が赤っぽい。195は全体的にゆがみが見られる。内面の器面は平滑だが、外面の一部に二次的と思われる細かい亀裂や変色が見られる。196・197は口縁部に厚みを持つ。196は胎土が白っぽい。198～200は器面が比較的平滑である。198は底部に黒斑が見られる。201・202は焼成不良で器面の剥落が見られる。200・201は胎土が白っぽい。203は口縁部に厚みを持つ。204・206・207は焼成不良で器面の剥落が見られ、205は全体的にゆがみが見られる。208は焼成が良く胎土が緻密で、底部は切り離し後に回転ヘラケズリを行い、外面は下半部に横方向の回転ケズリを行う。内面は無調整である。209は胎土が緻密で、火ハネが見られる。特に外面で顕著である。210の胎土が白っぽい。211・212は共に底部は切り離し後に回転ケズリを行い、外面下半部に横方向の回転ケズリを行う。内面の口縁部付近は横方向、体部は縦方向のミガキを行う。213は大型の台付の鉢で、同一個体がＱ・12グリッドからも出土している。底部は切り離し後に回転ヘラケズリが施され、その後に高台を貼り付け、ケズリかミガキを行っている。外面上部は横方向のミガキが施され、下半部は横方向のケズリが施される。内面の口縁部付近は横方向、下部は縦方向のミガキが施される。体部外面に黒斑が見られる。214は須恵器の壺で、内面の底部付近は円礫をアテ具としている。一部の破片に火ハネが見られることから、破損後に二次的に被熱した破片であると考えられる。215～217は平底甕で、共に焼成不良で、器面の剥落や摩滅が見られる。

ＳＱ1033窯跡（第17図）

ＡＢ～ＡＤ・15～19グリッドの平坦な面に、等高線と直交するように位置する。長さは残存値で990㎝、幅は最大で155㎝を測る。北側の先端の平面形がやや凸型をしており、煙出しの可能性がある。北側から654㎝付近に人頭大かそれ以上の礫が重なるようにあり、焚口と考えられる。礫より北側が焼成室で、礫より南側が作業場と考えられる。窯体壁には被熱の痕跡がはっきりと残っていた。断面形では、焼成室付近で断面上部がオーバーハング状になっているのが観察された。地下式の構造が考えられる。南側は杉の根によって撹乱を受けており、南西部にはＳＸ1034が本遺構を切って作られている。覆土の下層に焼土や木炭片を含む層が多く、中層付近は木炭粒を含む層が多い。覆土に砂礫を含む層が多い。天井の崩落土を把握することが出来なかった。

遺物の出土は比較的少なく、土師器の坏や甕、堝などが出土したが、図化できるものはなかった。

ＳＸ1034性格不明遺構（第17図・第32～33図）

ＡＢ・18グリッドに位置し、ＳＱ1033と切りあっている。平面形は隅丸方形をなす。覆土はほぼ単一で、茶褐色であった。ＳＱ1033の覆土を掘り込んでつくられている。

遺物は覆土からの出土で、比較的多くの遺物が出土した。土師器の坏、甕、堝のほか須恵器の壺が出土している。そのうち土師器坏を３点、平底甕を３点、須恵器壺を２点図示した。113は比較的大型の坏で、器面の表面が化粧土を付着させたように赤褐色を呈する。口縁部に厚みを持つ。114はやや内湾する坏で焼成が良好である。

115は胎土が精製されており緻密だが、焼成が不良のため器面の剥落が著しい。口縁部に厚みを持つ。116・117・120は小型の平底甕である。116は胴が張らないが、117は胴が張る。118と119須恵器の壺である。118は、破片がＳＸ1049ほか各グリッドに広範囲に散らばっている。胎土は緻密で焼成も良く、肩の付近には自然釉がかかる。頸部と胴部の境には凸帯が付く。頸部は人為的に打ち割られたような状況を呈する。119は高台付の壺で、頸部が欠損している。肩の部分に自然釉が付着している。

ＳＱ1045窯跡（第18図）

Ｎ・12～13グリッドの平坦部に位置する。長さ130㎝、幅94㎝、深さ18㎝を測る。平面形は玉子型をなし、西端に直径15㎝、深さ20㎝のピットがある。被熱の痕跡は認められず、覆土に焼土の混入もなかった。

遺物は土師器の坏や甕、鉢などが少量出土したが、遺存状態が悪く図示できるものはなかった。

ＳＱ1039窯跡（第18図・第34図）

Ｍ・13グリッドの平坦部に位置し、ＳＱ1046と隣接する。長軸（180.0）㎝、短軸173.0㎝、深さ36.0㎝を測る。平面形は長円形のプランに、西側が一段突き出た形をなす。床面はほぼ平坦で、西側の突き出た部分は階段状の段を持つ。西側の壁から床面にかけて焼土が見られるが、突き出た部分には焼土は見られなかった。

覆土はＳＱ1046も覆う黒褐色シルトがあり、床面付近には焼土が見られる。

ＳＱ1046との前後関係は、平面・断面とも切り合い関係が確認できなかったので不明である。遺物の接合関係では、図示した遺物でＳＱ1046出土遺物と接合するものはなかった。

遺物は覆土からの出土で、土師器の坏や甕が出土した。そのうち、土師器坏６点と、土師器甕１点を図示した。130は口縁部に、135は外面立ち上がり部分に黒斑を認める。131は口縁部が外側に開く。132と133は立ち上がりが直線的で逆台形の器形をなす。136は外面にカキメとタタキがみられ、内面にはアテが見られる。長胴丸底甕の胴部と思われる。

ＳＱ1046窯跡（第18図・第35～37図）

Ｍ～Ｎ・13～14グリッドの平坦部に位置し、ＳＱ1039と隣接するが、前後関係は不明である。長軸（170.0）㎝、短軸168.0㎝、深さ18.0㎝ を測る。平面形は不正形な長方形型をなす。遺構の南西部の壁と、床面の南西部を中心に被熱の痕跡が見られた。覆土はＳＱ1039も覆う層と、底部に焼土や木炭粒を僅かに含む層がある。

遺物は床面とその直上から出土し、出土状況から一括性が高いと考えられる。土師器の坏、皿、甕など比較的多くの遺物が出土した。特に坏類の割合が圧倒的に多い。そのうち、坏類27点、皿２点、甕５点を図示した。また、図示した遺物でＳＱ1039と接合するものはなかった。

150～178までは坏で、151は体部外面に黒斑が見られ、口縁部に厚みを持つ。底部に炭粒が付着している。胎土に赤褐色の強い部分を認める。151のように口縁部に厚みを持つものは154・156がある。152は焼成不良で器面の剥落が著しい。152～154は胎土に赤褐色の強い部分がある。154は体部外面に黒褐色の部分がある。155は底径に対して見込みが広い。156は回転切離しの際の両側からの圧迫でゆがみが大きい。157・158は焼成不良のため器面の剥落が著しい。159は胎土が精選されて緻密だが、見込みに焼成時に出来たと思われる亀裂がある。体部の立ち上がりは内湾する。160体部外面に炭粒が付着している。162は焼成不良で器面の剥落がみられる。胎土は白っぽい。163は焼成不良で、底部に黒斑が見られる。164・166は焼成不良で器面の剥落がある。165は比較的焼成が良好で、逆台形の器形である。胎土が白っぽい。167は緻密な胎土で比較的焼成がよい。168の形は船底形に歪み、口縁の一部は火ぶくれをおこし、発泡している。169は胎土が緻密で、赤色粒の混入が目立つ。外面胴部中央付近は暗褐色を呈する。170は胎土が緻密で、底部中央に黒斑が見られる。171は器厚が厚く、口唇部が丸みを持つ。175は胎土が赤っぽい。176は胎土に粗粒の石英を含み、白っぽい。焼成不良で内外面の器面に剥落が見られる。178は焼成不良で、器面の摩滅が目立つ。ロクロメは目立たない。179と180は皿で、179は胎土が緻密で赤色粒が多く、焼成不良で器面の剥落が目立つ。180も焼成不良で器面の剥落が目立つ。付高台である。181は高台坏で、焼成が不良である。摩滅のためはっきりしないが、高台内に菊花状のナデが見られる。付高台である。182～184は小型平底甕で、185・186は長胴丸底甕と考えられる。183はロクロメが目立つ。

ＳＱ1047窯跡（第18図・第38図）

Ｏ～Ｐ・17～18グリッドの平坦部の縁辺に位置する。

今回見つかった平安時代の遺構の中では標高が低い方である。ＳＱ1048と隣接する。ＳＱ1048との前後関係は、平面・断面とも切り合い関係が確認できなかったので不明である。平面長軸は（200.0）㎝、短軸196.0㎝、深さ45.0㎝を測る。平面形は方形をなす。床面の中央部はあまり凹凸がないが、周辺部は多少の凹凸が見られ、西側の壁はなだらかに立ち上がる。床面中央部付近から北側の床と壁に被熱による焼土が見られる。

覆土はＳＱ1048も覆う層が上層にあり、下層には木炭粒や焼土ブロックを含む層がある。覆土の一部は灰白色の火山灰と思われるものを含む。

遺物出土は少なく、土師器の坏のみである。そのうち３点を図示した。187の胎土は、細粒の混入物を含むが良く焼き締まり、全体的に明褐色を呈する。ゆがみが少なく、器面の内外面ともに平滑である。

ＳＱ1048窯跡（第18図・第38図）

Ｐ～Ｑ・12グリッドの平坦部の縁辺に位置する。ＳＱ1047と隣接するが、前後関係は不明である。長軸は115㎝、短軸は105㎝、深さ26㎝を測る。平面形は不正な五角形をなす。床面はあまり凹凸がなく、ＳＱ1047に比べ壁の立ち上がりは急である。ＳＱ1047と接している遺構の西側の壁と床面の中央付近で被熱による焼土が見られる。特に壁のほうが床よりも被熱の痕跡が強い。

覆土はＳＱ1047も覆う層が上にあり、下部に木炭粒を多く含んだ層がある。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。そのうち坏を１点、甕を２点図示した。190は坏の底部で、焼成不良で器面の剥落が著しい。191は胎土や底部の立ち上がりから小型平底甕と判断した。192は長胴甕の口縁部で、カキメが内外面に見られる。

ＳＱ1042窯跡（第19図）

Ｎ・15グリッドの平坦部の縁辺に位置する。ＳＱ1043と隣接する。ＳＱ1043との前後関係は、平面・断面とも切り合い関係が確認できなかったので不明である。長軸は150.4㎝、短軸は（143.5）㎝、深さ20.0㎝を測る。平面形は不正形な五角形をなす。遺構の北東部に被熱の痕跡が認められた。

覆土はＳＱ1043も覆う１層のみで、木炭粒や焼土を含む。

遺物は土師器の坏や甕が出土したが、遺存状態が悪く、図示できるものはなかった。

ＳＱ1043窯跡（第19図）

Ｎ～Ｏ・14グリッドの平坦部の縁辺に位置する。ＳＱ1042と隣接するが、前後関係は不明である。長軸は183.0㎝、短軸は（150.0）㎝、深さ8.0㎝を測る。平面形はＳＱ1042を一回り大きくしたような形で、丁度向き合った形で隣接している。床面のほぼ全面で被熱の痕跡が認められ、特に南西部で強く被熱している。

覆土はＳＱ1042も覆う層の下に、焼土と木炭粒を大量に含む層がある。

遺物は土師器の坏と甕がごく少量出土したが、図示できるものはなかった。

ＳＱ1053窯跡（第19図）

Ｌ・17グリッドの南に面した斜面に位置する。焼土のみの確認で、被熱によるものと考えられる。杉の切り株を抜根した際に土色変化が見られ、その際に確認された遺構である。長軸は110㎝、短軸は50㎝を測る。標高は87.90ｍで、今回見つかった平安時代の遺構では一番標高が低い。

３　平安時代の遺構外出土の遺物

Ｊ・Ｋグリッド（第41図）

218・219は焼成不良で器面の摩滅や剥落が見られる。220は胎土が緻密で固く焼き締まる。221は焼成不良で器面の摩滅や剥落が見られる。体部が直線的に立ち上がり、器厚がほぼ同じである。222は胎土が緻密で、口縁部内面に厚みを持つ。223は焼成不良で、器面に摩滅が見られる。

Ｍ・Ｎグリッド（第41～42図）

224は口縁部の下にくびれを持ち、結果的に口縁部が厚みを持つ。225の胎土は緻密で、口縁部に厚みを持つ。外面のロクロメはあまり目立たず、内面の器面は平滑である。226は胎土が緻密で、焼成も良好である。227は須恵器高台坏で、回転ヘラキリ後に高台をつけている。228は外面底部から立ち上がりに欠けて黒斑が見られ、内面には黒色の物質が付着している。229・230は焼成不良で、器面の摩滅が著しい。231は胎土が緻密で、口縁部に厚みを持つ。内面は平滑である。232は内面に煤状の付着物があることから、製品として使用されたことが考えられる。233・235は比較的焼成良好で、特に235は内外の

器面も平滑である。234は焼成不良で、体部の立ち上がりが丸みを帯びている。236は口縁部に厚みを持ち、見込み部分に黒色の付着物がある。237は、底部切り離し後に回転ヘラケズリを施し、体部下半は回転ヘラケズリを行い、上半部は横方向のミガキを行う。内面は口縁部付近が横方向、体部は縦方向のミガキを行う。丁寧な作りである。238・239の胎土は緻密だが、焼成不良のため器面の摩滅や剥落が見られる。240は底部に黒色の付着物がある。241は焼成不良で器面の剥落があり、器厚が厚い。243は皿で、柱状高台である。

Ｏ・Ｐグリッド（第42～44図）

244は器面の内外面とも平滑である。底部に穴が開いているが、穿孔による穴ではない。底部切離しの時に、底部の厚みが十分確保されておらず、底部の薄い部分が焼成の際に欠け落ちて穴が開いたと考えられる。245～248は平底甕で、245は二次焼成によると思われる火ハネが器面の内外に見られる。246・247は体部に黒斑が見られる。248は底部が欠落しているが、内面の湾曲から平底と考えられる。249・258は堝で、体部はやや湾曲しタタキ調整が行われる。258は下部に黒斑が見られる。250・251は胎土が緻密であるが、焼成不良のため器面の摩滅が見られる。共に体部が直線的に立ち上がり、ロクロメが目立たない。252は小振りで器厚も薄い。253は口縁が外側に屈曲する。外面から底部にかけて黒色の物質が付着している。254は比較的焼成がよく、外面のロクロメが目立つ。255は長胴甕で、カキメが目立つ。256は外面に二次焼成によると考えられる器面の剥落が見られる。そのためかどうかは不明だが、多量の煤が器面の内外に付着している。257は回転切り離し後に回転ヘラケズリを行い、外面は口唇部から底部にかけて横方向の回転ケズリを行う。内面は剥落があるが、縦方向のミガキが認められる。外面の下半を中心に黒斑が見られる。坏より法量が大きい。259は胎土が緻密で焼成が良く、外面はロクロメが目立つ。底部に黒斑が見られ、外面に木炭粒が付着している。260は底部切り離し後ケズリ調整を行い、体部下半は横方向のケズリ調整を行う。内面は摩滅しているがミガキ調整が観察される。261はやや粗粒の混入物を比較的多く含む。底部は欠落しているが、内面の湾曲や全体の大きさから平底甕と考えられる。262も粗粒の比較的混入物を多く含み、内面の湾曲から平底甕と考えられるが、体部外面下半に縦方向のケズリが施される。263の内面は平滑で、外面は焼成不良のため一部に器面の摩滅が見られる。264は長胴丸底甕で、体部下半にはタタキ調整が施される。外面に黒斑が見られる。265～267は土師器坏である。

Ｑグリッド（第44～46図）

265は焼成が均一でなく、口縁部付近に一部還元色を呈する箇所がある。それ以外は器面の摩滅や剥落が見られるが、特に外面で著しい。器厚が極端に薄い。266は外面のロクロメは目立たず、内面は平滑である。267は口縁部に厚みを持つ。胎土は緻密だが、やや大きめの石英を含む。内面は平滑で、外面に大きめのロクロメを持つ。268・269は粗粒の混入物を多く含む。器厚や口縁部の形から長胴甕と考えられる。272・273の胎土は緻密だが、焼成不良のため器面の剥落や摩滅が著しい。274は焼成が均一でなく、還元色の箇所や、焼成不良で器面が剥落している箇所もある。還元色の箇所は固く焼き締まる。275は台付鉢で213と同一個体である。276～278は平底甕である。277は胎土や底部の厚み、立ち上りから平底甕と判断した。278は口唇部を摘み上げるような成形を行う。279は胴部に凸帯を持つ甕で、ロクロ成形で、外面は凸帯より下にタタキ調整が施され、円礫状のものをアテ具とする。280・281とも鉢で、体部がほぼ直線で、急角度で立ち上がる。カキメが目立つ。282は手捏ねによる坏型のミニチュア土器である。283・284・285は胎土に細粒の砂と粗粒の混入物を多く含む。284は外面のロクロメは目立たず、内面は平滑で、部分的に還元色を呈する箇所があり、その箇所は固く焼きしまる。286は外面が無調整で、内面は工具を用いてのミガキ調整は見られないが、ロクロ成形の際に、なめし皮などで念入りに内面調整をしたと考えられる。内面に黒色処理を施す。287は胎土が緻密である。外面のロクロメは目立たず、内面は平滑である。口縁部に厚みを持つ。288は須恵器の台付壺で、内面にはロクロ成形時の指痕が明瞭に残る。見込み中心部から立ち上がりにかけて自然釉の降灰が見られる。内面立ち上がりのやや上の部分に明瞭な段差があり、成形時の接合部と考えられる。

Ｒグリッド（第46～47図）

289・290は坏で、289は焼成良好で、外面のロクロは目立たず、内面は平滑である。290はやや大きめで、焼成不良のため器面の摩滅が見られる。外面のロクロメも

目立たず、内面も平滑である。口縁部に厚みを持つ。291・294は高台坏で、体部外面下半にケズリ調整を行い、内面はミガキ調整と黒色処理を行う。底部は回転切り離し後にナデとケズリ調整を行う。外見上は高台だが、ほとんど高台としての高さを持たない。高台部分の調整を最後に行う。削り出し高台と考えられる。292は高台坏で、外面は無調整と考えられ、内面は全面にミガキが施される。293は胎土が緻密だが焼成不良で、器面の外面に剥落や摩滅が見られる。口縁部に厚みを持つ。295は胎土に粗粒の混入物を多く含むが、焼成が良好である。器厚や口縁の形から長胴甕と考えられる。296は須恵器の短頸壺である。焼成良好で、一気に成形しており、ロクロメがはっきりしている。297は口縁部の形は不明だが、小型の平底甕である。298は残存部の外面と内面は全面に横方向のミガキを施し、内面は黒色処理を施す。胎土は緻密である。内面黒色処理を施す場合、台付坏が多いので台付坏に分類したが、無台坏の可能性もあり得る。

Ｓグリッド（第47～48図）

299の胎土は緻密で焼成も良い。残存部の外面は横方向のケズリが行われ、底面は切り離し後に回転ヘラケズリが行われる。内面は上の方では横方向の、下では縦方向のミガキが行われる。300は外面上半部に横方向のミガキ調整を行い、下半部は横横行の回転ケズリを行う。内面は全面にミガキ調整を行う。回転切り離し後に回転ケズリ（ミガキ？）調整を行う。底部は高台を持つが、高さはほとんどなく、粘土を貼り付けた後につまみ出しとケズリで調整を行う。301・302は共に焼成は良いが、ゆがみが見られる。303は胎土が緻密だが、焼成不良で外面の剥落が著しい。外面は無調整で、内面は口唇部に横方向、体部は縦方向のミガキを施し、黒色処理を行う。304～309は坏で、308は比較的焼成が良いが、ほかは不良である。304は体部がほぼ直線に立ち上がり、口縁部に厚みを持つ。305は器厚が厚く、外面のロクロメは目立たず、内面は平滑である。器面の剥落や摩滅が目立つ。306は口縁がやや外反し、器厚もほぼ同じである。307は体部中央付近の器厚が薄い。308の体部はほぼ直線に立ち上がり、外面のロクロメは目立たず、内面も平滑である。底径が大きい。309は器高が低く、体部が湾曲しながら立ち上がる。器面内外の摩滅や剥落が見られる。310は摩滅しており、付高台かケズリ高台かは確認できない。高台内に窯印と思われる「一」字のヘラ書きが見られる。311は粗粒の混入物を多く含む。312は体部が湾曲し下部にはタタキ調整が行われる。313～315・319は甕で、粗粒の混入物を多く含む。器厚や器形から長胴丸底甕と考えられる。316は鉢で、体部が直線で、急角度で立ち上がる。

Ｔグリッド（第49～51図）

318・319は比較的焼成良好で、器面の内外面とも平滑である。318器厚がほぼ均一なのに対して、319は厚みに差が見られる。320・321は共に焼成が不良で、器面の剥落や摩滅が見られ、口縁部に厚みを持つ。322・323は共にロクロメは目立たず、器厚が薄い。口縁部もやや外半気味である。322は口縁部の一部に還元色を呈する部分があり、固く焼きしまる。324は胎土が緻密で、外面のロクロメは目立つが、内面は平滑である。325は焼成不良で、比較的器厚が薄い。326は外面のロクロメは目立つが内面は平滑である。器厚にばらつきがある。口縁部に厚みを持つ。327は胎土が緻密で焼成がよい。外面の口縁付近は横方向のミガキを施し、下部は横方向の回転ケズリを施す。内面の口縁付近は横方向の、下部は縦方向のミガキを施す。高台は付高台で、高台内も回転ケズリ調整を行う。口縁部に厚みを持つ。器厚も薄く、丁寧なつくりである。328の外面はロクロメがやや目立ち、下部に手持ちヘラケズリ調整を施す。口縁部に厚みを持つ。329は胎土が緻密で焼成がよい。内面と外部の上半部は無調整だが、外面の下部に横方向の回転ケズリを施す。330はやや湾曲した立ち上がりで、器厚はほぼ均一で、器面の内外面は平滑である。331は体部の中央部の器厚が薄く、結果として口縁部に厚みを持つ。332の胎土は緻密だが焼成不良である。ロクロメは目立たず器厚にばらつきがある。333は器厚がほぼ均一で、内湾気味に立ち上がる。334は外面のロクロメがやや目立ち、口唇の先端はやや尖っている。335はロクロメが目立たず、器厚がやや厚い。口縁部に厚みを持つ。336は体部がやや湾曲しながら立ち上がり、外面のロクロメが目立たず、内面は平滑である。口縁部に厚みを持つ。337はやや小振りで、口縁部に厚みを持つ。焼成不良のため、器面の剥落や摩滅が見られる。器厚が不均一である。338は外側に細かなロクロメがある。口縁の一部に還元色を呈する部分がある。339は内面の器面は平滑だが、外面は剥落や摩滅が見られる。

340は下半部を欠落しているが、内湾する器形から鉄鉢型土器と考えられる。口縁部には丁寧にロクロナデが行われ、体部中央にヘラケズリが施される。341・342は須恵器長頸壺である。341は頸部のみだが、下端部に盛り上がりの痕跡があることから、凸帯のある長頸壺と考えられる。342は胎土に細粒の混入物を含み、粗い印象を受ける。外面の片側と、頸部の内側に自然釉の降下が見られる。343～346は甕類である。343は平底甕で、胴部が張る。344～346は底部が欠落しているが、器厚や胎土、口縁の形から長胴丸底甕と考えられる。345・346の胴部下半にはタタキ調整が見られる。347の内面は平滑だが、外面はロクロメが目立つ。348の胎土は緻密で、焼成もよい。内面は平滑だが、外面はロクロメが目立ち、大きめの黒斑も見られる。349はやや厚めの器厚で、ロクロメがほとんど目立たない。350・351の胎土は緻密で、ほとんど混入物を含まない。外面の口唇部付近は横方向のミガキを施し、体部下半は横方向の回転ケズリを施す。内面の口唇部は横方向の、体部は縦方向のミガキを施し、黒色処理を行うなど、非常に丁寧なつくりである。351の方が口縁部に厚みを持つ。内面の黒色処理を施す坏は有台が多いことから、高台坏に分類した。352・353は同じような器形であるが、352は焼成不良で器面の一部に剥落が見られる。353は外面にゆるやかなロクロメがあり、内面の一部に還元色を呈する部分がある。354は外面の上半部は横方向のミガキを施し、下半部には横方向の回転ケズリを施す。内面の口唇部付近は横方向、体部は縦方向のミガキを施し、黒色処理を行う。底部は削り出し高台と思われ、高台内も回転ケズリ調整を行う。355は焼成不良で、器面の摩滅や剥落が著しい。356は上半部が欠損しておりロクロの使用に関しては判断がつかない。長胴平底甕と考えられる。底部は中央部が上げ底風になり、ドーナツ状に砂の付着痕（写真図版54）がある。外面は斜めのヘラケズリが施され、内面は接地面の広い工具での回転ナデ調整が施される。Ｔ・10グリッドからは板状土製品が出土している。（写真図版54）

Ｕ・Ｖグリッド（第51～52図）

358は脚付の鉢に分類した。胎土は大型品の割には混入物が少ない。ロクロ成形後に底部の立ち上がり部分に穴を穿孔し、脚を挿入している。内面ははみ出た脚の先端をなで付けたり、外面は周囲を削ったりして成形している。357の胎土は緻密で、外面のロクロメは目立たず、内面は平滑である。359は内外とも赤褐色を呈するが、残存部の約半分が二次焼成を受けたような痕跡があるため、そのために変色したとも考えられる。口縁部に厚みを持つ。360・363は器面の内外が平滑で、ゆるやかなロクロメがある。363はゆがみがある。361・362はロクロメが目立たず、器面の内外とも平滑である。器厚もやや厚めで均一である。361は器高が低く体部がやや外反し、362は体部がやや内湾気味に立ち上がる。364の外面はロクロメが目立つが、内面は平滑である。365は焼成不良で器面の剥落や摩滅が見られる。口縁部に厚みを持つ。366胎土にやや粗粒の混入物を含む。

Ｗ・Ｘ・Ｙ・Ｚグリッド（第52～53図）

367の胎土は緻密で混入物をほとんど含まない。外面の上半部は横方向のミガキを施し、下半部は横方向の削りを施す。底部は回転ケズリを施す。内面の口縁部付近は横方向、体部は縦方向のミガキを施し、黒色処理を行う。368は焼成不良で、器面の摩滅や剥落が見られる。369は胎土に粗粒の混入物を多く含む。体部下半にはタタキ調整を施す。焼成不良でない外面の器面の剥落や摩滅が見られる。370は柱状高台で、残存部の一端が内側に湾曲していることから、耳皿に分類した。371は胎土に粗粒の混入物を含む。体部はほぼ直線で、急角度で立ち上がる。372・373は器厚や器形から長胴丸底甕と考えられる。374は外面に間隔の狭いロクロメがあり、内面は平滑である。焼成不良で、器面内面の摩滅が目立つ。口縁に厚みを持つ。375は体部の外面下半部に横方向の回転ケズリを行う。内面は器面の剥落が著しく、調整等は不明である。底部は切り離し後に回転ケズリを行う。376は胎土にやや粗粒の混入物を多く含む。器厚や器形から平底甕と判断した。

ＡＡ・ＡＣグリッド（第53～54図）

377は焼成不良のため、内外面の器面に剥落や摩滅が見られる。口縁部に厚みを持つ。378の体部は直線的に立ち上がる。外面のロクロメはそれほど目立たず、内面は平滑である。焼成不良のため、外面の一部は剥落している。379の外面のロクロメはそれほど目立たず、内面は平滑である。焼成不良のため外面の一部は剥落している。口縁部付近の厚さが薄い。380の器厚はほぼ均一で、体部はほぼ直線状に立ち上がる。ロクロメは目立たない。

381は胎土にあまり混入物を含まない。比較的大きい坏だが、器厚が薄く、口縁部がやや外反し、厚みを持つ。382はやや小振りで、体部は湾曲気味に急角度で立ち上がる。焼成不良で器面の摩滅が著しい。383はやや大型で、381や387と同じようなつくりである。焼成不良で、器面の摩滅が著しい。384の胎土は緻密だが焼成むらがある。器面の一部が剥落している箇所がある。385の胎土は緻密だが、焼成不良のため器面に摩滅や剥落が見られる。比較的器厚が薄作りで、口縁付近が屈曲する。386は胎土が緻密で比較的焼成がよい。外面の一部に還元色を呈する箇所がある。387の胎土は緻密である。比較的大型であるが器厚は薄い。口縁がやや外反する。388は焼成不良のため、器面の摩滅が著しい。385ほどではないが口縁付近が屈曲する。389は焼成不良のため、器面の一部に摩滅や剥落が見られ、特に外面に著しい。

Ｘ・Ｏ（第54図）

Ｘ・Ｏ（出土地不明）の遺物に関しては、万治ヶ沢遺跡全体の土器組成や、万治ヶ沢遺跡の性格を考える際に、参考になると思われるものを選び資料化した。坏に関しては、器形的に特徴のあるものを抽出した。

390は体部の外面に煤状の付着物があり、口縁部に黒色の物質が付着している。391は体部がやや湾曲しながら立ち上がる。器厚が均一である。392は胎土にやや粗粒の石英を含む。ゆがみが大きい。393は胎土が緻密で口縁部の下が薄くなり、結果として口縁が厚みを持つ。394は底部が厚く、体部が薄い。器高が高く、口縁部に厚みを持つ。395は見込みに赤色の物質が付着している。396は皿に分類した。底径が大きく、体部が急角度で立ち上がる。397は高台付耳皿に分類した。胎土は比較的緻密である。口縁の一端が内碗し、比較的高い高台をつけている。398は坏に分類した。370と同じく柱状高台であることから、耳皿の可能性もある。399は坏で、底部は切り離し後に回転ヘラケズリ調整を行う。体部外面は横方向の回転ケズリを行い、内面はミガキ調整を行う。400は手捏ねのミニチュア土器に分類した。胎土はやや粗粒の混入物を含むが、固く焼き締まる。401は製塩土器である。胎土に粗粒の混入物を多く含むが、焼成が良く固く焼き締まる。輪積痕が見られるが、外面はケズリとナデが行われ、内面にはナデが行われる。402は平底甕の底部で、粗粒の混入物を多く含む。底部は静止糸切と考えられる。そのほか、１点だけであるが羽口が出土している。残存値は長さ7.0㎝。幅6.0㎝である。（写真図版54）被熱の痕跡が顕著で、先端部の胎土が溶け出し、ガラス化している。残存部は先端部と外面のほかに、内面の一部がわずかに残っている。鍛冶に関わる遺構が見つかっていないことから、精錬炉に関わる羽口と考えられる。

土 製 品（第55～56図）

403はＳＱ1001からの出土である。手で粘土を握ったような形をしている。胎土は土器に使われているものと同じである。用途は不明である。404の胎土は緻密で精製されている。焼成も良好である。縦方向に細かいケズリかナデのような調整が行われ、丁寧な作りである。先端部に縦方向の印刻が見られる。裏側に器面の剥落みられる。土師器の胎土と同じなので、時期は平安時代と考えられる。陽物と考えられる。405はＳＸ1022からの出土である。扁平で、中央部に半円の凹型があり、片方から棒を差し込んで出来たような粘土のめくれが見られる。用途不明である。土師器の胎土と同じなので、時期は平安時代と考えられる。406はＳＱ1018からの出土である。胎土は緻密で、焼成も良く、粘土の紐をＣ字型に曲げたような形をしている。用途不明である。土師器と同じ胎土なので、時期は平安時代と考えられる。

407～413は支脚と考えられるものである。407は砂粒を多く含むが、よく焼き締まる。中空で、棒状のものを軸に、粘土を巻きつけて成形したと考えられる。上部の内面は椀型で、中央部はナデ調整を行う。408は内面の剥落があるが、中実と考えられる。上部の内面は椀型でナデ調整を行う。下部は逆凹型になる。409・410は中空で、407と同じように、棒状のものを軸に粘土を巻きつけて成形したと考えられる。上部の内側はナデ調整を行う。411～413は中実で脚の部分は棒状のものを軸に、粘土をまきつけて成形したと考えられる。上部内側はナデ調整を行う。いずれも脚の部分が太く、上部が椀型になるなど、中空と中実の違いはあるが、外見上は斉一性が高い。Ｔ・10グリッドから、用途不明の板状土製品が出土している。砂粒を含むが焼成が良く、ヘラ状の工具による調整がある。残存値は縦9.2㎝・幅10.8㎝・厚さ2.8㎝である。

鉄　滓（第57図）

414～420の７点が出土した。形態上は全て碗型滓で、遺構に伴うものはなかった。直接製鉄や鍛冶に関わる遺

構は見つからなかったが、調査区内で木炭窯が見つかったことから、付近で製鉄が行われていた可能性を考え、精錬滓か鍛冶滓かを明らかにするために、形態や大きさから414・415・418の３点を選び、理化学分析を行った。

石 製 品（第58図）

421は砥石で、Ｓ・18グリッドより出土した。表裏と側面が良く使用されている。また報告書には掲載していないが、Ｔ・11グリッドからも同じような形態の砥石が１点出土している。

そのほか石製品ではないが、花崗岩の人頭大ほどの大きさの被熱した円礫や、被熱したために割れた礫が表土から複数見つかった。地山や、調査区南側の沢にはそのような大きさの礫は含まれないので、ほかから持ち込まれたと考えられる。また被熱していることから、熱を受けるような用いられ方が考えられるが、遺構に伴う出土状況ではなかったので、具体的な用いられ方は不明である。

4　縄文時代の遺構と遺物

遺　構

ＳＫ1057土坑（第19図）

Ｍ～Ｎ・15グリッドに位置し、平坦部の縁辺に位置する。全長は残存値で235㎝、幅58.0㎝、深さ53.0㎝を測る。遺物の出土はなかったが、立地場所や形態から、縄文時代の陥し穴と考えられる。

ＳＫ1058土坑（第19図）

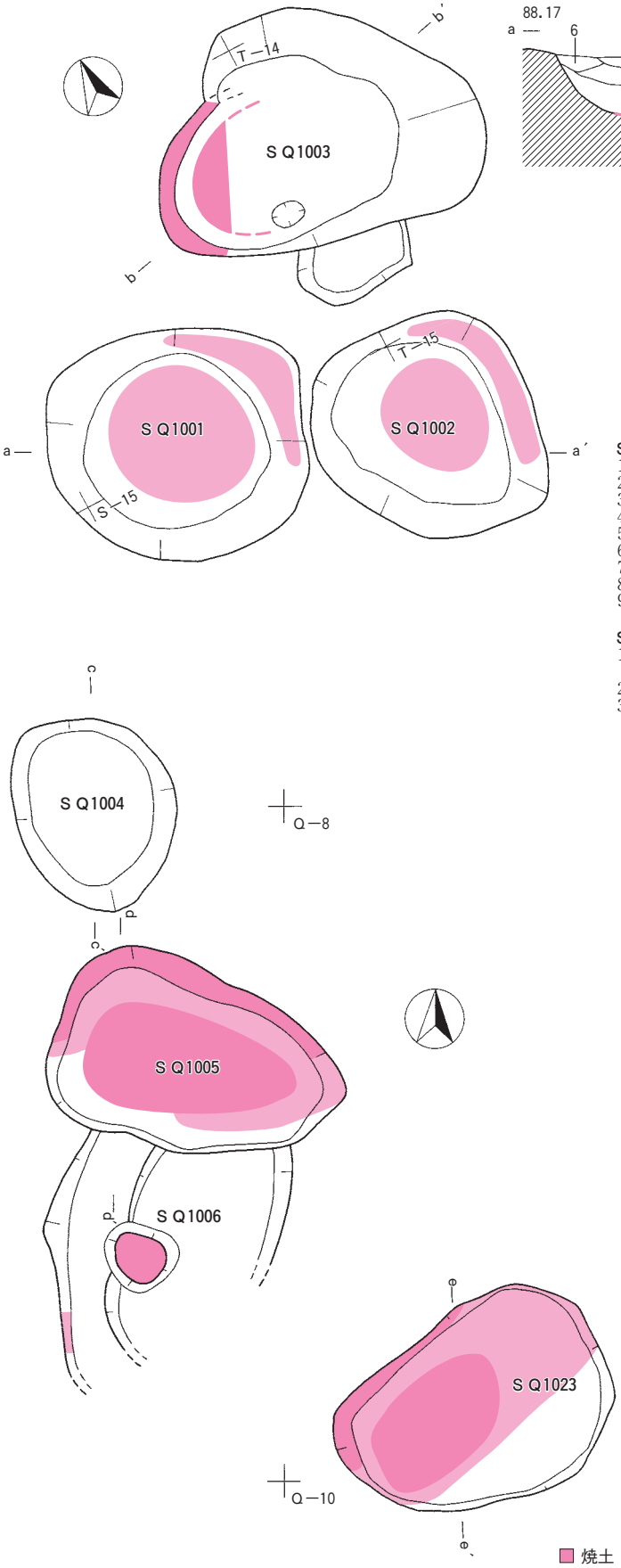
Ｋ～Ｌ・17～18グリッドに位置し、南に面した斜面に立地する。全長は残存値で200㎝、幅43.0㎝、深さ67.0㎝を測る。遺物の出土はなかった。ＳＫ1057と同じく、縄文時代の陥し穴と考えられる。

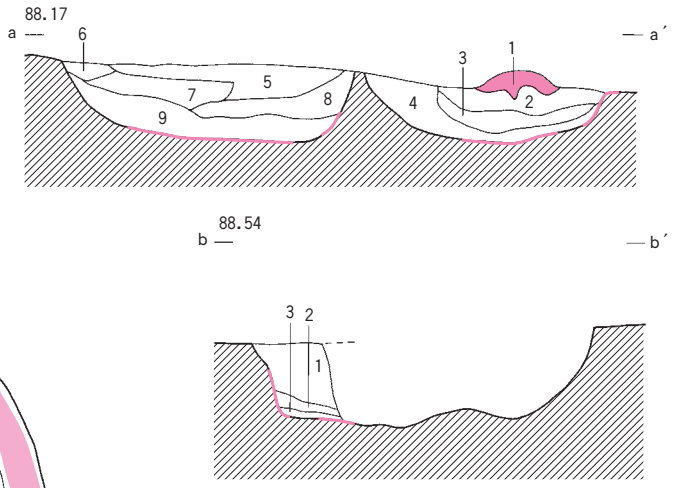
遺物　土器（第62図）

Ａ地点同様に、土器の遺存状態は悪い。485は深鉢の頸部である。ＲＬの地文に、横方向の隆線を貼り付ける。内面はミガキが施されている。486は壺の体部上半である。ＬＲの縄文の施文後に沈線で区画し、区画内を磨消している。487は深鉢の底部で、木目状の圧痕がある。胎土には砂粒や石英を多く含む。

遺物　石器（第58～59図）

422有茎の石鏃で、背面は中央付近まで押圧剥離が施され、腹面は中央部に主要剥離面が残る。423は透明度の高い黒曜石を素材としている凹基の無茎石鏃で、両面に押圧剥離が施される。424～426は石箆で、共に撥形である。424は全長の割に刃部が急角度なので、刃部が再生された可能性がある。425は撥形で、両面とも大きめの剥離が施される。両面に自然面を残していることから薄型の素材を用いている。426は背面と背面の右側面に自然面が残る。横長の厚みのある薄片を素材にしている。背面の右側辺に剥離面があることから、石核から剥離される以前に、打面をつくり出して素材の厚みを減らそうとしたか、自然面を剥離しようとしたと考えられる。437は削器で、腹面の両側片に急角度の剥離を施す。428は両面に節理面を持ち、両極剥離で出来た剥片と考えられる。なお、428は422と427同一母岩と考えられる流紋岩である。429～432は剥片である。429は本品の剥離時に垂直割れをおこしている。一部赤色化していることから、被熱していると考えられる。430は背面左側辺下部にガジリがある。431は背面左側辺に腹面側からの剥離がある。432は先端がヒンジ・フラクチャーになる。433は背面左側面に急角度の剥離を施す。434は背面右側辺に使用による刃こぼれがある。



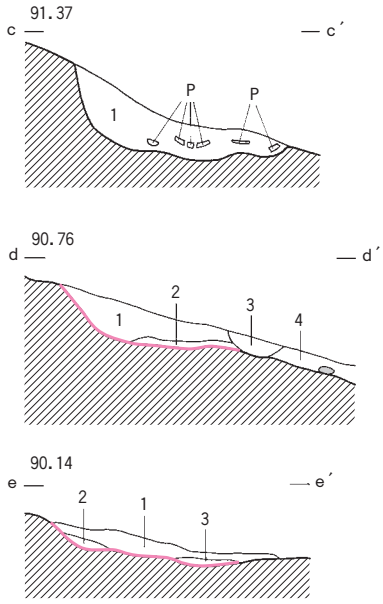


S Q1001・1002（a－a′）

1	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	焼土
2	7.5YR3/2	黒褐色シルト	焼土をわずかに含む
3	10YR3/2	黒褐色シルト	炭を大量に含む　土器片含む
4	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭を少量含む　土器片含む
5	7.5YR3/1	黒褐色シルト	大粒の木炭、一部に黄土色のシルトを含む　土器片含む
6	10YR4/2	灰黄褐色シルト	焼土・炭を少量含む
7	10YR3/2	黒褐色シルト	炭を大量に含み、焼土も含む　土器片含む
8	7.5YR4/2	灰褐色シルト	炭と焼土を少量含む
9	7.5YR3/4	暗褐色シルト	炭を少量含む　土器片含む

S Q1003（b－b′）

1	7.5YR3/3	暗褐色シルト	炭・焼土・小礫を少量含む 1層と同じレベルの壁面は被熱している
2	7.5YR4/3	褐色シルト	炭を大量に含み、小礫もごくわずかに含む
3	7.5YR2/1	黒色シルト	炭を大量に含み黒色を呈している　底面は被熱部分もある



S Q1004（c－c′）

1	7.5YR5/8	明褐色シルト	炭をわずかに含む　土器片含む

S Q1005（d－d′）

1	10YR3/4	暗褐色シルト	炭・小礫を少量含む　かたくしまっている
2	10YR3/2	黒褐色シルト	炭が密集しており、かたくしまっている　2層の直下に焼土が分布する
3	2.5YR3/2	暗赤褐色シルト	炭をわずかに含み、小礫も少量含む
4	7.5YR3/3	暗褐色シルト	小礫を含む　3層に比べやわらかい

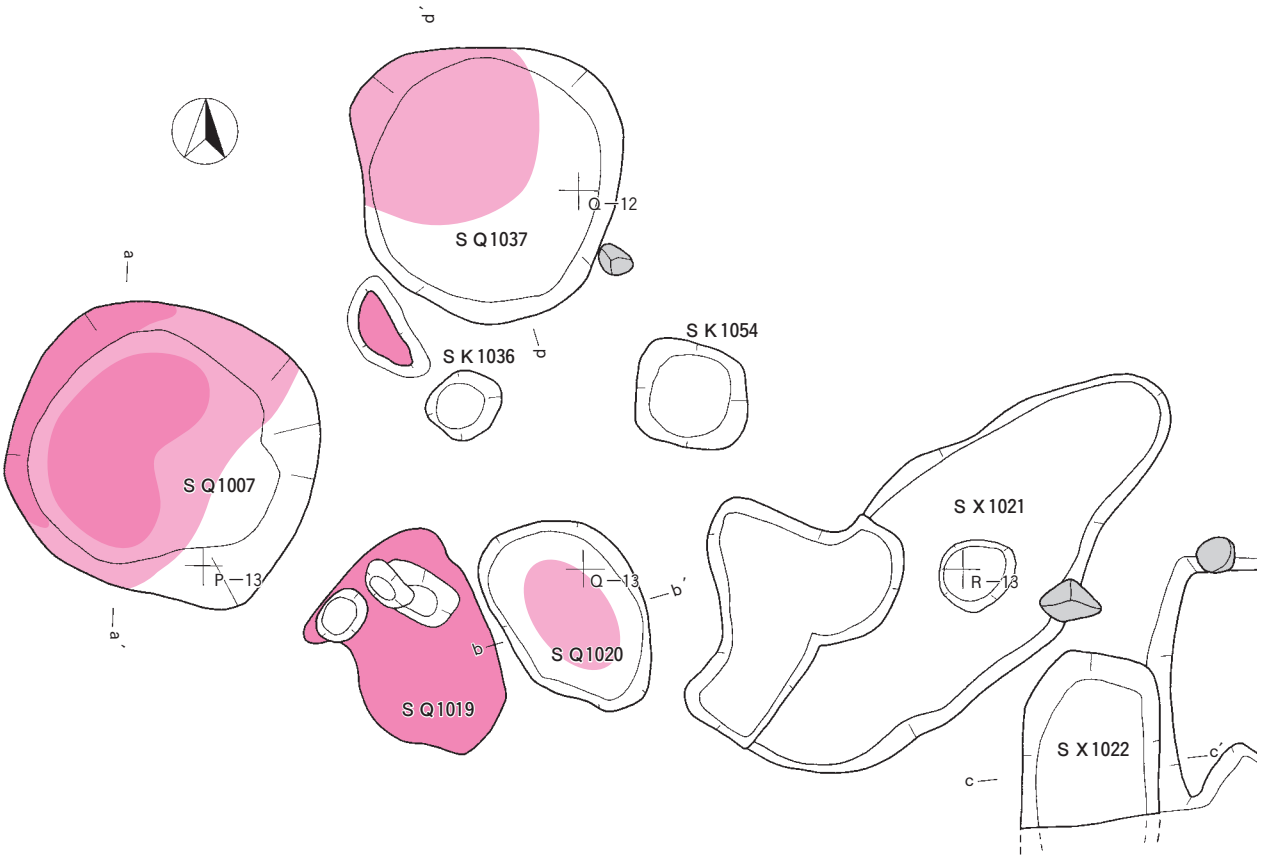
S Q1023（e－e′）

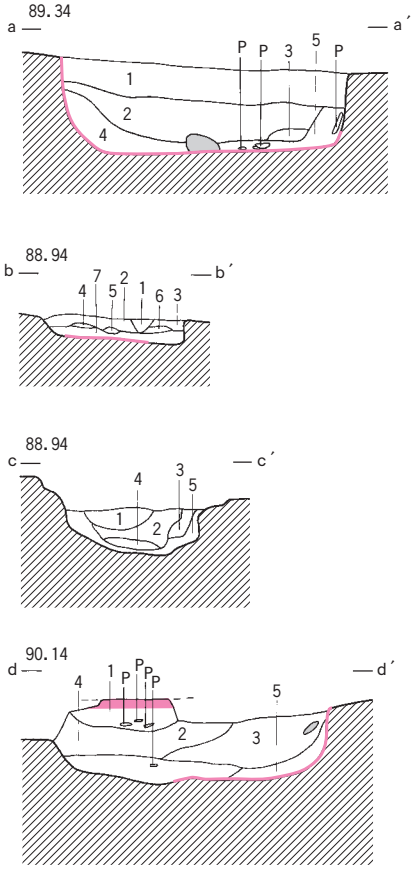
1	7.5YR4/3	褐色シルト	焼土を多く含み、炭も含む
2	10YR2/2	黒褐色シルト	炭を含み、焼土もわずかに含む
3	10YR3/3	暗褐色シルト	炭を多く含む　底面は被熱している

焼土　石

0　2m
（1：40）

第10図　S Q1001～1006・S Q1023窯跡実測図





S Q1007（a－a´）

1	7.5YR4/3	褐色シルト	炭・礫を少量含む
2	7.5YR3/3	暗褐色シルト	炭を少量含み、礫も含む
3	5YR3/2	暗赤褐色シルト	焼土の層である　少量の炭と焼土ブロックにより構成される
4	10YR3/3	暗褐色シルト	炭・焼土を少量含む　赤味を帯びる
5	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭を少量含む　土器片含む

S Q1020（b－b´）

1	5YR3/2	暗赤褐色シルト	焼土を含む　灰白色の灰をわずかに含む(火山灰か？)
2	7.5YR3/3	暗褐色シルト	炭・焼土を少量含む
3	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭・焼土を少量含む
4	7.5YR3/1	黒褐色シルト	炭・焼土を多く含む　かたくしまりがある
5	5YR3/1	黒褐色シルト	炭が主体で、焼土もわずかに含む
6	5YR3/3	暗褐色シルト	焼土が主体で炭も含む
7	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭・小礫をわずかに含む　灰白色の灰をわずかに含む(火山灰か？)

S X1022（c－c´）

1	7.5YR3/3	暗褐色シルト	炭を含み、灰白色の灰をわずかに含む(火山灰か？)
2	5YR3/2	暗赤褐色シルト	焼土を多く含み、炭も少量含む
3	7.5YR1.7/1	黒色シルト	焼土を多く含み、炭をわずかに含む
4	7.5YR3/4	暗褐色シルト	焼土を多く含み、炭を少量含む
5	5YR2/2	黒褐色シルト	炭・焼土を少量含む

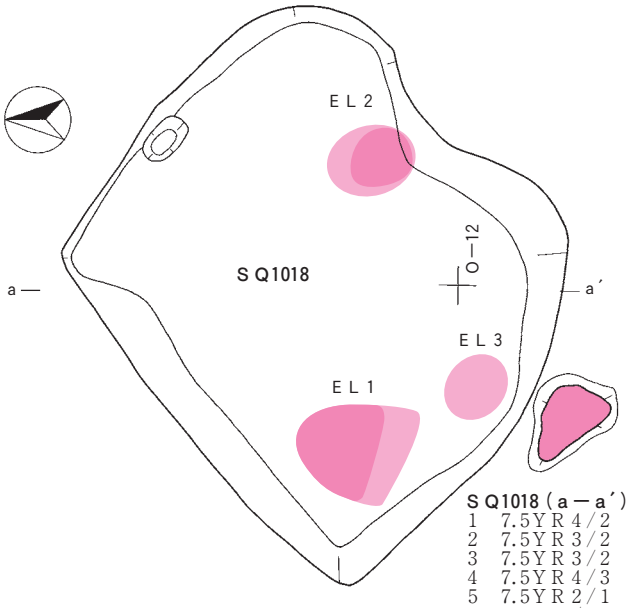
S Q1037（d－d´）

1	2.5YR3/6	暗赤褐色シルト	炭を少量含み、表面は被熱して焼土化し、硬化している 土器を多く含む
2	5YR4/2	灰褐色シルト	炭・礫をわずかに含む
3	10YR4/2	灰黄褐色シルト	炭・礫をわずかに含む
4	7.5YR4/2	灰褐色シルト	炭を含み、礫もわずかに含む　土器片含む
5	10YR3/2	黒褐色粘土	炭を含む

焼土　石

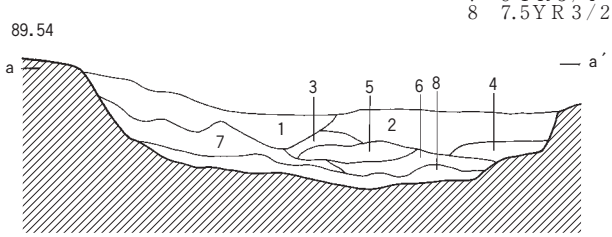
0　2m
（1：40）

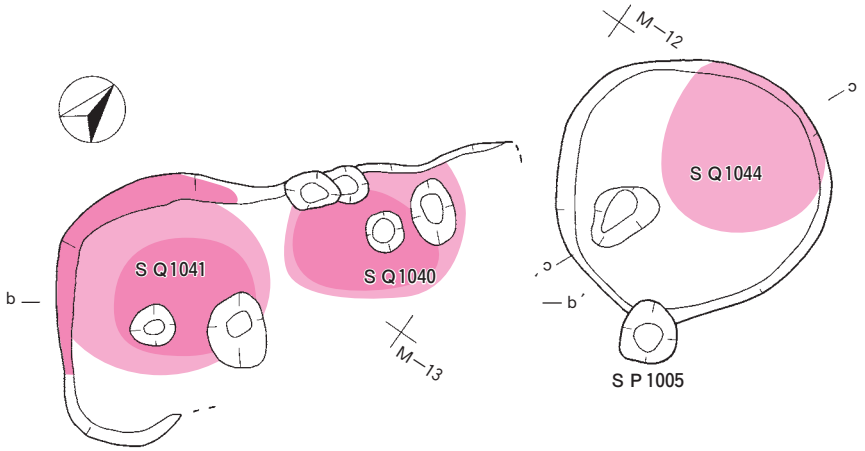
第11図　S Q1007・1019～1020・1037窯跡、S X1021～1022性格不明遺構、S K1036・1054土坑実測図

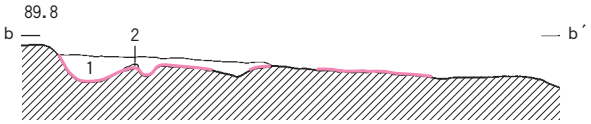


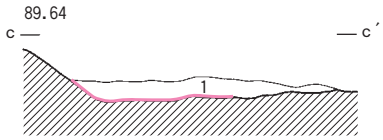
ＳＱ1018（ａ－ａ′）

1	7.5ＹＲ４/２	灰褐色シルト	炭・小礫を少量含み、かたくしまりがある
2	7.5ＹＲ３/２	黒褐色シルト	１層より多くの炭を含み、粒状の焼土も少量含む
3	7.5ＹＲ３/２	黒褐色シルト	大きめの炭を多く含み、焼土もわずかに含む
4	7.5ＹＲ４/３	褐色シルト	焼土を多く含み、大きめの炭も少量含む　灰白色の灰を含む（火山灰か？）
5	7.5ＹＲ２/１	黒色シルト	炭を大量に含み、焼土も少量含む
6	５ＹＲ４/３	にぶい赤褐色シルト	炭・焼土を多く含む
7	５ＹＲ３/４	暗赤褐色シルト	炭を少量含む　小礫・焼土も含むが１層より多い
8	7.5ＹＲ３/２	黒褐色シルト	炭・焼土で構成され、一部の箇所で底面が硬化している









ＳＱ1041・1040（ｂ－ｂ′）

1	7.5ＹＲ３/３	暗褐色シルト	炭をわずかに含み、２層のような粘性の高い土をブロック状に含む
2	５ＹＲ４/４	にぶい赤褐色シルト	炭・焼土を含み、粘性が高い

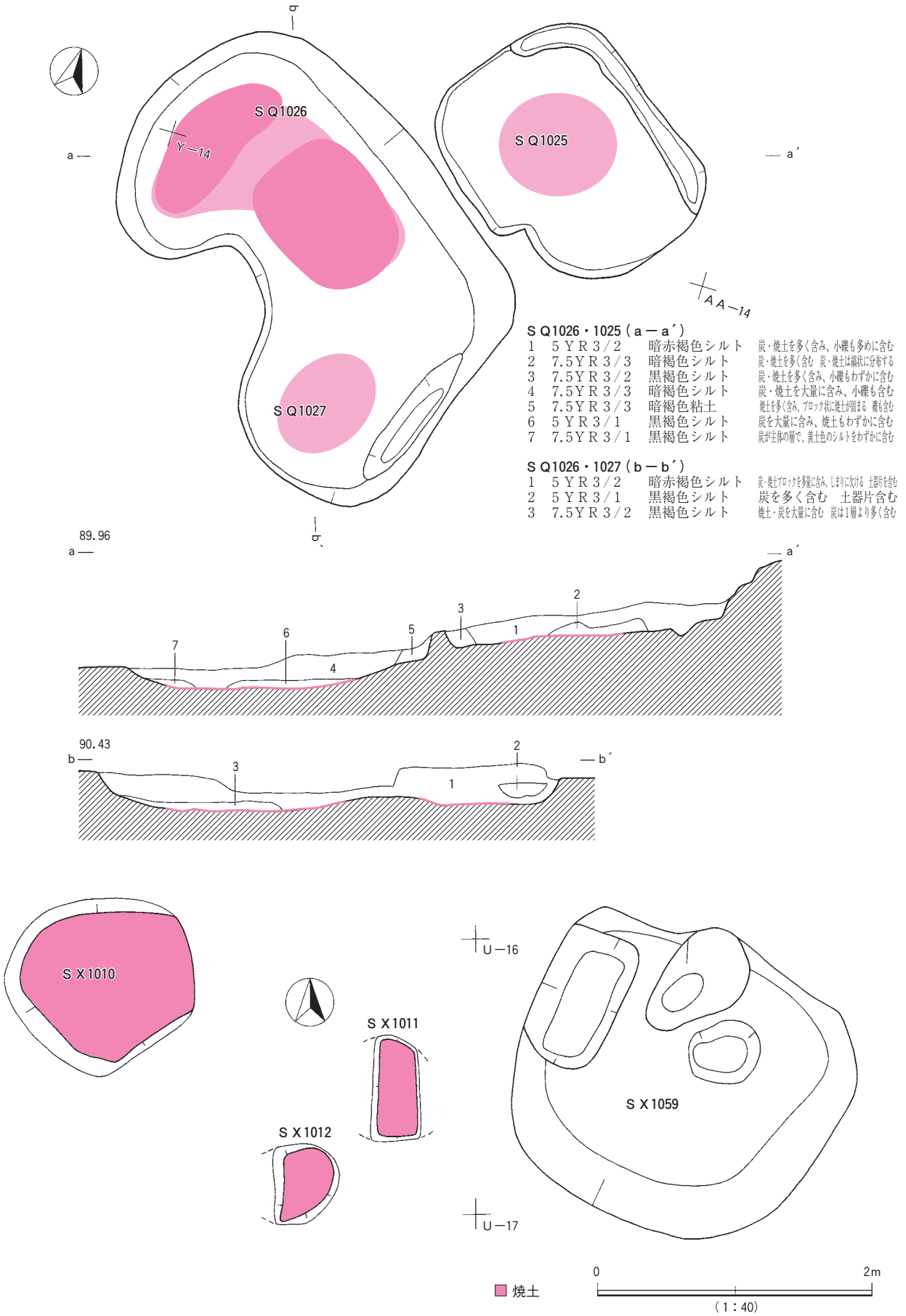
ＳＱ1044（ｃ－ｃ′）

1	10ＹＲ３/４	暗褐色シルト	炭・焼土を含み、礫も少量含む

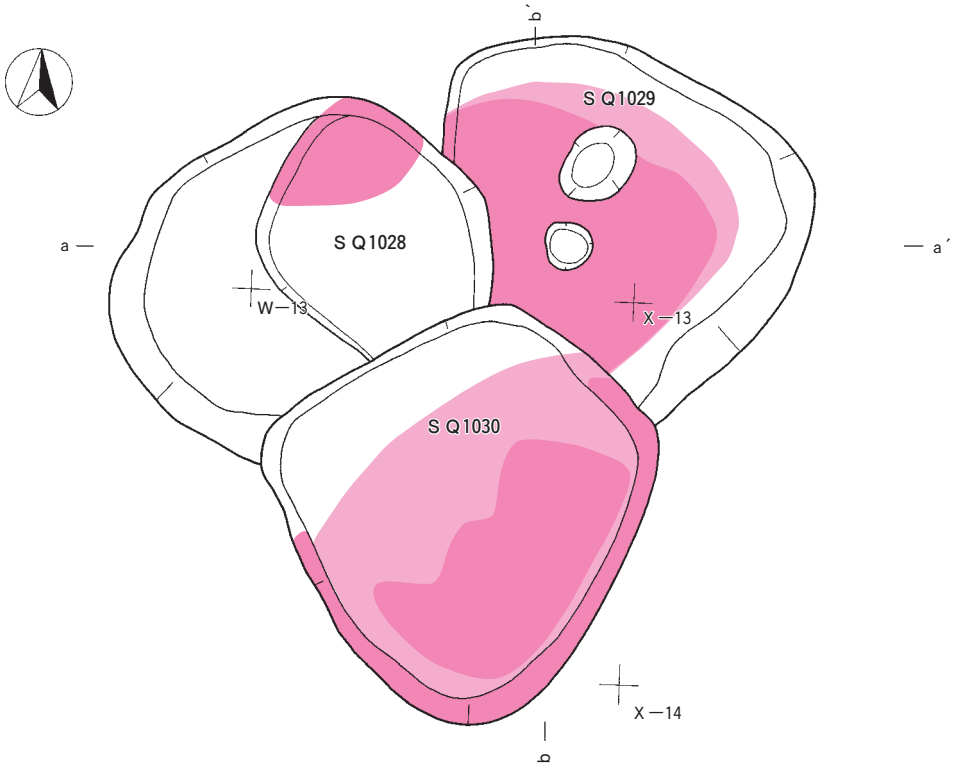
■ 焼土

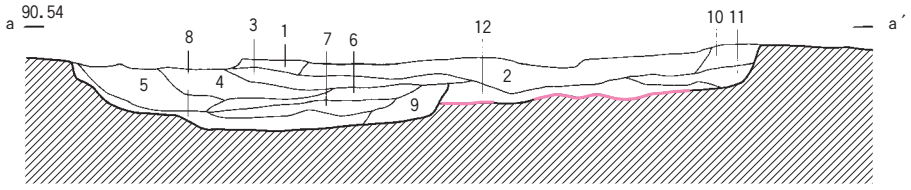
0　　2m
（1：40）

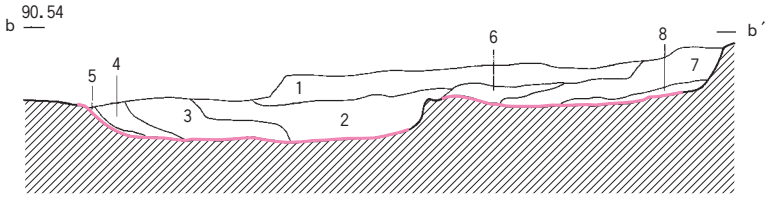
第12図　ＳＱ1018・1040～1041・1044窯跡、ＳＰ1055ピット実測図



第13図　S Q1025～1027窯跡、S X1010～1012・1059性格不明遺構実測図







S Q1028・1029（a－a´）

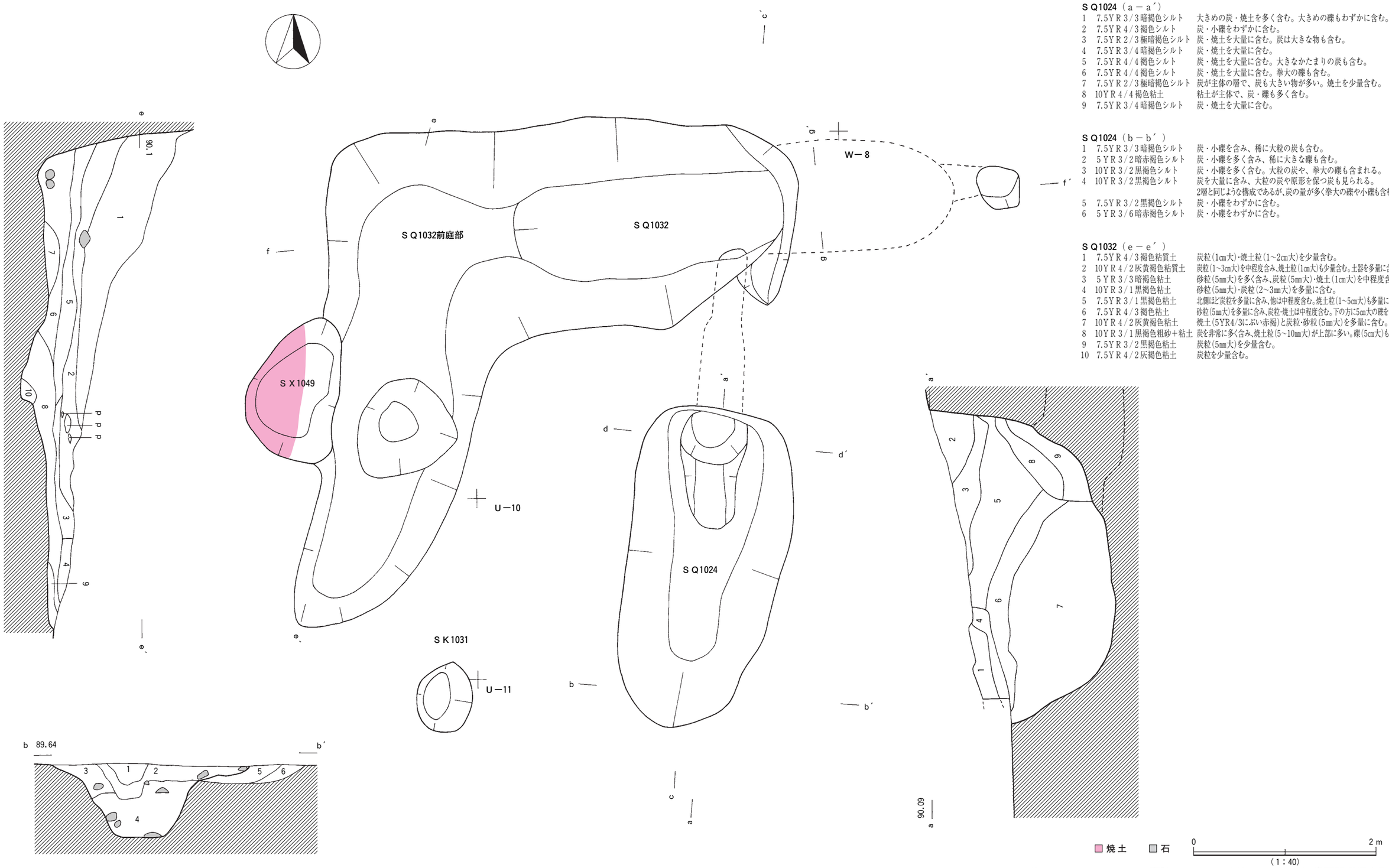
1	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭・焼土を少量含む
2	7.5YR3/2	黒褐色シルト	炭・焼土をわずかに含む
3	7.5YR3/4	暗褐色シルト	炭・焼土を少量含む
4	10YR2/3	黒褐色シルト	炭・焼土を多く含み、黄土色のシルトもブロック状に含む
5	5YR3/2	暗赤褐色シルト	焼土・炭を多く含み、黄土色のシルトもブロック状に含む 含まれる炭は4層より大きい物が多い
6	7.5YR3/1	黒褐色シルト	炭が主体の層で、粘土を少量含む
7	10YR2/3	黒褐色シルト	炭・焼土を多く含み、黄土色のシルトも含む
8	10YR3/3	暗褐色シルト	炭・焼土を少量含む
9	7.5YR3/4	暗褐色シルト	炭をわずかに含む
10	10YR3/4	暗褐色シルト	焼土を多く含み、炭も少量含む
11	10YR3/3	暗褐色シルト	炭・焼土・小礫をわずかに含む
12	7.5YR2/2	黒褐色シルト	炭が主体の層で、焼土もわずかに含む

S Q1030・1029（b－b´）

1	7.5YR2/2	黒褐色シルト	炭を多く含み、焼土もわずかに含む　土器片含む
2	10YR3/4	暗褐色シルト	炭を多く含み、焼土もわずかに含む　小土器片含む
3	10YR2/3	黒褐色シルト	炭・焼土をわずかに含み、礫も含む
4	10YR4/4	褐色シルト	炭が主体の層で、焼土をわずかに含む　小土器片含む
5	7.5YR3/3	暗褐色シルト	焼土を多く含み、炭も少量含む
6	7.5YR1.7/1	黒色シルト	炭を多く含み、焼土もわずかに含む
7	7.5YR3/2	黒褐色シルト	6層より焼土を多く含み、炭をわずかに含む
8	7.5YR1.7/1	黒色シルト	炭が主体の層で、焼土もわずかに含む

■ 焼土　0　2m（1：40）

第14図　S Q1028～1030窯跡実測図



S Q1024（a－a′）

1	7.5YR 3/3暗褐色シルト	大きめの炭・焼土を多く含む。大きめの礫もわずかに含む。
2	7.5YR 4/3褐色シルト	炭・小礫をわずかに含む。
3	7.5YR 2/3極暗褐色シルト	炭・焼土を大量に含む。炭は大きな物も含む。
4	7.5YR 3/4暗褐色シルト	炭・焼土を大量に含む。
5	7.5YR 4/4褐色シルト	炭・焼土を大量に含む。大きなかたまりの炭も含む。
6	7.5YR 4/4褐色シルト	炭・焼土を大量に含む。拳大の礫も含む。
7	7.5YR 2/3極暗褐色シルト	炭が主体の層で、炭も大きい物が多い。焼土を少量含む。
8	10YR 4/4褐色粘土	粘土が主体で、炭・礫も多く含む。
9	7.5YR 3/4暗褐色シルト	炭・焼土を大量に含む。

S Q1024（b－b′）

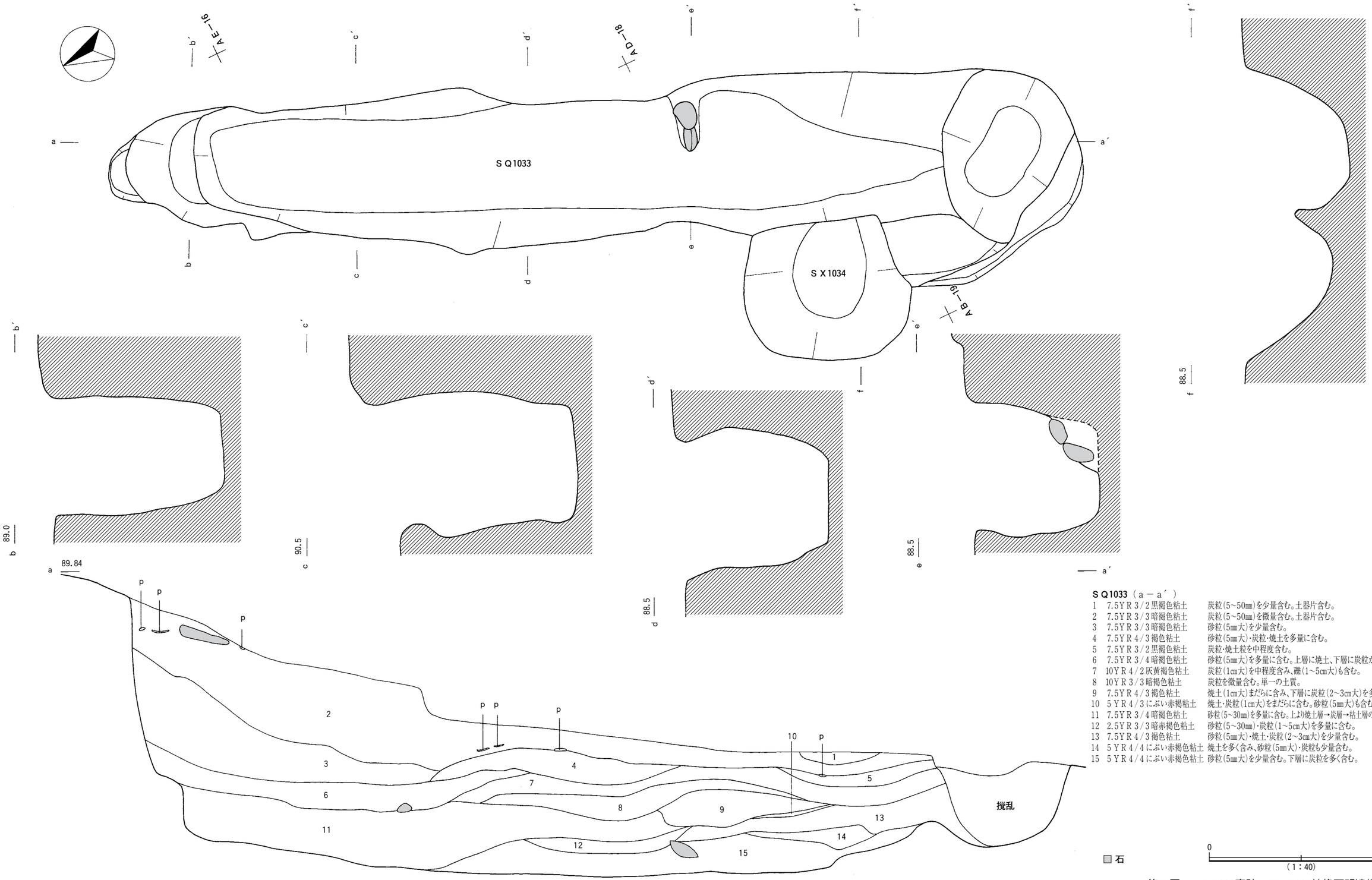
1	7.5YR 3/3暗褐色シルト	炭・小礫を含み、稀に大粒の炭も含む。
2	5YR 3/2暗赤褐色シルト	炭・小礫を多く含み、稀に大きな礫も含む。
3	10YR 3/2黒褐色シルト	炭・小礫を多く含む。大粒の炭や、拳大の礫も含まれる。
4	10YR 3/2黒褐色シルト	炭を大量に含み、大粒の炭や原形を保つ炭も見られる。 2層と同じような構成であるが、炭の量が多く拳大の礫や小礫も含む。
5	7.5YR 3/2黒褐色シルト	炭・小礫をわずかに含む。
6	5YR 3/6暗赤褐色シルト	炭・小礫をわずかに含む。

S Q1032（e－e′）

1	7.5YR 4/3褐色粘質土	炭粒(1㎝大)・焼土粒(1～2㎝大)を少量含む。
2	10YR 4/2灰黄褐色粘質土	炭粒(1～3㎝大)を中程度含み、焼土粒(1㎝大)も少量含む。土器を多量に含む。
3	5YR 3/3暗褐色粘土	砂粒(5㎜大)を多く含み、炭粒(5㎜大)・焼土(1㎝大)を中程度含む。
4	10YR 3/1黒褐色粘土	砂粒(5㎜大)・炭粒(2～3㎜大)を多量に含む。
5	7.5YR 3/1黒褐色粘土	北側ほど炭粒を多量に含み、他は中程度含む。焼土粒(1～5㎝大)も多量に含む。
6	7.5YR 4/3褐色粘土	砂粒(5㎜大)を多量に含み、炭粒・焼土は中程度含む。下の方に5㎝大の礫を含む。
7	10YR 4/2灰黄褐色粘土	焼土(5YR4/3にぶい赤褐)と炭粒・砂粒(5㎜大)を多量に含む。
8	10YR 3/1黒褐色粗砂＋粘土	炭を非常に多く含み、焼土粒(5～10㎜大)が上部に多い。礫(5㎝大)も含む。
9	7.5YR 3/2黒褐色粘土	炭粒(5㎜大)を少量含む。
10	7.5YR 4/2灰褐色粘土	炭粒を少量含む。

第15図　S Q1024・1032窯跡、S K1031土坑、S X1049性格不明遺構実測図

第16図　ＳＱ1024・1032窯跡実測図

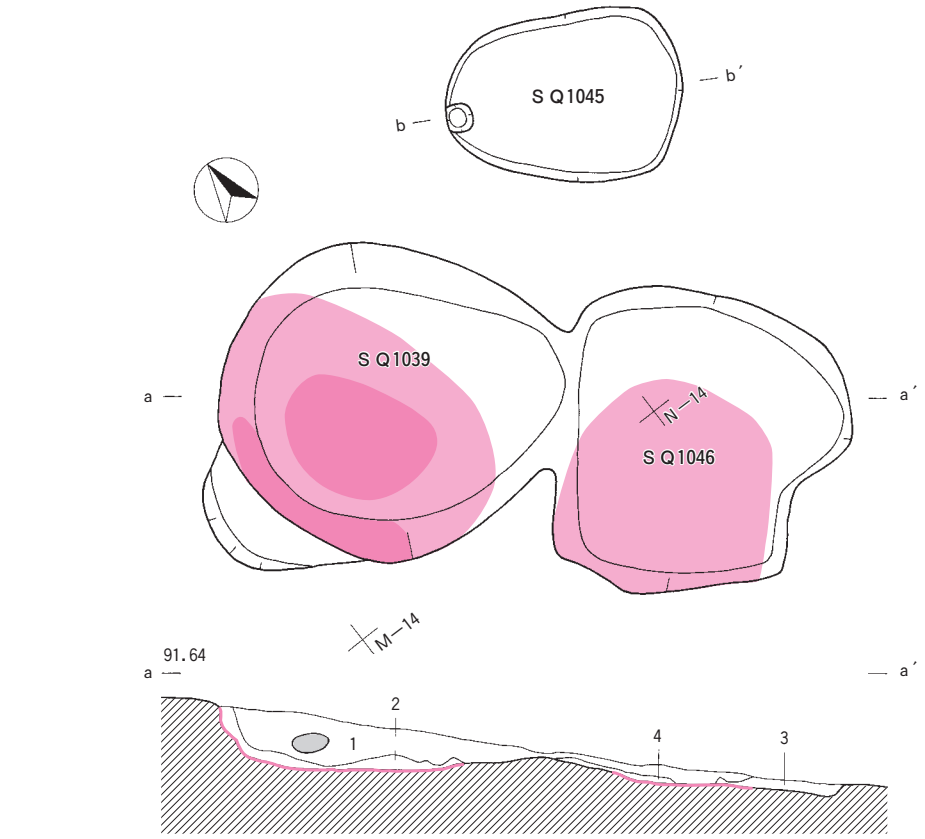


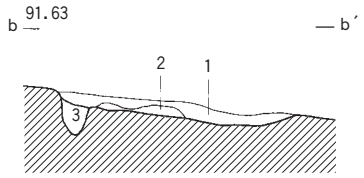
ＳＱ1033（ａ－ａ´）

1	7.5ＹＲ３/２黒褐色粘土	炭粒(5～50㎜)を少量含む。土器片含む。
2	7.5ＹＲ３/３暗褐色粘土	炭粒(5～50㎜)を微量含む。土器片含む。
3	7.5ＹＲ３/３暗褐色粘土	砂粒(5㎜大)を少量含む。
4	7.5ＹＲ４/３褐色粘土	砂粒(5㎜大)･炭粒･焼土を多量に含む。
5	7.5ＹＲ３/２黒褐色粘土	炭粒･焼土粒を中程度含む。
6	7.5ＹＲ３/４暗褐色粘土	砂粒(5㎜大)を多量に含む。上層に焼土、下層に炭粒が多い。
7	10ＹＲ４/２灰黄褐色粘土	炭粒(1㎝大)を中程度含み、礫(1～5㎝大)も含む。
8	10ＹＲ３/３暗褐色粘土	炭粒を微量含む。単一の土質。
9	7.5ＹＲ４/３褐色粘土	焼土(1㎝大)まだらに含み、下層に炭粒(2～3㎝大)を多量に含む。
10	５ＹＲ４/３にぶい赤褐粘土	焼土･炭粒(1㎝大)をまだらに含む。砂粒(5㎜大)も含む。
11	7.5ＹＲ３/４暗褐色粘土	砂粒(5～30㎜)を多量に含む。上より焼土層→炭層→粘土層の順に堆積する。
12	2.5ＹＲ３/３暗赤褐色粘土	砂粒(5～30㎜)･炭粒(1～5㎝大)を多量に含む。
13	7.5ＹＲ４/３褐色粘土	砂粒(5㎜大)･焼土･炭粒(2～3㎝大)を少量含む。
14	５ＹＲ４/４にぶい赤褐色粘土	焼土を多く含み、砂粒(5㎜大)･炭粒も少量含む。
15	５ＹＲ４/４にぶい赤褐色粘土	砂粒(5㎜大)を少量含む。下層に炭粒を多く含む。

□ 石

第17図　ＳＱ1033窯跡、ＳＸ1034性格不明遺構実測図



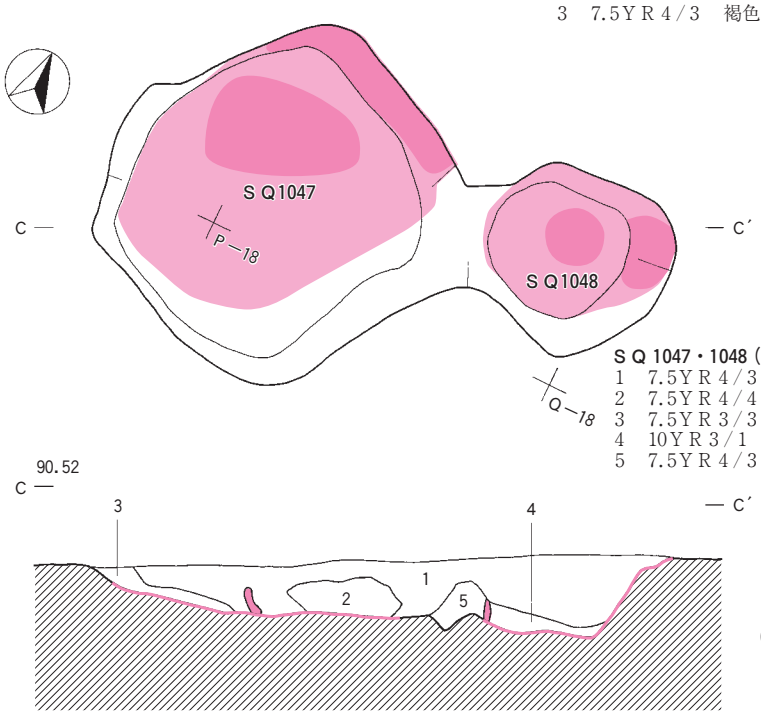


S Q 1039・1046（a－a′）

1	7.5Y R 3／2	黒褐色シルト	炭・焼土・小礫をわずかに含む　S Q1046の範囲で焼土が認められた
2	5Y R 3／2	暗赤褐色粘土	炭をわずかに含み、底部では焼土がみられる
3	7.5Y R 3／2	黒褐色シルト	炭をわずかに含む
4	5Y R 3／2	暗赤褐色粘土	炭・焼土をわずかに含む

S Q 1045（b－b′）

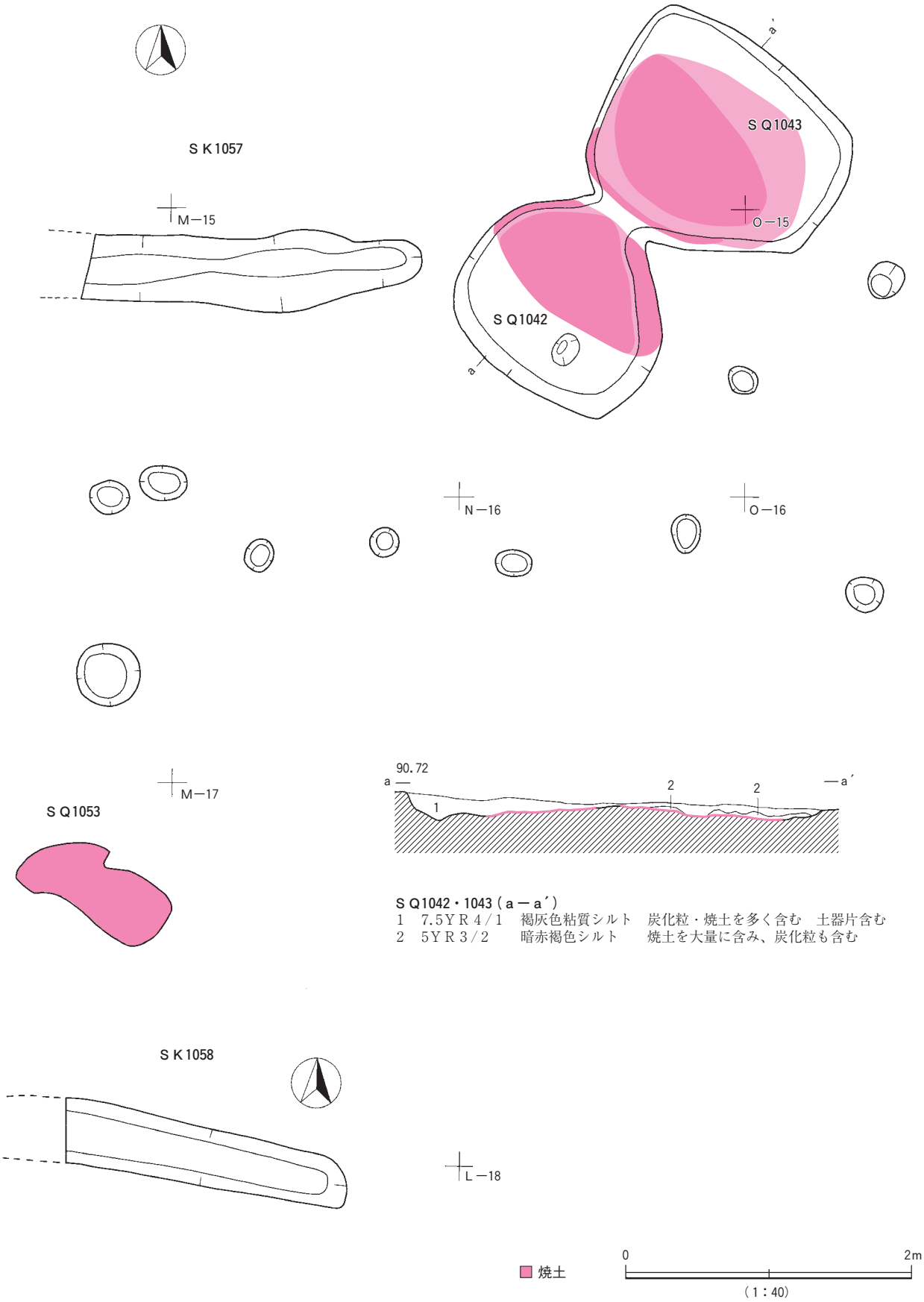
1	7.5Y R 3／2	黒褐色シルト	炭をわずかに含む
2	7.5Y R 4／3	褐色粘土	小礫をわずかに含む
3	7.5Y R 4／3	褐色粘土	小礫をわずかに含む



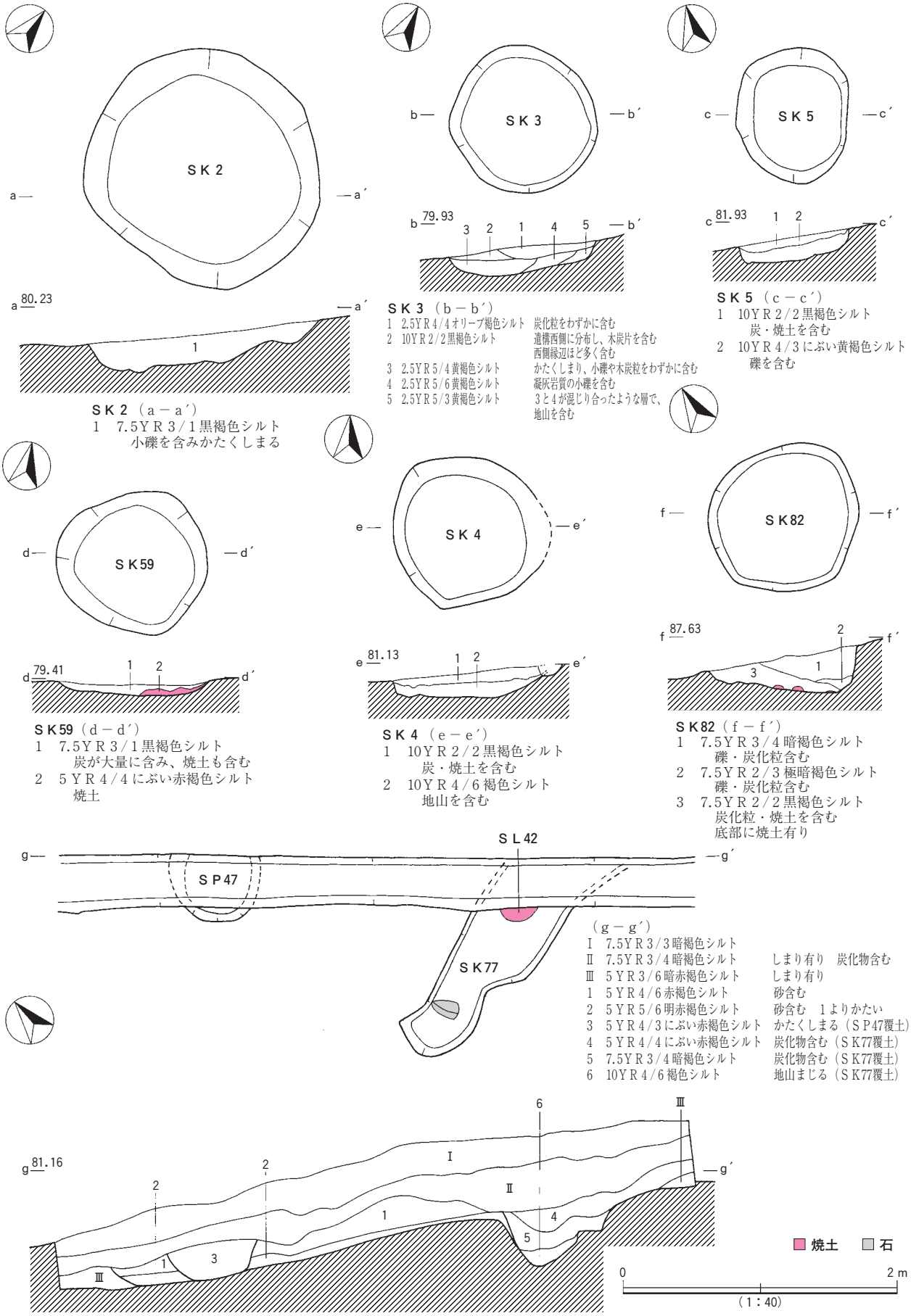
S Q 1047・1048（c－c′）

1	7.5Y R 4／3	褐色シルト	炭と焼土を微量含み、灰白色の灰（火山灰？）を含む　土器片含む
2	7.5Y R 4／4	褐色シルト	炭化粒・焼土ブロック・灰白色の灰（火山灰？）を少量含む　土器片含む
3	7.5Y R 3／3	暗褐色シルト	炭・焼土ブロックを少量含む
4	10Y R 3／1	黒褐色シルト	炭を多く含み、焼土も少量含む
5	7.5Y R 4／3	褐色シルト	炭化粒・少礫を微量含む

第18図　S Q1039・1045～1048窯跡実測図



第19図　S Q 1042～1043・1053窯跡、S K 1057～1058土坑実測図



SK2（a－a′）
1　7.5YR3/1黒褐色シルト
　小礫を含みかたくしまる

SK3（b－b′）

1	2.5YR4/4オリーブ褐色シルト	炭化粒をわずかに含む
2	10YR2/2黒褐色シルト	遺構西側に分布し、木炭片を含む 西側縁辺ほど多く含む
3	2.5YR5/4黄褐色シルト	かたくしまり、小礫や木炭粒をわずかに含む
4	2.5YR5/6黄褐色シルト	凝灰岩質の小礫を含む
5	2.5YR5/3黄褐色シルト	3と4が混じり合ったような層で、 地山を含む

SK5（c－c′）
1　10YR2/2黒褐色シルト
　炭・焼土を含む
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
　礫を含む

SK59（d－d′）
1　7.5YR3/1黒褐色シルト
　炭が大量に含み、焼土も含む
2　5YR4/4にぶい赤褐色シルト
　焼土

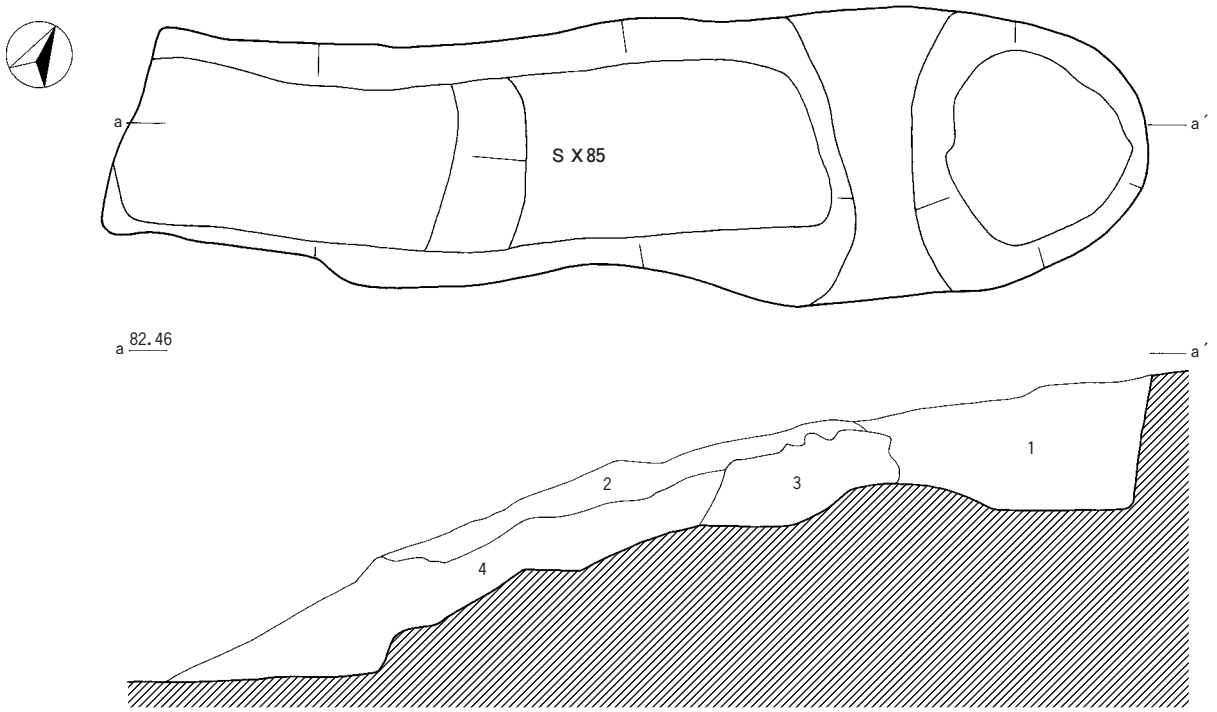
SK4（e－e′）
1　10YR2/2黒褐色シルト
　炭・焼土を含む
2　10YR4/6褐色シルト
　地山を含む

SK82（f－f′）
1　7.5YR3/4暗褐色シルト
　礫・炭化粒含む
2　7.5YR2/3極暗褐色シルト
　礫・炭化粒含む
3　7.5YR2/2黒褐色シルト
　炭化粒・焼土を含む
　底部に焼土有り

（g－g′）

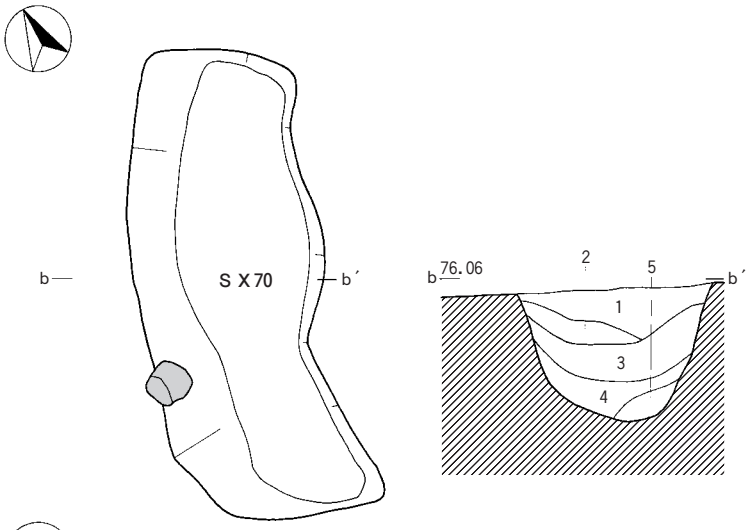
Ⅰ	7.5YR3/3暗褐色シルト	
Ⅱ	7.5YR3/4暗褐色シルト	しまり有り　炭化物含む
Ⅲ	5YR3/6暗赤褐色シルト	しまり有り
1	5YR4/6赤褐色シルト	砂含む
2	5YR5/6明赤褐色シルト	砂含む　1よりかたい
3	5YR4/3にぶい赤褐色シルト	かたくしまる（SP47覆土）
4	5YR4/4にぶい赤褐色シルト	炭化物含む（SK77覆土）
5	7.5YR3/4暗褐色シルト	炭化物含む（SK77覆土）
6	10YR4/6褐色シルト	地山まじる（SK77覆土）

第20図　SK2～5・59・77・82土坑、SL42炉跡、SP47ピット実測図



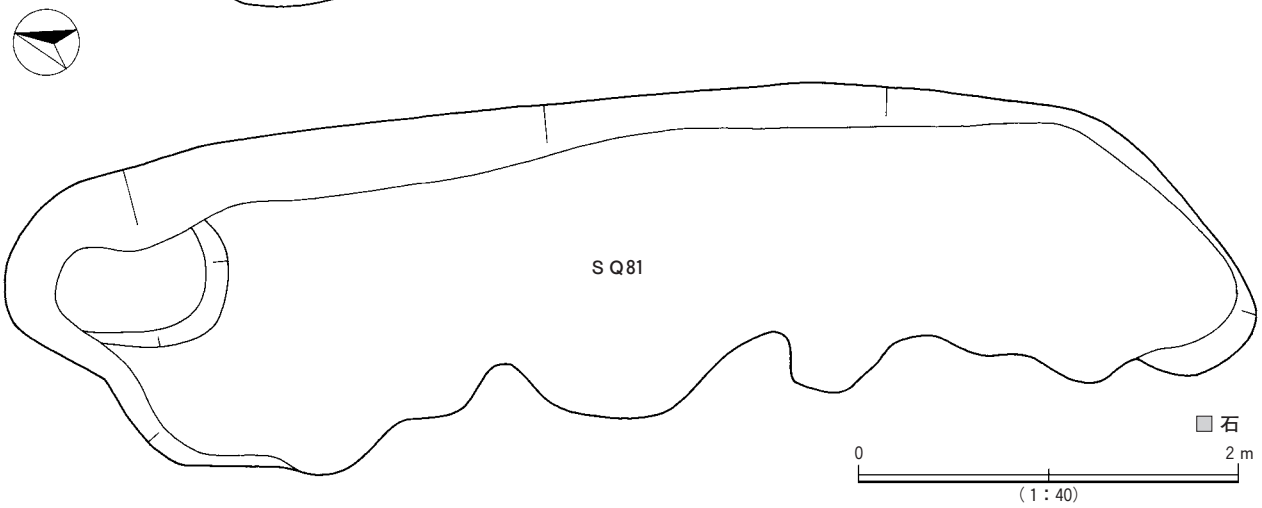
S X85（a－a′）

1	5ＹＲ3/4暗赤褐色シルト	礫を含む
2	7.5ＹＲ5/3にぶい褐色シルト	礫を多く含む
3	7.5ＹＲ3/3暗褐色礫	礫が主体の層
4	7.5ＹＲ5/4にぶい褐色シルト	礫を含む



S X70（b－b′）

1	7.5ＹＲ3/4暗褐色シルト	礫を含む
2	7.5ＹＲ4/3褐色シルト	1よりかたくしまる 礫を含む
3	10ＹＲ5/3にぶい黄褐色シルト	僅かだが炭化粒を含む
4	10ＹＲ5/2灰黄褐色シルト	3より多くの炭化粒を含む
5	10ＹＲ4/4褐色シルト	かたくしまる



第21図　S X70・85性格不明遺構、S Q81窯跡実測図

第22図　ＳＸ83性格不明遺構実測図

表４　遺物観察表（１）　平安時代・土器

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
23	1	SQ1001	土師器	小型平底甕	V		76		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・白色粒多	SQ1001・S15(1)
23	2	SQ1001	土師器	長胴甕	V2？			(31)	ロクロ	ロクロ		良	内・5YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SQ1001・S15(1)
23	3	SQ1002	土師器	坏	I1		46.5		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4外7.5YR・8/6	砂粒少・白色粒少	SQ1002・T15(1)
23	4	SQ1002	土師器	長胴甕	V2				ロクロ	ロクロ		良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・透明多・茶色粒少	SQ1002・T15(1)
23	5	SQ1002	須恵器	壺					ロクロ	ロクロ		良	内・5Y・6/2・外・5Y・6/1	石英多・白色粒少	SQ1002(2)+T11(1)
23	6	SQ1004	土師器	坏	I1e	(110)	60	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1004・P7(4)
23	7	SQ1004	土師器	坏	I1c	(131)	56	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1004・P7(8)
23	8	SQ1004	土師器	坏	I1a	118	54	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1004・P7(6)+SQ1004・P8(1)
23	9	SQ1005	土師器	坏	I1				ロクロ	ロクロ		良	内・10YR・8/4・外・同じ	黒色粒少・石粒少	SQ1005・P8(1)
23	10	SQ1005	土師器	坏	I1		56		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	白色粒少・茶色粒少	SQ1005・P8(2)
23	11	SQ1005	土師器	塊	VI				カキメ？	カキメ		不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1005・P8(1)
23	12	SQ1006	土師器	坏	I1a	(114)	55	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	石英少・黒色粒少・白色粒少・茶色粒少	SQ1006・P9(5)
23	13	SQ1007	土師器	坏	I1b	(152.5)	56	66.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1007・F(4)
23	14	SQ1007	土師器	坏	I1a	123	55	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・白色粒少	SQ1007・F(5)
23	15	SQ1007	土師器	脚付鉢	IV7				ケズリ	ハケメ		不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・7/8	砂粒多・石英少・長石少	SQ1007・F(3)
24	16	SQ1007	土師器	坏	I1	(140)			ロクロ	ロクロ		不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1007・F(4)
24	17	SQ1007	土師器	坏	I1a	(116)	(52)	52.9	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外10YR・4/1	砂粒少・石英少・長石少	SQ1007・F(4)
24	18	SQ1018	土師器	坏	I1a	(128)	(54)	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/3・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1018・F(3)
24	19	SQ1018	土師器	坏	I7	(146)			ロクロ・ミガキ	ロクロ・ミガキ			内・7.5YR・6/6・外・同じ	砂粒少	SQ1018・N11(8)
24	20	SQ1018	土師器	坏	I1f	(136)	(62)	(74.5)	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・2.5YR・外・2.5YR・7/4	砂粒少・石英少・長石少	SQ1018・N11(2)+SQ1018(2)+N11(3)+O11(5)
24	21	SQ1018	土師器	小型平底甕	V5				ロクロ	ロクロ	不明	良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1018・N11(2)+SQ1018(1)+N11(2)+XO(1)
24	22	SQ1018	土師器	小型平底甕	V3	135	87	124.5	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5YR・7/6・外・5YR・7/8	砂粒多・石英多・黒色粒多・白色粒多・赤色粒多	SQ1018・F(7)
24	23	SQ1018	土師器	鉢	IV5				ロクロ・カキメ・ハケメ	ロクロ・ハケメ		良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1018・N11(2)+XO(1)
24	24	SQ1018	土師器	塊	VI1	(376)			ロクロ・タタキ(のちナデ)	ロクロ・カキメ		良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・赤色粒少・金色粒少	SQ1018(1)+SQ1018・N11(2)+N11(4)+P12(2)+O11(14)+XO(5)
25	25	SQ1020	土師器	坏	I1d	(136)	50	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・7/8・外・10YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	SQ1020(19)
25	26	SQ1020	土師器	坏	I1a	123	52	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1020(1)+P13(18)+XO(6)
25	27	SQ1020	土師器	坏	I1d	120	43	42	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外・5YR・7/8	砂粒少・石英少・長石少	SQ1020(7)
25	28	SX1021	土師器	内黒坏	I5	(129)	48	50	ロクロ・ケズリ	ミガキ	不明	良	内・2.5Y・2/1・外・2.5Y・3/1	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SX1021・Q13(2)+Q13(3)+R13(7)
25	29	SX1021	土師器	内黒坏	I5	(130)	47	53	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	良	内・10YR・1.7/1・外10YR・7/4	石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少	SX1021・Q13(1)+SX1021・R13(9)+Q13(1)
25	30	SX1021	土師器	坏	I1a	(126)	60	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒多・石英多	SX1021・Q13(3)
25	31	SX1021	土師器	坏	I2	(136)	(51)	59	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	黒色粒少・茶色粒少・透明粒少	SX1021・Q13(4)+Q13(2)
25	32	SX1021	土師器	坏	I1a	(118)	55	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SX1021・Q13(2)+SX1037・P12(1)+P12(1)
25	33	SX1021	土師器	坏	I1b	134	46	59.9	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・6/8・外7.5YR・7/8	砂粒少・石英少・長石少	SX1021・Q13(13)
25	34	SX1021	土師器	坏	I1b	(126)	(46)	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・5/8・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1021・Q13(4)
25	35	SX1021	土師器	坏	I1e	105	54	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1021・Q13(3)+XO(2)
25	36	SX1021	土師器	坏	I1a	(125)	55	54.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・5/8・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1021・Q13(6)
25	37	SX1021	土師器	坏	I1e	(120)	60	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1021・Q13(6)
25	38	SX1021	土師器	坏	I1f	100	46	55.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	黒色粒少・白色粒少・茶色粒少	SX1021・Q13(5)
25	39	SX1021	土師器	坏	I1a	(124)	54	56.2	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・8/8・外・10YR・8/6	砂粒少	SX1021・Q13(1)+XO(2)
26	40	SX1021	土師器	坏	I1a	(116)	50	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少	SX1021・Q13(6)
26	41	SX1021	土師器	坏	I1a	(117)	52	49	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・黒色粒少・白色粒少・粗砂少	SX1021・Q13(5)
26	42	SX1021	土師器	脚付鉢	IV7				ロクロ・ケズリ	ロクロ・ケズリ		良	内・5YR・6/6・外・7.5YR・8/4	石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1021・Q13(1)
26	43	SX1021	土師器	鉢	IV6				ロクロ・ケズリ	ロクロ		良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・白色粒少	SX1021・Q13(2)
26	44	SX1021	製塩土器			(156)						良	内・7.5YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SX1021・Q13(3)
26	45	SX1021	土師器	鉢	VI6				ロクロ	ロクロ		不良	内・10YR・6/6・外・7.5YR・5/6	砂粒多・石英多	SX1021・Q13(2)
26	46	SX1021	土師器	長胴甕	V				タタキ	アテ痕		良	内・5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SX1021・Q13(2)
26	47	SX1021	土師器	台付鉢	IV3		(106)		ロクロ	ロクロ		不良	内・7.5YR・8/8・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・雲母少・白色粒少	SX1021・Q13(2)
26	48	SX1022	土師器	坏	I1b	(104)	40	51	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5YR・6/8・外7.5YR・6/6	砂粒少・石英少	SX1022・R13(2)+R13(2)+T10(1)+R14(1)
26	49	SX1022	土師器	坏	I1	122			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1022・R13(8)+R13(4)
26	50	SX1022	土師器	坏	I1a	(124)	56	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少	SX1022・R13(1)+R13(6)
26	51	SQ1023	土師器	坏	I1				ロクロ	ロクロ		不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1023・Q9(3)
26	52	SQ1024	土師器	坏	I1a	(124)	50	51.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・黒色粒少・白色粒少	SQ1024・V11(5)

表５　遺物観察表（２）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
27	53	ＳＱ1024	土師器	長胴甕	Ｖ1	(193)			ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・アテ痕・ヘラナデ		良	内・7.5ＹＲ・7/6・外7.5ＹＲ・8/6	砂粒多・石英多・白色粒少・砂金少	ＳＱ1024上面(4)＋Ｖ10(2)
27	54	ＳＱ1024	製塩土器			(104)	117	169.9			不明	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒多	ＳＱ1024上面(4)＋Ｘ13(1)＋Ｖ10(1)＋Ｔ10(1)＋Ｔ13(1)＋Ｔ11(1)＋ＸＯ(6)
27	55	ＳＱ1025	土師器	内黒坏	Ｉ5	(141)	(62)	66.5	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	良	内・10ＹＲ・1.7/1・外10ＹＲ・8/3	石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少	ＳＱ1025・Ｚ13(5)
27	56	ＳＱ1025	土師器	坏	Ｉ1ｄ	(125)	46	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少	ＳＱ1025・Ｚ13(5)
27	57	ＳＱ1025	土師器	坏	Ｉ1ｃ	(124)	54	49.1	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少	ＳＱ1025・Ｚ13(5)
27	58	ＳＱ1025	土師器	坏	Ｉ1ａ	(132)	(54)	55.9	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1025・Ｚ13(5)
27	59	ＳＱ1025	須恵器	坏	(1ｄ)	134	48	42.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5Ｙ・5/1・外・7.5Ｙ・6/1	砂粒多・石英少・白色粒多	ＳＱ1025・Ｚ13(1)＋ＸＯ(3)＋Ｒ14(1)＋Ｍ18(1)＋Ｏ11(1)
27	60	ＳＱ1026	土師器	坏	Ｉ1ａ	114	54	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1026・Ｙ14(8)
27	61	ＳＱ1026	土師器	坏	Ｉ1ａ	(113)	54	48	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外7.5ＹＲ・8/4	砂粒少	ＳＱ1026Ｆ・Ｙ14(8)
27	62	ＳＱ1026	土師器	坏	Ｉ1ｃ	(124)	(54)	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/8・外・7.5ＹＲ・7/8	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1026・Ｙ14(3)＋Ｙ14(4)
27	63	ＳＱ1026	土師器	長胴甕	Ｖ1	(228)			ロクロ・カキメ	ロクロ		不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1026・Ｙ14(1)＋ＳＱ1026(3)＋ＸＯ(1)
27	64	ＳＱ1026	土師器	鉢	Ⅳ6				ロクロ・ケズリ・カキメ	ロクロ・カキメ		良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒少	ＳＱ1026・Ｙ14(1)＋ＳＱ1027・Ｚ14(1)
28	65	ＳＱ1026	須恵器	甕					タタキ	アテ痕		不良	内・10ＹＲ・7/1・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1026・Ｙ14(9)＋ＳＱ1001・Ｓ15(1)＋Ｖ10(1)＋Ｏ11(1)＋Ｐ18(3)＋Ｒ14(1)＋Ｓ18(1)＋Ｔ12(1)＋ＸＯ(12)
28	66	ＳＱ1027	土師器	坏	Ｉ1ｂ	(126)	50	56	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・2.5ＹＲ・6/8・外2.5ＹＲ・7/8	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1027・Ｙ14(4)＋ＳＱ1025・Ｚ13(1)
28	67	ＳＱ1027	土師器	坏	Ｉ1ｂ	(120)	(46)	49.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1027・Ｙ14(3)＋ＳＱ1027・Ｚ14(1)
28	68	ＳＱ1027	土師器	坏	Ｉ1ａ	(117)	(50)	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・6/8・外・5ＹＲ・6/6	砂粒少	ＳＱ1027・Ｆ・Ｙ14(3)＋ＳＱ1027・Ｚ14(3)
28	69	ＳＱ1027	土師器	長胴甕	Ｖ2	(198)			ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・カキメ・タタキ		不良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒多・石英多・黒色粒少・白色粒多・赤色粒多	ＳＱ1027・Ｙ14(3)＋ＳＱ1027・Ｚ14(1)
28	70	ＳＱ1027	土師器	小型平底甕	Ｖ4	126			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5ＹＲ・8/8・外7.5ＹＲ・7/8	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1027・Ｙ14(3)＋Ｚ14(1)＋ＸＯ(1)
28	71	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ａ	114	52	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1028・Ｗ13(8)＋ＳＱ1029・Ｗ13(1)＋ＳＱ1030・Ｗ13(2)＋ＸＯ(3)
28	72	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ｆ	108	47	55.4	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1028・Ｗ13(14)
28	73	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ3	(144)	(58)	61	ロクロ・ケズリ	ロクロ	不明	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1028・Ｗ13(3)＋ＳＱ1030・Ｗ13(3)
29	74	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ａ	(122)	56	52.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少	ＳＱ1028・Ｗ12(7)
29	75	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ａ	114	50	48.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・10ＹＲ・8/4	砂粒少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1028・Ｗ13(10)
29	76	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1	126			ロクロ	ロクロ		良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1028・Ｖ12(2)＋Ｗ12(8)
29	77	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ｃ	(122)	54	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	石英少・白色粒少・透明粒少	ＳＱ1028・Ｗ13(6)
29	78	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1	(123)			ロクロ	ロクロ		良	内・5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1028・Ｗ12(4)＋ＳＱ1028・Ｖ12(1)
29	79	ＳＱ1028	土師器	坏	Ｉ1ａ	(120)	(48)	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1028・Ｗ13(1)＋ＳＱ1029・Ｗ13(1)＋ＳＱ1030・Ｗ13(1)
29	80	ＳＱ1028	土師器	小型平底甕	Ｖ7	(126)			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5ＹＲ・8/4・外・5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1028・Ｖ12(2)
29	81	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	128	56	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1029・Ｘ13(1)＋Ｗ12(3)＋Ｘ12(10)
29	82	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	(118)	(56)	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・黒色粒少・白色粒少	ＳＱ1029・Ｘ13(5)
29	83	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ2	127.5	46	49	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸	良	内・10ＹＲ・8/4・外・5ＹＲ・6/4	砂粒少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1029・Ｙ14(7)
29	84	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	(124)	(50)	54.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・5/6・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1029(1)＋ＳＱ1029・Ｙ14(9)＋ＸＯ(3)
29	85	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	(122)	50	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・白色粒少	ＳＱ1029・Ｗ13(3)
29	86	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	(132)	(56)	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/8・外・5ＹＲ・7/8	砂粒少	ＳＱ1029・Ｙ14(3)
29	87	ＳＱ1029	土師器	坏	Ｉ1ａ	(124)	(55)	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/4・外7.5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・赤色粒少	ＳＱ1029・Ｘ13(5)
29	88	ＳＱ1029	土師器	小型平底甕	Ｖ		70		ロクロ	ロクロ	静止糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・5ＹＲ・7/6	砂粒多・石英多・白色粒少・粗砂少	ＳＱ1029・Ｙ14(2)＋ＳＱ1027・Ｚ14(1)＋Ｚ14(1)
30	89	ＳＱ1030	土師器	坏	Ｉ1ａ	(118)	50	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10ＹＲ・7/4・外・5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少	ＳＱ1030・Ｗ13(6)
30	90	ＳＱ1030	土師器	坏	Ｉ1ａ	(124)	52	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1030・Ｗ13(2)
30	91	ＳＱ1030	土師器	坏	Ｉ1ｆ	(110)	(55)	59	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・5ＹＲ・6/8	砂粒少	ＳＱ1030・Ｗ13(4)
30	92	ＳＱ1030	土師器	坏	Ｉ3	(158)	55	70.8	ロクロ・ケズリ	ロクロ	不明	不良	内・7.5ＹＲ・7/8・外7.5ＹＲ・7／6	砂粒少・石英少	ＳＱ1030・Ｗ13(4)＋ＳＱ1028・Ｗ13(2)＋ＳＱ1029・Ｗ13(2)＋Ｗ12(3)
30	93	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	114	54	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・10ＹＲ・8/6	砂粒少	ＳＱ1032・Ｖ8(9)＋ＳＱ1032(2)
30	94	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ｂ	152	58	63	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・8/4・外・5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少	ＳＱ1032(7)＋ＳＱ1032・Ｖ8(6)
30	95	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	(126.5)	(54)	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・5/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1032(3)
30	96	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	120	56	54.2	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1032・Ｖ8(6)＋ＸＯ(1)
30	97	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	(122)	56	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1032・Ｖ8(2)＋ＳＱ1032(1)＋Ｕ8(1)
30	98	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ｆ	(100)	46	50.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少(大粒も含む)・長石少	ＳＱ1032・Ｖ8(1)＋ＳＱ1032(5)
30	99	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	(118)	(50)	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/8・外・7.5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1032・Ｖ8(3)
30	100	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	(112)	52	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・10ＹＲ・8/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1032・Ｖ8(3)
30	101	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	118	50	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1032・Ｖ8(10)
30	102	ＳＱ1032	土師器	坏	Ｉ1ａ	(119)	56	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・8/4・外・7.5ＹＲ・8/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1032・Ｖ8(2)＋ＳＱ1032(1)

表６　遺物観察表（３）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
30	103	SQ1032	土師器	坏	Ⅰ1b	115	43	49.2	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/8	砂粒少・石英少・長石少	SQ1032・V8(5)+U8(1)
31	104	SQ1032	土師器	坏	Ⅰ1a	(119)	50	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	石英少・長石少	SQ1032(15)
31	105	SQ1032	土師器	坏	Ⅰ1a	118	50	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/8	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1032(6)
31	106	SQ1032	土師器	坏	Ⅰ1a	115	56	48.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1032(11)
31	107	SQ1032	土師器	坏	Ⅰ1b	(185)	(46)	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1032(2)
31	108	SQ1032	土師器	甕	V12	(200)			ロクロ・カキメ	ロクロ		良	内・5YR・7/6・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	SQ1032・U8(1)+T10(2)
31	109	SQ1032	土師器	長胴甕	V2	(216)			ロクロ・カキメ・タタキ	ハケメ		不良	内・5YR・6/8外・7.5YR・8/8	砂粒多・石英多・長石多白色粒多	SQ1032・V8(4)
31	110	SQ1032	土師器	長胴甕	V1	(168)			ロクロ	ロクロ		良	内・5YR・6/8・外・5YR・7/8	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SQ1032・V8(3)
31	111	SQ1032	土師器	鉢	Ⅳ5				ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1032・V8(1)
32	112	SQ1032	土師器	脚付鉢	Ⅳ7	(318)	(190)	187	ロクロ・ケズリ	ロクロ・ハケメ	不明	良	内・7.5YR・8/8・外7.5YR・7/6	砂粒多・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1032(4)+SQ1032・V8(2)
32	113	SX1034	土師器	坏	Ⅰ1b	(158)	60	65	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6・外・2.5YR・6/8	砂粒少・石英少・長石少	SX1034(11)
32	114	SX1034	土師器	坏	Ⅰ1a	(125)	54	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・7/4・外・同じ	砂粒少・長石少	SX1034(5)
32	115	SX1034	土師器	坏	Ⅰ1a	(124)	52	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・6/8・外・7.5YR・7/8	砂粒少	SX1034・AC18(5)
32	116	SX1034	土師器	小型平底甕	V9	126			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・7/4・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少	SX1034(12)+XO(2)
32	117	SX1034	土師器	小型平底甕	V8	(114)			ロクロ	ロクロ		良	内・10YR・8/6・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SX1034(14)
32	118	SX1034	須恵器	壺					カキメ	カキメ		良	内・5Y・6/1・外・5Y・5/1	砂粒多・石英少・長石少・黒色粒少・白色粒多	SX1034・AC18(2)+SX1049(2)+S16(1)+S18(2)+S11(1)+U8(1)+W13(1)+R11(1)+T10(2)+F・T10(1)+XO(44)
33	119	SX1034	須恵器	高台付壺			61		ロクロ	ロクロ？	回転篦	良	内・7.5Y・5/1・外・7.5Y・4/1	砂粒多・石英多・黒色粒多・白色粒多	SX1034(1)
33	120	SX1034	土師器	小型平底甕	V		64		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6外・7.5YR・7/8	砂粒多・石英少・長石少	SX1034(1)
33	121	SK1036	土師器	内黒坏	V5		76		ケズリ	ミガキ	不明	良	内7.5YR・1.7/1・外7.5YR8/4	砂粒少	SK1036・W13(1)+SX1049(1)+V12(1)+W12(1)+Q15(1)
33	122	SQ1037	土師器	坏	Ⅰ1d	(138)	54	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/3・外・10YR・8/4・	砂粒少・石英少・長石少	SQ1037・P11(8)
33	123	SQ1037	土師器	坏	Ⅰ1b	(126)	(44)	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1037(1)+SQ1037(1)
33	124	SQ1037	土師器	坏	Ⅰ3		56		ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・3/2・外・同じ	石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少	SQ1037(3)+XO(3)
33	125	SQ1037	土師器	長胴甕	V2				ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・アテ痕		良	内・5YR・7/6・外・5YR・6/6	砂粒多・石英多・長石少・白色粒多	SQ1037・P12(21)
33	126	SQ1037	土師器	長胴甕	V1	(188)			ロクロ・カキメ・ハケメ	ロクロ・ハケメ		良	内・7.5YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1037・P12(3)
33	127	SQ1037	土師器	平底甕？	V10				ハケメ・カキメ	カキメ		良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・6/6	砂粒少・石英少々・長石少・白色粒少	SQ1037・P12(2)
33	128	SQ1037	土師器	小型平底甕	V9	(133)			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1037F(7)
33	129	SQ1037	土師器	小型平底甕	V4	(150)			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・6/6・外7.5YR・7/4	砂粒多・石英多・長石多・赤色粒少	SQ1037・P12(3)+SQ1037(1)
34	130	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1d	(128)	48	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少	SQ1039(13)
34	131	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1a	(120)	50	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6外・7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SQ1039(5)
34	132	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1a	(120)	52	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1039・M13(4)+M13(5)
34	133	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1e	(118)	(60)	44	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4・外・10YR・8/6	石英少・長石少	SQ1039・M13(4)
34	134	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1		50		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少	SQ1039・M13(2)
34	135	SQ1039	土師器	坏	Ⅰ1		43		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/6・外・10YR・8/6	砂粒少・赤色粒少	SQ1039(6)
34	136	SQ1039	土師器	長胴甕	V				ロクロ・カキメ・タタキ	アテ痕		良	内・2.5YR・5/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1039・M13(3)
34	137	SQ1040	土師器	内黒坏	Ⅰ5	130			ケズリ・ミガキ	ミガキ		良	内・10YR・2/1・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少	SQ1040・T5(3)+S12(9)+R12(6)
34	138	SQ1041	土師器	坏	Ⅰ1c	(134)	(56)	50.7	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・6/6・・外・5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SQ1041・L13(3)+L13(1)
34	139	SQ1041	土師器	小型平底甕	V		66		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・2.5YR・5/3・外7.5YR・7/8	石英少・長石少	SQ1041・L13(2)+SQ1039・M13(1)+K12(2)+L12(1)+L13(3)
34	140	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1c	(126)	54	46.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4・外・10YR・8/3	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	SQ1044(7)
34	141	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1d	128	48	50.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	SQ1044(15)+M12(1)
34	142	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1b	(120)	46	59.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1044(24)
34	143	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1c	124	50	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1044(6)
34	144	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1b	127	50	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	SQ1044(15)
35	145	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1a	(132)	54	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	SQ1044(3)
35	146	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	(52)	56.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・7/6・外・同じ	砂粒少・長石少・白色粒少	SQ1044(3)+M12(3)
35	147	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1d	(142)	52	50.7	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4・外・同じ	白色粒少	SQ1044(1)+M12(2)
35	148	SQ1044	土師器	坏	Ⅰ1a	(115)	46	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/8	砂粒少・石英少・長石少	SQ1044(5)
35	149	SQ1044	土師器	長胴甕	V1	(158)			カキメ(上部)	アテ痕(底部)・カキメ(上部)		不良	内・10YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	SQ1044(6)+M12(10)+XO(3)
35	150	SQ1046	土師器	坏	Ⅰ1b	(132)	48	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・5/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	SQ1046・N13(6)+SQ1046(1)+XO(1)

表７　遺物観察表（４）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
35	151	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	126	50	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・2.5ＹＲ・5/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	ＳＱ1046・M13(6)＋ＳＱ1046・M14(1)＋ＳＱ1046・N14(2)＋ＳＱ1046(6)
35	152	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１	158			ロクロ	ロクロ		不良	内・2.5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒多	ＳＱ1046(3)＋ＳＱ1046・N13(3)＋N14(4)
35	153	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	116	47	46	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・5ＹＲ・6/8	砂粒少・石英少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(11)＋ＳＱ1046・N14(1)＋ＳＱ1046・M16(1)＋ＳＱ1046Ｆ(1)
35	154	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	116	46	49.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒微少	ＳＱ1046・M13(14)＋N14(1)
36	155	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｄ	130	50	51.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒極・石英極・長石極・白色粒少	ＳＱ1046・Ｆ(9)＋M13(7)＋N14(1)＋ＸＯ(3)
36	156	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ａ	110	48	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	ＳＱ1046・M13(4)＋ＳＱ1046(12)
36	157	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	119	50	47.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・2.5ＹＲ・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(10)
36	158	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(130)	54	50.3	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・2.5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(8)
36	159	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	(130)	50	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・7/6・外・5ＹＲ・7/8	砂粒極・石英極・長石極・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(3)＋ＳＱ1046・N14(3)
36	160	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	133	58	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/6・外・5ＹＲ・7/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046(5)
36	161	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	(128)	50	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(8)
36	162	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(132)	48	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(12)
36	163	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(146)	64	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(4)
36	164	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(124)	54	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046(8)＋M13(2)＋ＸＯ(2)
36	165	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ａ	118	48	47.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10ＹＲ・7/6・外・10ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N14(7)
36	166	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	(122)	42	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(6)
36	167	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｂ	(126)	48	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外7.5ＹＲ・7/4	砂粒少・石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒多	ＳＱ1046・N14(3)
36	168	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ａ	12.5	53	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・6/6・外・5ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N14(18)
36	169	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ａ	(120)	54	56.4	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5ＹＲ・6/8・外・7.5ＹＲ・7/8	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒多	ＳＱ1046・N13(9)
37	170	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(133)	50	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外7.5ＹＲ・7/6	砂粒極・石英極・長石極	ＳＱ1046・N13(5)
37	171	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(118)	(50)	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N13(7)
37	172	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１		59		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10ＹＲ・7/4・外・10ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N13(7)
37	173	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１	(124)			ロクロ	ロクロ		不良	内・5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	ＳＱ1046(5)＋ＳＱ1046・N13(3)
37	174	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１	(132)			ロクロ	ロクロ		不良	内・5ＹＲ・7/8外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	ＳＱ1046・N13(2)
37	175	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１		50		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・2.5ＹＲ・6/8・外・同じ	砂粒極・石英極・長石極	ＳＱ1046(6)
37	176	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(158)	56	52.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1046・N13(3)
37	177	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１		50		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内7.5ＹＲ7/4・1.7/1外5ＹＲ6/6	砂粒少・石英少	ＳＱ1046・N13(2)＋ＳＱ1046・N14(3)
37	178	ＳＱ1046	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(128)	50	46.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少	ＳＱ1046・N13(6)
37	179	ＳＱ1046	土師器	皿	Ⅲ３		50		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・7/8外・5ＹＲ・6/6	砂粒少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒多	ＳＱ1046・N14(3)＋ＸＯ(1)
37	180	ＳＱ1046	土師器	台付皿	Ⅲ１	123			ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少	ＳＱ1046(5)＋ＸＯ(1)
37	181	ＳＱ1046	土師器	高台付坏	Ⅱ５		56		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N14(1)
37	182	ＳＱ1046	土師器	小型平底甕	Ｖ		72		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10Ｒ・6/6・外・2.5ＹＲ・6/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	ＳＱ1046・M13(9)＋ＸＯ(1)
37	183	ＳＱ1046	土師器	小型平底甕	Ｖ		(55)		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・M13(3)＋ＳＱ1046・M13(2)
37	184	ＳＱ1046	土師器	小型平底甕	Ｖ		65		ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・長石少・白色粒少	ＳＱ1046・Ｆ(2)
37	185	ＳＱ1046	土師器	長胴甕	Ｖ				ロクロ・タタキ・カキメ	ロクロ・アテ痕・カキメ		不良	内・7.5ＹＲ・8/4・外・同じ	砂粒少・石英多・白色粒少	ＳＱ1046・N13(3)
37	186	ＳＱ1046	土師器	長胴甕	Ｖ１				ロクロ・カキメ	ロクロ・カキメ		不良	内・10ＹＲ・8/4・外・7.5ＹＲ・8/6	砂粒少・石英少・長石少	ＳＱ1046・N13(3)
38	187	ＳＱ1047	土師器	坏	Ｉ１ｂ	139	46	59	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1047
38	188	ＳＱ1047	土師器	坏	Ｉ１	(118)			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5ＹＲ・7/6・外7.5ＹＲ・8/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	ＳＱ1047・Ｆ(3)＋ＳＱ1048・Ｆ(1)
38	189	ＳＱ1047	土師器	坏	Ｉ１		44		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・8/3・外・10ＹＲ・7/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	ＳＱ1047(1)
38	190	ＳＱ1048	土師器	坏	Ｉ１		54		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・8/4・外・7.5ＹＲ・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1048(1)
38	191	ＳＱ1048	土師器	小型平底甕	Ｖ		53		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＱ1048(2)
38	192	ＳＱ1048	土師器	長胴甕	Ｖ１？				カキメ	カキメ		不良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	ＳＱ1048(1)
38	193	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｂ	114	40	53.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外7.5ＹＲ・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	ＳＸ1049・Ｔ９(18)
38	194	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	154	62	62.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	ＳＸ1049(4)＋ＳＸ1049・Ｔ９(5)
38	195	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	108	46	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5ＹＲ・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	ＳＸ1049(9)
38	196	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(124)	52	48.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＸ1049・Ｔ９(11)
38	197	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	122	54	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外7.5ＹＲ・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	ＳＸ1049(8)
38	198	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	123	54	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外7.5ＹＲ・8/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	ＳＸ1049(5)＋ＳＸ1049・Ｔ９(3)
38	199	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｂ	(132)	51	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・7/8・外・同じ	砂粒多・石英少・白色粒少	ＳＸ1049(15)
38	200	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	118	50	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・8/4・外・10ＹＲ・8/3	砂粒粗・石英多・長石少・白色粒多	ＳＸ1049(7)
38	201	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｃ	(122)	54	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10ＹＲ・7/6・外・10ＹＲ・8/6	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＸ1049(4)＋Ｔ９(2)
38	202	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(132)	48	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	ＳＸ1049(1)
38	203	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ｄ	(136)	(42)	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	ＳＸ1049・Ｔ９(5)
38	204	ＳＸ1049	土師器	坏	Ｉ１ａ	(126)	52	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5ＹＲ・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	ＳＸ1049(4)

表８　遺物観察表（５）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
39	205	SX1049	土師器	坏	Ⅰ1c	(138)	66	49.2	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049(8)
39	206	SX1049	土師器	坏	Ⅰ1a	118	52	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049(4)
39	207	SX1049	土師器	坏	Ⅰ1a	130	56	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049(1)
39	208	SX1049	土師器	坏	Ⅰ3	(148)	54	62	ロクロ・ケズリ	ロクロ	不明	良	内・5YR・6/8・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049(3)+SX1049・T9(1)+T10(1)+XO(2)
39	209	SX1049	土師器	坏	Ⅰ1c	(130)	(54)	49.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	SX1049(1)
39	210	SX1049	土師器	坏	Ⅰ1		52		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・7.5YR・8/6・	砂粒少・石英少	SX1049(1)+XO(1)
39	211	SX1049	土師器	坏	Ⅰ4	128	50	62.5	ロクロ・ケズリ	ロクロ・ミガキ	不明	不良	内・7.5YR・8/8・外・5YR・7/6	砂粒少	SX1049(3)+T9(1)
39	212	SX1049	土師器	坏	Ⅰ4	(180)	68	75.8	ロクロ・ケズリ・ミガキ	ロクロ・ミガキ	不明	良	内・5YR・6/8・外・5YR・7/8	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049・T10(1)+T10(16)+XO(1)
39	213	SX1049	土師器	台付鉢	Ⅳ2	(138)	(106)	99.2	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	良	内・10YR・8/4・外・10YR・8/3	石英少・白色粒少	SX1049(1)+T10(7)　※43−275と同一個体
40	214	SX1049	須恵器	甕		(196)		463	タタキ	アテ痕		良(堅)	内・5YR・7/1・外・同じ	砂粒少・石英少	SX1049・T9(3)+XO(24)+T10(16)+T16(1)+T11(6)+P11(8)+P10(1)+P18(2)+V11(1)+O13(3)+O11(1)+O9(1)+Q12(1)+U10(1)+P12(4)+N12(1)+N11(3)+S18(1)+Q9(3)
40	215	SX1049	土師器	小型平底甕	Ⅴ3	(140)	54	10.8	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒多・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049・T9(16)
40	216	SX1049	土師器	小型平底甕	Ⅴ		94		ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒多・石英少・白色粒少・赤色粒少・金色粒少	SX1049(4)
40	217	SX1049	土師器	小型平底甕	Ⅴ		62		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/6・外・5YR・7/8	砂粒多・石英少・白色粒少・赤色粒少	SX1049(1)
41	218	J・17	土師器	坏	Ⅰ1a	116	56	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	J17(10)
41	219	J・17	土師器	坏	Ⅰ1c	(123)	57	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少	J17(3)
41	220	J・17	土師器	坏	Ⅰ1c	128	(63)	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	J17(4)+XO(1)
41	221	J・18	土師器	坏	Ⅰ1c	143	58	47.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外・5YR・7/8	砂粒少	J18(1)+XO(1)
41	222	J・18	土師器	坏	Ⅰ1d	(134)	(52)	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・5YR・7/8	砂粒少・石英少	J18(5)+XO
41	223	K・18	土師器	坏	Ⅰ1e	(118)	(59)	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8外・同じ	砂粒少・石英少	K18(5)+XO(1)
41	224	M・8	土師器	坏	Ⅰ1a	124	51	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/4・外同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	M8(10)
41	225	M・8	土師器	坏	Ⅰ1c	(119)	(50)	47.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	N8(4)+M8(1)
41	226	M・8	土師器	坏	Ⅰ1c	(118)	(48)	46.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・8/6・外・7.5YR・8/6	砂粒少・石英少	M8(1)
41	227	M・11	須恵器	高台付坏			(60)		ロクロ	ロクロ	回転篦	良	内・5Y・6/2・外・同じ	砂粒少・白色粒少	M11(1)
41	228	M・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	51	45	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6外・5YR・6/8	砂粒少・石英少	M12(7)+XO(1)
41	229	M・12	土師器	坏	Ⅰ1b	124	(46)	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	M12(11)
41	230	M・12	土師器	坏	Ⅰ1a	124	50	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少	M12(12)+K12(1)+M12(1)+XO(2)
41	231	M・12	土師器	坏	Ⅰ1a	(121)	50	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6外・同じ	砂粒少・石英少	M12(7)
41	232	M・13	土師器	坏	Ⅰ1		52		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	Q14(1)+M13(1)
41	233	M・13	土師器	坏	Ⅰ1a	(108)	45	48.7	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少	M13(3)
41	234	N・8	土師器	坏	Ⅰ1a	112	54	48.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少	N8(6)
41	235	N・8	土師器	坏	Ⅰ1a	(117)	48	48.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6外・5YR・7/8	砂粒少	N8(5)
42	236	N・11	土師器	坏	Ⅰ1f	110	36	57	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	N11(11)
42	237	N・11	土師器	坏	Ⅰ4	(126)	54	57	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	不良	内・5YR・6/8外・5YR・7/8	石英少・白色粒少	O11(8)+N11(1)
42	238	N・11	土師器	坏	Ⅰ1a	(129)	(54)	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少	N11(5)
42	239	N・11	土師器	坏	Ⅰ1a	(130)	52	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8外・5YR・7/6	砂粒少・石英少	V11(6)+V12(3)+N11(1)+XO(2)
42	240	N・14	土師器	坏	Ⅰ1		(42)		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少	N14(1)
42	241	N・15	土師器	坏	Ⅰ1b	(140)	54	64.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・6/6外・5YR・6/8	砂粒多・石英少・長石少・白色粒少	N15(12)
42	242	N・17	土師器	小型平底甕	Ⅴ		60		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少・金色粒少	N17(6)
42	243	N・18	土師器	Ⅲ	Ⅲ4		54		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6外・同じ	砂粒少	N18(1)
42	244	O・11	土師器	坏	Ⅰ1a	131	53	55.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少	O11(1)
42	245	O・11	土師器	小型平底甕	Ⅴ		46		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	O11(8)
42	246	O・11	土師器	小型平底甕	Ⅴ3	101	50	92	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・5/6・外・5YR・6/6	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒多	O11(7)
42	247	O・11	土師器	小型平底甕	Ⅴ3	126	72	116.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒多	O11(6)
42	248	O・11	土師器	小型平底甕	Ⅴ				ロクロ	ロクロ		不良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少・長石少	O11(9)+N11(2)
43	249	O・11	土師器	鍋	Ⅵ2b				ロクロ・カキメ・タタキ	アテ痕・カキメ		不良	内・5YR・7/6外・7.5YR・8/6	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒多	O11(6)+XO(1)
43	250	O・13	土師器	坏	Ⅰ1a	(121)	53	52.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少・黒色粒少・白色粒少	O13(2)+XO(1)
43	251	O・14	土師器	坏	Ⅰ1a	122	54	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・7.5YR・8/8	砂粒少	O14(16)+XO(1)
43	252	O・14	土師器	坏	Ⅰ1c		(49)	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少	O14(6)+XO(1)
43	253	O・14	土師器	坏	Ⅰ1a	118	54	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・6/8外・5YR・7/6	砂粒少・石英少・白色粒少	O14(4)
43	254	P・9	土師器	坏	Ⅰ1b	(122)	47	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	P9(4)
43	255	P・10	土師器	長胴甕	Ⅴ2				ロクロ・カキメ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・7/8・外・2.5YR・7/8	砂粒多・石英多	R11(1)+P10(1)

表９　遺物観察表（６）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
43	256	P・11	土師器	坏	Ⅰ1a	(124)	50	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・2/1・外7.5YR・3/1	砂粒多・石英少・長石少・白色粒少	P11(3)+XO(3)
43	257	P・11	土師器	鉢	Ⅳ1	(206)	68	73	ロクロ・ケズリ	ロクロ・ミガキ	不明	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒多・石英少・長石少・白色粒少	P11(9)
43	258	P・11	土師器	埦	Ⅵ1				ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・アテ痕・カキメ		良	内・10YR・8/4・外・同じ	砂粒多・石英少・長石少	P11(2)+XO(1)
44	259	P・9	土師器	坏	Ⅰ1b	128	50	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・5/1・外・10YR・8/6	砂粒少	P9(5)+Q8(1)+XO(10)
44	260	P・12	土師器	坏	Ⅰ4		59		ケズリ	ミガキ	不明	良	内・10YR・6/8・外・10YR・5/8	砂粒少・石英少・白色粒少	P12(2)
44	261	P・12	土師器	小型平底甕	Ⅴ7	(140)			ロクロ	ロクロ		不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒多・石英多・長石少・白色粒多・赤色粒少	P12(8)
44	262	P・12	土師器	平底甕？	Ⅴ11				ロクロ・ケズリ	ロクロ・カキメ		良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・7/6	砂粒多・石英少・長石少	P12(3)
44	263	P・13	土師器	坏	Ⅰ1b	(124)	(49)	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少	P13(12)+XO(4)
44	264	P・14	土師器	長胴甕	Ⅴ1	(198)		(35)	ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・アテ痕・カキメ		良	内・7.5YR・8/8・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・長石少・雲母少・白色粒少・金色粒少	P14(54)
44	265	Q・8	土師器	坏	Ⅰ1b	(122)	48	55.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少	Q8(7)
44	266	Q・9	土師器	坏	Ⅰ1d	(122)	48	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	Q9(2)
44	267	Q・9	土師器	坏	Ⅰ1a	118	54	52.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	Q9(5)+R9(8)+XO(1)
45	268	Q・9	土師器	長胴甕	Ⅴ2	(220)			ロクロ・カキメ・タタキ	ロクロ・カキメ		不良	内・5YR・7/6外・同じ	砂粒多・石英多・長石多	Q9(5)+Q9(1)
45	269	Q・9	土師器	長胴甕	Ⅴ2				ロクロ・カキメ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・6/6・外・5YR・6/8	砂粒多・石英少・白色粒多	Q9(1)
45	270	Q・10	土師器	内黒坏	Ⅰ5	142			ロクロ・ミガキ・ケズリ	ロクロ・ミガキ		良	内7.5YR1.7/1・外7.5YR7/6	石英少・長石少・白色粒少	Q10(1)+XO(3)
45	271	Q・12	土師器	高台付皿	Ⅲ1	120	63	29	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	Q12(5)+XO(4)
45	272	Q・12	土師器	坏	Ⅰ1b	118	42	58	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	Q12(12)
45	273	Q・12	土師器	坏	Ⅰ1a	(119)	50	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	R12(8)+S12(2)+XO(9)
45	274	Q・12	土師器	坏	Ⅰ1b	(118)	47	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・7/4・外・5YR・7/6	砂粒少	Q12(2)
45	275	Q・12	土師器	台付鉢	Ⅳ2	(256)			ケズリ・ミガキ	ミガキ		良	内・10YR・8/4・外・同じ	石英少・赤色粒少	Q12(4)※37−213と同一個体
45	276	Q・12	土師器	小型平底甕	Ⅴ3	(120)			ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・4/1・・外・同じ	石英少・雲母少・白色粒少	Q12(3)+Q12(2)
45	277	Q・12	土師器	小型平底甕	Ⅴ		(90)		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・5YR・7/6	砂粒少・石英少・白色粒少	Q12(1)
45	278	Q・12	土師器	小型平底甕	Ⅴ6	113.4	59	92	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5YR・7/8・外・5YR・5/4	砂粒多・石英少・長石少	Q12(7)+XO(2)
45	279	Q・12	土師器	凸帯付甕	Ⅴ13				カキメ・タタキ	カキメ・アテ痕		良	内・7.5YR・6/6・外7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	Q12(1)+T10(1)+T10(1)+XO(2)+XO(3)+XO(1)+T10(2)+XO(2)+S11(2)　※同一個体を含む
45	280	Q・12	土師器	鉢	Ⅳ4				ロクロ・カキメ	ロクロ		不良	内・5YR・6/6・外・同じ	砂粒多・石英少・白色粒多・赤色粒少	Q12(2)
45	281	Q・12	土師器	鉢	Ⅳ4				ロクロ・カキメ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・7/4・外・同じ	砂粒少・石英少・黒色粒少・白色粒少	Q12(3)+XO(1)
46	282	Q・14	ミニチュア土器			(63)	(50)	28	ナデ？	ナデ？	不明	良	内・7.5YR・8/4・外7.5YR・8/6	砂粒少・石英少・白色粒少	Q14(1)
46	283	Q・14	土師器	坏	Ⅰ1c	(128)	(53)	44.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6外・同じ	砂粒少・石英少	Q14(2)
46	284	Q・14	土師器	坏	Ⅰ1a	(124)	54	56.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	Q14(5)
46	285	Q・14	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	(52)	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	Q14(8)
46	286	Q・14	土師器	内黒坏	Ⅰ6	126	48	45.5	ロクロ？	ロクロ	回転糸	不良	内・2.5Y・2/1・外・2.5Y・6/1	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	Q14(13)+Q12(1)+XO(1)
46	287	Q・15	土師器	坏	Ⅰ1b	(124)	49	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・赤色粒少	Q15(8)
46	288	Q・20	須恵器	壺			66		ロクロ	ロクロ	不明	良	内・5Y・5/1・外・5Y・3/1	砂粒少・白色粒多	Q20(1)+Y14(1)+X15(1)+XO(2)
46	289	R・9	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	50	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	R9(6)
46	290	R・11	土師器	坏	Ⅰ1b	(166)	60	79.8	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・8/6・外・5YR・7/8	砂粒少・石英少	R11(8)+XO(3)
46	291	R・12	土師器	内黒高台付坏	Ⅱ4		60		ケズリ	ミガキ	不明	良	内・10YR・1.7/1外・10YR・8/4	石英少・長石少・白色粒少	R12(1)+R13(1)+R14(1)+Q14(1)
46	292	R・12	土師器	高台付坏	Ⅱ2	(155)	78	82	ロクロ	ミガキ	不明	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	石英少・白色粒少・赤色粒少	R12(5)
46	293	R・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	50	47	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少	R12(3)
46	294	R・12	土師器	内黒高台付坏	Ⅱ4		73		ケズリ	ミガキ	不明	良	内・10YR・1.7/1・外10YR・8/4	砂粒少・白色粒少	R12(4)+XO(2)
46	295	R・12	土師器	長胴甕	Ⅴ1	203			ロクロ・カキメ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒多・石英少・長石少	S12(2)+R12(3)+XO(1)
47	296	R・13	須恵器	短頸壺		(102)	70	113.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5Y・5/1・外・5Y・4/1	石英少・白色粒少	R13(1)+R16(1)+T14(1)+XO(3)
47	297	R・14	土師器	小型平底甕	Ⅴ		(36)		ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・10YR・8/4・外・10YR・7/4	砂粒多・石英少・長石少・白色粒少	R14(4)
47	298	R・16	土師器	内黒坏	Ⅰ5				ミガキ	ミガキ		不良	内・10YR・3/1・外・10YR・7/3	石英少・長石少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒少	R16(7)
47	299	S・10	土師器	坏	Ⅰ4		63		ロクロ・ミガキ・ケズリ	ミガキ	不明	良	内・7.5YR・7/6・外・5YR・7/6	砂粒少・白色粒少・赤色粒少	T9(1)+T10(2)+S10(7)+XO(1)
47	300	S・11	土師器	内黒高台坏	Ⅱ3	(162)	56	64.8	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	良	内・10YR・1.7/1・外10YR・8/6	石英少・白色粒少・赤色粒少	S11(4)+T11(2)+S19(1)
47	301	S・12	土師器	坏	Ⅰ1a	121	52	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒多・石英多・長石少・白色粒多	S12(5)+XO(3)

表10　遺物観察表（７）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
47	302	S・12	土師器	坏	Ⅰ1c	126	53	46.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・6/4・外7.5YR・7/4	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	S12(5)+XO(2)
47	303	S・12	土師器	内黒坏	Ⅰ5	(142)			ロクロ	ミガキ		不良	内・10YR・2/1・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少・白色粒少	S12(8)
47	304	S・12	土師器	坏	Ⅰ1b	(120)	46	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	S12(3)
47	305	S・12	土師器	坏	Ⅰ1a	(102)	48	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少	S12(8)
47	306	S・12	土師器	坏	Ⅰ1b	(125)	46	57.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	S12(3)
47	307	S・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(120)	49	47.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	S12(3)
47	308	S・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	60	43.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・5YR・7/6	砂粒少・石英少	S12(4)
47	309	S・12	土師器	坏	Ⅰ1d	(138)	50	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	S12(5)+XO(4)
47	310	S・12	土師器	高台付坏	Ⅱ6		54		ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・5YR・7/6外・2.5YR・7/8	砂粒少・石英少	S12(1)
48	311	S・12	土師器	小型平底甕	Ⅴ		64		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/4・外・同じ	砂粒多・石英多・長石少・白色粒多・赤色粒多	S12(2)
48	312	S・12	土師器	鍋	Ⅵ1				タタキ・カキメ	ロクロ・アテ・カキメ		良	内・7.5YR・6/8・外・5YR・6/6	砂粒少石英少・長石少・白色粒少	S12(3)
48	313	S・12	土師器	長胴甕	Ⅴ1	(220)			カキメ	カキメ		不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/8	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	S12(5)
48	314	S・12	土師器	長胴甕	Ⅴ2				カキメ	カキメ		良	内・5YR・7/6・・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少・赤色粒少	S12(3)
48	315	S・12	土師器	長胴甕	Ⅴ2？				カキメ	カキメ		良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少・赤色粒少・金色粒少	S12(3)
48	316	S・14	土師器	鉢	Ⅳ4				ロクロ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・7/8・外・5YR・6/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	S14(1)
48	317	S・18	土師器	長胴甕	Ⅴ1				カキメ	カキメ		良	内・7.5YR・7/8・外7.5YR・6/6	砂粒少・石英少・長石少・白色粒少	S18(3)+S19(1)
48	318	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	120	52	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少石英少・長石少	T10(15)
48	319	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	122	60	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(15)+XO(3)
48	320	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	120	52	49.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	T10(3)
48	321	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	120	49	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少・長石少・赤色粒少	T10(2)+XO(1)
48	322	T・10	土師器	坏	Ⅰ1c	(134)	(56)	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(2)
48	323	T・10	土師器	坏	Ⅰ1d	(128)	49	46.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(6)
49	324	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(122)	53	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(5)+XO
49	325	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(125)	52	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(7)
49	326	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a				ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(10)
49	327	T・10	土師器	高台付坏	Ⅱ1	140	46	69	ケズリ	ケズリ・ミガキ	不明	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	石英少・白色粒少	T10(15)
49	328	T・10	土師器	坏	Ⅰ2	(116)	44	53	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(9)+XO(3)
49	329	T・10	土師器	坏	Ⅰ3	147			ロクロ・ケズリ	ロクロ		良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	T10(10)+XO(1)
49	330	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	131	56	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少石英少・長石少	T10(11)+XO(2)
49	331	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(136)	57	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(9)
49	332	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	56	55.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(4)+XO(1)
49	333	T・10	土師器	坏	Ⅰ1b	122	48	54	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	T10(5)
49	334	T・10	土師器	坏	Ⅰ1d	136	47	45.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(10)
49	335	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(124)	54	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・黒色粒少	T10(7)
49	336	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(128)	58	53.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・7/6	砂粒少・石英少	T10(1)
49	337	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(114)	(54)	52.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少	T10(3)
49	338	T・10	土師器	坏	Ⅰ1a	113	48	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少	T10(6)
50	339	T・10	土師器	坏	Ⅰ1f	138	48	70	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・6/6	砂粒少・石英少・長石少	T10(19)+XO(1)
50	340	T・10	土師器	鉄鉢型土器	Ⅳ8	(152)			ロクロ・ナデ・ケズリ	ロクロ		良	内・10YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・雲母極	T10(2)
50	341	T・10	須恵器	長頸壺		124			ロクロ	ロクロ		良	内・5Y・8/2・外・5Y・7/2	砂粒少・石英少・白色粒少	T10(3)
50	342	T・10	須恵器	長頸壺					ロクロ	ロクロ		良	内・N・4/1・外・N・3/1	砂粒多・石英多・白色粒多	T10(5)+T11(1)+S12(1)+XO(4)
50	343	T・10	土師器	小型平底甕	Ⅴ4	(115)	64	148	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(7)
50	344	T・10	土師器	長胴甕	Ⅴ1	(207)			カキメ	カキメ		不良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T10(3)+XO(1)
50	345	T・10	土師器	長胴甕	Ⅴ2	190			タタキ・カキメ	アテ・カキメ		良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少々・石英少・長石少	T10(1)+XO(2)
50	346	T・10	土師器	長胴甕	Ⅴ1	(195)			ロクロ・タタキ	ロクロ・カキメ		良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少・雲母極	T10(8)+XO(1)
51	347	T・11	土師器	坏	Ⅰ1a	118	56	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T11(13)+XO(2)
51	348	T・11	土師器	坏	Ⅰ1a	127.5	59.5	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T11(13)+XO(3)
51	349	T・11	土師器	坏	Ⅰ1b	(122)	48	50.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・7/6	砂粒やや多・石英やや多・長石やや多	T11(8)+XO(2)
51	350	T・11	土師器	内黒坏	Ⅰ5	(158)			ケズリ・ミガキ	ミガキ		良	内・10YR・1.7/1・外10YR・8/6	石英少白色粒少	T11(6)
51	351	T・11	土師器	内黒坏	Ⅰ5	(147)			ケズリ・ミガキ	ミガキ		良	内・10YR・2/1・外・10YR・7/4	砂粒少	T11(2)+S10(1)
51	352	T・11	土師器	坏	Ⅰ1a	(112)	50	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	T11(10)
51	353	T・11	土師器	坏	Ⅰ1a	(115)	(52)	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少	T11(4)

表11　遺物観察表（８）

挿図	番号	出土地点	種別	器種	分類	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面調整	内面調整	底部切離	焼成	色調	混入物	グリッド毎出土点数
51	354	T・12	土師器	内黒高台付坏	Ⅱ4	(141)	58	55	ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	不良	内・10YR・1.7/1・外10YR・8/4	砂粒少・石英少・白色粒少	T12(1)+B(16)
51	355	T・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	50	48	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6外・7.5YR・8/8	砂粒少・石英少・長石少	T12(5)
51	356	T・16	土師器	平底甕	V14		(90)		ケズリ	ヘラナデ	砂底	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	T16(4)
51	357	U・10	土師器	坏	Ⅰ1c	(125)	50	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	V10(4)+U10(1)+XO(1)
51	358	U・10	土師器	脚付鉢	Ⅳ7				ロクロ・ケズリ・ナデ	ロクロ・ケズリ・ナデ	不明	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	U10(6)+XO(1)
51	359	U・11	土師器	坏	Ⅰ1a	120	46	55	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・2.5YR・5/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	U11(11)+XO(3)
52	360	U・11	土師器	坏	Ⅰ1b	(116)	50	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少・長石少	U11(3)+XO(2)
52	361	U・12	土師器	坏	Ⅰ1c	(122)	54	41	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	U12(3)
52	362	U・13	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	58	48.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	U13(6)
52	363	V・10	土師器	坏	Ⅰ1b	(128)	50	53	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・7/8	砂粒少・石英少・長石少	V10(13)+V11(1)+U10(2)+XO(5)
52	364	V・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	58	52	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少長石少	V10(11)+XO(3)
52	365	V・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(122)	50	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少・赤色粒極	V10(1)+XO(2)
52	366	V・10	土師器	小型平底甕	V		60		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	V10(5)+XO(1)
52	367	W・12	土師器	内黒坏	Ⅰ5	(141)	(54)		ケズリ・ミガキ	ミガキ	不明	良	内・10YR・1.7/1・外10YR・7/4	石英少・白色粒少	X11(2)+W12(1)+SX1049(2)+W13(1)+X14(1)+XO(1)
52	368	W・12	土師器	坏	Ⅰ1d	(128)	51	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・10YR・8/4	砂粒少・石英少	W12(3)+XO(2)
52	369	W・12	土師器	塝	Ⅵ2a	362			カキメ・タタキ・(ケズリ?)	カキメ・アテ		不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	W12(9)+XO(1)
52	370	X・12	土師器	耳皿	Ⅲ4		42		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6・外・同じ	石英少・赤色粒少・金色粒少	X12(1)
53	371	X・13	土師器	鉢	Ⅳ5	(229)			カキメ	カキメ		不良	内・2.5YR・7/8・外2.5YR・7/6	砂粒多・石英多・白色粒多・赤色粒少	X13(1)
53	372	X・14	土師器	長胴甕	V1				カキメ	カキメ		不良	内・5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	X14(5)
53	373	X・15	土師器	長胴甕	V1				ロクロ・ハケメ	ハケメ・カキメ		不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒多・石英少・長石少	X15(3)
53	374	Y・10	土師器	坏	Ⅰ1a	(117)	54	56	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少・白色粒少	Y15(1)+Y10(1)+XO(1)
53	375	Y・10	土師器	坏	Ⅰ3	(148)	45	65	ロクロ・ケズリ	ロクロ	不明	不良	内・10YR・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少	Y10(3)
53	376	Z・14	土師器	小型平底甕	V8	(136)			ロクロ	ロクロ		不良	内・5YR・7/6・外・5YR・7/8	砂粒多・石英多・長石多	Z14(12)+XO(3)
53	377	AA・12	土師器	坏	Ⅰ1a	(124)	53	58	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・10YR・8/6	砂粒少・石英少	AA12(11)+XO(9)
53	378	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1b	(157)	50	65	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少・長石少	AD15(7)+AC15(2)+XO(1)
53	379	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	48	50	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4・外・同じ	砂粒少・石英少	AC15(7)
53	380	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1b	126	50	50.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少・長石少	AC15(9)
53	381	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1d	(157)	56	60	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	AC15(9)
53	382	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1a	(118)	50	54.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	AC15(2)
53	383	AC・15	土師器	坏	Ⅰ1a	(146)	58	60.8	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少	AC16(7)+AC15(3)+XO(1)
53	384	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1a	120	54	49.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・8/8・外・同じ	砂粒少・石英少	AC16(19)
53	385	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1c	(127)	54	49	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	AC16(12)
54	386	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1b	126	46	52.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	AC16(7)+AD15(4)
54	387	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1d	160	61	63.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	AC16(20)+AC15(2)+XO(1)
54	388	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1a	130	52	52.3	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/4・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少	AC16(7)+AD15(2)+XO(3)
54	389	AC・16	土師器	坏	Ⅰ1a	(113)	46	50.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・8/8	砂粒少・石英少	AD15(10)+AC16(2)+AC15(2)
54	390	X・O	土師器	坏	Ⅰ1c	(128)	(59)	(49.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・7/8	砂粒少・石英少	XO(3)
54	391	X・O	土師器	坏	Ⅰ1d	(130)	50	51	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・5YR・7/8・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(4)
54	392	X・O	土師器	坏	Ⅰ1c	(124)	54	42.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・7/2・外・7.5YR・7/6	砂粒少・石英少	XO(5)
54	393	X・O	土師器	坏	Ⅰ1c	(115)	47	42.5	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・10YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(2)
54	394	X・O	土師器	坏	Ⅰ1b	(124)	42	58	ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(8)
54	395	X・O	土師器	坏	Ⅰ1c	114	46	43	ロクロ	ロクロ	不明	不良	内・7.5YR・8/6・外・10YR・8/6	砂粒多・石英少	XO(7)
54	396	X・O	土師器	皿	Ⅲ2	(117)	(74)	20	ロクロ	ロクロ	静止糸	不良	内・7.5YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(1)
54	397	X・O	土師器	高台付耳皿	Ⅲ5				ロクロ	ロクロ		良	内・7.5YR・8/6・外7.5YR・8/4	砂粒少・石英少	XO(1)
54	398	X・O	土師器	耳皿	Ⅲ4		44		ロクロ	ロクロ		良	内・10YR・8/6・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(1)
54	399	X・O	土師器	坏	Ⅰ4		60		ロクロ・ケズリ	ロクロ・ミガキ	回転糸	良	内・7.5YR・7/6・外・同じ	砂粒少	XO(2)
54	400	X・O	ミニチュア土器			35	33	30.5	ナデ	ナデ		良	内・7.5YR・7/6・外7.5YR・6/6	石英少・黒色粒少・白色粒少・赤色粒少	XO(2)
54	401	X・O	製塩土器			124			ケズリ・ナデ	ハケメ・ナデ		良	内・5YR・6/6・外・同じ	砂粒少・石英少	XO(3)
54	402	X・O	土師器	小型平底甕	V		(62)		ロクロ	ロクロ	静止糸	良	内・10YR・8/4・外・同じ	砂粒多・石英少・赤色粒少	XO(1)
61	448	A地点	土師器	坏			49		ロクロ	ロクロ	回転糸	不良	内・10YR・8/6・外・10YR・7/4	砂粒少・石英少	A地点RP33(1)+RP34(1)+RP37(1)※同一個体含む
61	449	A地点	土師器	坏			48		ロクロ	ロクロ	回転糸	良	内・5YR・7/6外・7.5YR・8/6	砂粒少・石英少	A地点q10(1)+XO(1)
61	450	A地点	土師器	長胴甕					ハケメ	ナデ		良	内・7.5YR・6/4・外・同じ	砂粒少・石英少	A地点RP7(1)

1～402はB地点出土。448～450はA地点出土

表12　遺物観察表（９）　平安時代・土製品

挿図	番号	出土地点		種　別	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	焼成	色　調	混入物	グリッド毎出土点数
55	403	Ｂ地点	ＳＱ1001	土製品	42	45.5	35	良	10ＹＲ7/4	砂粒少	ＳＱ1001・Ｓ15(1)
55	404	Ｂ地点	Ｖ・15	土製品	76.5	25	21	良	5ＹＲ6/6	砂粒少	Ｖ15
55	405	Ｂ地点	ＳＸ1022	土製品	32	38	9	良	7.5ＹＲ7/6	砂粒少	ＳＸ1022
55	406	Ｂ地点	ＳＱ1018	土製品	23	16	9.5	良	7.5ＹＲ7/4	砂粒少	ＳＱ1018
55	407	Ｂ地点	Ｔ・10	支脚	126	100	168	良	内・7.5ＹＲ・6/4・外・5ＹＲ・6/6	砂粒多	Ｐ10(1)＋Ｔ10(2)＋ＸＯ(3)
55	408	Ｂ地点	Ｓ・12	支脚	(102)	(96)	161.5	不良	内・7.5ＹＲ・7/4・外7.5ＹＲ・6/4	砂粒多	Ｓ12(1)＋Ｔ10(1)
55	409	Ｂ地点	Ｙ・16	支脚	(106)	96	156	不良	内・7.5ＹＲ・6/4・外・5ＹＲ・6/6	砂粒多	Ｓ12(1)＋ＸＯ(1)＋Ｚ15(1)＋Ｙ16(1)
56	410	Ｂ地点	Ｕ・14	支脚	(104)	100	155	良	内・5ＹＲ・6/6・外・2.5ＹＲ・6/6	砂粒少・石英少	Ｕ14(1)＋ＸＯ(4)
56	411	Ｂ地点	ＳＸ1049	支脚	(110)	(96)	145	良	内・7.5ＹＲ・6/4・外7.5ＹＲ・7/6	砂粒少	ＳＸ1049(2)＋Ｑ14(1)＋Ｓ12(1)＋Ｓ11(1)＋ＸＯ(1)
56	412	Ｂ地点	Ｋ・18	支脚	95	88	169	良	内・7.5ＹＲ・7/6・外・同じ	砂粒多・石英少	Ｋ18(3)＋ＸＯ(2)＋Ｔ12(1)＋Ｊ18(1)
56	413	Ｂ地点	Ｎ・15	支脚	(104)			不良	内・7.5ＹＲ・6/6外・7.5ＹＲ・7/6	砂粒多	Ｎ15(1)＋Ｔ17(1)＋Ｚ14(1)＋ＸＯ(1)
図版		**出土地点**		**種　別**	**長(mm)**	**幅(mm)**	**厚(mm)**	**焼成**	**色　調**	**混入物**	**その他**
54		Ｂ地点	Ｔ・10	板状土製品	(9.2)	(10.8)	2.8	良	5ＹＲ・6/6	砂粒多	ヘラ状の工具によるナデ
54		Ｂ地点	Ｘ・Ｏ	羽口	(7.0)	(6.0)			内10ＹＲ6/6・外10ＹＲ2/1	砂粒少	被熱による変色・変形あり

表13　遺物観察表（10）　平安時代・石製品

挿図	番号	出土地点	グリッド	種　別		長(mm)	幅(mm)	厚(mm)
58	421	Ｂ地点	Ｓ・18	石製品	砥石	48.5	40	15

表14　遺物観察表（11）　平安時代・鉄滓

挿図	番号			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)
57	414	Ｘ・Ｏ	鉄滓	102.5	101	40
57	415	Ｘ・Ｏ	鉄滓	68.5	61	21.3
57	416	Ｘ・Ｏ	鉄滓	57	63.5	24
57	417	Ｘ・Ｏ	鉄滓	68.5	39	15
57	418	Ｘ・Ｏ	鉄滓	86	65.5	44.5
57	419	Ｘ・Ｏ	鉄滓	61	88	26.5
57	420	Ｘ・Ｏ	鉄滓	66.5	65	32

表15　遺物観察表（12）　縄文時代・石器

挿図	番号	地点	グリッド	石　材	器　種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	その他	備　考
58	422	Ｂ	Ｒ・18	流紋岩	石鏃	(24)	11.5	3.1		
58	423	Ｂ	Ｓ・18	黒曜石	石鏃	22.5	(13.5)	2.5		
58	424	Ｂ	Ｑ・15	頁岩	石篦	72	50	16		
58	425	Ｂ	Ｒ・14	流紋岩	石篦	94.5	55	24		
58	426	Ｂ	Ｑ・14	安山岩	石篦	63.5	37	16.5		
58	427	Ｂ	Ｓ・18	流紋岩	削器	51.5	42.3	12.5		422・428と同一石材
58	428	Ｂ	Ｒ・15	流紋岩	剥片	57	75	11		
58	429	Ｂ	Ｘ・Ｏ	頁岩	剥片	53	35.5	12		
59	430	Ｂ	Ｓ・23	頁岩	剥片	64	45	17		
59	431	Ｂ	Ｔ・17	頁岩	剥片	68	54	22		
59	432	Ｂ	Ｔ・17	流紋岩	剥片	35	36	6.5		
59	433	Ｂ	Ｘ・Ｏ	玉随	削器	37	20	5.5		
59	434	Ｂ	Ｗ・８	頁岩	剥片	57.5	38	6		
59	435	Ａ	ｐ・９	頁岩	剥片	38.5	45	13	ＲＱ３	
59	436	Ａ	ｋ・10	頁岩	石鏃	25	12	4		
59	437	Ａ	ｎ・０	頁岩	石匙	93.2	21	7.5	ＲＱ63	
59	438	Ａ	ｎ・４	頁岩	石匙	67	24	6		
60	439	Ａ	ｑ・８	玄武岩？	二次加工のある剥片	109.5	28	16.5	ＲＱ２	
60	440	Ａ	ｐ・－１	頁岩	削器	50	26	5.5	ＲＱ59	
60	441	Ａ	ｉ・６	頁岩	剥片	19	22.5	3	ＲＱ28	
60	442	Ａ	ｏ・12	頁岩	剥片	53	44	14		
60	443	Ａ	ｍ・１	頁岩	剥片	52	38.5	9	ＲＱ74	
60	444	Ａ	ｏ・８	頁岩	剥片	48	27	8	ＲＱ６	
60	445	Ａ	Ｘ・Ｏ	頁岩	剥片	38	56	10		
60	446	Ａ	ｍ・６	黒曜石	剥片	23.5	16	3.5		
60	447	Ａ	ｑ・－２	安山岩	凹石	97	63	57	ＲＱ46	

表16　遺物観察表（13）　縄文時代・土器

挿図	番号	地点	グリッド	器種	高(mm)	幅(mm)	厚(mm)	焼成	色　調	混入物	その他
61	451	A	i・4	深鉢	(51)	(44)	(9)	不良	内・10YR・6/4・ 外・同じ	砂粒多い・白色粒多い	
61	452	A	X・O	深鉢	(27)	(50)	(21)	良	内・10YR・7/6・ 外・同じ	砂粒少々・白色粒多い・赤色粒少々	
61	453	A	n・1	深鉢？	(25)	(44)	(8.5)	良	内・5YR・6/6・ 外・5YR・7/4	砂粒多い・石英多い	RP64
61	454	A	j・6	浅鉢	(34)	(69)	(8)	不良	内・10YR・8/4・ 外・同じ	砂粒多い・石英多い	RP87
61	455	A	l・5	浅鉢	(48)	(93)	(7.5)				RP41
61	456	A	j・6	深鉢	(47)	(63)	(13)	良	内・7.5YR・5/3・ 外7.5YR・6/6	砂粒少々・白色粒少々・赤色粒少々	RP18
61	457	A	j・7	深鉢	(80)	(128)	(13)	不良	内・7.5YR・7/6・ 外7.5YR・7/4	砂粒少々・石英少々・白色粒少々・ 赤色粒少々	RP13. RP79
61	458	A	j・7 J・12	深鉢	(88)	(89)	(20)	不良	内・7.5YR・7/6・・ 外・同じ	砂粒少々・石英少々・長石少々・白 色粒少々・赤色粒少々	RP80
61	459	A	q・－3	浅鉢	(54)	(78)	(8)	不良	内・10YR・7/4・ 外・同じ	砂粒少々・白色粒多い・金色粒多い	RP48. RP58
61	460	A	l・－1	深鉢	(49)	(66)	(6)	不良	内・7.5YR・6/4・ 外7.5YR・7/4	石英少々・白色粒少々・赤色粒少々	RP69
61	461	A	m・0	深鉢	(37)	(39)	(8)	不良	内・10YR・5/3・ 外・10YR・6/3	砂粒多い・石英多い	RP72
61	462	A	m・0	深鉢	(37)	(52)	(5)	不良	内・10YR・6/4・ 外・10YR・5/4	砂粒多い・石英多い	RP72
61	463	A	l・－2	深鉢	(38)	(53)	(8)	不良	内・10YR・8/4・ 外・同じ	砂粒多い・石英多い	RP66
61	464	A	m・0	深鉢	(33)	(52)	(7)	良	内・10YR・5/2・ 外・10YR・8/6	石英少々・白色粒少々・赤色粒少々	RP73
61	465	A	q・0	深鉢	(34)	(52)	(10)	不良	内・10YR・4/2・ 外・10YR・6/4	白色粒少々	RP42
61	466	A	l・－1	深鉢	(49)	(49)	(8)	不良	内・10YR・5/3・ 外・10YR・6/6	白色粒少々・金色粒少々	RP67
61	467	A	q・－2	深鉢	(23)	(42)	(7)	良	内・10YR・5/3・ 外・10YR・6/3	砂粒少々・白色粒多い	RP45
62	468	A	l・5	深鉢	(60)	(108)	(9)	不良	内・10YR・7/3・ 外・同じ	砂粒少々・石英少々・白色粒少々・ 金色粒少々	
62	469	A	l・5	深鉢	(50)	(62)	(9)	不良	内・10YR・6/4・ 外・10YR・7/4	石英少々・白色粒少々・赤色粒 少々・金色粒少々	RP10
62	470	A	i・6	深鉢	(74)	(47)	(12)	不良	内・10YR・5/3・ 外・7.5YR・6/4	砂粒多い・石英多い	RP20
62	471	A	i・7	深鉢	(48)	(35)	(30)	良	内・10YR・6/4・ 外・7.5YR・7/6	砂粒少々・白色粒少々	RP24
62	472	A	i・7	深鉢	(38)	(34)	(10)	不良	内・10YR・4/1・ 外・10YR・5/4	石英少々・白色粒少々	RP22
62	473	A	n・0	深鉢	(39)	(45)	(11)	不良	内・7.5YR・7/2・ 外7.5YR・6/6	砂粒少々・石英少々・白色粒少々	RP30
62	474	A	p・0 p・1	深鉢	(65)	(68)	(10)	良	内・7.5YR・5/4・ 外・10YR・6/6	砂粒多い・石英多い・白色粒多い・ 赤色粒少々・金色粒多い	RP76・ RP78
62	475	A	i・7	深鉢	(53)	(46)	(11)	不良	内・10YR・5/4・ 外・10YR・6/6	砂粒少々・白色粒少々	RP82
62	476	A	n・1	浅鉢？	(33)	(52)	(11)	良	内・7.5YR・5/4・ 外7.5YR・5/2	砂粒多い・石英多い	RP65
62	477	A	j・6	深鉢	(57)	(72)	(11)	不良	内・7.5YR・4/1・ 外7.5YR・5/4	砂粒多い・石英少々・白色粒少々・ 金色粒少々	RP84
62	478	A	j・6	深鉢	(47)	(57)	(12)	不良	内・7.5YR・5/2・ 外7.5YR・6/4	砂粒少々・白色粒多い・石ころ少々	RP85
62	479	A	q・0	深鉢	(34)	(41)	(9)	良	内・10YR・3/1・ 外・10YR・6/4	砂粒多い・石英多い	RP75
62	480	A	q・0	深鉢	(41)	(54)	(9)	不良			RP75
62	481	A	o・9	深鉢	(47)	(32)	(6)	不良			RP5
62	482	A	o・9	深鉢	(36)	(26)	(6)	良	内・7.5YR・7/3・ 外7.5YR・6/4	砂粒少々・石英少々・黒色粒少々・ 白色粒少々・金色粒少々	RP4
62	483	A	e・7	深鉢	(31)	(64)	(13)	不良	内・10YR・7/4黄橙・ 外・同じ	砂粒多い・石英多い	RP91
62	484	A	l・5	深鉢	(15)	(74)	(7)	不良	内・10YR・7/4・ 外・同じ	砂粒多い・石英多い	RP11
62	485	B	J・18	深鉢	(64)	(108)	(9)	不良	内・7.5YR・8/4・ 外7.5YR・7/4	砂粒多い・石英多い・長石少々	
62	486	B	C・9 Q・9 Q・10	壺	(62)	(120)	(8)	良	内・7.5YR・7/6・ 外7.5YR・7/4	砂粒多い・石英少々・雲母少々	
62	487	B	AA・11	深鉢底部	(24)	(116)	(14)	不良	内・10YR・8/6・ 外・10YR・7/6	砂粒多い・石英多い	

表17　Ｂ地点遺構・グリッド毎器種集計表（１）

種別	器種
器種細分	重量
破片数	g

番号	出土地点	土師器 坏		土師器 坏		土師器 内黒坏		土師器 高台坏		土師器 高台坏		土師器 台付皿		土師器 皿		土師器 耳皿		土師器 鉢		土師器 台付鉢		土師器 台付鉢		土師器 鉢		土師器 脚付鉢		土師器 鉄鉢	
		Ⅰ1	重量	Ⅰ2～4･7	重量	Ⅰ5･6	重量	Ⅱ1	重量	Ⅱ5･6	重量	Ⅲ1	重量	Ⅲ2･3	重量	Ⅲ4･5	重量	Ⅳ1	重量	Ⅳ2	重量	Ⅳ3	重量	Ⅳ4～6	重量	Ⅳ7	重量	Ⅳ8	重量
1	ＳＱ 1001	394	1148			2	11																						
2	ＳＱ 1002	167	548							1	7																		
3	ＳＱ 1003	1	5																										
4	ＳＱ 1004	79	946																										
5	ＳＱ 1005	42	208																										
6	ＳＱ 1006	180	643			1	1																						
7	ＳＱ 1007	144	888			1	1																			1	125		
8	ＳＸ 1011	23	62																										
9	ＳＱ 1012	18	29																										
10	ＳＱ 1013	1	1																										
11	ＳＱ 1014	2	8																										
12	ＳＱ 1015	4	7																										
13	ＳＱ 1017	3	4																										
14	ＳＱ 1018	46	453	1	41	2	26																						
15	ＳＱ 1019	1	9																										
16	ＳＱ 1020	72	565																										
17	ＳＸ 1021	490	3283	2	66	6	305			8	225			7	64							1	105			1	174		
18	ＳＸ 1022	107	560			1	7															1	170						
19	ＳＱ 1023	1	18																										
20	ＳＱ 1024	39	317																										
21	ＳＱ 1025	489	2257			2	128			1	19																		
22	ＳＱ 1026	452	2143			1	2																	1	119				
23	ＳＱ 1027	177	1346	1	23																								
24	ＳＱ 1028	248	2761	1	30	2	20			1	5													2	31				
25	ＳＱ 1029	564	3227	2	46	4	20																	2	2				
26	ＳＱ 1030	296	2141	1	11	3	59			3	18													7	104				
27	ＳＱ 1032	284	2751			1	5																			2	1210		
28	ＳＱ 1033	74	510																										
29	ＳＸ 1034	480	3133																					4	9				
30	ＳＫ 1036	2	8			1	55																						
31	ＳＱ 1037	122	720	1	69																								
32	ＳＱ 1039	91	897			2	7																						
33	ＳＱ 1040	10	87	1	267	2	544																						
34	ＳＱ 1041	42	180																										
35	ＳＱ 1042	46	165																										
36	ＳＱ 1043	8	106																										
37	ＳＱ 1044	200	1920																										
38	ＳＱ 1045	57	104																	1	333								
39	ＳＱ 1046	1103	6991	2	145					2	132	1	85	1	44														
40	ＳＱ 1047	21	296																										
41	ＳＱ 1048	194	597																										
42	ＳＸ 1049	521	4363	4	333	2	46													1	332								
43	ＳＰ 1050	2	8																										
44	ＳＰ 1055	3	15																										
45	Ｃ　17	6	10																										
46	Ｄ　8	84	331																										
47	Ｄ　9	252	945	1	13																								
48	Ｄ　10	98	311																										
49	Ｄ　11	3	5																										
50	Ｉ　16	2	19																										

土師器 長胴甕		土師器 平底甕		土師器 突帯付甕		土師器 甕		土師器 鍋		土師器 小片		ミニチュア土器		須恵器 甕		須恵器 壺		須恵器 坏		須恵器 高台坏		その他									
V1～2	重量	V3～9	重量	V13	重量	V14	重量	Ⅵ	重量		重量		重量		重量		重量		重量		重量	製塩土器	重量	土製品	重量	支脚	重量	その他	重量	不明	重量
53	509	106	1021					2	32		35											1	9	1	41			4	22		
13	82	57	270					1	26		14					2	156									1	30	5	15		
2	76	7	185					3	217		5																				
1	10	2	30					2	157		7																				
5	50	10	130					6	330		14																			2	11
10	108	21	185					6	251		7																	19	107		
		4	47					1	11		4																	1	1		
5	16	10	48								9																				
3	133	7	343					7	288		3													1	2			5	49		
7	65	7	78					1	30		1																				
91	1364	87	1035					24	1677		23											1	98			1	55	3	55		
8	68	23	158								5													1	7					1	23
11	264	10	344								2											1	1145							1	9
62	675	53	770					9	480		70							2	244									12	25		
32	576	92	1264					1	119		45			1	3000													1	1		
27	560	34	1016					9	630		5																	1	3	1	20
1	81	22	206					4	122		10																	1	1		
30	585	49	626					14	543		19																	11	47	1	9
17	660	26	506					3	187		21																				
9	412	26	1136								11																			1	30
6	27	31	320					3	216																						
52	655	115	1679					35	1834		61					3	3156														
49	1194	26	755					17	600		9																				
13	127	16	330								1																	1	2		
		2	11								1																				
		5	14					1	46																			1	5	2	3
5	64	1	3								3																				
1	5																														
7	704	14	339					2	37		16																	3	15		
		2	10																												
28	460	52	908								87																				
18	197	28	266					1	55		10																				
32	426	52	1147					9	568		34			1	7500											1	420	2	7		
1	3	4	29																												
6	48	4	28					3	167		16																	1	3		
15	119	25	254					25	895		18																				
13	127	8	55					3	106		14																				
								5	77																						

表18　B地点遺構・グリッド毎器種集計表（２）

種別	器種
器種細分	重量
破片数	g

番号	出土地点		土師器　坏		土師器　坏		土師器　内黒坏		土師器　高台坏		土師器　高台坏		土師器　台付皿		土師器　皿		土師器　耳皿		土師器　鉢		土師器　台付鉢		土師器　台付鉢		土師器　鉢		土師器　脚付鉢		土師器　鉄鉢	
			Ⅰ1	重量	Ⅰ2～4･7	重量	Ⅰ5･6	重量	Ⅱ1	重量	Ⅱ5･6	重量	Ⅲ1	重量	Ⅲ2･3	重量	Ⅲ4･5	重量	Ⅳ1	重量	Ⅳ2	重量	Ⅳ3	重量	Ⅳ4～6	重量	Ⅳ7	重量	Ⅳ8	重量
51	J	16	7	35																										
52	J	17	328	1482	2	43																								
53	J	18	177	835																										
54	J	21	2	10																										
55	K	11																												
56	K	12	61	245																										
57	K	16	49	162																										
58	K	17	65	270																										
59	K	18	513	1952	1	8			2	69																				
60	K	20	3	19																										
61	K	21	3	11																										
62	K	22	12	32																										
63	L	9	1	11																										
64	L	12	33	173							1	15																		
65	L	13	24	212							1	14																		
66	L	14	19	52																										
67	L	17	57	185																										
68	L	18																												
69	L	20	5	3																										
70	L	21	2	7																										
71	L	22	6	48			1	2																						
72	M	8	276	996																										
73	M	9	30	140																										
74	M	11	13	136																										
75	M	12	18	787					1	11																				
76	M	13	58	396			1	2																						
77	M	14	38	159																										
78	M	16	30	125																										
79	M	17	10	47																										
80	M	18	89	294																										
81	M	20	8	17																										
82	M	21	2	1																										
83	N	8	455	590																										
84	N	9	12	60																										
85	N	10	29	144																										
86	N	11	174	897	1	27																								
87	N	12	34	171																										
88	N	13	40	98																										
89	N	14	128	442																										
90	N	15	28	132																										
91	N	16	10	11																										
92	N	17	53	212																										
93	N	18	29	460											1	81														
94	N	20	11	127																										
95	N	21	5	12																										
96	O	8	2	5																										
97	O	9	1	2																										
98	O	10	378	1287																										
99	O	11	89	673	1	95																								
100	O	12	16	40	2	51																								

土師器 長胴甕		土師器 平底甕		土師器 突帯付甕		土師器 甕		土師器 鍋		土師器 小片		ミニチュア土器		須恵器 甕		須恵器 壺		須恵器 坏		須恵器 高台坏		その他									
V1～2	重量	V3～9	重量	V13	重量	V14	重量	Ⅵ	重量		重量		重量		重量		重量		重量		重量	製塩土器	重量	土製品	重量	支脚	重量	その他	重量	不明	重量
		1	4								2																				
12	210	10	134					2	16		32																				
6	86	12	98								17																				
5	48	12	145								2																				
2	6	21	142					1	11		8																				
3	22	5	35					3	34		2																			2	3
20	189	72	691					24	357		56															1	875	1	4	6	22
		2	9																												
5	49	5	69					2	23		4																				
8	55	1	3								3																				
2	13	3	31								1																				
7	103	11	91								3																				
1	6																														
3	42																														
20	161	19	132					13	415		16																	9	20	4	24
3	32	4	9					1	18																						
		2	22															2	28	1	23							1	4		
14	174	6	34								7																	3	12		
											1																	1	10		
1	31	14	88					5	113		2																				
3	19	8	45					4	31		1																				
1	2	1	4					1	39																						
3	26	13	73					7	326		5																				
1	4																														
14	138	3	18					6	153		18																	5	13		
2	26																														
		1	3					2	83																						
6	34	22	140					22	392		25					1	65											1	5	3	4
5	34	4	53								3																				
1	4	1	7								1																				
3	31	4	27					1	24		5																				
1	6	1	9								4															1	304				
2	27										1																				
7	64	23	390					5	108		11																			2	3
9	117	26	172					12	216		14																	3	15		
1	15	4	76								4																				
								1	39																						
20	340	18	345					12	480		60																	5	72	2	3
7	42	23	1380					13	798		1																				
5	83	25	93					7	218																			2	7		

表19　B地点遺構・グリッド毎器種集計表（3）

種別	器種
器種細分	重量
破片数	g

番号	出土地点		土師器　坏		土師器　坏		土師器　内黒坏		土師器　高台坏		土師器　高台坏		土師器　台付皿		土師器　皿		土師器　耳皿		土師器　鉢		土師器　台付鉢		土師器　台付鉢		土師器　鉢		土師器　脚付鉢		土師器　鉄鉢	
			Ⅰ1	重量	Ⅰ2～4・7	重量	Ⅰ5・6	重量	Ⅱ1	重量	Ⅱ5・6	重量	Ⅲ1	重量	Ⅲ2・3	重量	Ⅲ4・5	重量	Ⅳ1	重量	Ⅳ2	重量	Ⅳ3	重量	Ⅳ4～6	重量	Ⅳ7	重量	Ⅳ8	重量
101	O	13	83	402																										
102	O	14	230	1019			3	27																						
103	O	16	3	9																										
104	O	18			1	25	4	7																						
105	O	19																												
106	O	20																												
107	P	7	17	46																										
108	P	8	236	990																										
109	P	9	118	643																										
110	P	10	332	1150	1	26	3	18																						
111	P	11	280	1394	2	199	5	71											1	191										
112	P	12	267	900	1	63	1	73																						
113	P	13	218	746			6	10																						
114	P	14	378	925			5	12																						
115	P	15	111	275																										
116	P	16	190	500																										
117	P	17	80	260	1	4	1	4																						
118	P	18	73	310			1	2																						
119	P	19	13	32																										
120	P	20	14	45			1	4																						
121	Q	7	33	135																										
122	Q	8	264	1408			2	5																						
123	Q	9	1036	4128	1	17	1	2																						
124	Q	10	138	710			3	65																						
125	Q	11	420	1223			3	5																						
126	Q	12	1003	4213	1	102	25	153					1	103					1	384					1	89				
127	Q	13	257	684			11	26																						
128	Q	14	461	2318	3	36	29	403																						
129	Q	15	338	962			6	45			3	33																		
130	Q	16	323	895			1	4																						
131	Q	17	41	147			1	1																						
132	Q	18	30	117																										
133	Q	20	140	500			1	11																						
134	Q	21	4	8																										
135	R	8	105	250																										
136	R	9	334	845																										
137	R	10	23	71																										
138	R	11	477	1323	1	63	6	18																						
139	R	12	440	2007	1	134	16	304	1	134																				
140	R	13	253	1052			14	46																						
141	R	14	328	1081	1	42	3	21																						
142	R	15	270	830	1	5	1	1			1	6																		
143	R	16	453	1140	3	22	17	95																						
144	R	17	237	670			1	1																						
145	R	18	81	201							1	4																		
146	R	19																												
147	R	20	1	2																										
148	R	22	2	6																										
149	S	9	11	55																										
150	S	10	68	470	2	110																								

土師器 長胴甕		土師器 平底甕		土師器 突帯付甕		土師器 甕		土師器 鍋		土師器 小片		ミニチュア土器		須恵器 甕		須恵器 壺		須恵器 坏		須恵器 高台坏		その他									
V1～2	重量	V3～9	重量	V13	重量	V14	重量	Ⅵ	重量		重量		重量		重量		重量		重量		重量	製塩土器	重量	土製品	重量	支脚	重量	その他	重量	不明	重量
3	5	17	199					1	4		4																				
24	194	47	380					8	144		6																				
		3	21																												
16	142	42	380					11	182		16																	4	26	3	12
1	4	3	6																												
		6	22								1																				
1	14										2																				
22	347	29	782					10	250		19																	1	11		
8	84	12	168																												
50	570	74	621					21	448		55																	4	38	3	4
47	649	81	914					44	991		28																				
55	706	148	505					9	340		45																	8	18	4	14
22	256	38	405								10																	5	24		
55	690	53	348					1	19		35																			10	92
18	65	14	87								12																			7	9
18	200	35	245					3	89		29			1	11													15	93	2	7
19	168	76	400					8	247		5																	2	11		
9	86	7	59					4	71																						
4	17	1	21																												
2	17	8	23								3																				
		1	108					3	60																						
3	40	7	246					18	573		33																				
45	729	97	1444					63	1293		199															1	34	16	46	7	9
2	26	7	54					6	95		5																	1	6		
62	527	103	954					18	452		63																	1	1		
142	1518	314	2920					54	1762		177																	11	52	7	32
29	167	53	337					2	39		47																	10	41	1	2
128	949	134	960					5	100		138	1	13															10	28		
78	600	134	1131					8	166		88							1	5									9	26		
25	187	81	519					5	63		36																				
5	17	9	88					3	107																						
2	104	7	84																												
9	86	15	165					5	75		3					2	613											2	7		
		2	15																												
2	11	12	168								17																				
4	66	15	131					7	270		30																				
1	14	3	16					1	32																						
41	715	71	556					12	260		69																	20	39	1	6
190	2462	211	2265	1	384			8	318		54															1	28	8	27		
56	460	108	647					2	46		16					2	619											2	7	1	11
70	467	95	527					8	220		55											3	60			3	192	2	2	8	57
35	265	69	390					4	77		35													1	4	3	188	5	16	3	7
71	425	160	850					9	150		101															2	71	6	22	7	9
57	580	79	510					5	113		23																	3	11		
11	75	8	54								15																				
		1	12																												
		2	28																												
		2	5																												
2	23	1	17													3	85														
22	155	36	210					4	185		11																			4	15

表20　B地点遺構・グリッド毎器種集計表（4）

種別	器種
器種細分	重量
破片数	g

番号	出土地点	土師器 坏		土師器 坏		土師器 内黒坏		土師器 高台坏		土師器 高台坏		土師器 台付皿		土師器 皿		土師器 耳皿		土師器 鉢		土師器 台付鉢		土師器 台付鉢		土師器 鉢		土師器 脚付鉢		土師器 鉄鉢	
		Ⅰ1	重量	Ⅰ2～4・7	重量	Ⅰ5・6	重量	Ⅱ1	重量	Ⅱ5・6	重量	Ⅲ1	重量	Ⅲ2・3	重量	Ⅲ4・5	重量	Ⅳ1	重量	Ⅳ2	重量	Ⅳ3	重量	Ⅳ4～6	重量	Ⅳ7	重量	Ⅳ8	重量
151	S 11	362	983	1	28	8	86																						
152	S 12	1412	5649	1	71	41	330			1	71																		
153	S 13	10	20																										
154	S 14	186	550			2	13																	1	37				
155	S 15	267	730	2	30	2	4																						
156	S 16	236	630			2	7																						
157	S 17	384	1186	2	9	1	3																						
158	S 18	250	774	1	4																								
159	S 19	132	410	1	19	1	2																						
160	S 20	4	17																										
161	S 22	20	65																										
162	T 9	87	290																										
163	T 10	1936	11241	11	304	1	16	1	165	1	6											1	39					1	89
164	T 11	980	4310	1	13	17	268			1	6																		
165	T 12	297	1186			3	129	2	158																				
166	T 13	2	6																										
167	T 14	109	251			2	14																						
168	T 15	150	561			1	27																						
169	T 16	200	475	1	11					1	2																		
170	T 17	166	620																										
171	T 18	169	560																										
172	T 20	7	21																										
173	U 8	81	296																										
174	U 9	44	126																										
175	U 10	42	120	1	1																					1	515		
176	U 11	165	813																										
177	U 12	210	725	1	15																								
178	U 13	142	566																										
179	U 14	123	395			1	2			1	33																		
180	U 15	56	131																										
181	U 16	28	89																										
182	U 17	106	305			1	2																						
183	U 18	51	157																										
184	U 19	40	185							2	31																		
185	V 10	140	795			1	5																						
186	V 11	694	2549			3	7																						
187	V 12	222	1148			2	39																						
188	V 13	97	341			2	10																						
189	V 14	48	165																										
190	V 15	83	232																										
191	V 17	72	151																										
192	V 18	90	296			1	3																						
193	V 19	6	17																										
194	W 10																												
195	W 11	297	1020			2	20																						
196	W 12	489	2089	1	15	12	164																						
197	W 13	413	1625	1	29	5	19			2	17																		
198	W 14	40	164	1	10																								
199	W 15	62	470	1	4	5	12																						
200	W 16	21	60	1	8																								

土師器 長胴甕		土師器 平底甕		土師器 突帯付甕		土師器 甕		土師器 鍋		土師器 小片		ミニチュア土器		須恵器 甕		須恵器 壺		須恵器 坏		須恵器 高台坏		その他									
V1～2	重量	V3～9	重量	V13	重量	V14	重量	Ⅵ	重量		重量		重量		重量		重量		重量		重量	製塩土器	重量	土製品	重量	支脚	重量	その他	重量	不明	重量
67	515	74	673					3	90		43															1	20			4	3
235	2836	719	3809					15	650		188			1	6							1	7			2	531	10	21	5	30
20	100	52	260					1	36		23							1	1									6	16	2	10
19	115	71	410								10											1	5							7	26
17	130	87	500								53																	4	9	3	21
51	287	144	809					3	75		65																			4	6
40	240	81	503								47																	1	4	1	6
14	70	20	163								23																	1	3		
2	57																														
2	5	9	90								3																				
217	2781	374	4253					47	2535		110					4	1450							5	159	1	1020			4	20
48	505	115	912					4	279		74																	5	10	1	3
31	222	66	612								8																	1	2	2	4
6	61	9	53					2	123		7					1	4											4	14		
19	63	40	244					2	7		17			1	14													1	4		
40	287	58	562			1	133	2	74		11							1	2									1	4		
32	307	51	282					2	48		30																	2	9		
12	79	34	253								14																			1	18
		5	46								2																				
		5	50					1	220																					2	3
26	274	45	670					2	145		16																	6	54	3	5
21	130	85	590								32																				
11	198	24	151								6																			1	9
12	71	14	88								12															1	630				
3	35	5	22								1																				
6	59	8	91																											1	9
5	79	10	82								20													1	14						
2	19	7	77								8																				
4	29	5	70																												
13	135	10	435					1	27		14																	9	32		
8	164	96	885					8	225		135																	8	33		
12	95	39	546					4	209		38																	8	21	1	4
4	66	8	89					1	23		9																	4	10		
1	2	3	54								5																				
4	14	17	88					1	20		6																				
4	30	12	68					3	62		3																				
8	49	12	110					4	59		12																			1	2
		3	9																												
1	48																														
7	92	49	430					25	620		74													1	13			2	2		
								1	362																			2	31		
15	122	133	1197					10	292		25																				
2	35	8	73																												
4	33	17	184					4	63		58																	5	8		
		1	8																												

表21　B地点遺構・グリッド毎器種集計表（5）

種別	器種
器種細分	重量
破片数	g

番号	出土地点	土師器 坏		土師器 坏		土師器 内黒坏		土師器 高台坏		土師器 高台坏		土師器 台付皿		土師器 皿		土師器 耳皿		土師器 鉢		土師器 台付鉢		土師器 台付鉢		土師器 鉢		土師器 脚付鉢		土師器 鉄鉢	
		Ⅰ1	重量	Ⅰ2～4・7	重量	Ⅰ5・6	重量	Ⅱ1	重量	Ⅱ5・6	重量	Ⅲ1	重量	Ⅲ2・3	重量	Ⅲ4・5	重量	Ⅳ1	重量	Ⅳ2	重量	Ⅳ3	重量	Ⅳ4～6	重量	Ⅳ7	重量	Ⅳ8	重量
201	W 17	21	79																										
202	W 18	76	331																										
203	W 19	85	302																										
204	X 11	19	54			1	32																						
205	X 12	190	837	2	26	2	9									2	5												
206	X 13	216	896	1	7					1	5													1	48				
207	X 14	250	815			1	5			1	8																		
208	X 15	316	1040			5	42																						
209	X 16	97	350	1	19																								
210	X 17	11	23																										
211	X 19	34	92																										
212	Y 3	2	24																										
213	Y 10	237	1230	2	5	1	3																						
214	Y 11	2	6																										
215	Y 12	127	450							2	13																		
216	Y 13	10	113			1	7																						
217	Y 14	209	700																										
218	Y 15	230	950	2	23	1	10			1	22																		
219	Y 16	104	380							1	36																		
220	Y 17	31	60																										
221	Y 18	15	48																										
222	Y 19	49	88																										
223	Z 12	2	4																										
224	Z 13	83	333																										
225	Z 14	265	1000	1	5																								
226	Z 15	211	640							1	15																		
227	Z 16	207	793	1	12					1	6																		
228	Z 17	23	50																										
229	Z 18	111	300																										
230	Z 19	40	165																										
231	AA 12	2	77																										
232	AA 13	5	8																										
233	AA 17	53	255																										
234	AA 18																												
235	AA 19	2	6																										
236	AB 11																												
237	AB 12																												
238	AB 14	2	3																										
239	AB 17	3	9																										
240	AB 18	137	635																										
241	AB 19	53	273																										
242	AC 14	3	7																										
243	AC 15	148	1663																										
244	AC 16	393	2240																										
245	AC 17	102	620																										
246	AC 18	73	254																										
247	AC 19	3	2																										
248	AD 15	299	1519																										
249	AD 16	4	11																										
250	XO	132718	57153	32	396	105	626	3	31	29	465			2	54					3	112								
		169893	221804	114	3180	439	4591	10	568	69	1214	2	188	11	243	2	5	2	575	5	777	3	314	19	439	5	2024	1	89

土師器 長胴甕		土師器 平底甕		土師器 突帯付甕		土師器 甕		土師器 鍋		土師器 小片		ミニチュア土器		須恵器 甕		須恵器 壺		須恵器 坏		須恵器 高台坏		その他									
V1～2	重量	V3～9	重量	V13	重量	V14	重量	Ⅵ	重量		重量		重量		重量		重量		重量		重量	製塩土器	重量	土製品	重量	支脚	重量	その他	重量	不明	重量
2	17										2											1	19								
15	82	13	87					1	16		2																				
		9	58								13											1	24					1	1		
		1	64								1																				
6	159	15	283					5	253		14																				
10	50	42	390					12	227		37																	2	14		
16	225	30	491					10	264		28																			2	1
6	26	28	303					4	47		35																	2	13	3	6
2	11	14	62					3	94		36																	3	5		
2	10	9	99																											3	3
9	188	43	460					7	290		9																	5	10		
3	124	16	124								22																				
		17	280					1	60																			2	7		
5	22	17	102								23																	3	17	3	4
22	276	56	550								24																	2	6	2	2
4	65	21	138								6																	2	5		
		1	9								1																				
		2	8					3	32																						
		18	119								14																	1	40		
4	82	16	197					3	36		5																	1	9		
22	235	74	725					4	162		24																	24	64	6	9
3	10	27	134								38																				
3	22	17	94					8	178		29																				
		9	23																									1	1		
11	120	32	203					5	63		28																				
1	2	7	41					2	60		15																				
		1	2								1																				
7	95	6	99								2							1	6			2	68								
1	18										6																				
1	2	1	3																												
17	215	32	450					9	460		20																	1	2		
4	28	17	158					2	56		6											3	76					2	12	1	2
		2	28								2																				
2	7	3	128								21																				
5	48	12	134								32																				
17	337	16	248					6	312		15																				
6	104	17	137					4	113		41																				
		1	12								1																				
		2	15								45																				
1	17																														
1270	13723	4472	39850					663	21524		2100	2	26	3	147	5	49	3	12			1	149	6	156	4	322	206	772		
4824	54330	11687	107924	1	384	1	133	1609	53327		6274	3	39	8	10678	23	6197	11	298	1	23	16	1660	17	396	24	4720	585	2337	159	656

表22　B地点遺構別器種重量グラフ（1）

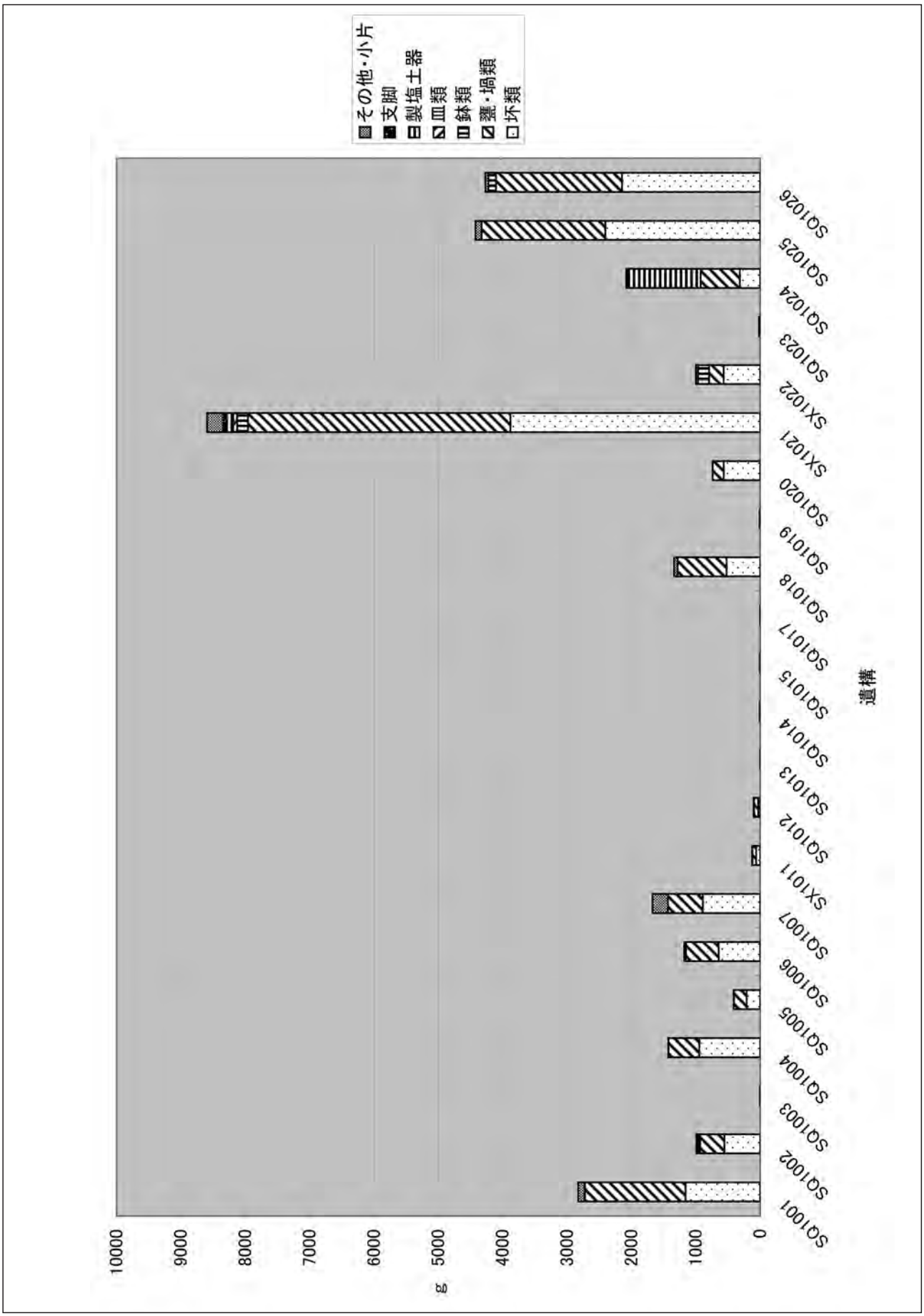


表23　B地点遺構別器種百分比グラフ（1）

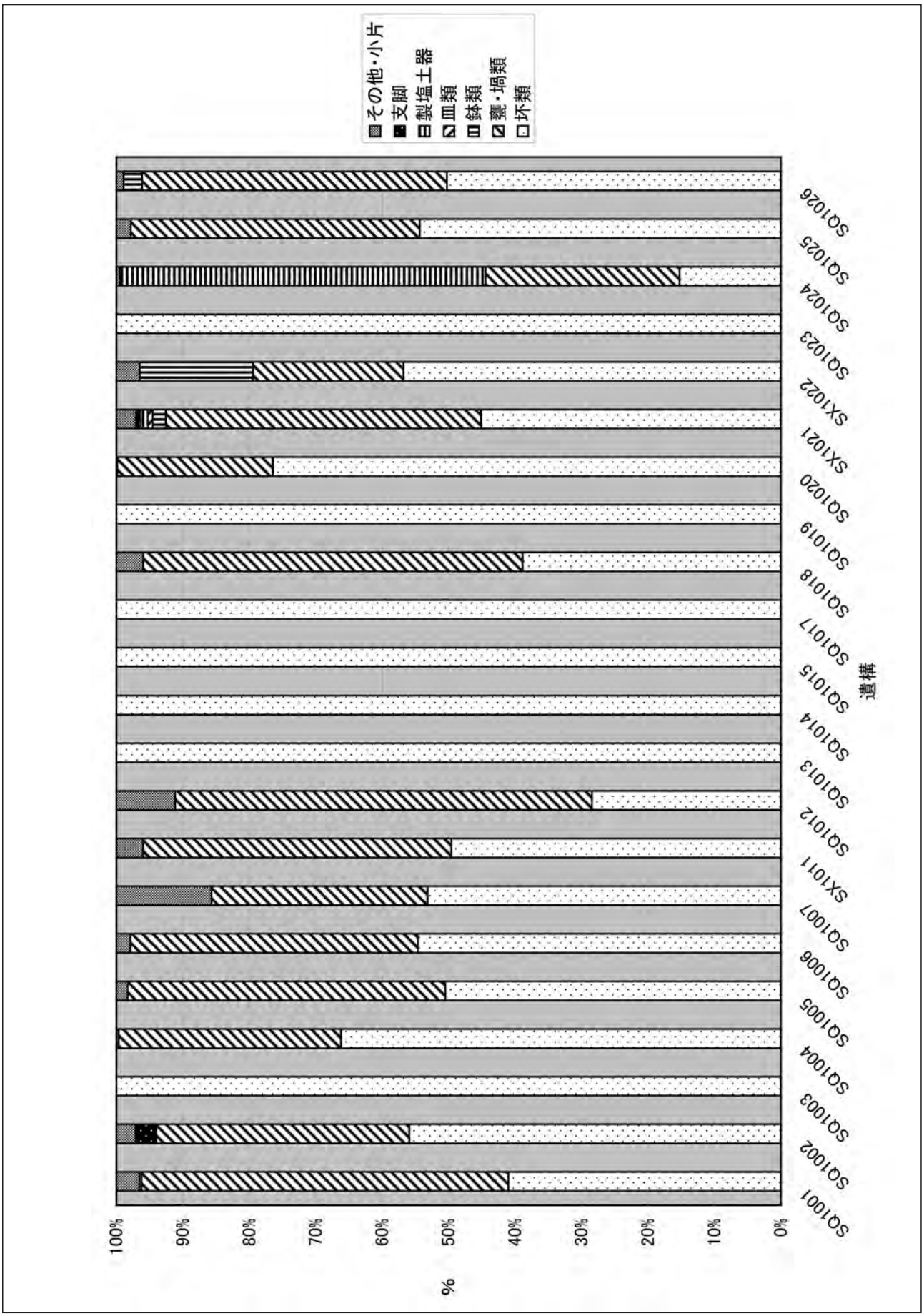


表24　B地点遺構別器種重量グラフ（2）

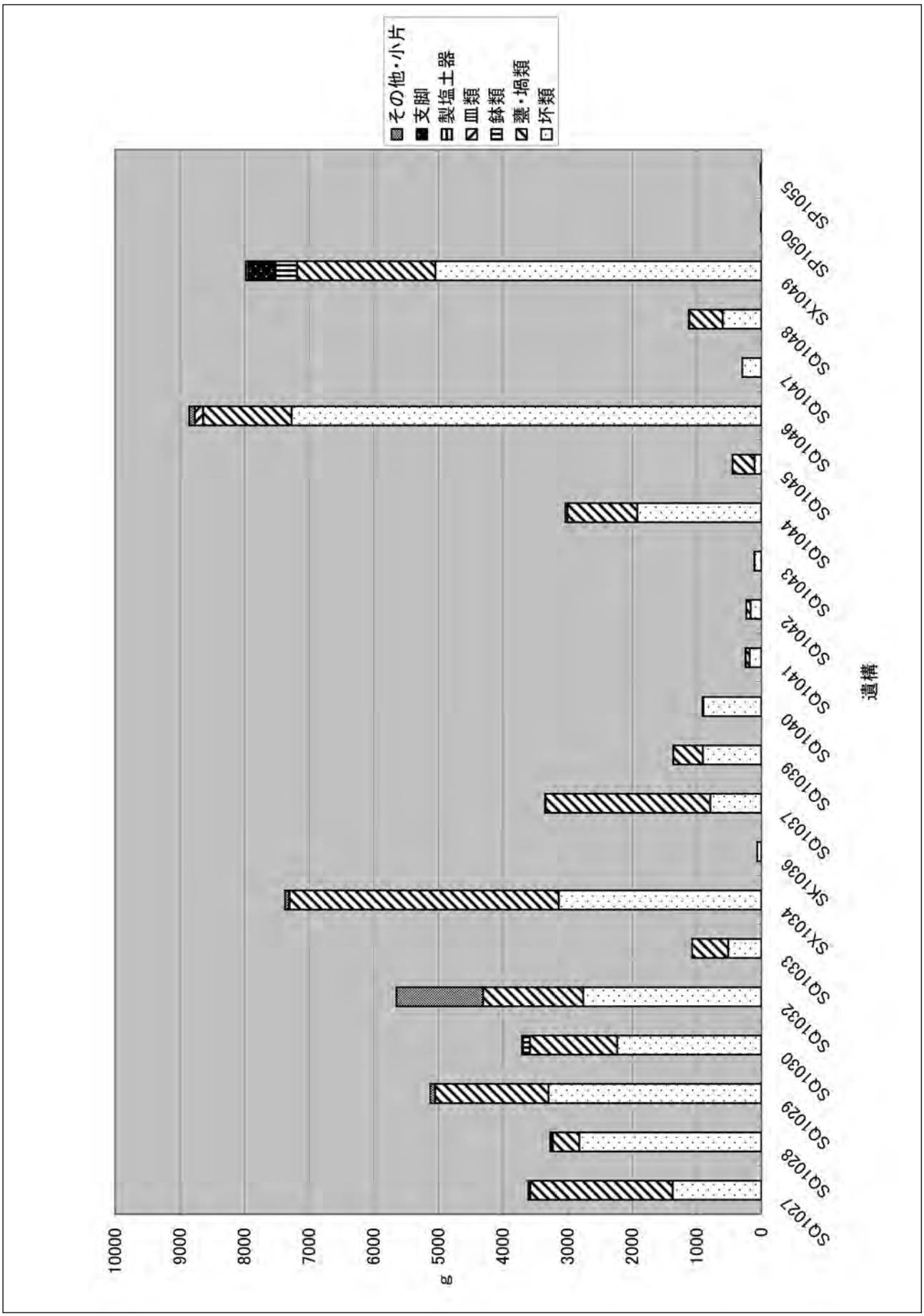


表25　B地点遺構別器種百分比グラフ（2）

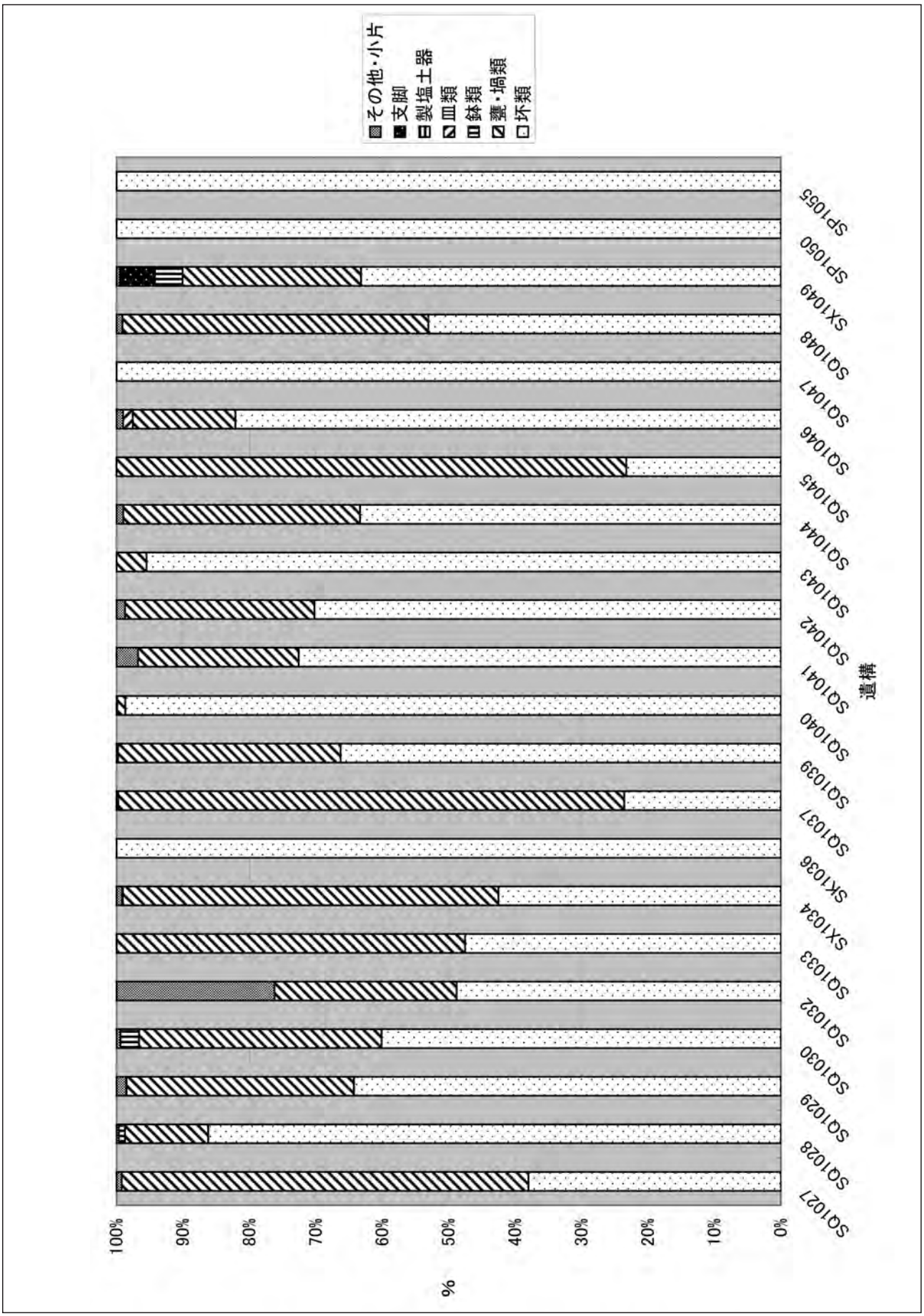


表26　B地点　遺構別器種重量表

（単位ｇ）

番号	グリッド・遺構	坏類	皿類	鉢類	甕・堝類	製塩土器	支脚	その他・小片	グリッド・遺構　計
1	ＳＱ1001	1159			1561	9		98	2827
2	ＳＱ1002	555			378		30	29	992
3	ＳＱ1003	5							5
4	ＳＱ1004	946			478			5	1429
5	ＳＱ1005	208			197			7	412
6	ＳＱ1006	644			510			25	1179
7	ＳＱ1007	889			544			239	1672
8	ＳＸ1011	62			58			5	125
9	ＳＱ1012	29			64			9	102
10	ＳＱ1013	1							1
11	ＳＱ1014	8							8
12	ＳＱ1015	7							7
13	ＳＱ1017	4							4
14	ＳＱ1018	520			764			54	1338
15	ＳＱ1019	9							9
16	ＳＱ1020	565			173			1	739
17	ＳＸ1021	3879	64	169	4076	98	55	252	8593
18	ＳＸ1022	567		170	226			35	998
19	ＳＱ1023	18							18
20	ＳＱ1024	317			608	1145		11	2081
21	ＳＱ1025	2404			1925			95	4424
22	ＳＱ1026	2145		119	1959			46	4269
23	ＳＱ1027	1369			2206			28	3603
24	ＳＱ1028	2816		31	409			11	3267
25	ＳＱ1029	3293		2	1753			75	5123
26	ＳＱ1030	2229		104	1353			21	3707
27	ＳＱ1032	2756			1548			1342	5646
28	ＳＱ1033	510			563				1073
29	ＳＸ1034	3133		9	4168			61	7371
30	ＳＫ1036	63							63
31	ＳＱ1037	789			2549			9	3347
32	ＳＱ1039	904			457			3	1364
33	ＳＱ1040	898			11			1	910
34	ＳＱ1041	180			60			8	248
35	ＳＱ1042	165			67			3	235
36	ＳＱ1043	106			5				111
37	ＳＱ1044	1920			1080			31	3031
38	ＳＱ1045	104			343				447
39	ＳＱ1046	7268	129		1368			87	8852
40	ＳＱ1047	296							296
41	ＳＱ1048	597			518			10	1125
42	ＳＸ1049	5042		332	2141		420	41	7976
43	ＳＰ1050	8							8
44	ＳＰ1055	15							15
器種　計		49402	193	936	34120	1252	505	2642	89050

表27　Ｂ地点　坏・高台坏器高・底径指数（１）

注）表中の「底指」は「底径指数」、「器指」は「器高指数」の略である。表の右欄外で、土はＩ２～７類、須は須恵器、無印はＩ１類を示す。
①底径指数＝底径÷口径×100　　②器高指数＝器高÷口径×100　　口径・底径の単位は㎜

1. 坏

グラフ凡例…　◆：Ｉ１類　▲：Ｉ２～７類　■：須恵器

ＳＱ1004

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
23　6	110.0	60.0	43.5	54.5	39.5	
23　7	131.0	56.0	51.5	42.7	39.3	
23　8	118.0	54.0	54.5	45.8	46.2	
平均値	119.7	56.7	49.8	47.7	41.7	

ＳＱ1006

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
23　12	114.0	55.0	56.0	48.2	49.1	
平均値	114.0	55.0	56.0	48.2	49.1	

ＳＱ1007

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
23　13	152.5	56.0	66.5	36.7	43.6	
23　14	123.0	55.0	53.0	44.7	43.1	
24　17	116.0	52.0	52.9	44.8	45.6	
平均値	130.5	54.3	57.5	42.1	44.1	

ＳＱ1018

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
24　18	128.0	54.0	55.0	42.2	43.0	
24　20	136.0	62.0	74.5	45.6	54.8	
平均値	132.0	58.0	64.8	43.9	48.9	

ＳＱ1020

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
25　25	136.0	50.0	50.0	36.8	36.8	
25　26	123.0	52.0	53.5	42.3	43.5	
25　27	120.0	43.0	42.0	35.8	35.0	
平均値	126.3	48.3	48.5	38.3	38.4	

ＳＸ1021

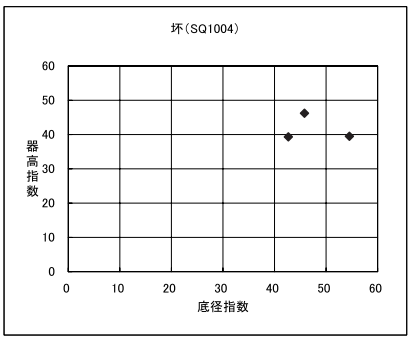
挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
25　30	126.0	60.0	51.5	47.6	40.9	
25　32	118.0	55.0	52.0	46.6	44.1	
25　33	134.0	46.0	59.9	34.3	44.7	
25　34	126.0	46.0	51.5	36.5	40.9	
25　35	105.0	54.0	49.0	51.4	46.7	
25　36	125.0	55.0	54.3	44.0	43.4	
25　37	120.0	60.0	45.0	50.0	37.5	
25　38	100.0	46.0	55.5	46.0	55.5	
25　39	124.0	54.0	56.2	43.5	45.3	
26　40	116.0	50.0	49.0	43.1	42.2	
26　41	117.0	52.0	49.0	44.4	41.9	
26　28	129.0	48.0	50.0	37.2	38.8	土
26　29	130.0	47.0	53.0	36.2	40.8	土
26　31	136.0	51.0	59.0	37.5	43.4	土
平均値	121.9	51.7	52.5	42.7	43.3	

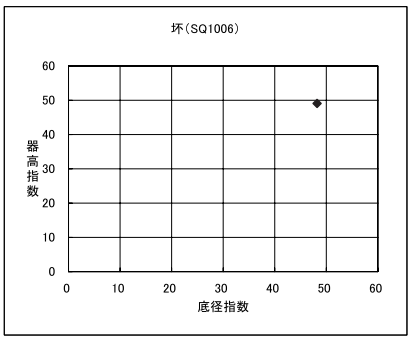
ＳＸ1022

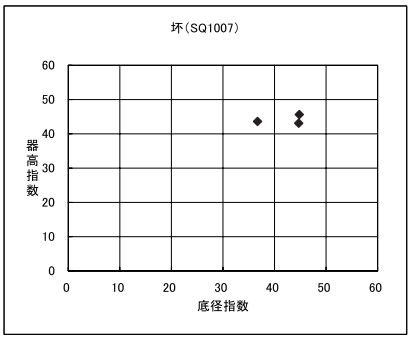
挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
26　48	104.0	40.0	51.0	38.5	49.0	
26　50	124.0	56.0	53.0	45.2	42.7	
平均値	114.0	48.0	52.0	41.9	45.9	

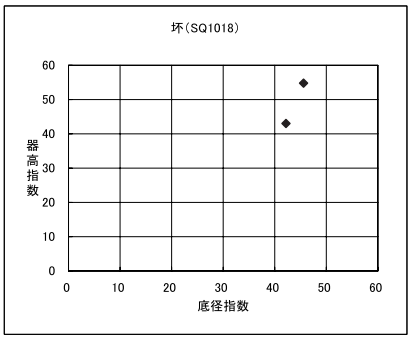
ＳＱ1024

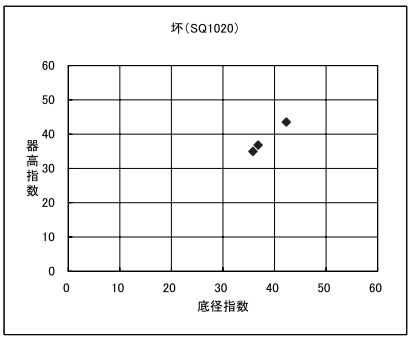
挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
26　52	124.0	50.0	51.3	40.3	41.4	
平均値	124.0	50.0	51.3	40.3	41.4	

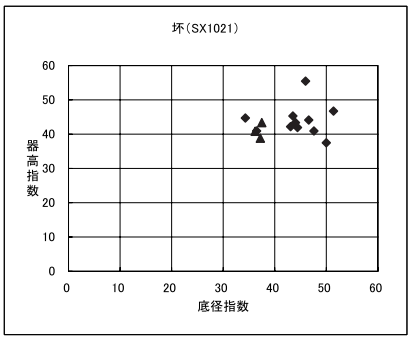


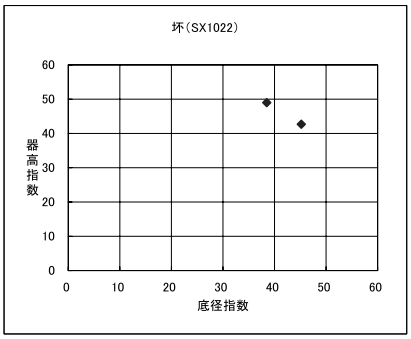












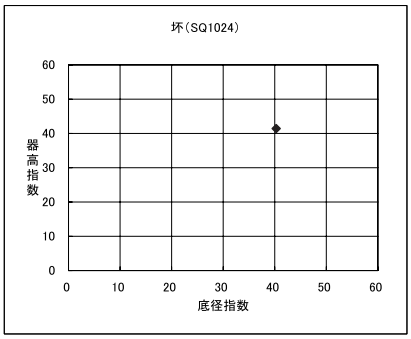


表28　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（2）

S Q1025

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
27 56	125.0	46.0	47.0	36.8	37.6	
27 57	124.0	54.0	49.1	43.5	39.6	
27 58	132.0	54.0	55.9	40.9	42.3	
27 55	141.0	62.0	66.5	44.0	47.2	土
27 59	134.0	48.0	42.5	35.8	31.7	須
平均値	131.2	52.8	52.2	40.2	39.7	

S Q1026

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
27 60	114.0	54.0	52.0	47.4	45.6
27 61	113.0	54.0	48.0	47.8	42.5
27 62	124.0	54.0	49.0	43.5	39.5
平均値	117.0	54.0	49.7	46.2	42.5

S Q1027

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
28 66	126.0	50.0	56.0	39.7	44.4
28 67	120.0	46.0	49.5	38.3	41.3
28 68	117.0	50.0	53.5	42.7	45.7
平均値	121.0	48.7	53.0	40.2	43.8

S Q1028

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
28 71	114.0	52.0	47.0	45.6	41.2	
28 72	108.0	47.0	55.4	43.5	51.3	
29 74	122.0	56.0	52.3	45.9	42.9	
29 75	114.0	50.0	48.5	43.9	42.5	
29 77	122.0	54.0	47.0	44.3	38.5	
29 79	120.0	48.0	50.0	40.0	41.7	
28 73	144.0	58.0	61.0	40.3	42.4	土
平均値	120.6	52.1	51.6	43.4	42.9	

S Q1029

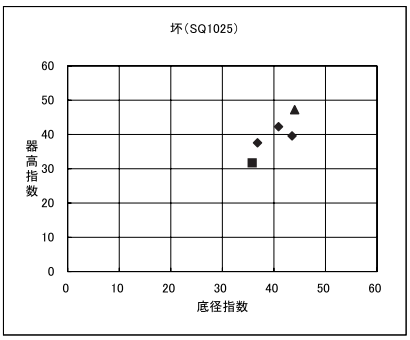
挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
29 81	128.0	56.0	54.0	43.8	42.2	
29 82	118.0	56.0	51.5	47.5	43.6	
29 84	124.0	50.0	54.3	40.3	43.8	
29 85	122.0	50.0	54.5	41.0	44.7	
29 86	132.0	56.0	57.0	42.4	43.2	
29 87	124.0	55.0	53.5	44.4	43.1	
29 83	127.5	46.0	49.0	36.1	38.4	土
平均値	125.1	52.7	53.4	42.2	42.7	

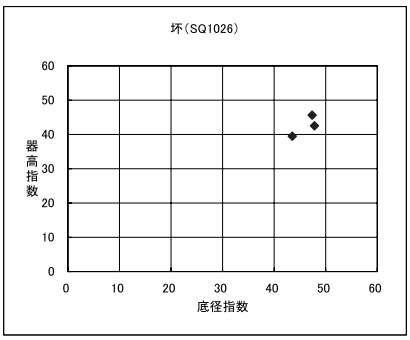
S Q1030

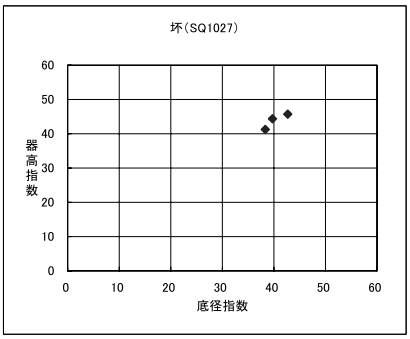
挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
30 89	118.0	50.0	51.0	42.4	43.2	
30 90	124.0	52.0	52.0	41.9	41.9	
30 91	110.0	55.0	59.0	50.0	53.6	
30 92	158.0	55.0	70.8	34.8	44.8	土
平均値	127.5	53.0	58.2	42.3	45.9	

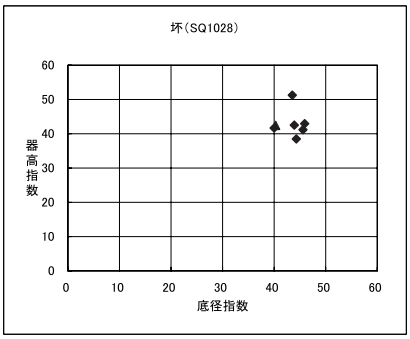
S Q1032

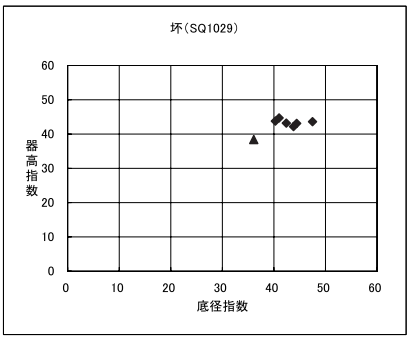
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
30 93	114.0	54.0	56.0	47.4	49.1
30 94	152.0	58.0	63.0	38.2	41.4
30 95	126.5	54.0	57.0	42.7	45.1
30 96	120.0	56.0	54.2	46.7	45.2
30 97	122.0	56.0	54.0	45.9	44.3
30 98	100.0	46.0	50.8	46.0	50.8
30 99	118.0	50.0	51.0	42.4	43.2
30 100	112.0	52.0	54.5	46.4	48.7
30 101	118.0	50.0	53.0	42.4	44.9
30 102	119.0	56.0	50.0	47.1	42.0
30 103	115.0	43.0	49.2	37.4	42.8
31 104	119.0	50.0	52.0	42.0	43.7
31 105	118.0	50.0	54.0	42.4	45.8
31 106	115.0	56.0	48.5	48.7	42.2
31 107	118.0	46.0	53.0	39.0	44.9
平均値	119.1	51.8	53.3	43.6	44.9

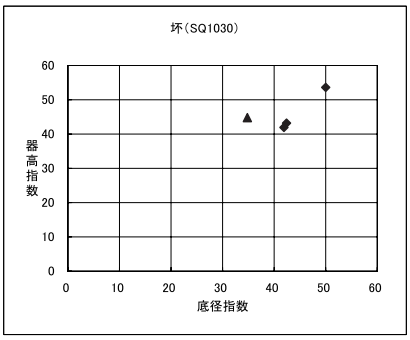












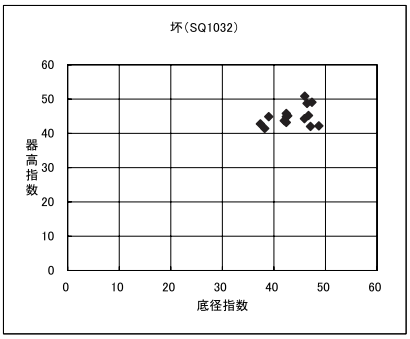


表29　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（3）

S X1034

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
32 113	158.0	60.0	65.0	38.0	41.1
32 114	125.0	54.0	51.5	43.2	41.2
32 115	124.0	52.0	55.0	41.9	44.4
平均値	135.7	55.3	57.2	41.0	42.2

S Q1037

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
33 122	138.0	54.0	51.5	39.1	37.3
33 123	126.0	44.0	53.0	34.9	42.1
平均値	132.0	49.0	52.3	37.0	39.7

S Q1039

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
34 130	128.0	48.0	51.0	37.5	39.8
34 131	120.0	50.0	56.0	41.7	46.7
34 132	120.0	52.0	52.0	43.3	43.3
34 133	118.0	60.0	44.0	50.8	37.3
平均値	121.5	52.5	50.8	43.3	41.8

S Q1041

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
34 138	134.0	56.0	50.7	41.8	37.8
平均値	134.0	56.0	50.7	41.8	37.8

S Q1044

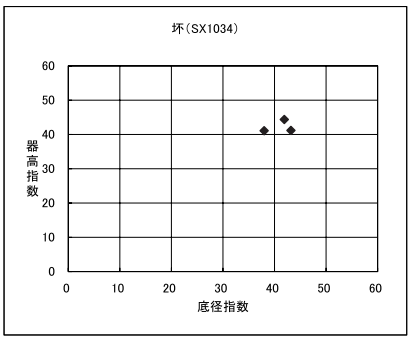
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
34 140	126.0	54.0	46.8	42.9	37.1
34 141	128.0	48.0	50.8	37.5	39.7
34 142	120.0	46.0	59.5	38.3	49.6
34 143	124.0	50.0	48.0	40.3	38.7
34 144	127.0	50.0	51.0	39.4	40.2
35 145	132.0	54.0	54.5	40.9	41.3
35 146	118.0	52.0	56.5	44.1	47.9
35 147	142.0	52.0	50.7	36.6	35.7
35 148	115.0	46.0	51.5	40.0	44.8
平均値	125.8	50.2	52.1	40.0	41.7

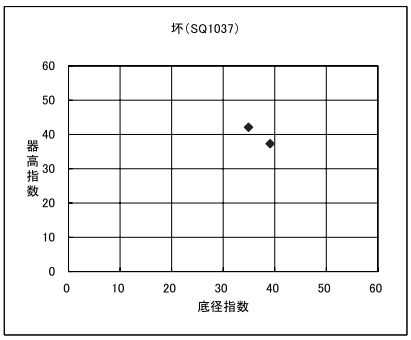
S Q1046

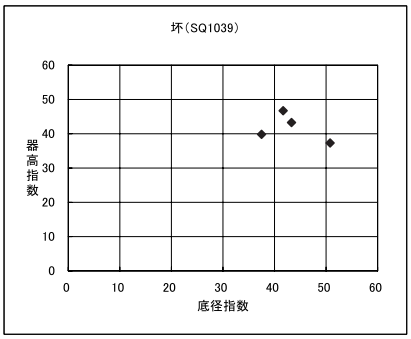
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
35 150	132.0	48.0	53.5	36.4	40.5
35 151	126.0	50.0	57.0	39.7	45.2
35 153	116.0	47.0	46.0	40.5	39.7
35 154	116.0	46.0	49.5	39.7	42.7
36 155	130.0	50.0	51.5	38.5	39.6
36 156	110.0	48.0	54.0	43.6	49.1
36 157	119.0	50.0	47.5	42.0	39.9
36 158	130.0	54.0	50.3	41.5	38.7
36 159	130.0	50.0	57.0	38.5	43.8
36 160	133.0	58.0	50.0	43.6	37.6
36 161	128.0	50.0	55.0	39.1	43.0
36 162	132.0	48.0	50.0	36.4	37.9
36 163	146.0	64.0	52.0	43.8	35.6
36 164	124.0	54.0	45.0	43.5	36.3
36 165	118.0	48.0	47.5	40.7	40.3
36 166	122.0	42.0	52.0	34.4	42.6
36 167	126.0	48.0	51.0	38.1	40.5
36 168	125.0	53.0	52.0	42.4	41.6
36 169	120.0	54.0	56.4	45.0	47.0
37 170	133.0	50.0	48.0	37.6	36.1
37 171	118.0	50.0	45.0	42.4	38.1
37 176	158.0	56.0	52.5	35.4	33.2
37 178	128.0	50.0	46.5	39.1	36.3
平均値	127.0	50.8	50.8	40.1	40.2

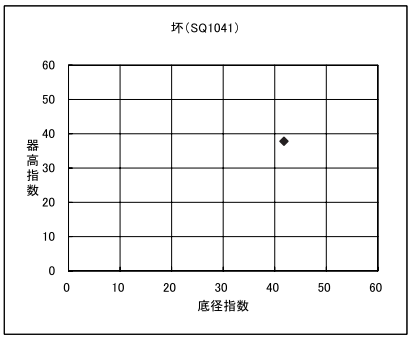
S Q1047

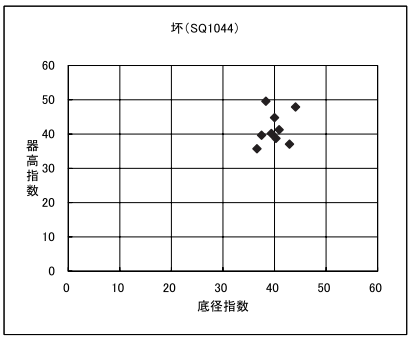
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
38 187	139.0	46.0	59.0	33.1	42.4
平均値	139.0	46.0	59.0	33.1	42.4

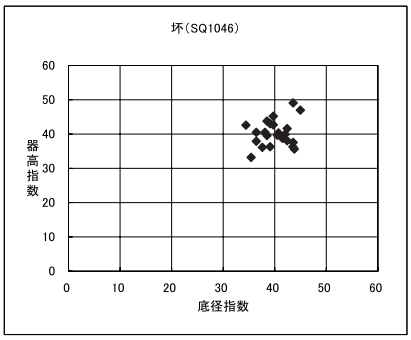












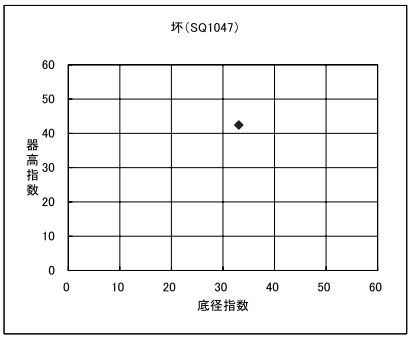


表30　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（4）

ＳＸ1049

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
38 193	114.0	40.0	53.3	35.1	46.8	
38 194	154.0	62.0	62.5	40.3	40.6	
38 195	108.0	46.0	52.0	42.6	48.1	
38 196	124.0	52.0	48.5	41.9	39.1	
38 197	122.0	54.0	53.0	44.3	43.4	
38 198	123.0	54.0	50.0	43.9	40.7	
38 199	132.0	51.0	57.0	38.6	43.2	
38 200	118.0	50.0	48.0	42.4	40.7	
38 201	122.0	54.0	47.0	44.3	38.5	
38 202	132.0	48.0	50.0	36.4	37.9	
38 203	136.0	42.0	50.0	30.9	36.8	
38 204	126.0	52.0	56.0	41.3	44.4	
39 205	138.0	66.0	49.2	47.8	35.7	
39 206	118.0	52.0	53.0	44.1	44.9	
39 207	130.0	56.0	56.0	43.1	43.1	
39 209	130.0	54.0	49.8	41.5	38.3	
39 208	148.0	54.0	62.0	36.5	41.9	土
39 211	128.0	50.0	62.5	39.1	48.8	土
39 212	180.0	68.0	75.8	37.8	42.1	土
平均値	130.7	52.9	54.5	40.6	41.8	

Ｊ－17

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 218	116.0	56.0	48.0	48.3	41.4
41 219	123.0	57.0	45.0	46.3	36.6
41 220	128.0	63.0	45.0	49.2	35.2
平均値	122.3	58.7	46.0	47.9	37.7

Ｊ－18

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 221	143.0	58.0	47.5	40.6	33.2
41 222	134.0	52.0	49.0	38.8	36.6
平均値	138.5	55.0	48.3	39.7	34.9

Ｋ－18

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 223	118.0	59.0	49.0	50.0	41.5
平均値	118.0	59.0	49.0	50.0	41.5

Ｍ－８

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 224	124.0	51.0	52.0	41.1	41.9
41 225	119.0	50.0	47.5	42.0	39.9
41 226	118.0	48.0	46.5	40.7	39.4
平均値	120.3	49.7	48.7	41.3	40.4

Ｍ－12

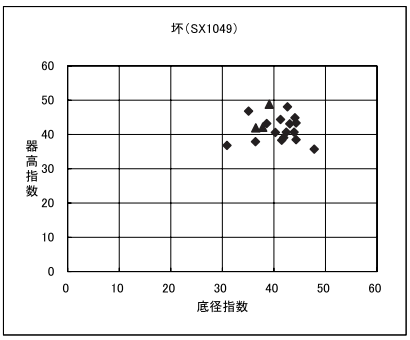
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 228	122.0	51.0	45.0	41.8	36.9
41 229	124.0	46.0	51.0	37.1	41.1
41 230	124.0	50.0	50.0	40.3	40.3
41 231	121.0	50.0	56.0	41.3	46.3
平均値	122.8	49.3	50.5	40.1	41.2

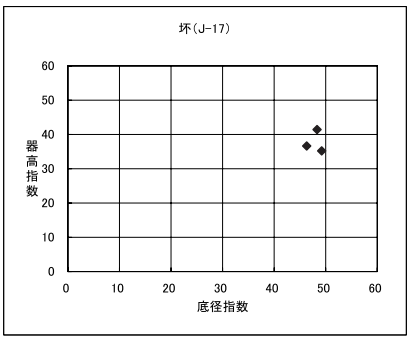
Ｍ－13

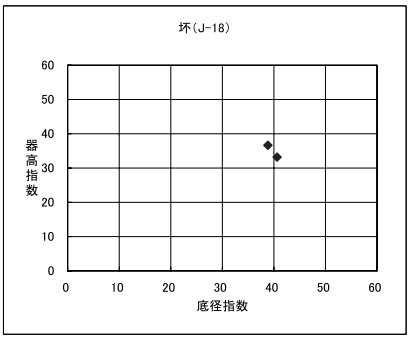
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 233	108.0	45.0	48.7	41.7	45.1
平均値	108.0	45.0	48.7	41.7	45.1

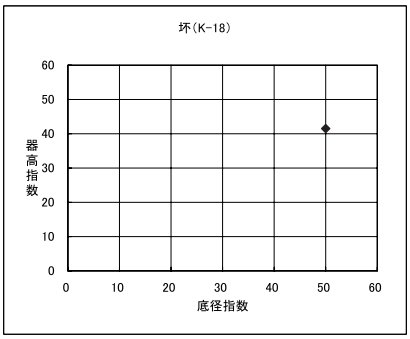
Ｎ－８

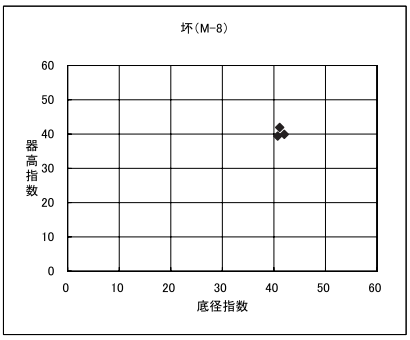
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
41 234	112.0	54.0	48.5	48.2	43.3
41 235	117.0	48.0	48.3	41.0	41.3
平均値	114.5	51.0	48.4	44.6	42.3

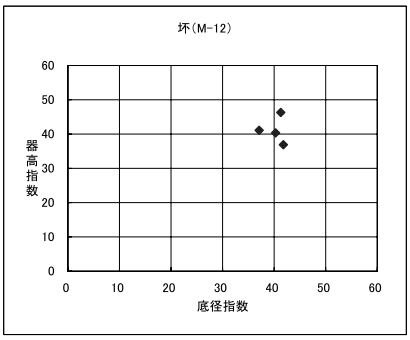


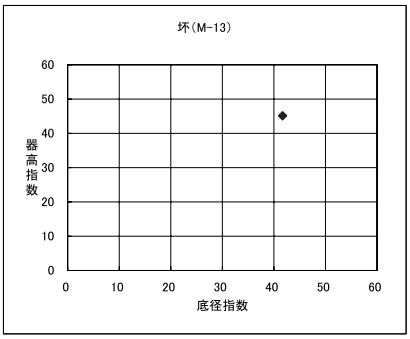












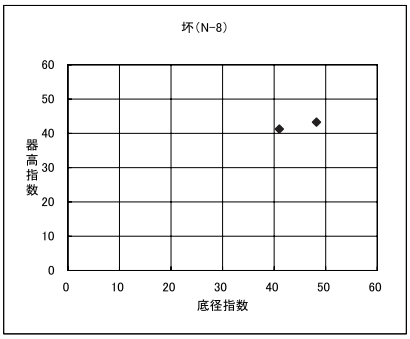


表31　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（5）

N－11

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
42 236	110.0	36.0	57.0	32.7	51.8	
42 238	129.0	54.0	53.0	41.9	41.1	
42 239	130.0	52.0	52.0	40.0	40.0	
42 237	126.0	54.0	57.0	42.9	45.2	土
平均値	123.8	49.0	54.8	39.4	44.5	

N－15

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
42 241	140.0	54.0	64.5	38.6	46.1
平均値	140.0	54.0	64.5	38.6	46.1

O－11

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
42 244	131.0	53.0	55.5	40.5	42.4
平均値	131.0	53.0	55.5	40.5	42.4

O－13

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
43 250	121.0	53.0	52.5	43.8	43.4
平均値	121.0	53.0	52.5	43.8	43.4

O－14

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
43 251	122.0	54.0	54.0	44.3	44.3
43 252	122.0	49.0	48.0	40.2	39.3
43 253	118.0	54.0	48.0	45.8	40.7
平均値	120.7	52.3	50.0	43.4	41.4

P－9

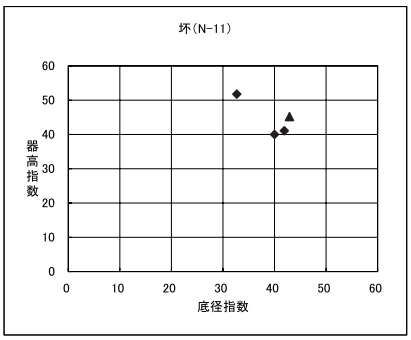
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
43 254	122.0	47.0	53.0	38.5	43.4
44 259	128.0	50.0	54.0	39.1	42.2
平均値	125.0	48.5	53.5	38.8	42.8

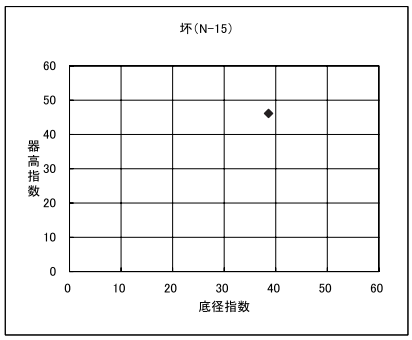
P－11

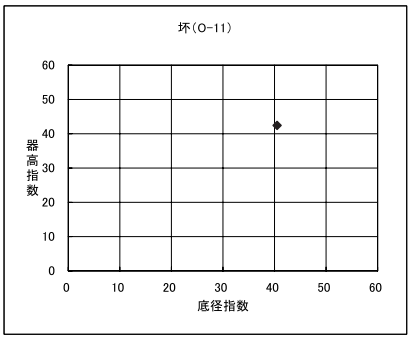
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
43 256	124.0	50.0	55.0	40.3	44.4
平均値	124.0	50.0	55.0	40.3	44.4

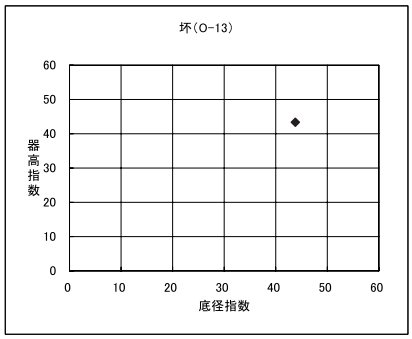
P－13

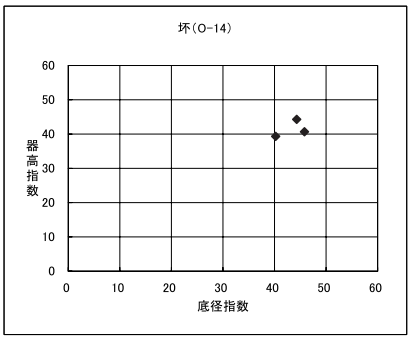
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
44 263	124.0	49.0	53.0	39.5	42.7
平均値	124.0	49.0	53.0	39.5	42.7

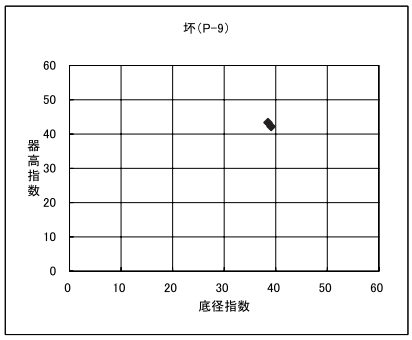


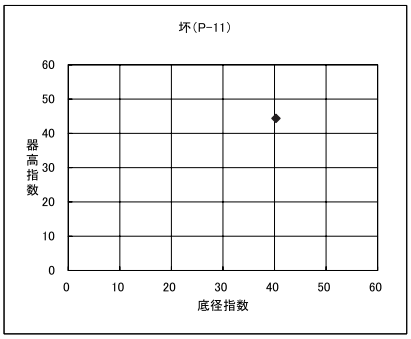












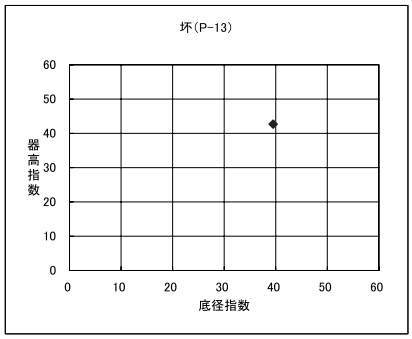


表32　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（6）

Q－8

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
44 265	122.0	48.0	55.8	39.3	45.7
平均値	122.0	48.0	55.8	39.3	45.7

Q－9

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
44 266	122.0	48.0	48.0	39.3	39.3
44 267	118.0	54.0	52.5	45.8	44.5
平均値	120.0	51.0	50.3	42.6	41.9

Q－12

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
45 272	118.0	42.0	58.0	35.6	49.2
45 273	119.0	50.0	54.0	42.0	45.4
45 274	118.0	47.0	51.0	39.8	43.2
平均値	118.3	46.3	54.3	39.1	45.9

Q－14

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
46 283	128.0	53.0	44.5	41.4	34.8	
46 284	124.0	54.0	56.5	43.5	45.6	
46 285	122.0	52.0	47.0	42.6	38.5	
46 286	126.0	48.0	45.5	38.1	36.1	土
平均値	125.0	51.8	48.4	41.4	38.8	

Q－15

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
46 287	124.0	49.0	53.5	39.5	43.1
平均値	124.0	49.0	53.5	39.5	43.1

R－9

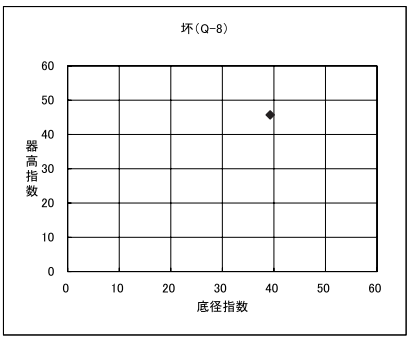
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
46 289	118.0	50.0	55.0	42.4	46.6
平均値	118.0	50.0	55.0	42.4	46.6

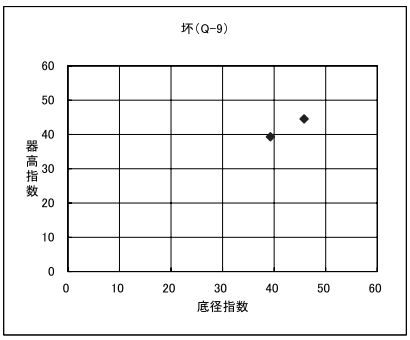
R－11

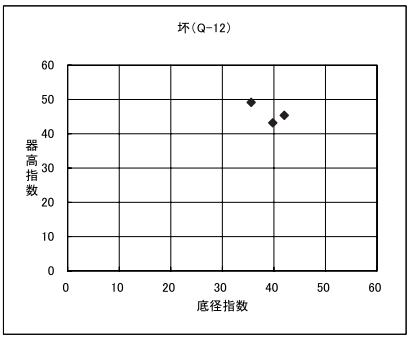
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
46 290	166.0	60.0	79.8	36.1	48.1
平均値	166.0	60.0	79.8	36.1	48.1

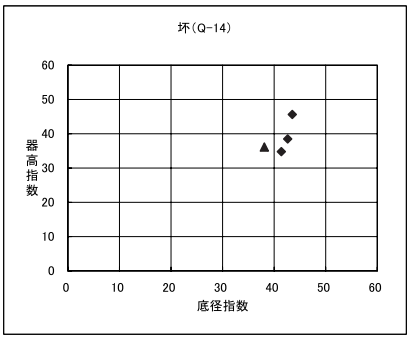
R－12

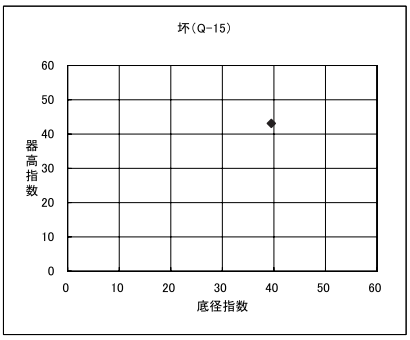
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
46 293	122.0	50.0	47.0	41.0	38.5
平均値	122.0	50.0	47.0	41.0	38.5

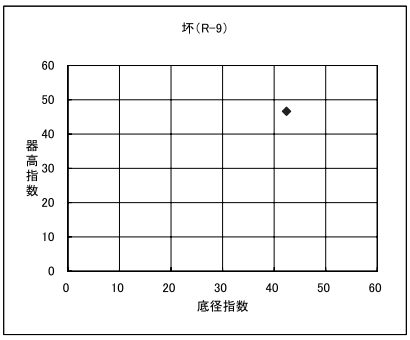


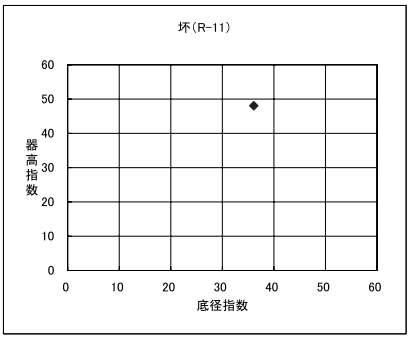












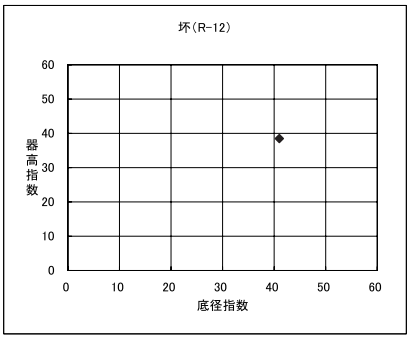


表33　B地点　坏・高台坏器高・底径指数（7）

S－12

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
47 301	121.0	52.0	52.0	43.0	43.0
47 302	126.0	53.0	46.8	42.1	37.1
47 304	120.0	46.0	50.0	38.3	41.7
47 305	102.0	48.0	49.0	47.1	48.0
47 306	125.0	46.0	57.5	36.8	46.0
47 307	120.0	49.0	47.3	40.8	39.4
47 308	122.0	60.0	43.5	49.2	35.7
47 309	138.0	50.0	50.0	36.2	36.2
平均値	121.8	50.5	49.5	41.7	40.9

T－10

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
48 318	120.0	52.0	50.0	43.3	41.7	
48 319	122.0	60.0	52.0	49.2	42.6	
48 320	120.0	52.0	49.5	43.3	41.3	
48 321	120.0	49.0	54.0	40.8	45.0	
48 322	134.0	56.0	48.0	41.8	35.8	
48 323	128.0	49.0	46.8	38.3	36.6	
49 324	122.0	53.0	52.0	43.4	42.6	
49 325	125.0	52.0	54.0	41.6	43.2	
49 326	126.0	56.0	52.0	44.4	41.3	
49 330	131.0	56.0	56.0	42.7	42.7	
49 331	136.0	57.0	56.0	41.9	41.2	
49 332	118.0	56.0	55.8	47.5	47.3	
49 333	122.0	48.0	54.0	39.3	44.3	
49 334	136.0	47.0	45.8	34.6	33.7	
49 335	124.0	54.0	52.0	43.5	41.9	
49 336	128.0	58.0	53.5	45.3	41.8	
49 337	114.0	54.0	52.5	47.4	46.1	
49 338	113.0	48.0	49.0	42.5	43.4	
50 339	138.0	48.0	70.0	34.8	50.7	
49 328	116.0	44.0	53.0	37.9	45.7	土
平均値	124.7	52.5	52.8	42.2	42.4	

T－11

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
51 347	118.0	56.0	52.0	47.5	44.1
51 348	127.5	59.5	55.0	46.7	43.1
51 349	122.0	48.0	50.5	39.3	41.4
51 352	112.0	50.0	51.0	44.6	45.5
51 353	115.0	52.0	55.0	45.2	47.8
平均値	118.9	53.1	52.7	44.7	44.4

T－12

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
51 355	122.0	50.0	48.0	41.0	39.3
平均値	122.0	50.0	48.0	41.0	39.3

U－10

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
51 357	125.0	50.0	49.0	40.0	39.2
平均値	125.0	50.0	49.0	40.0	39.2

U－11

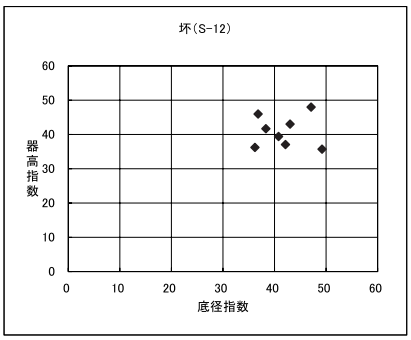
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
51 359	120.0	46.0	55.0	38.3	45.8
52 360	116.0	50.0	50.0	43.1	43.1
平均値	118.0	48.0	52.5	40.7	44.5

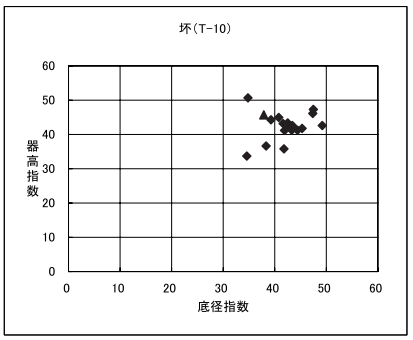
U－12

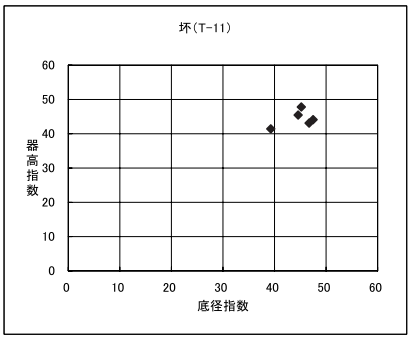
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
52 361	122.0	54.0	41.0	44.3	33.6
平均値	122.0	54.0	41.0	44.3	33.6

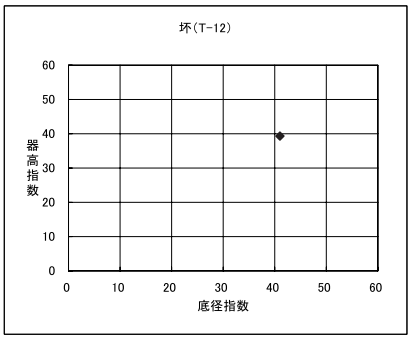
U－13

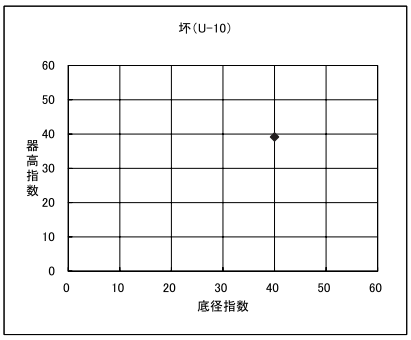
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
52 362	118.0	58.0	48.5	49.2	41.1
平均値	118.0	58.0	48.5	49.2	41.1

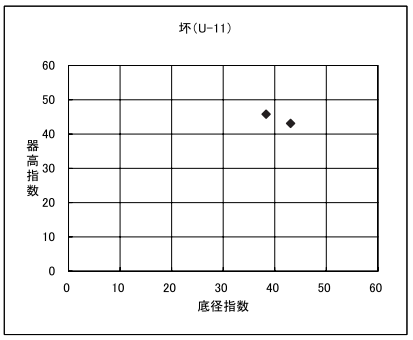


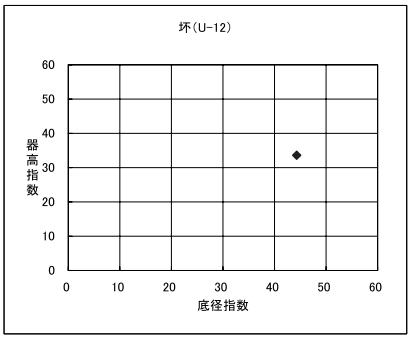












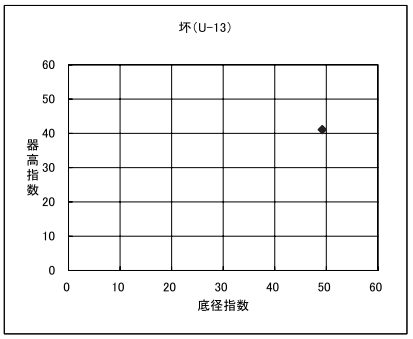


表34　Ｂ地点　坏・高台坏器高・底径指数（８）

Ｖ－10

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
52 363	128.0	50.0	53.0	39.1	41.4	
52 364	118.0	58.0	52.0	49.2	44.1	
52 365	122.0	50.0	50.0	41.0	41.0	
平均値	122.7	52.7	51.7	43.1	42.2	

Ｗ－12

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
52 368	128.0	51.0	51.0	39.8	39.8	
52 367	141.0	54.0	52.5	38.3	37.2	土
平均値	134.5	52.5	51.8	39.1	38.5	

Ｙ－10

挿図	口径	底径	器高	底指	器指	
53 374	117.0	54.0	56.0	46.2	47.9	
53 375	148.0	45.0	65.0	30.4	43.9	土
平均値	132.5	49.5	60.5	38.3	45.9	

ＡＡ－12

挿図	口径	底径	器高	底指	器指
53 377	124.0	53.0	58.0	42.7	46.8
平均値	124.0	53.0	58.0	42.7	46.8

ＡＣ－15

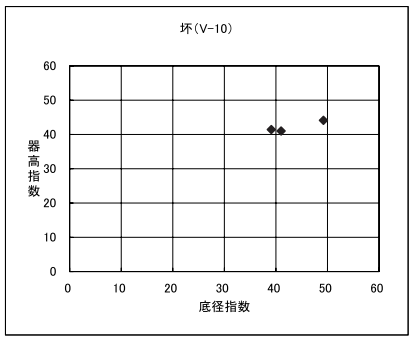
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
53 378	157.0	50.0	65.0	31.8	41.4
53 379	118.0	48.0	50.0	40.7	42.4
53 380	126.0	50.0	50.5	39.7	40.1
53 381	157.0	56.0	60.0	35.7	38.2
53 382	118.0	50.0	54.5	42.4	46.2
53 383	146.0	58.0	60.8	39.7	41.6
平均値	137.0	52.0	56.8	38.3	41.7

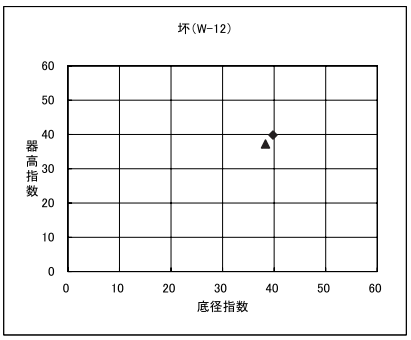
ＡＣ－16

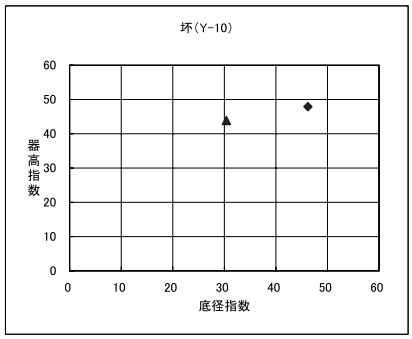
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
53 384	120.0	54.0	49.5	45.0	41.3
53 385	127.0	54.0	49.0	42.5	38.6
54 386	126.0	46.0	52.5	36.5	41.7
54 387	160.0	61.0	63.3	38.1	39.6
54 388	130.0	52.0	52.3	40.0	40.2
54 389	113.0	46.0	50.5	40.7	44.7
平均値	129.3	52.2	52.9	40.5	41.0

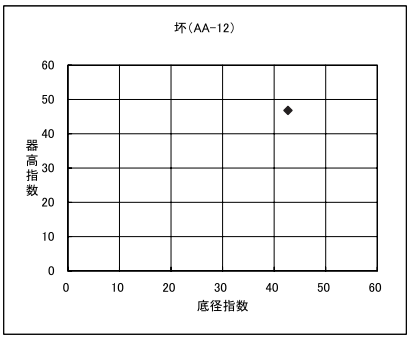
Ｉ層

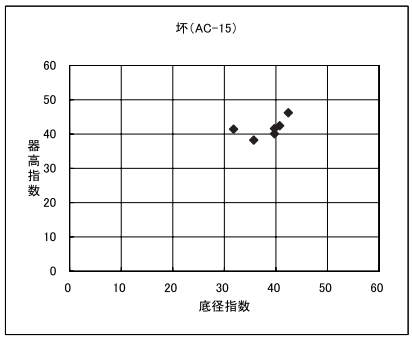
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
54 390	128.0	59.0	49.7	46.1	38.8
54 391	130.0	50.0	51.0	38.5	39.2
54 392	124.0	54.0	42.5	43.5	34.3
54 393	115.0	47.0	42.5	40.9	37.0
54 394	124.0	42.0	58.0	33.9	46.8
54 395	114.0	46.0	43.0	40.4	37.7
平均値	122.5	49.7	47.8	40.6	39.0

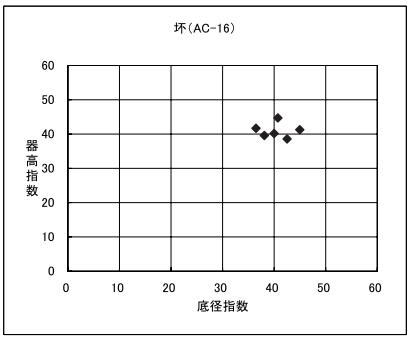


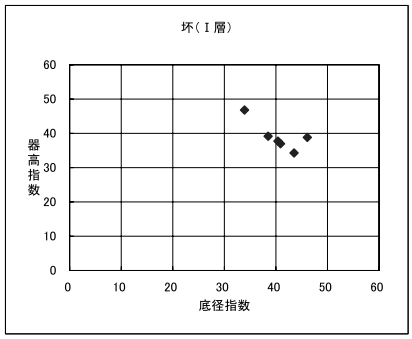


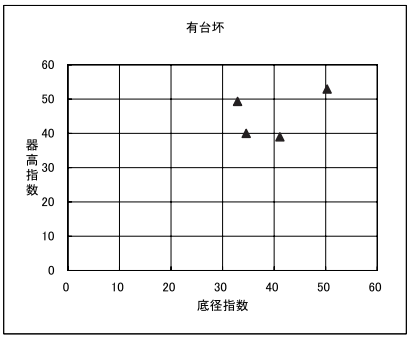








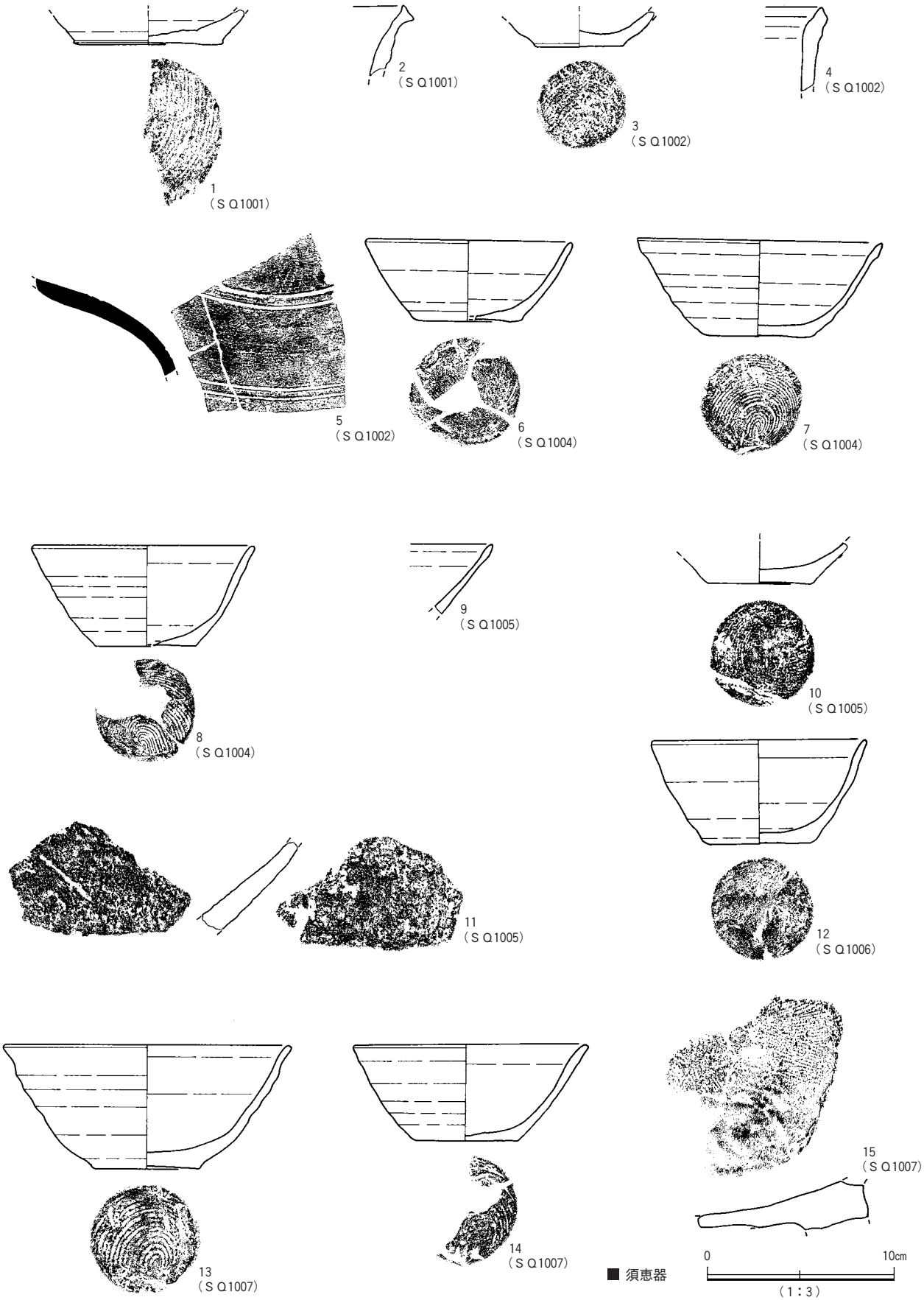




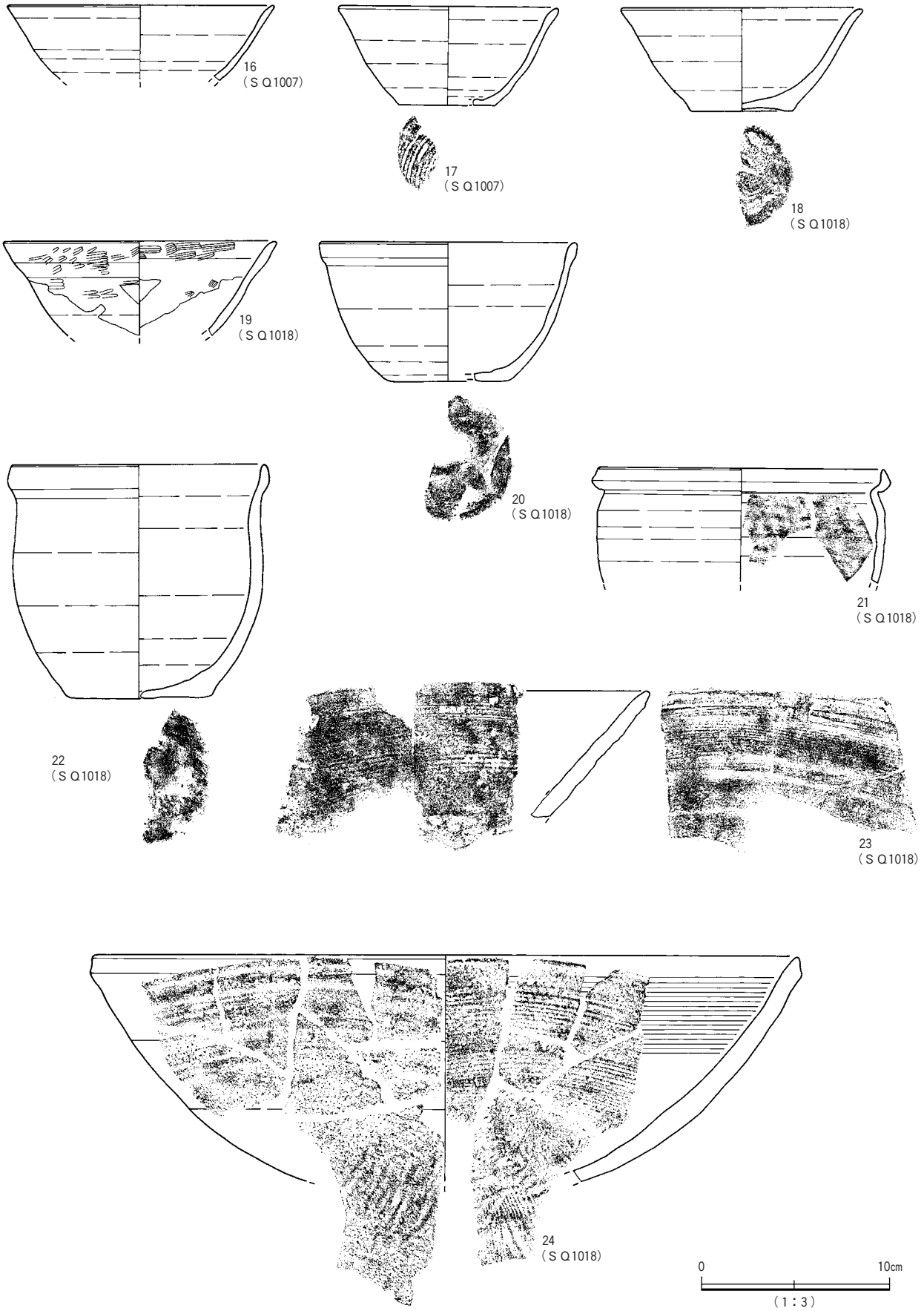
2. 有台坏（Ⅱ類）

Ｒ－12・Ｓ－11・Ｔ－10・Ｔ－12

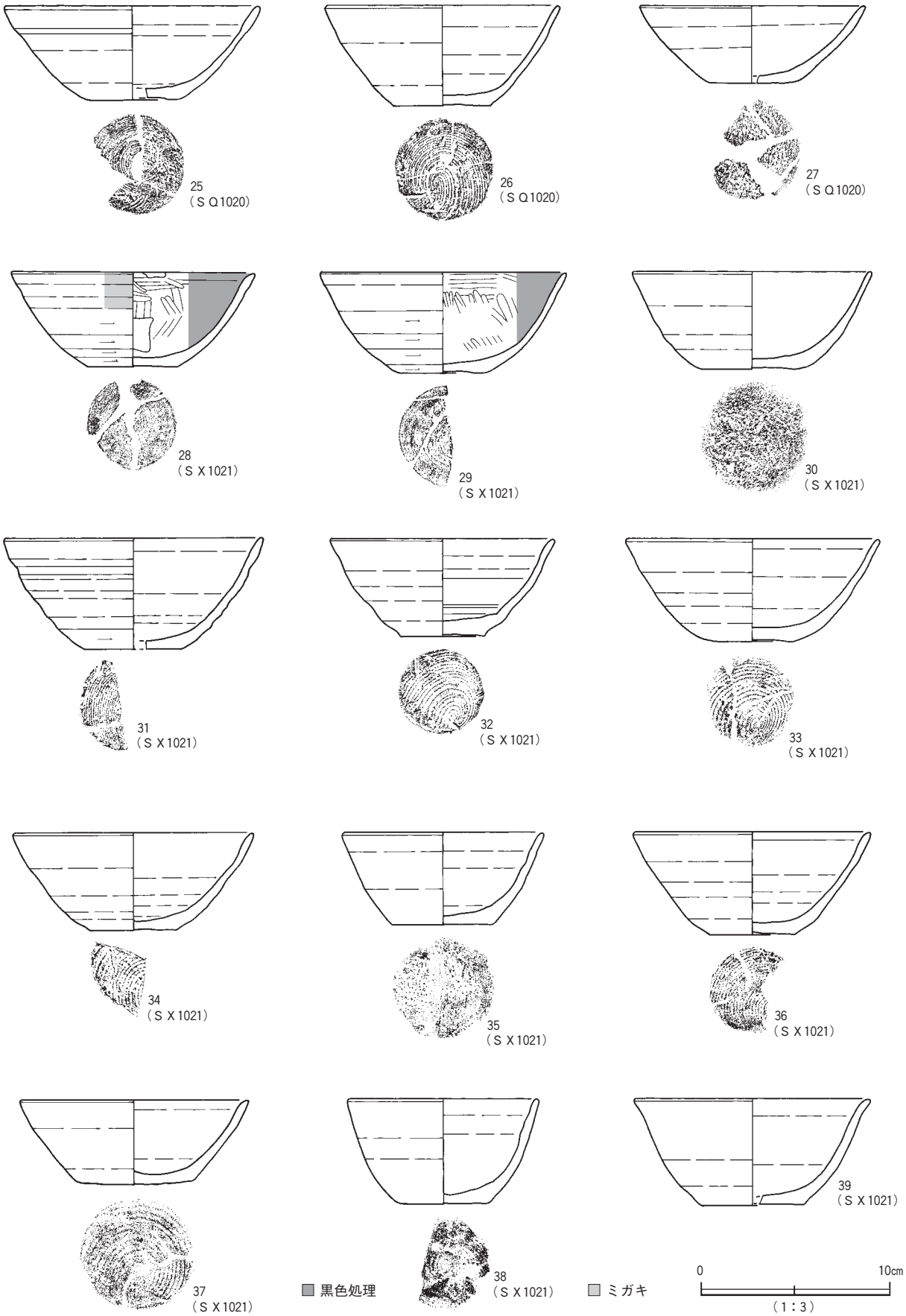
挿図	口径	底径	器高	底指	器指
46 292	155.0	78.0	82.0	50.3	52.9
47 300	162.0	56.0	64.8	34.6	40.0
49 327	140.0	46.0	69.0	32.9	49.3
51 354	141.0	58.0	55.0	41.1	39.0
平均値	149.5	59.5	67.7	39.7	45.3



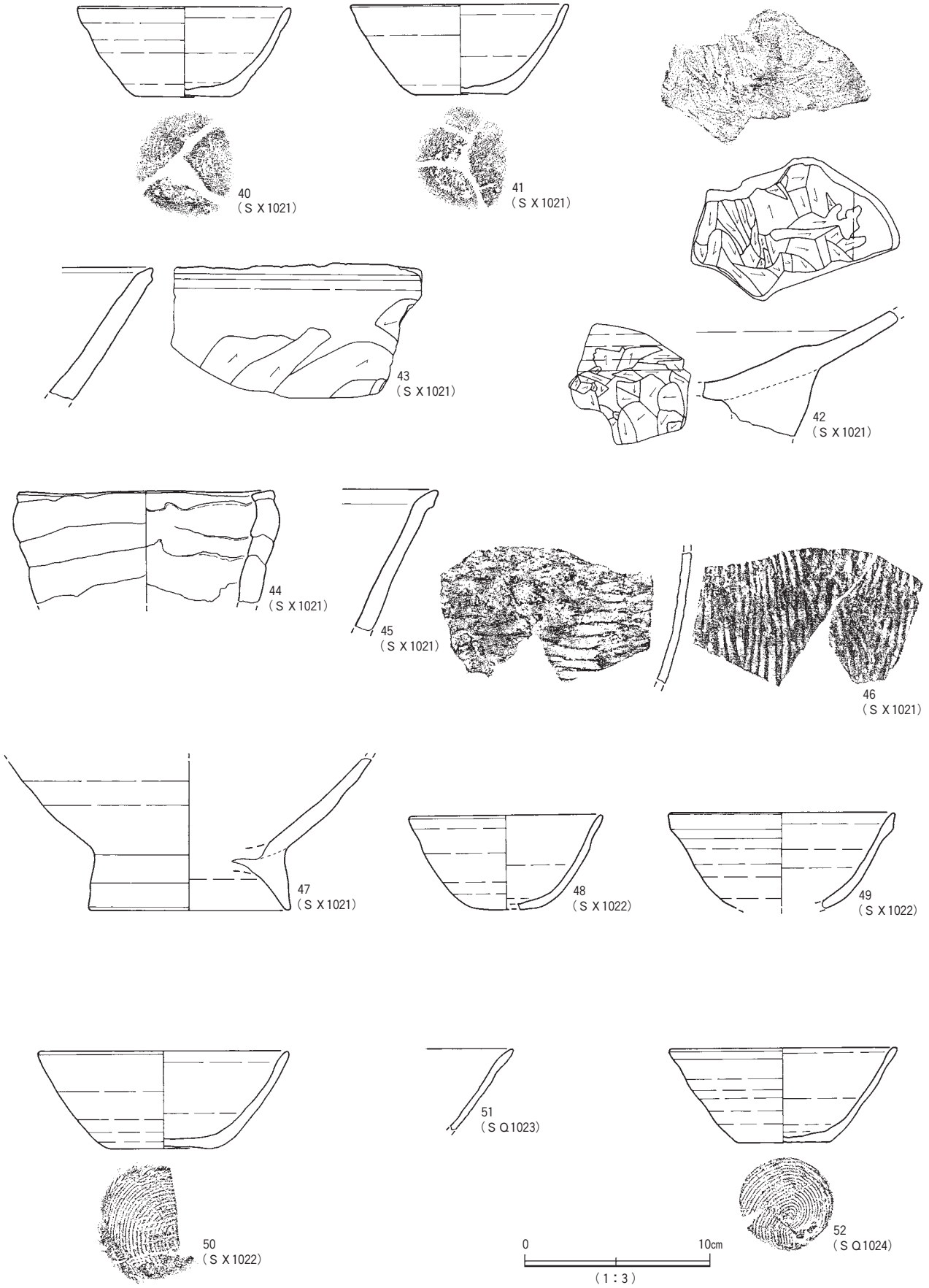
第23図　ＳＱ1001～1002・1004～1007出土遺物実測図



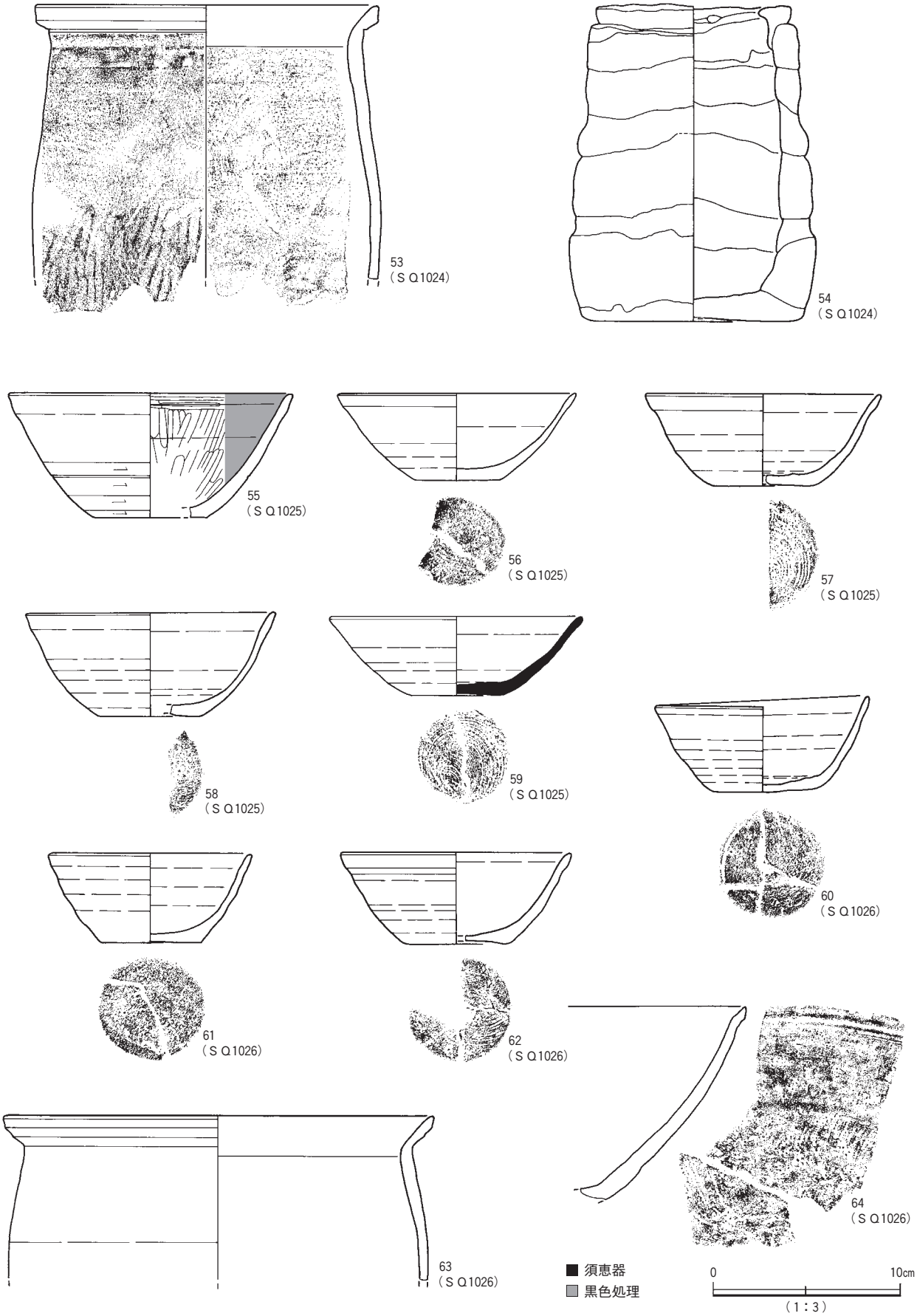
第24図　ＳＱ1007・1018出土遺物実測図



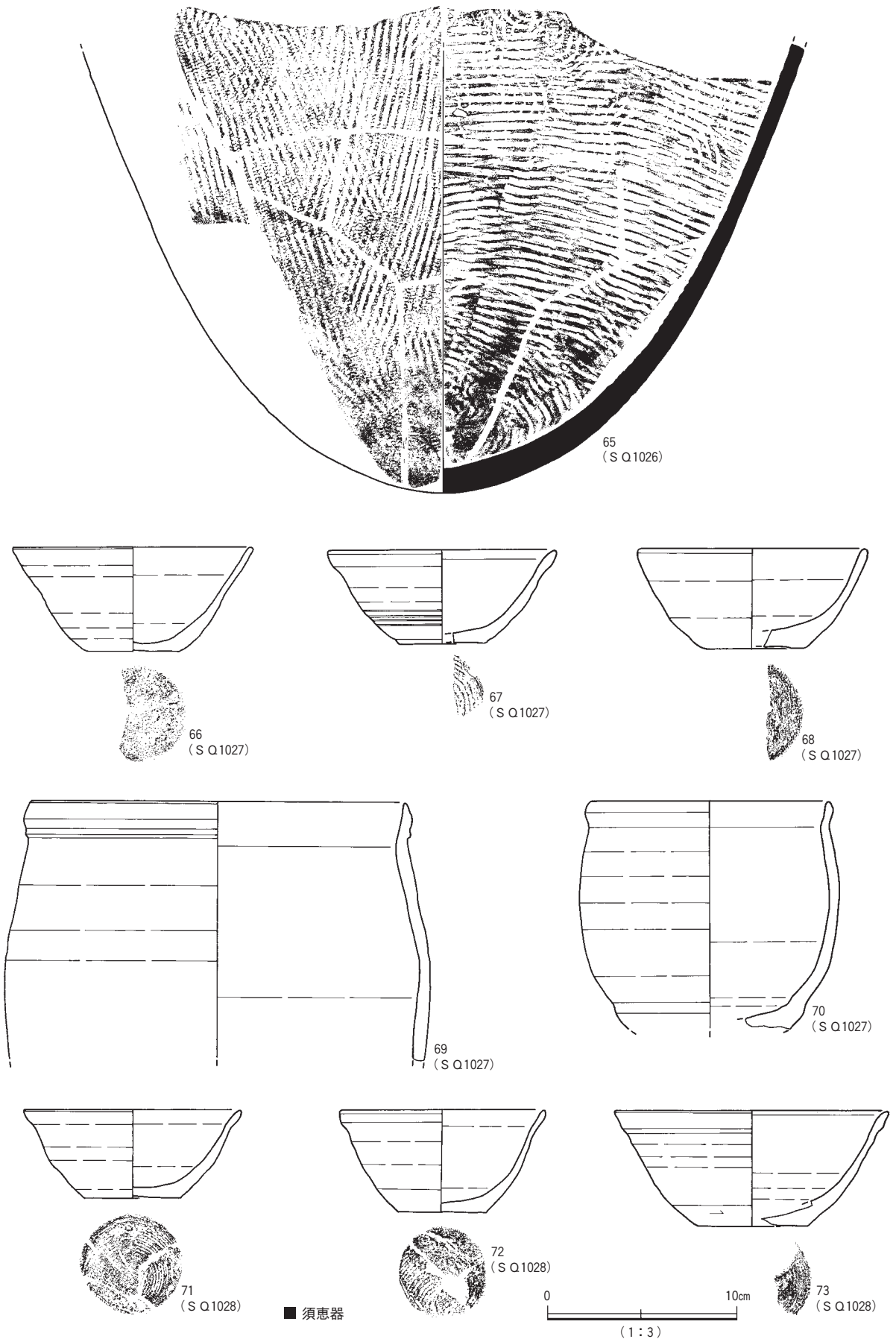
第25図　ＳＱ1020、ＳＸ1021出土遺物実測図



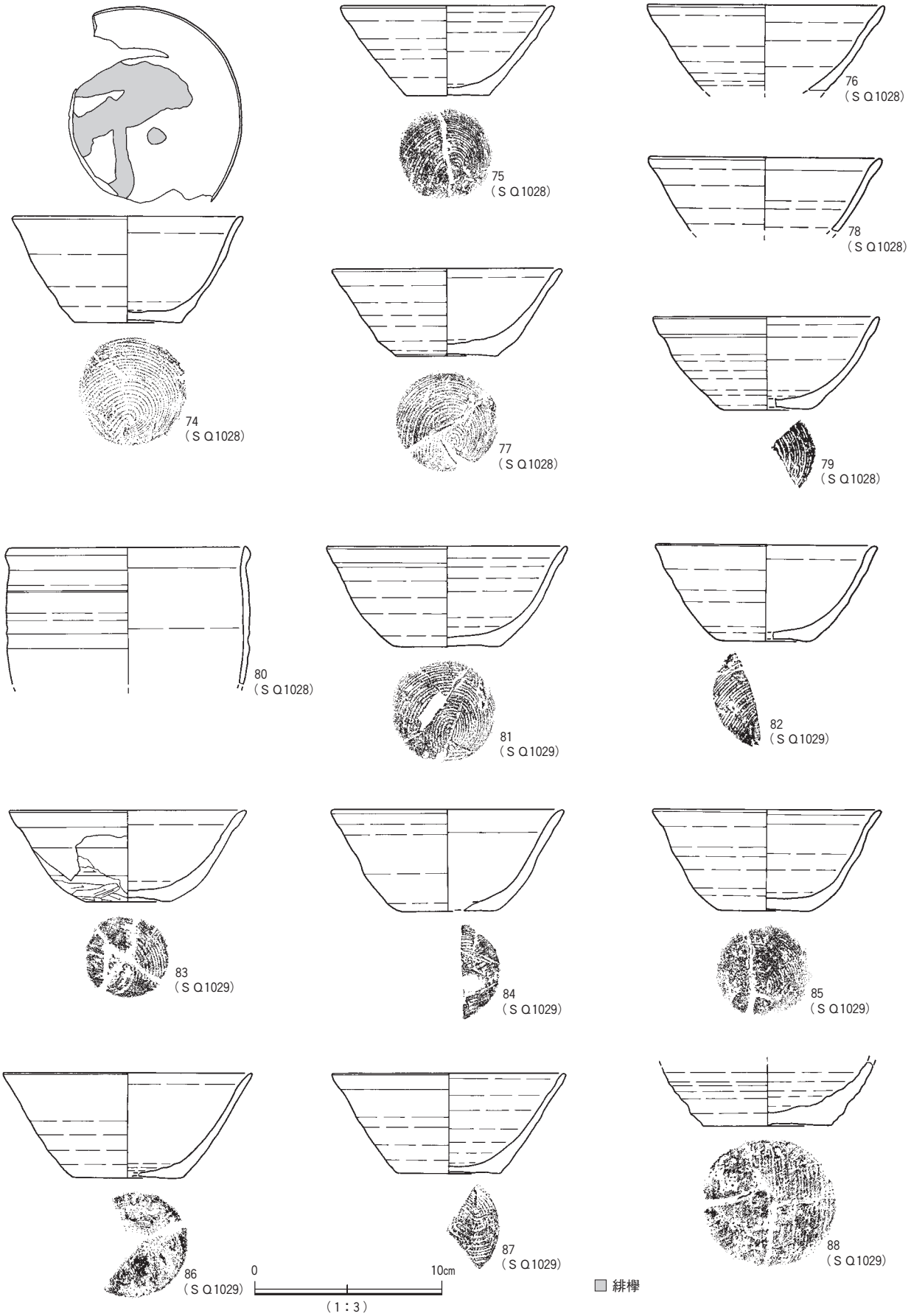
第26図　S X 1021～1022、S Q 1023～1024出土遺物実測図



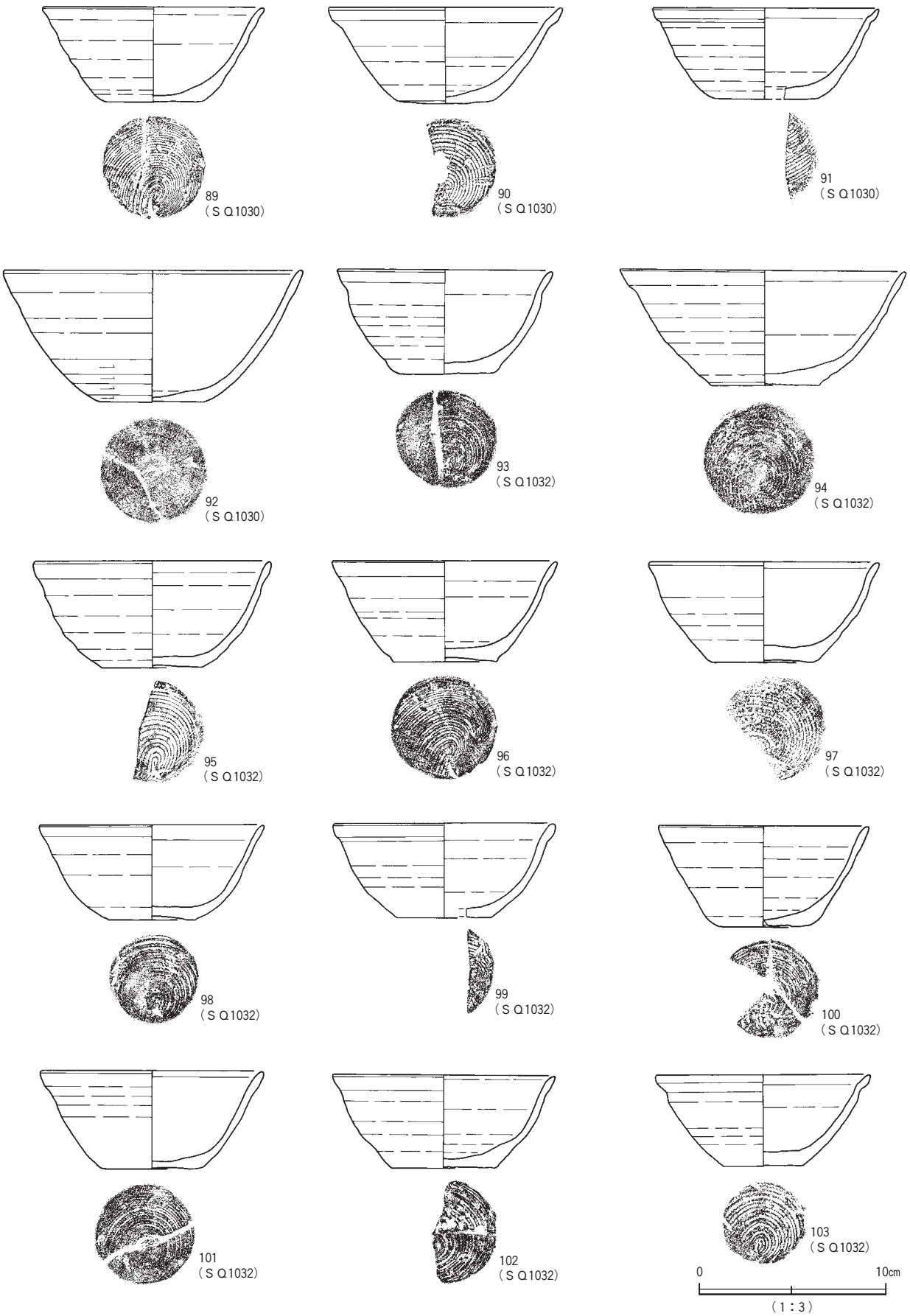
第27図　ＳＱ1024～1026出土遺物実測図



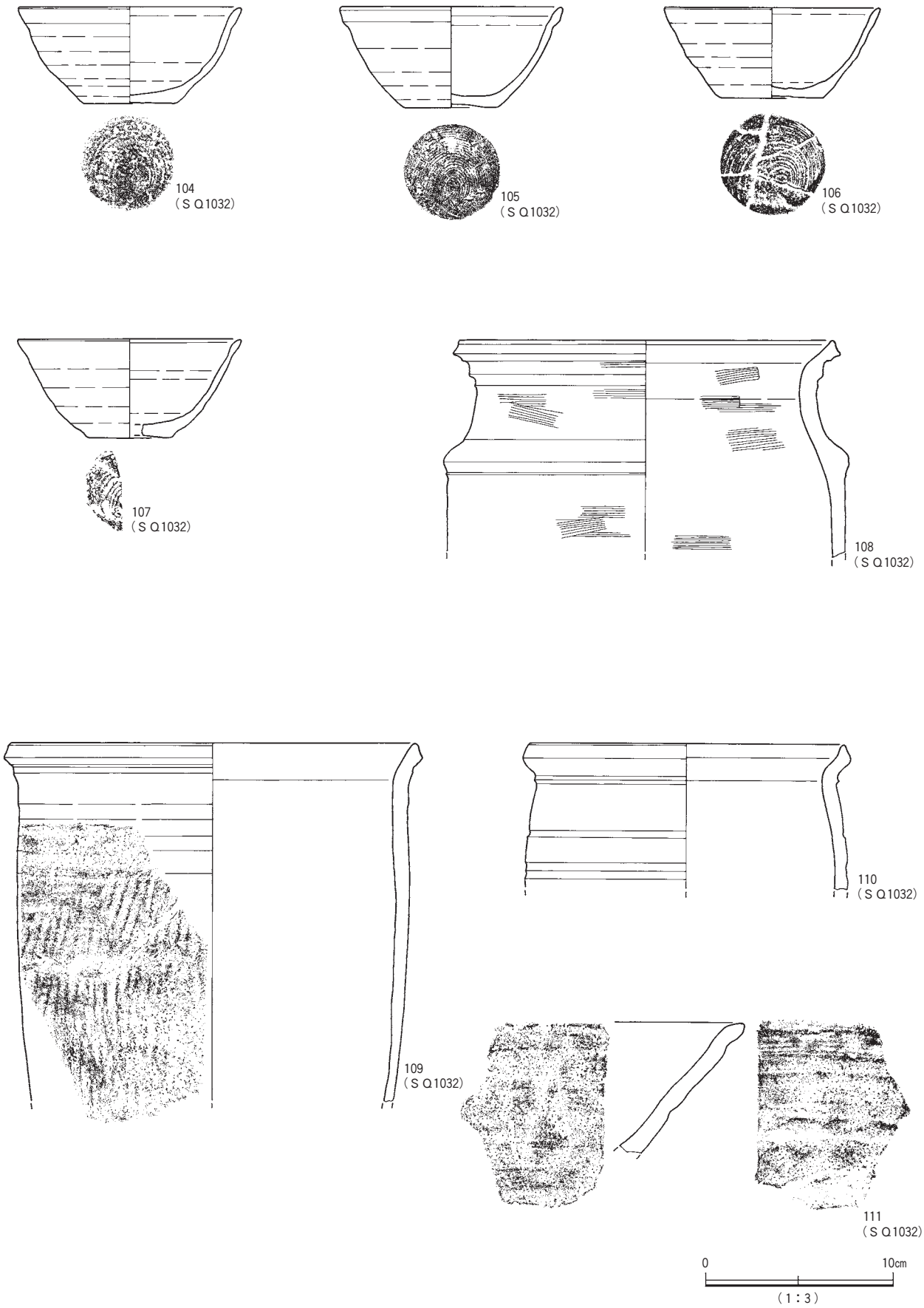
第28図　ＳＱ1026～1028出土遺物実測図



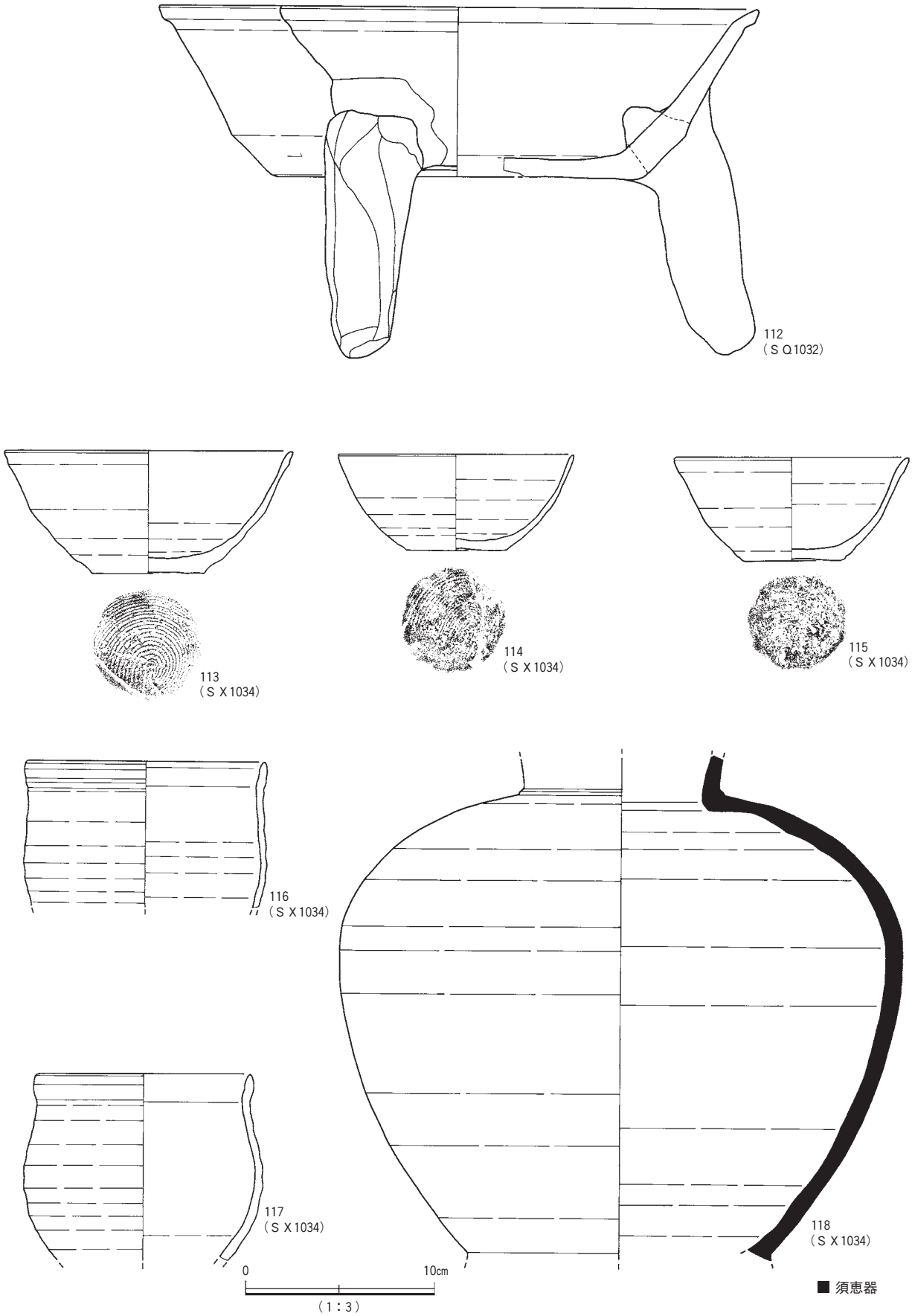
第29図　ＳＱ1028～1029出土遺物実測図



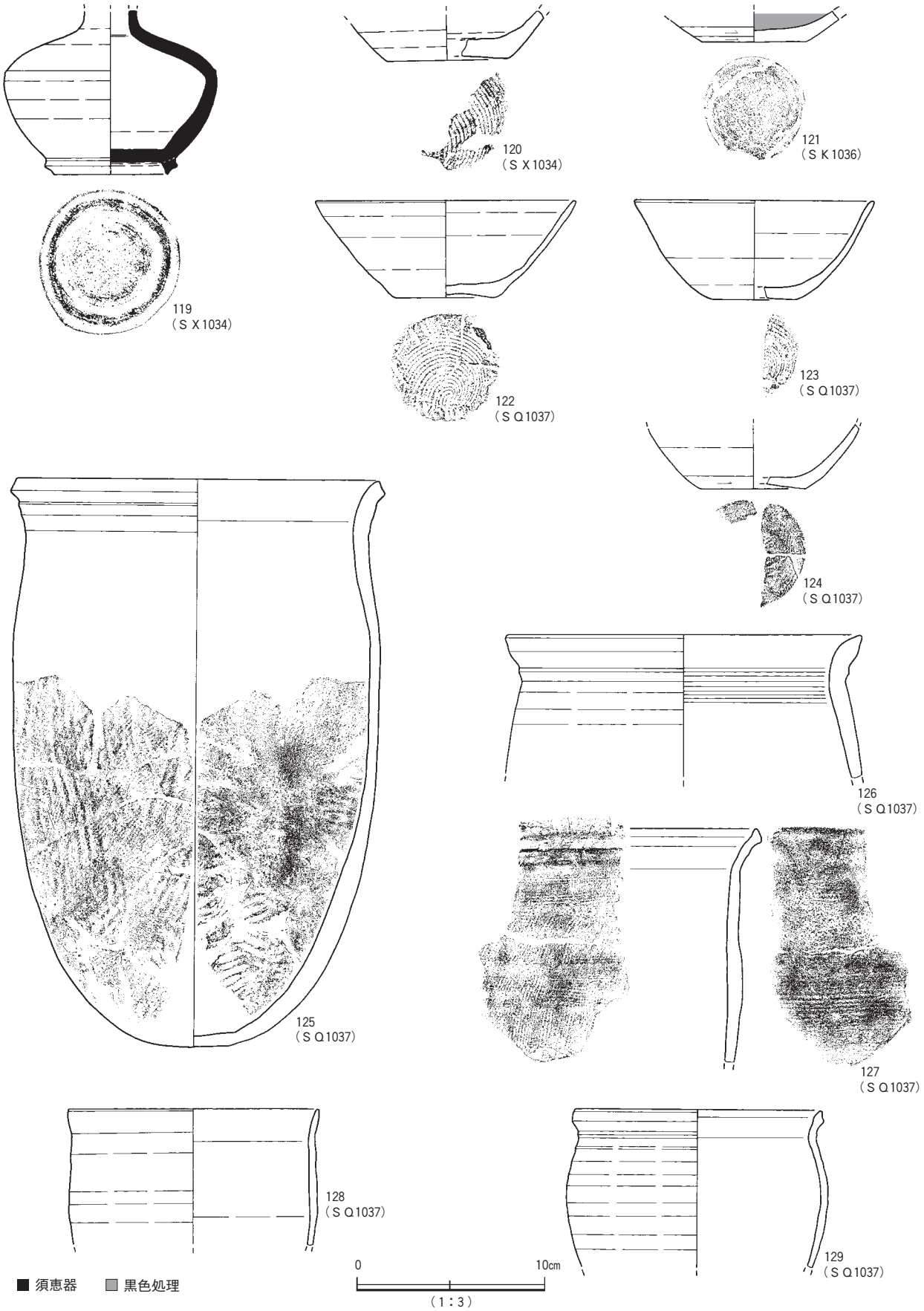
第30図　ＳＱ1030・1032出土遺物実測図



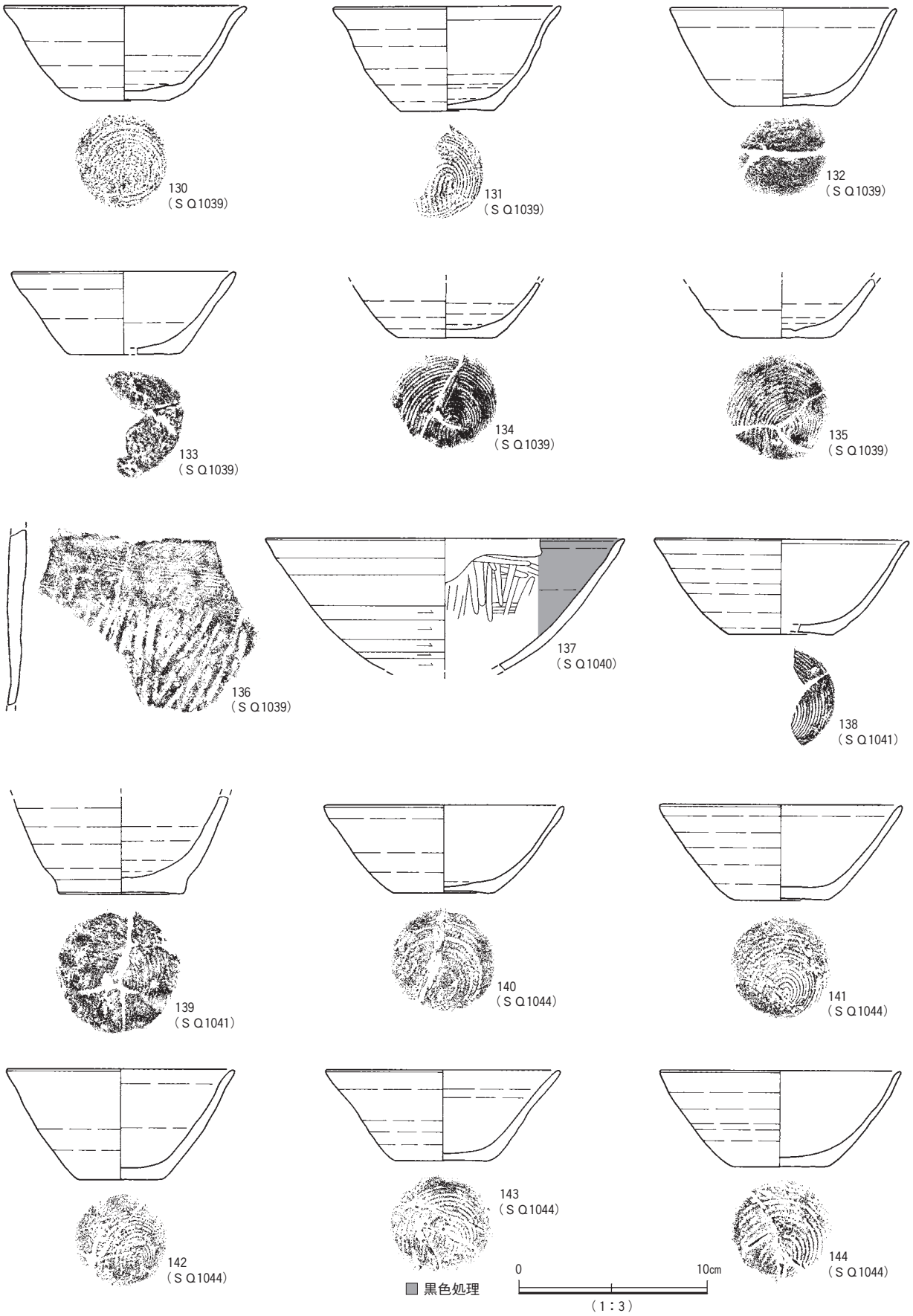
第31図　ＳＱ1032出土遺物実測図



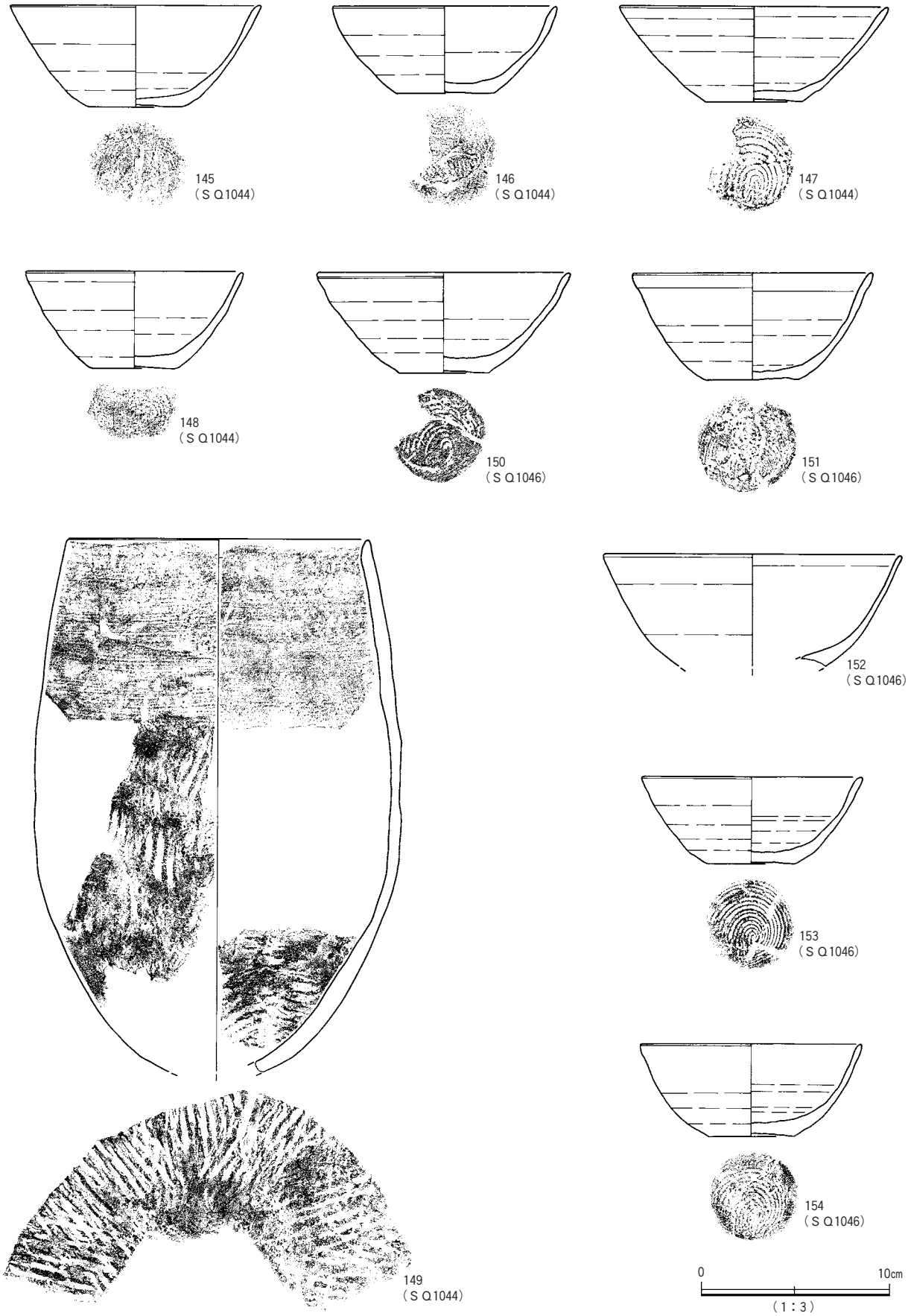
第32図　ＳＱ1032、ＳＸ1034出土遺物実測図



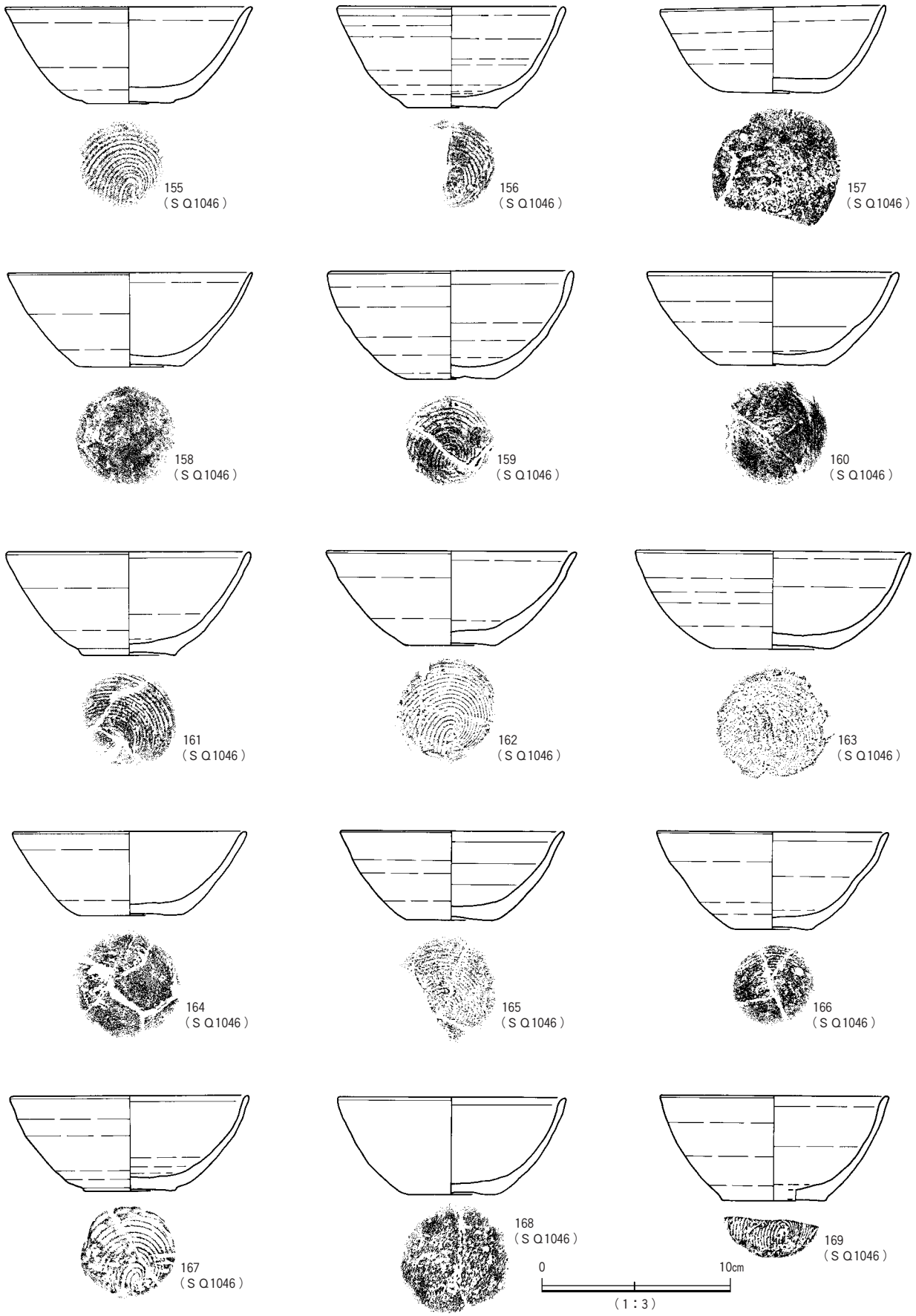
第33図　ＳＸ1034、ＳＫ1036、ＳＱ1037出土遺物実測図



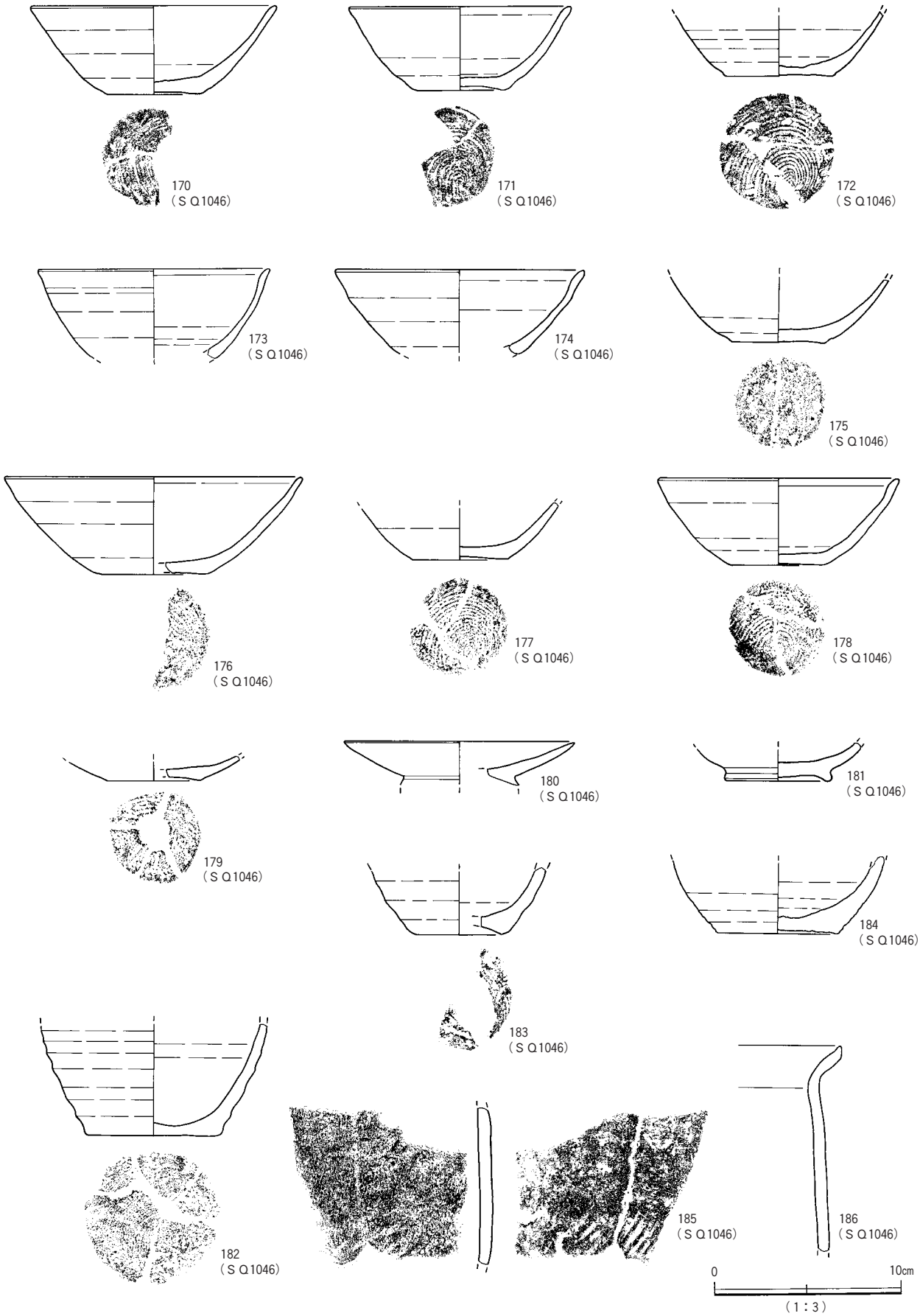
第34図　ＳＱ1039～1041・1044出土遺物実測図



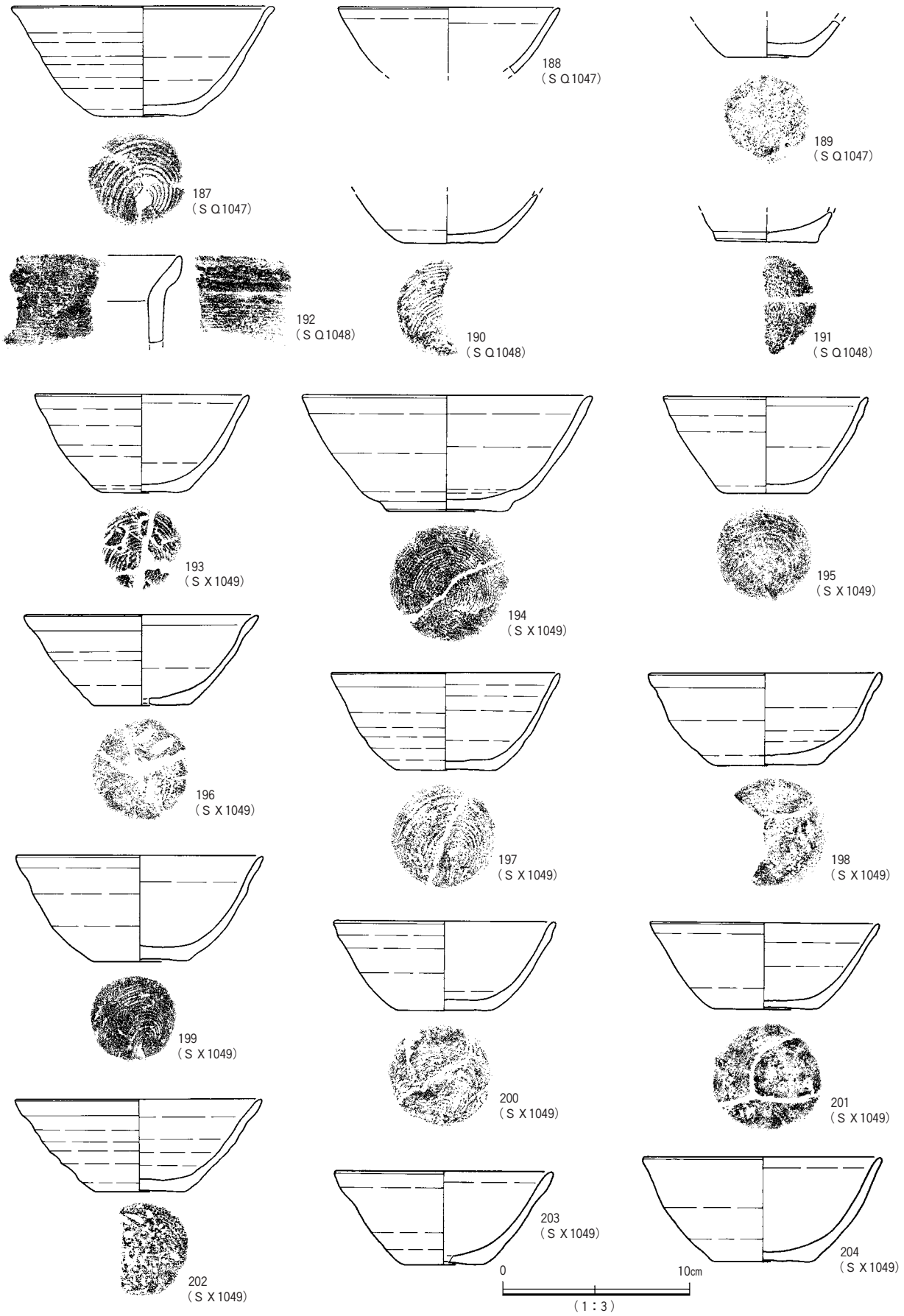
第35図　ＳＱ1044・1046出土遺物実測図



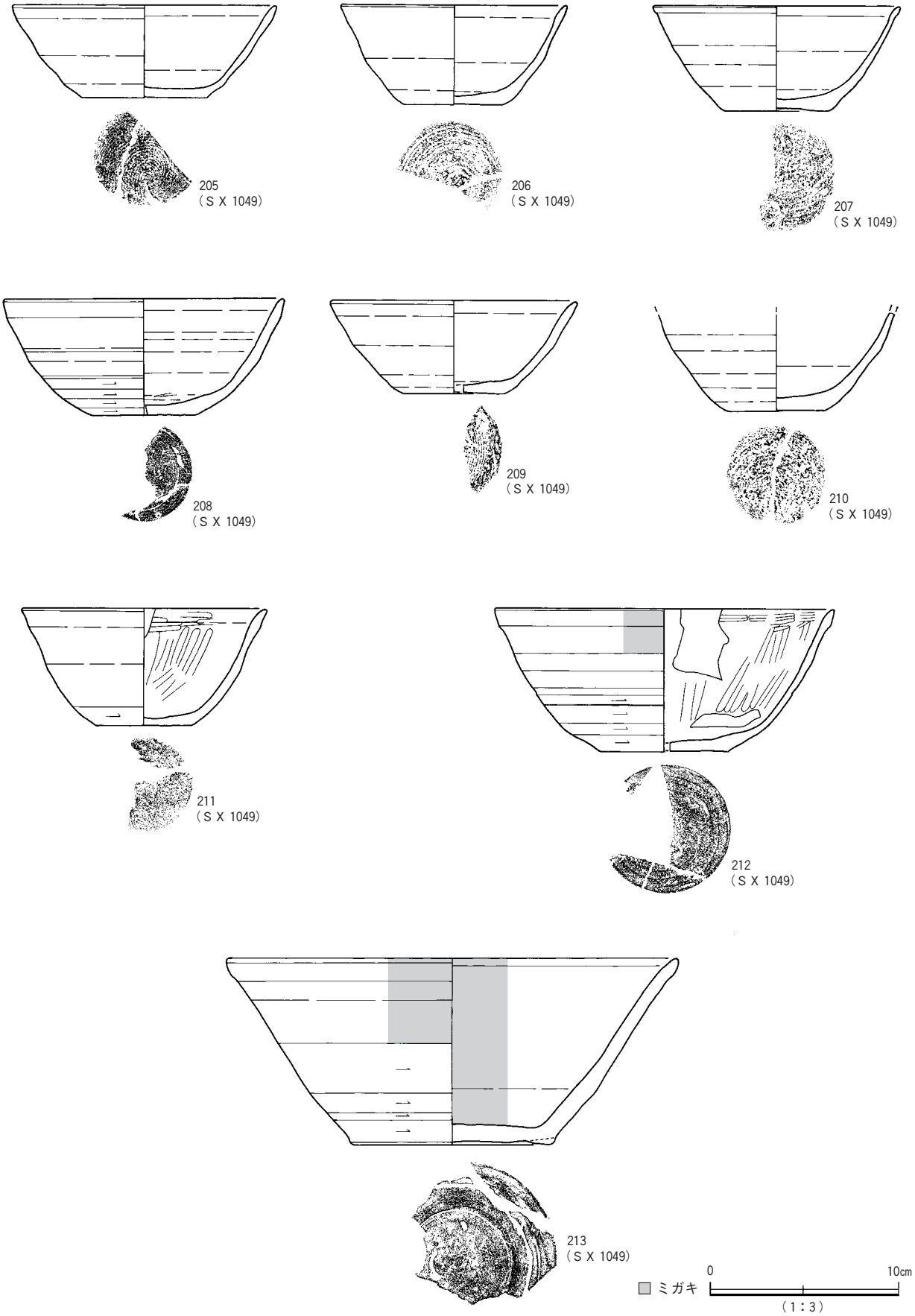
第36図　ＳＱ1046出土遺物実測図（１）



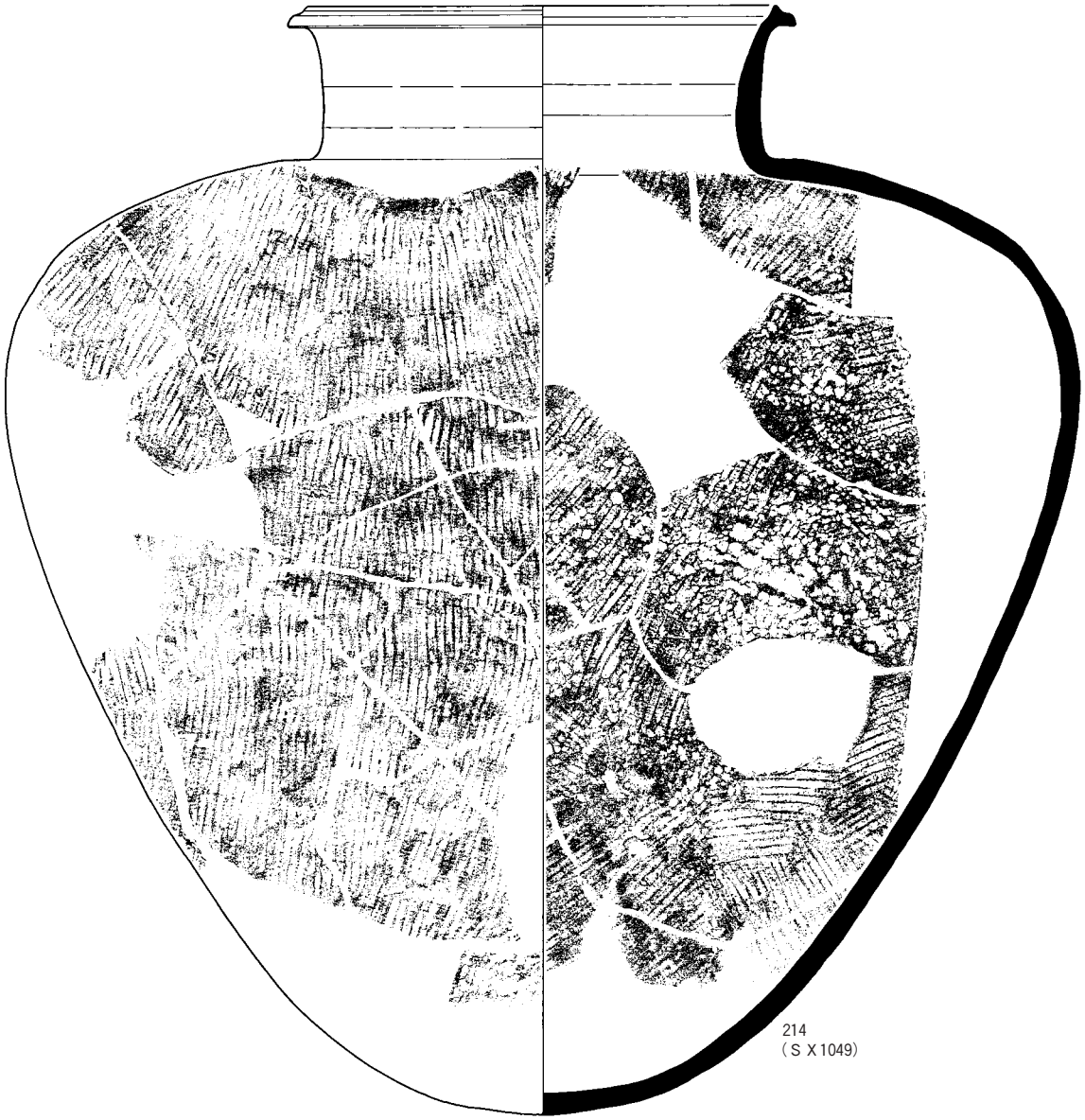
第37図　ＳＱ1046出土遺物実測図（２）

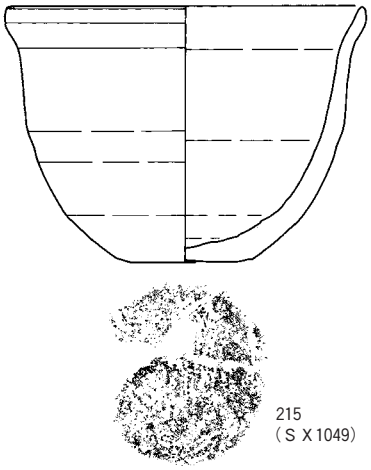


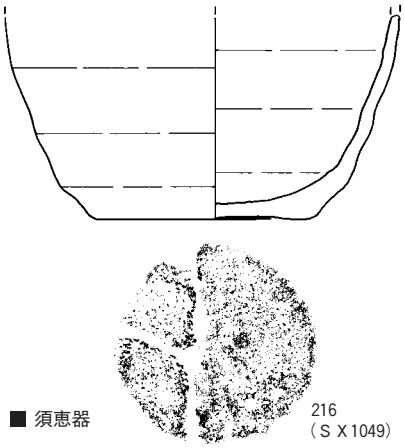
第38図　ＳＱ1047～1048、ＳＸ1049出土遺物実測図

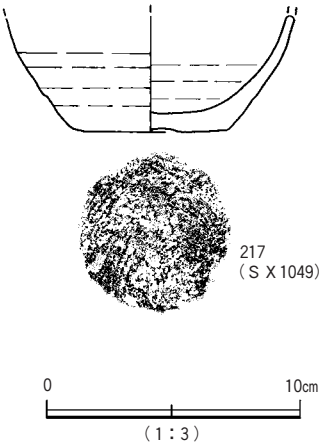


第39図　S X 1049出土遺物実測図（1）

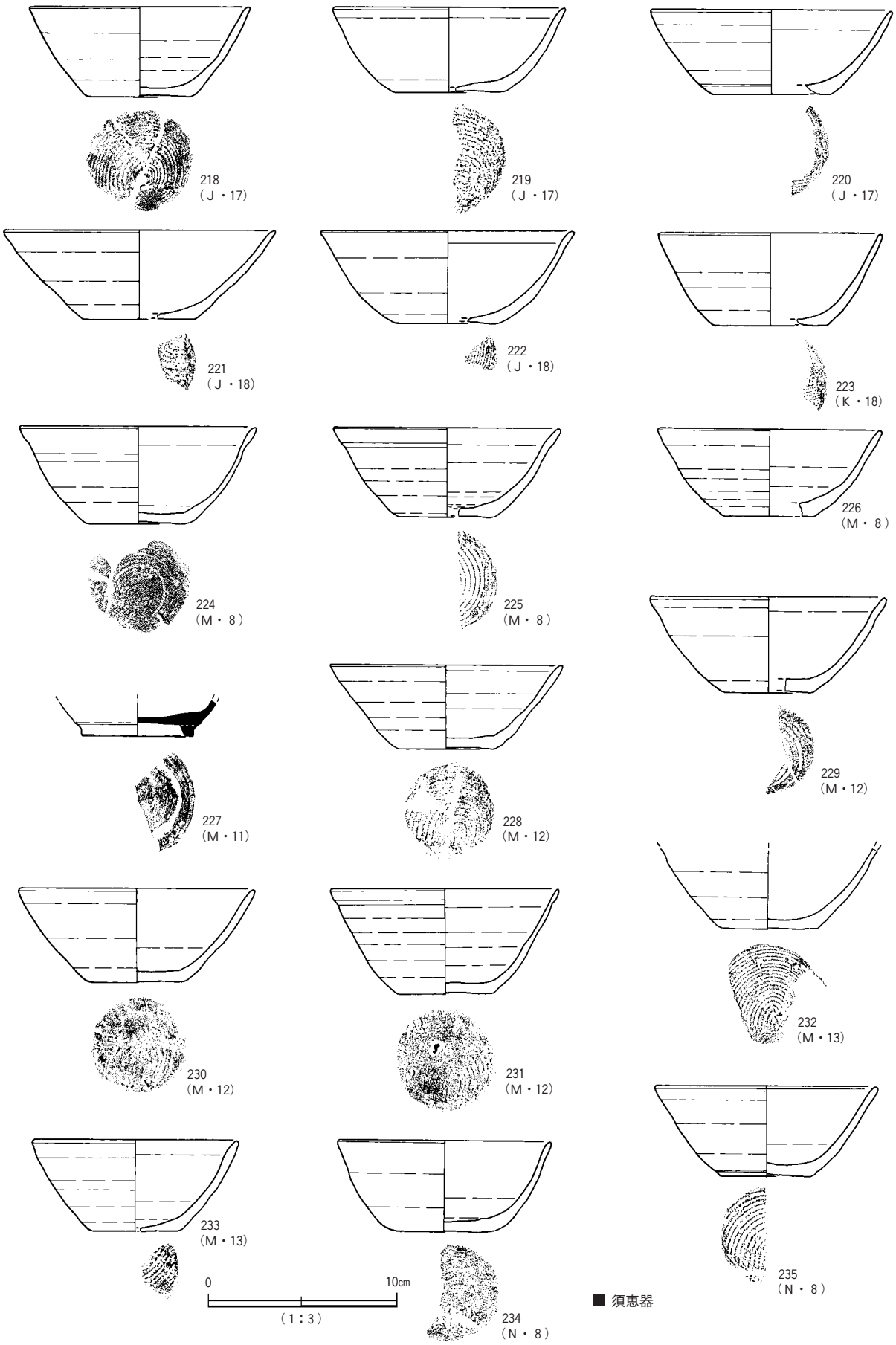




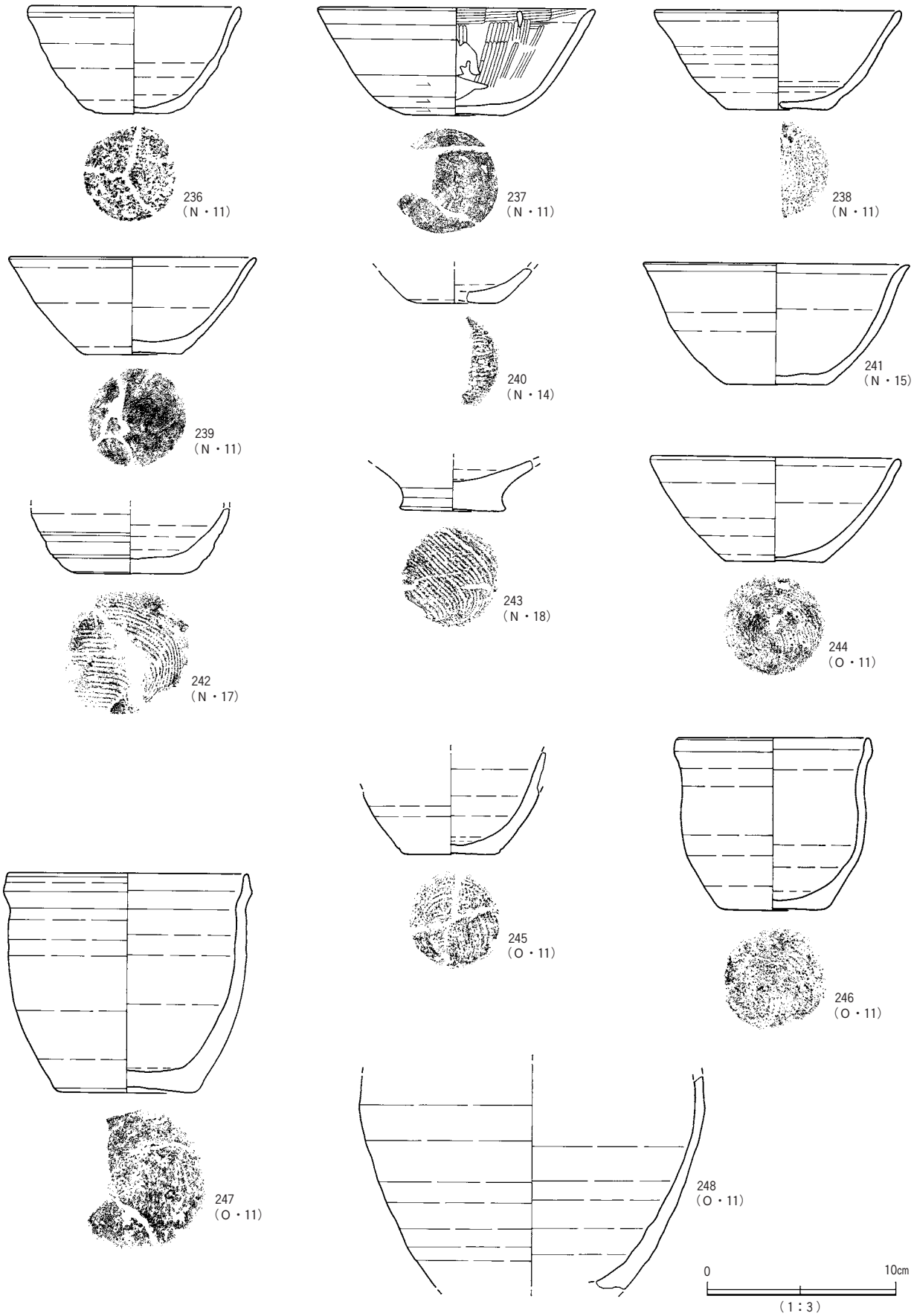




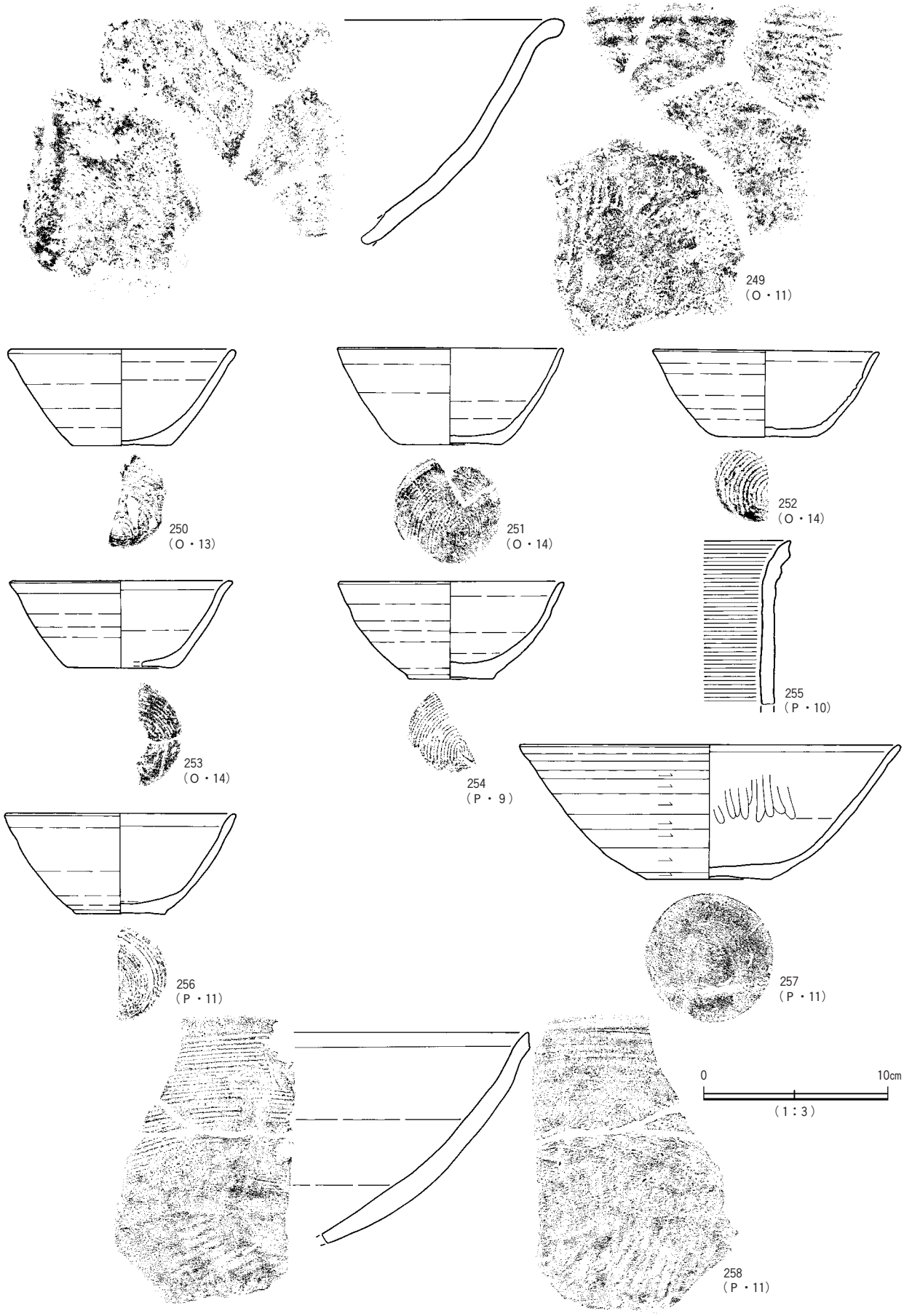
第40図　ＳＸ1049出土遺物実測図（２）



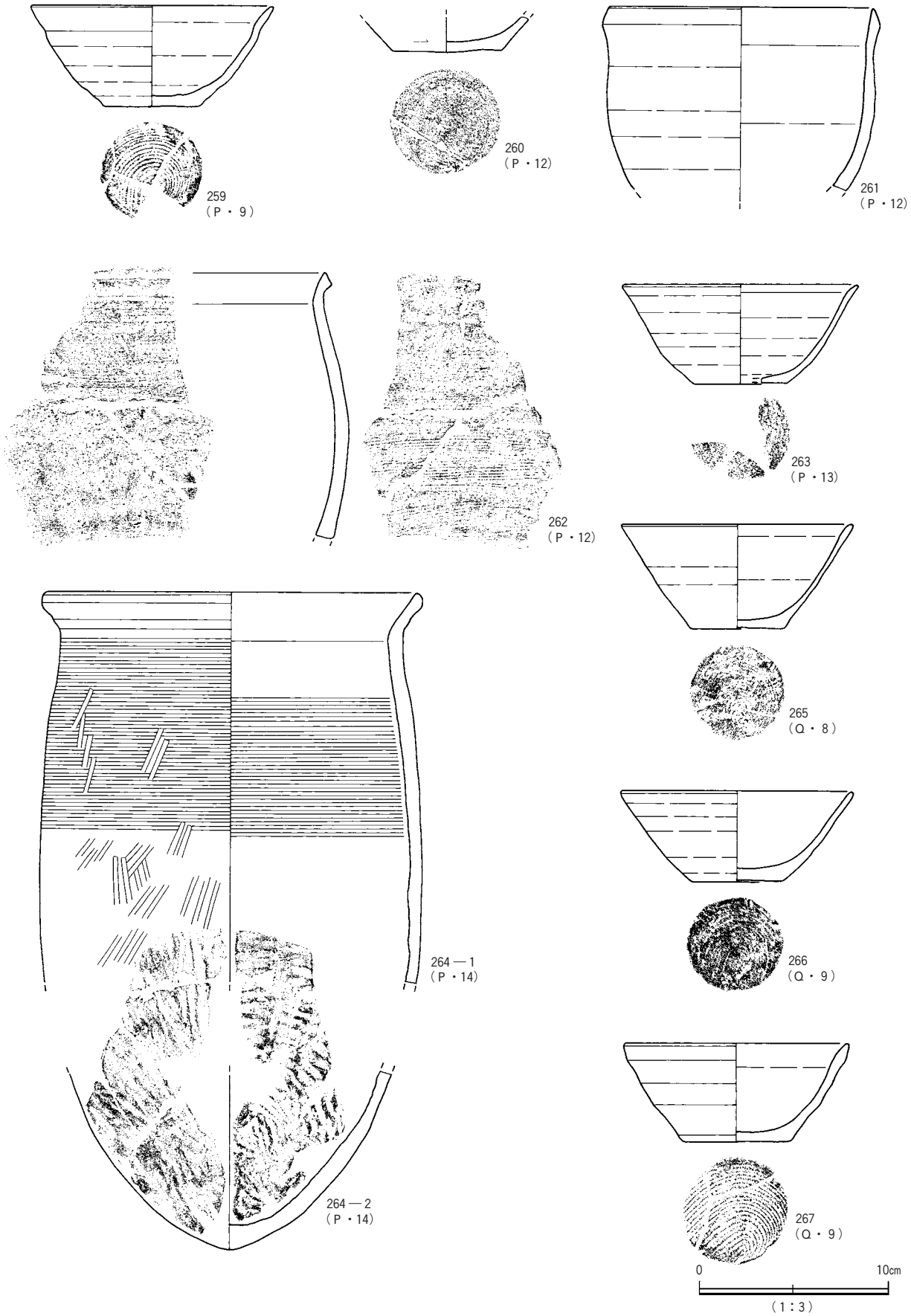
第41図　グリッド出土遺物実測図（1）



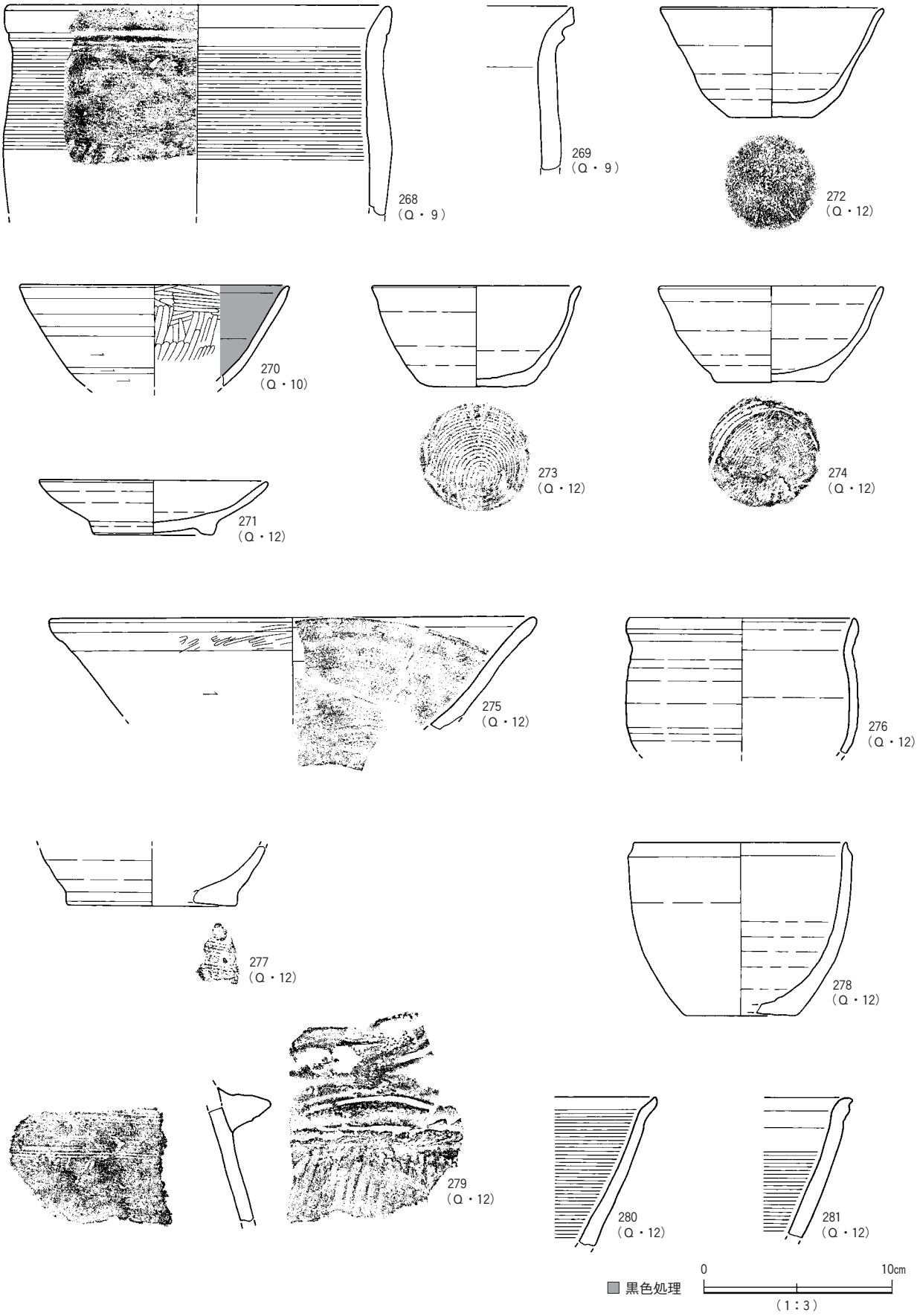
第42図　グリッド出土遺物実測図（２）



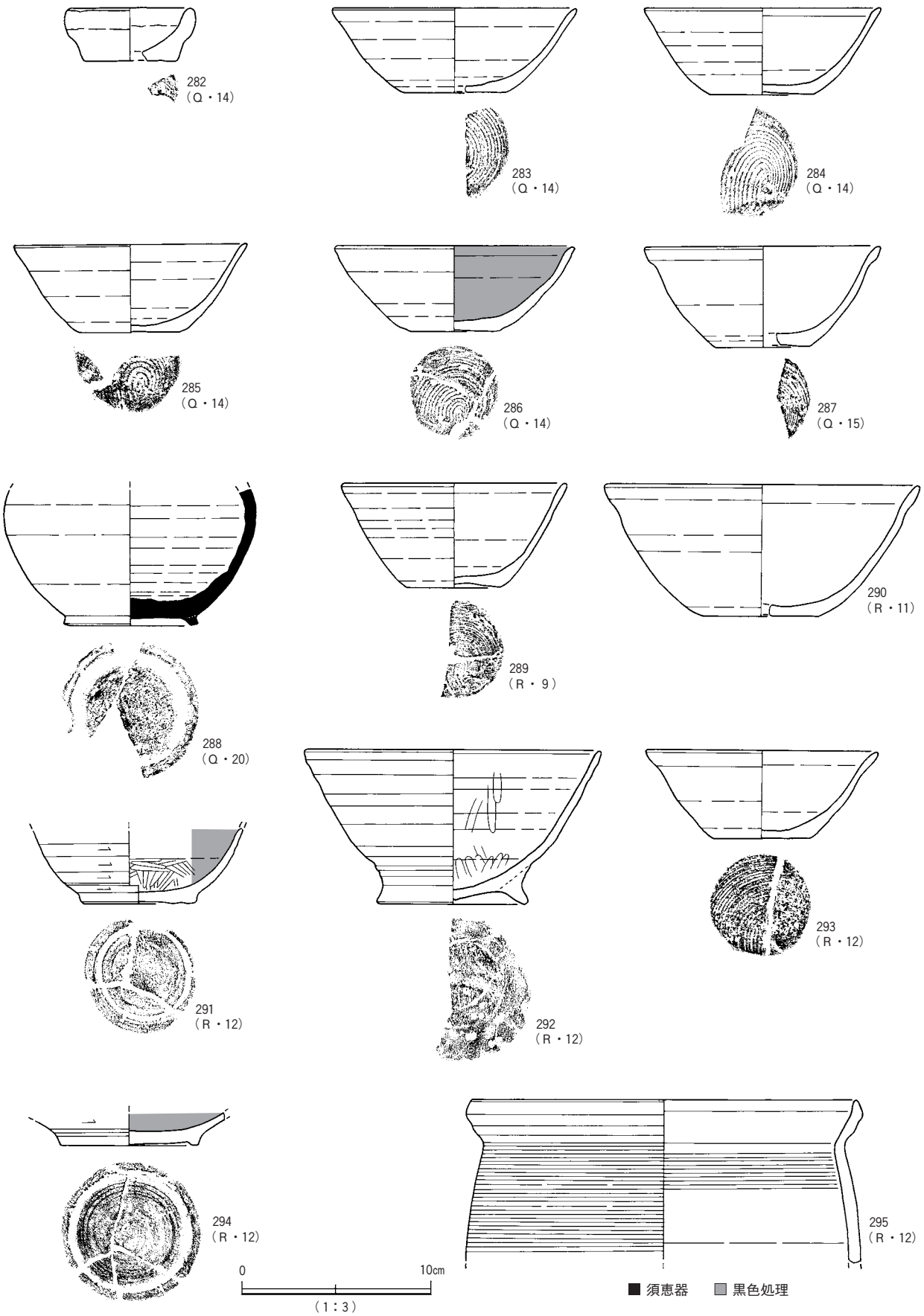
第43図　グリッド出土遺物実測図（3）



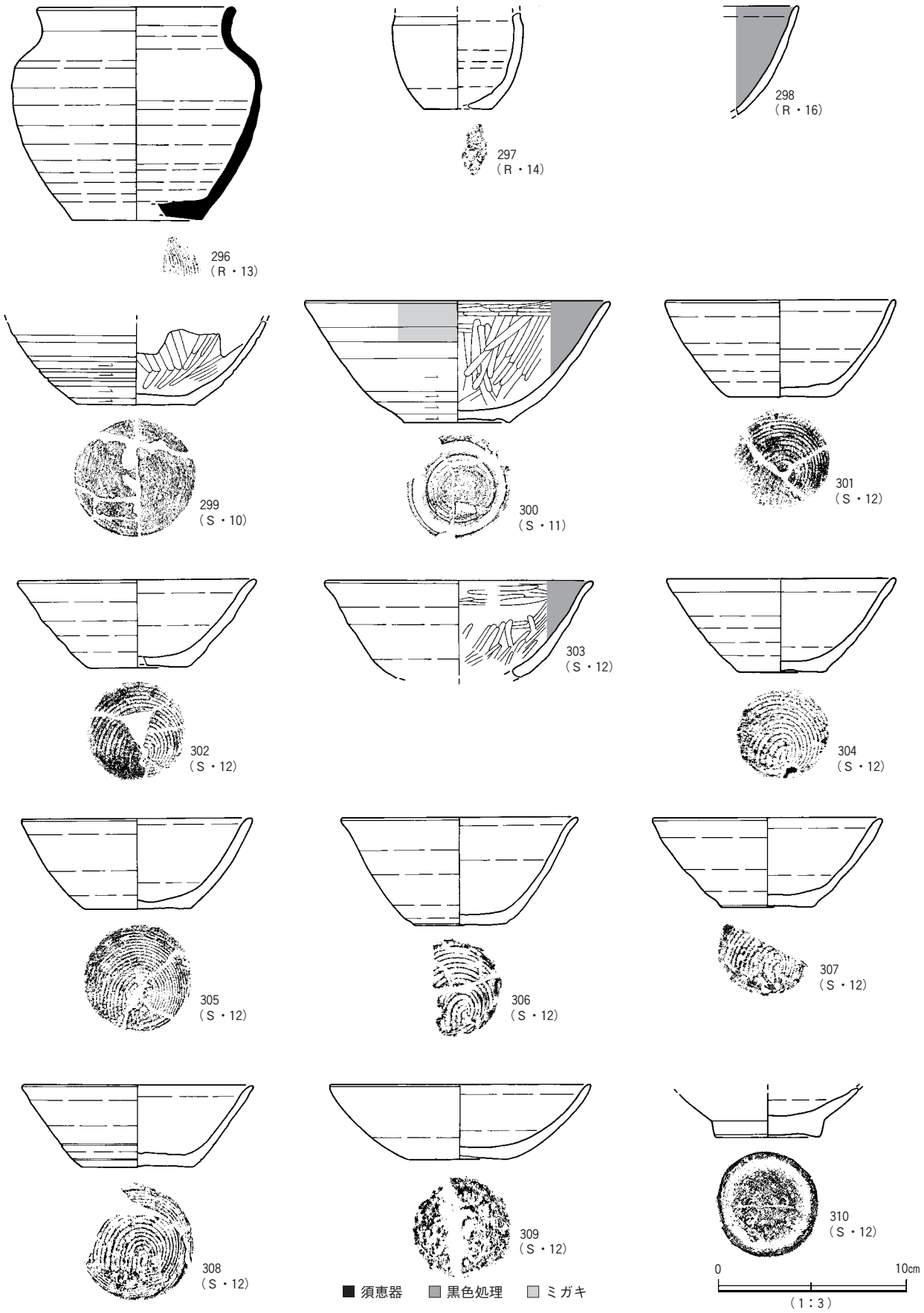
第44図　グリッド出土遺物実測図（4）



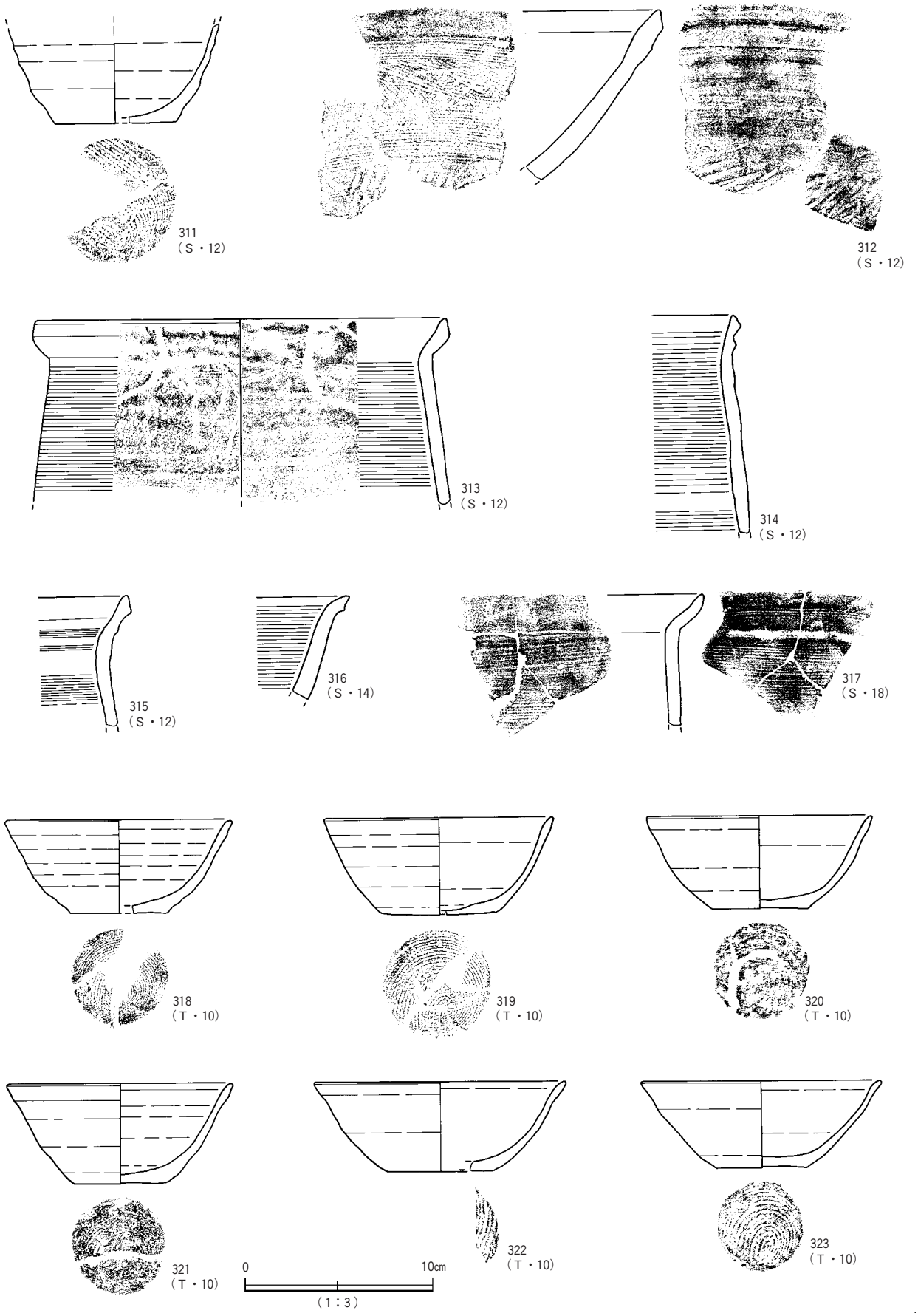
第45図　グリッド出土遺物実測図（5）



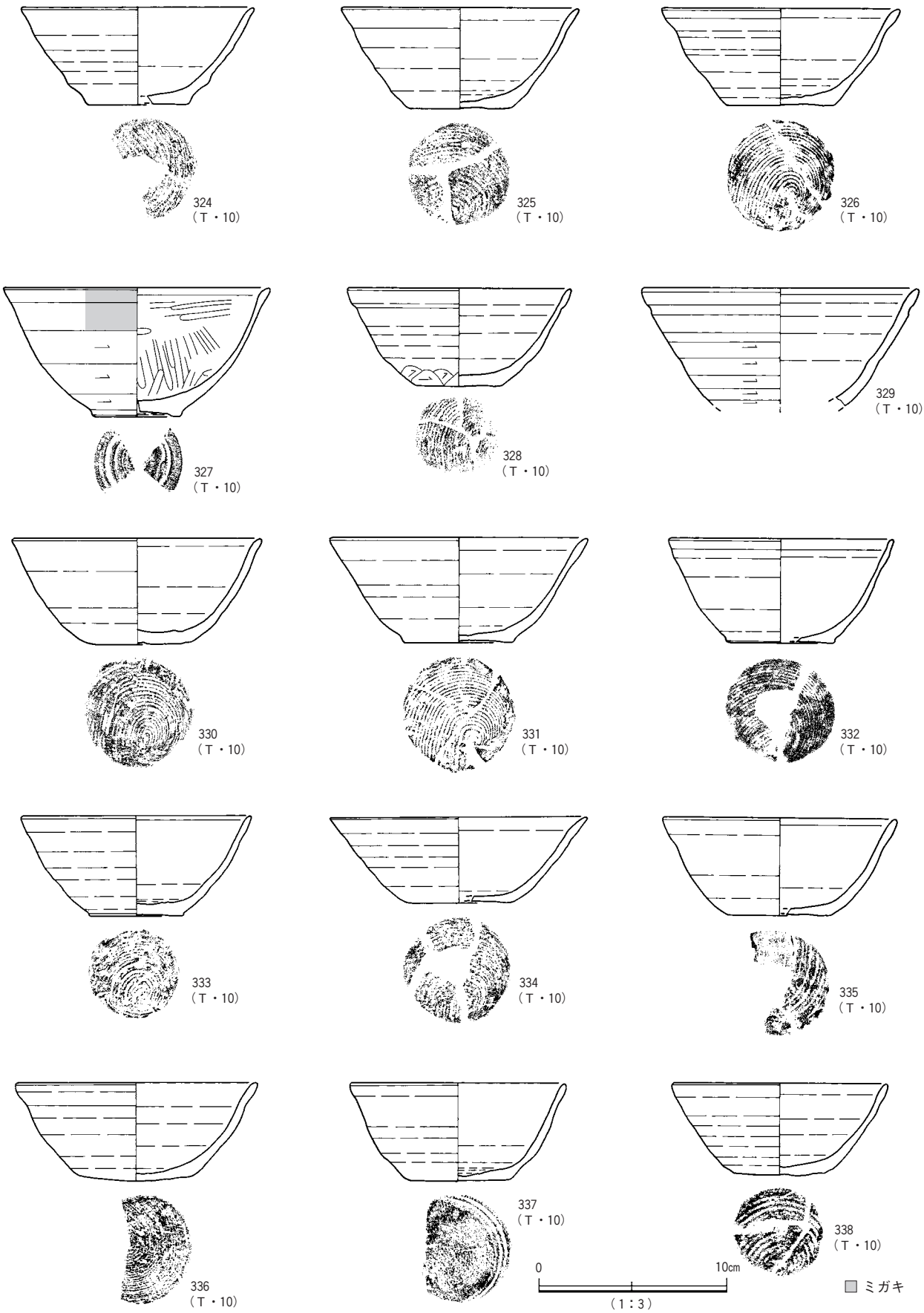
第46図　グリッド出土遺物実測図（6）



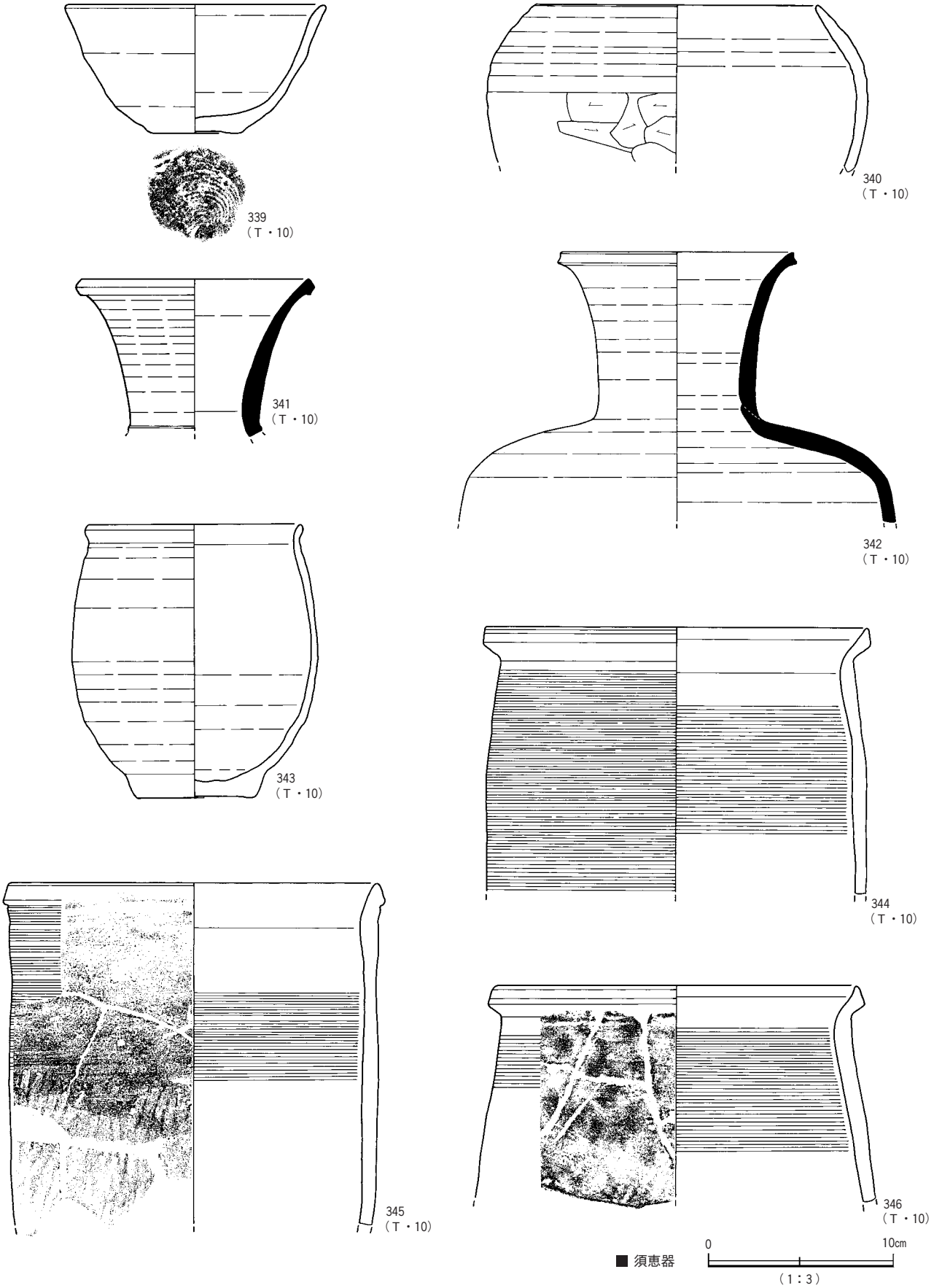
第47図　グリッド出土遺物実測図（７）



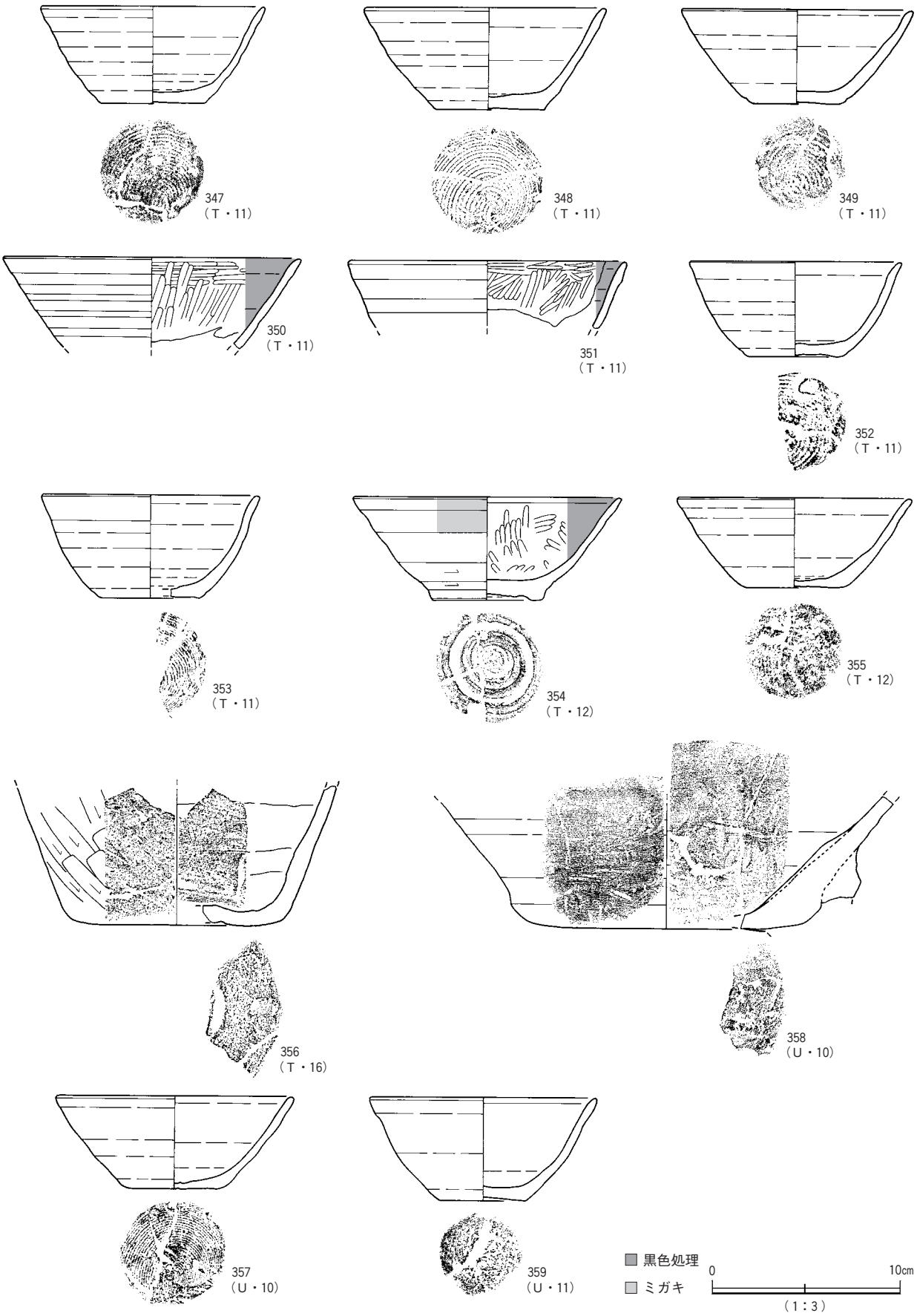
第48図　グリッド出土遺物実測図（８）



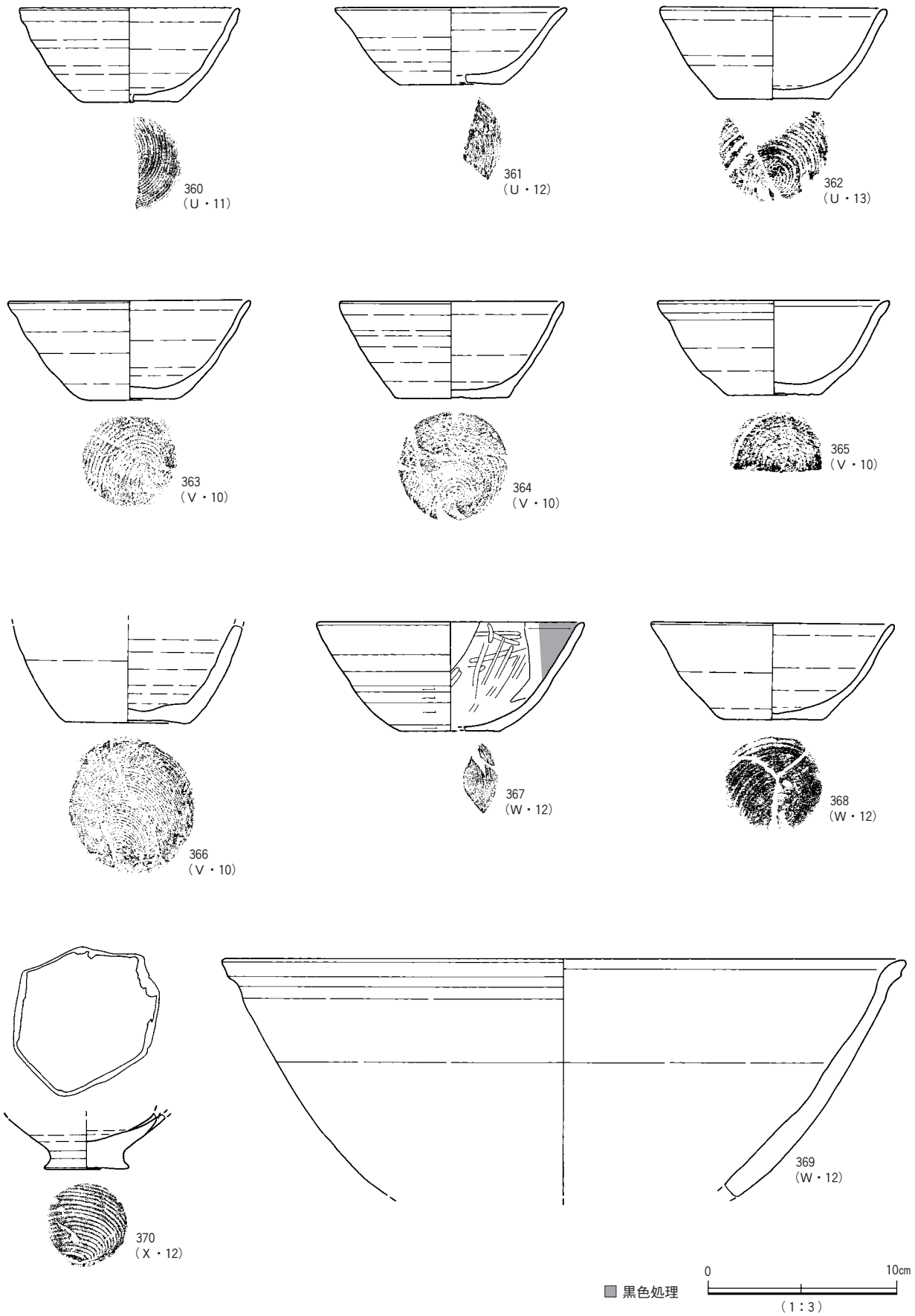
第49図　グリッド出土遺物実測図（9）



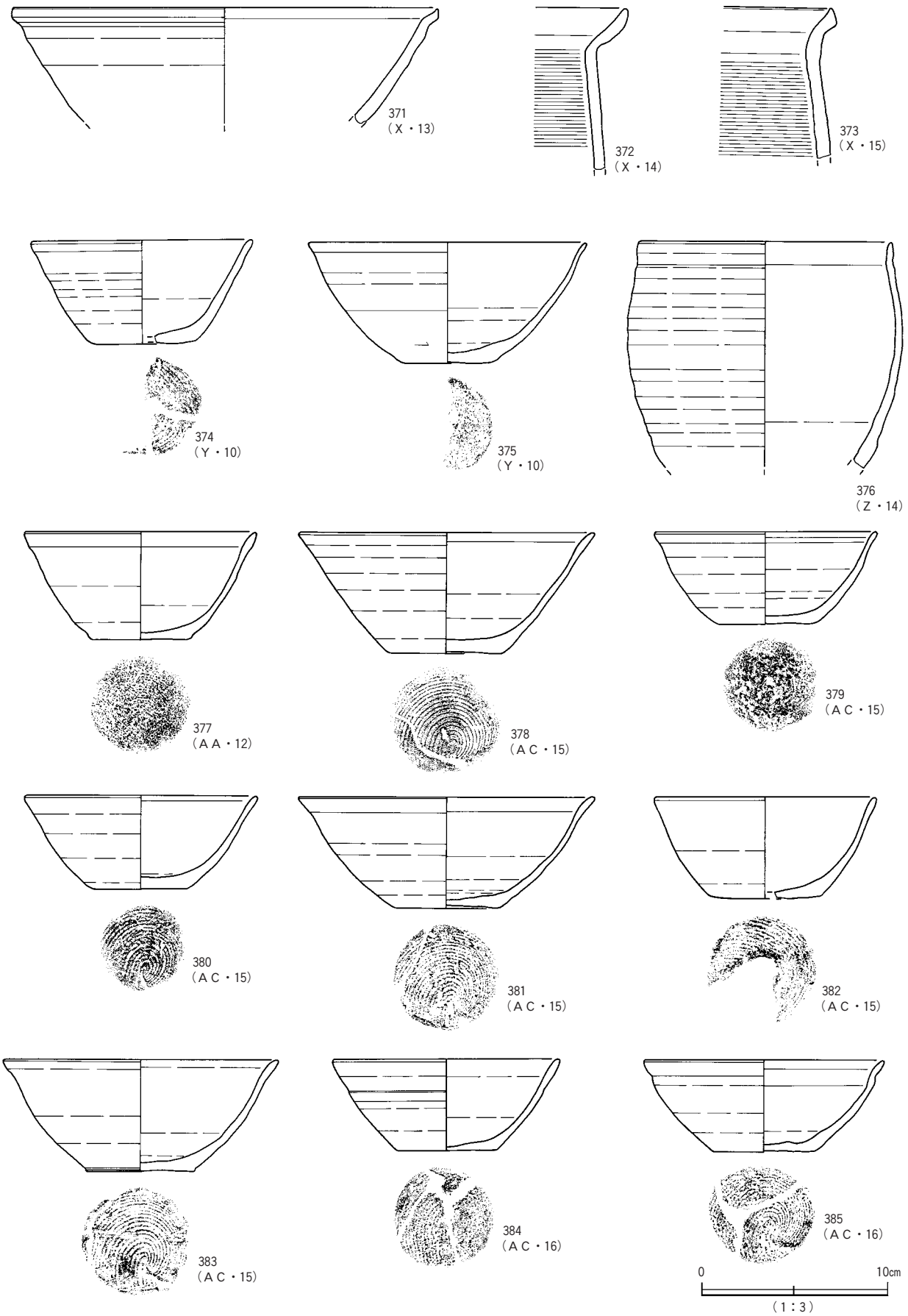
第50図　グリッド出土遺物実測図（10）



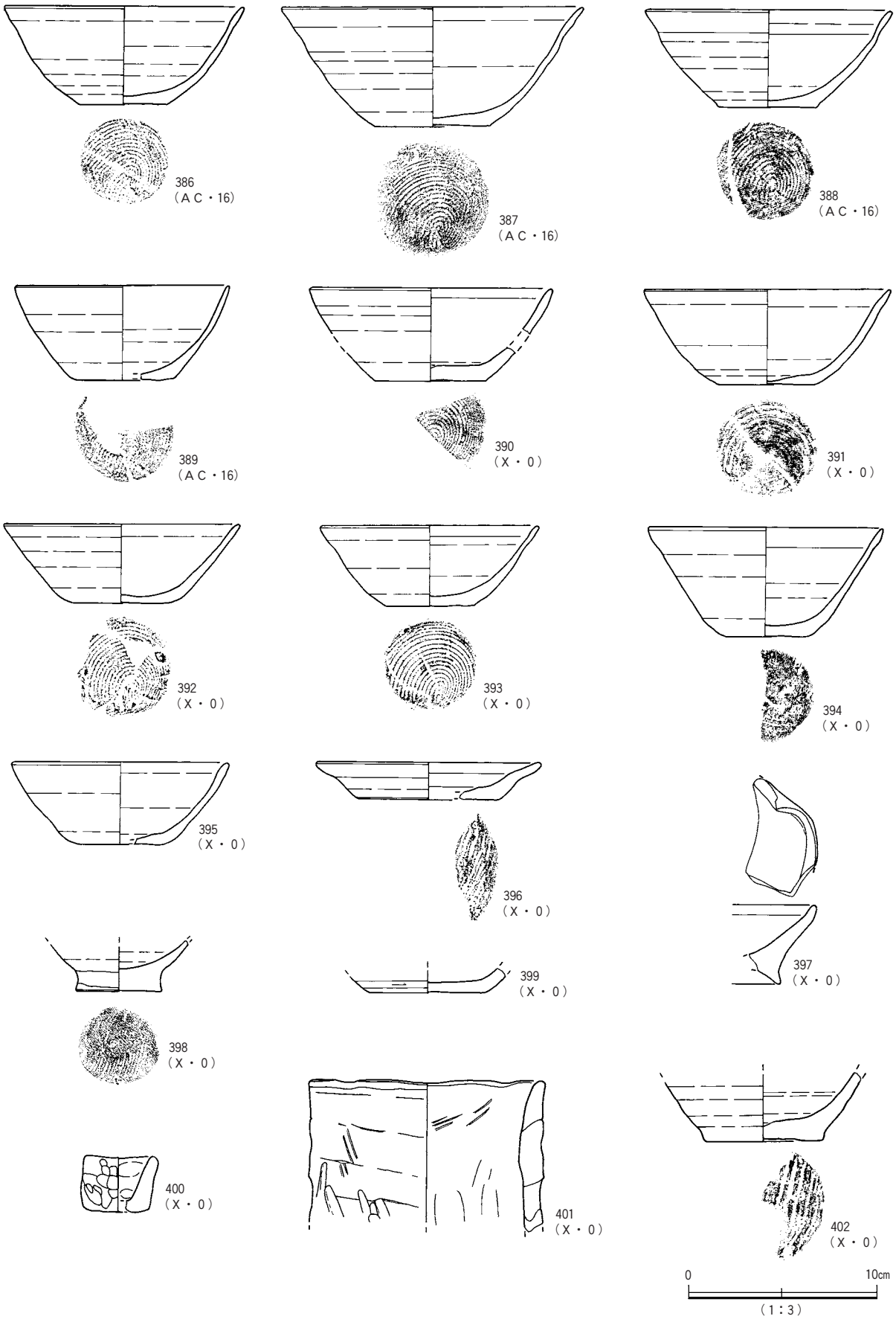
第51図　グリッド出土遺物実測図（11）



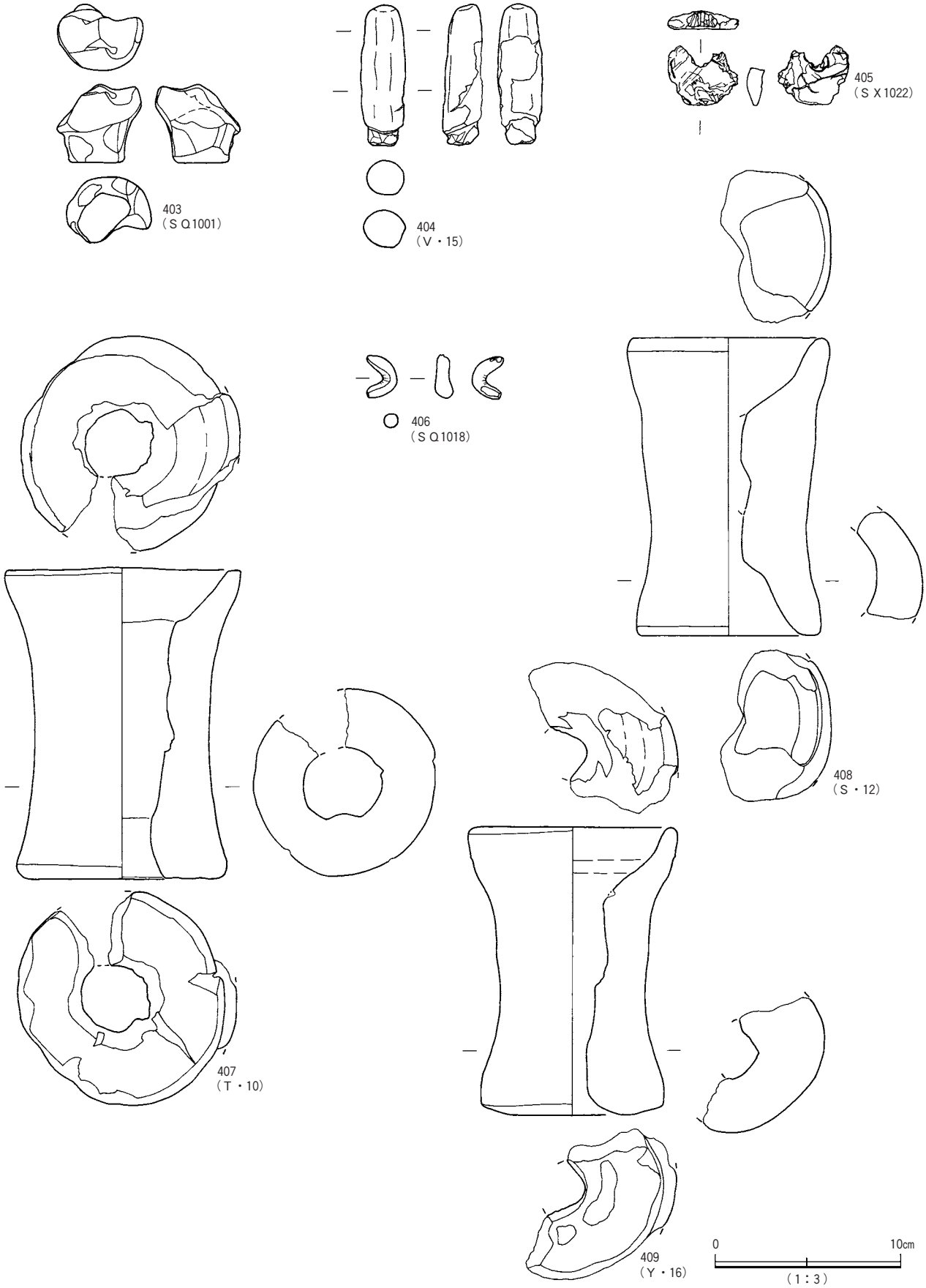
第52図　グリッド出土遺物実測図（12）



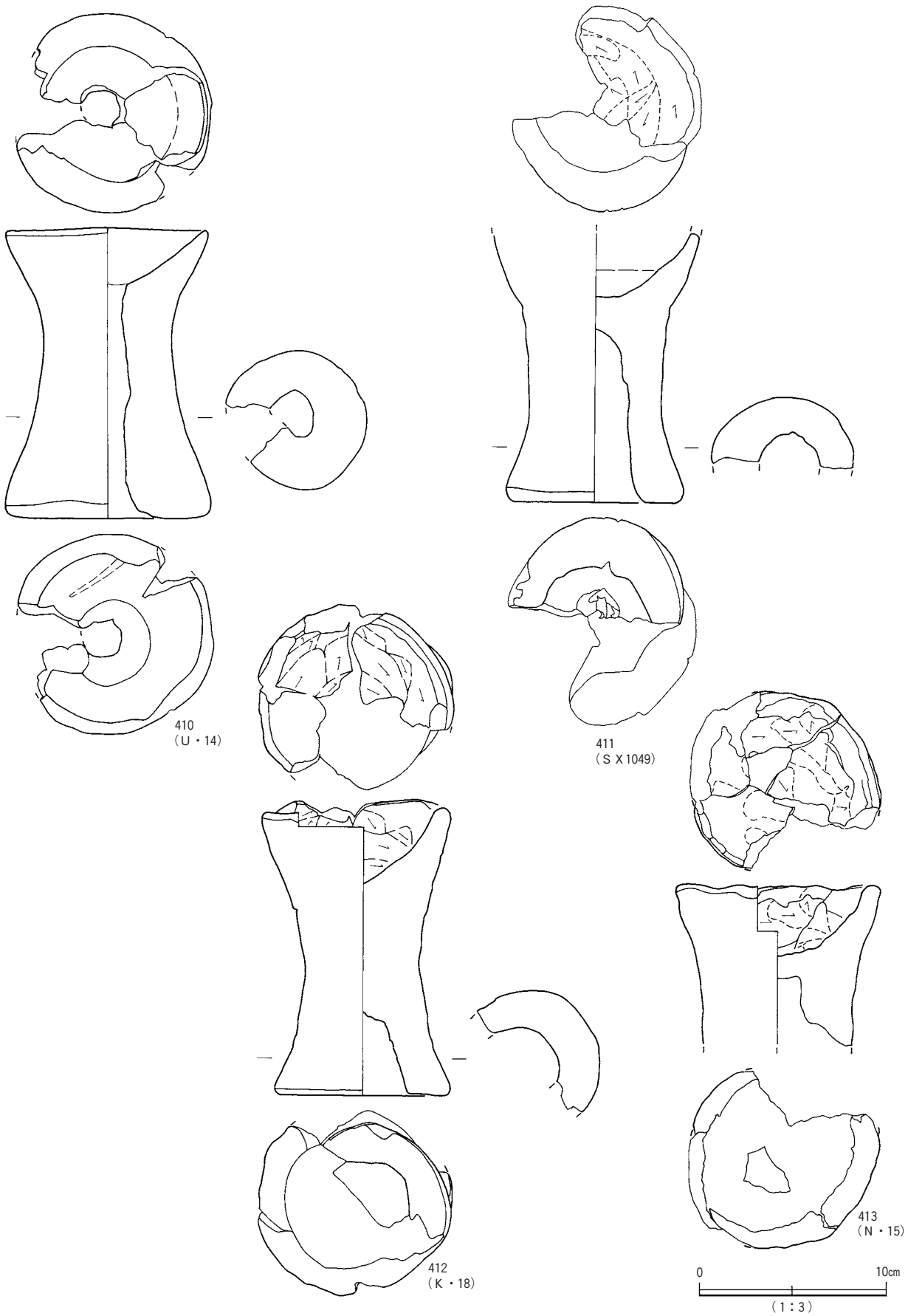
第53図　グリッド出土遺物実測図（13）



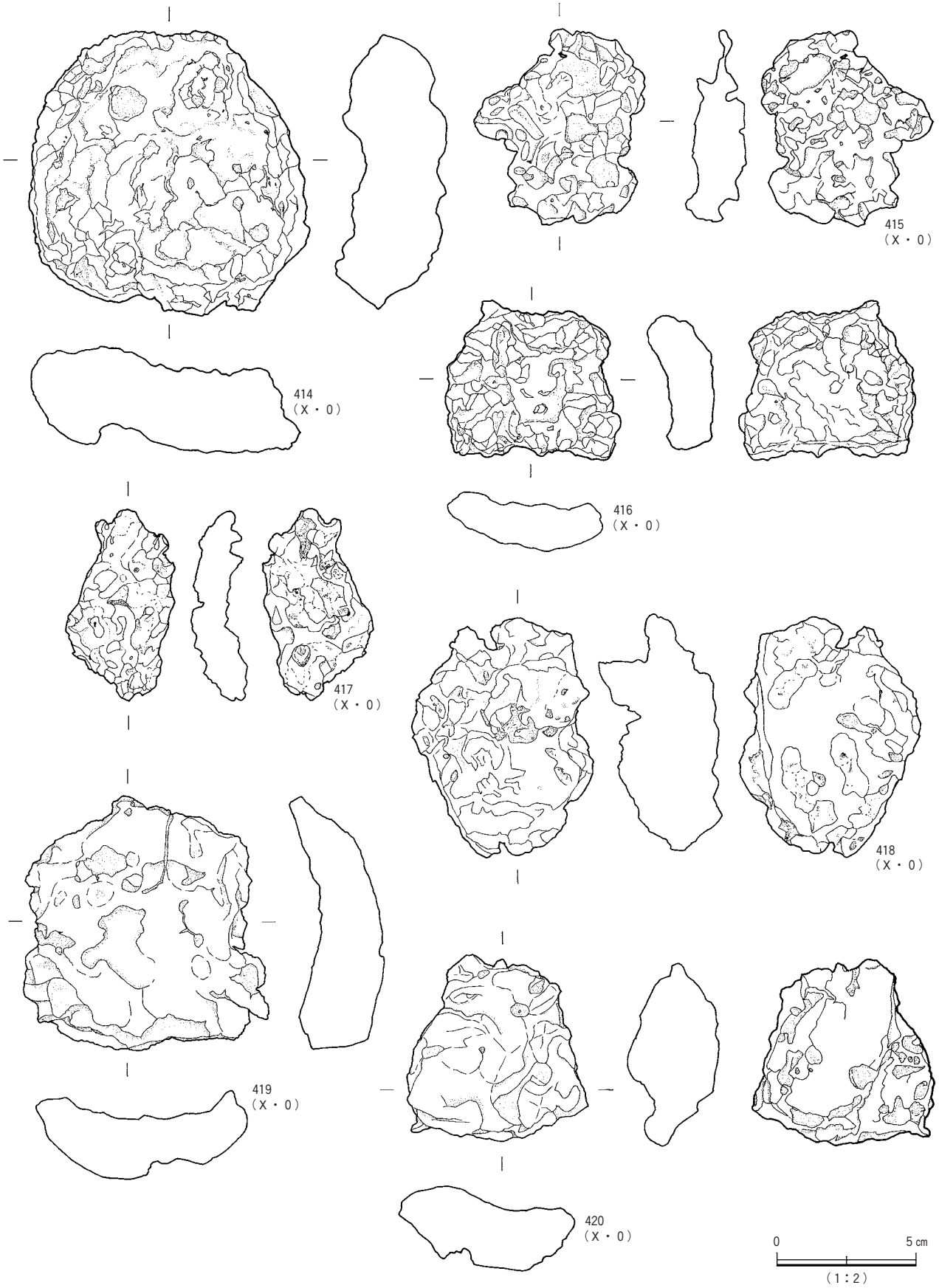
第54図　グリッド、Ｘ・０出土遺物実測図



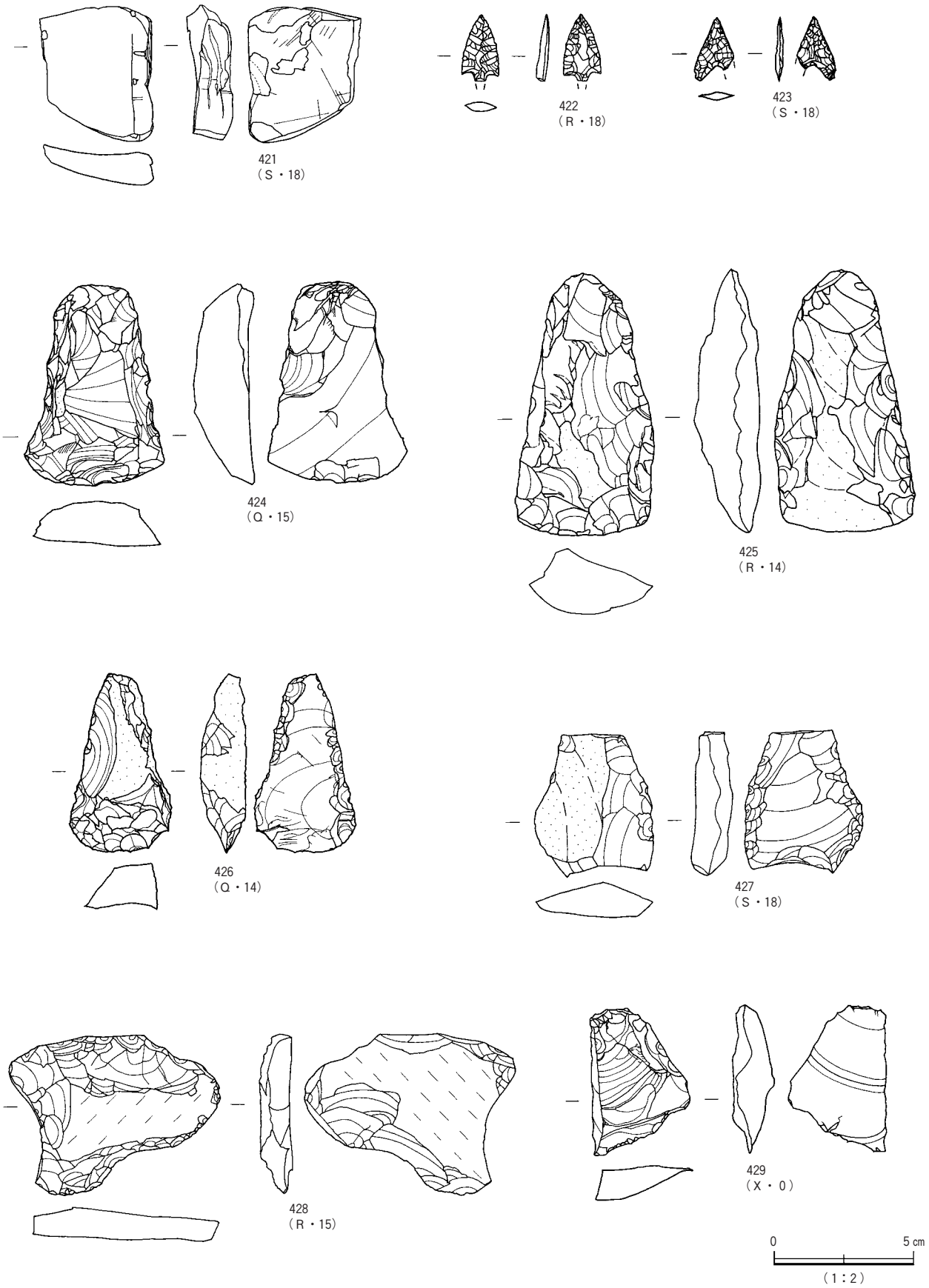
第55図　ＳＱ1001・1018、ＳＸ1022、グリッド出土遺物実測図



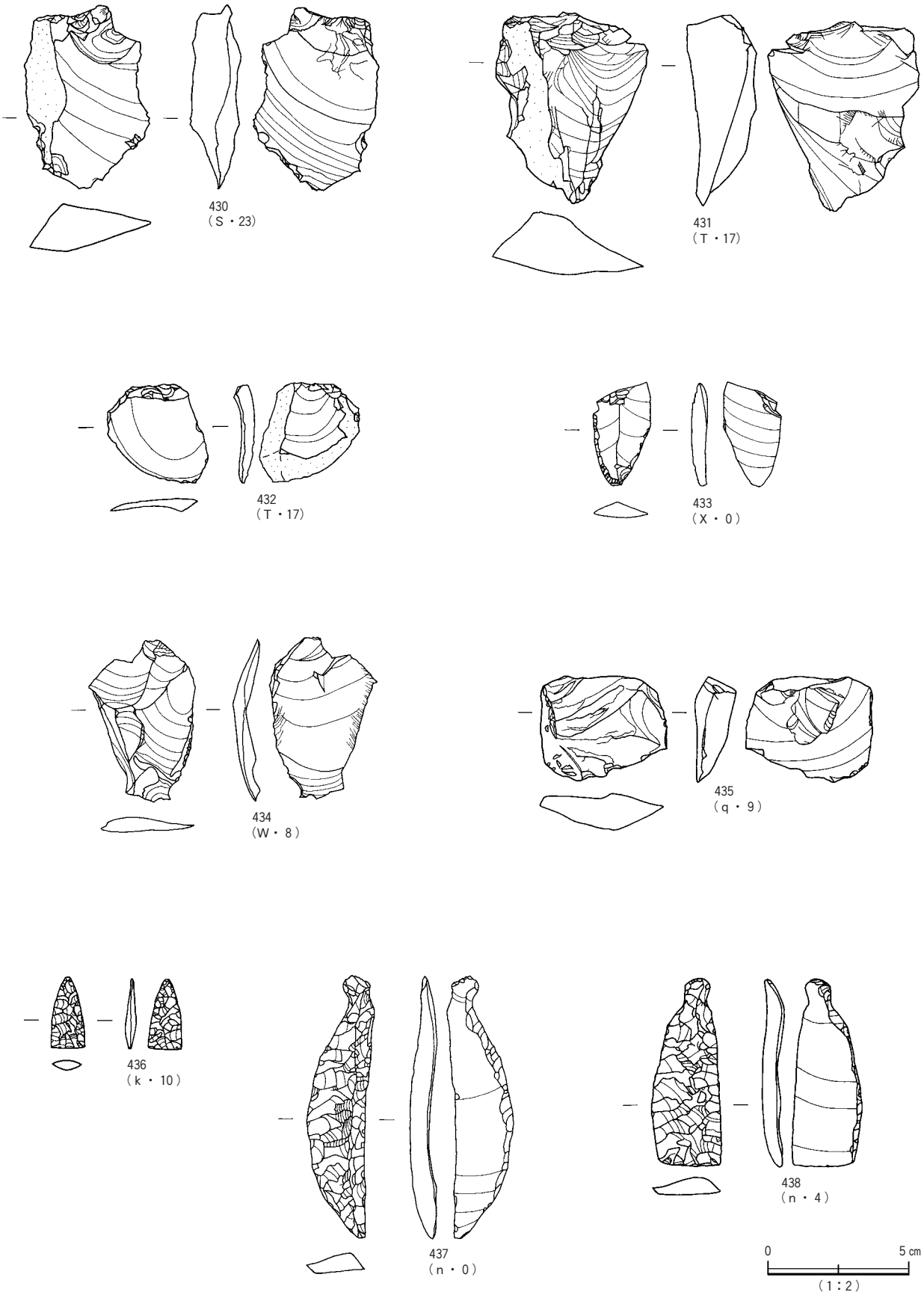
第56図　S X 1049、グリッド出土遺物実測図



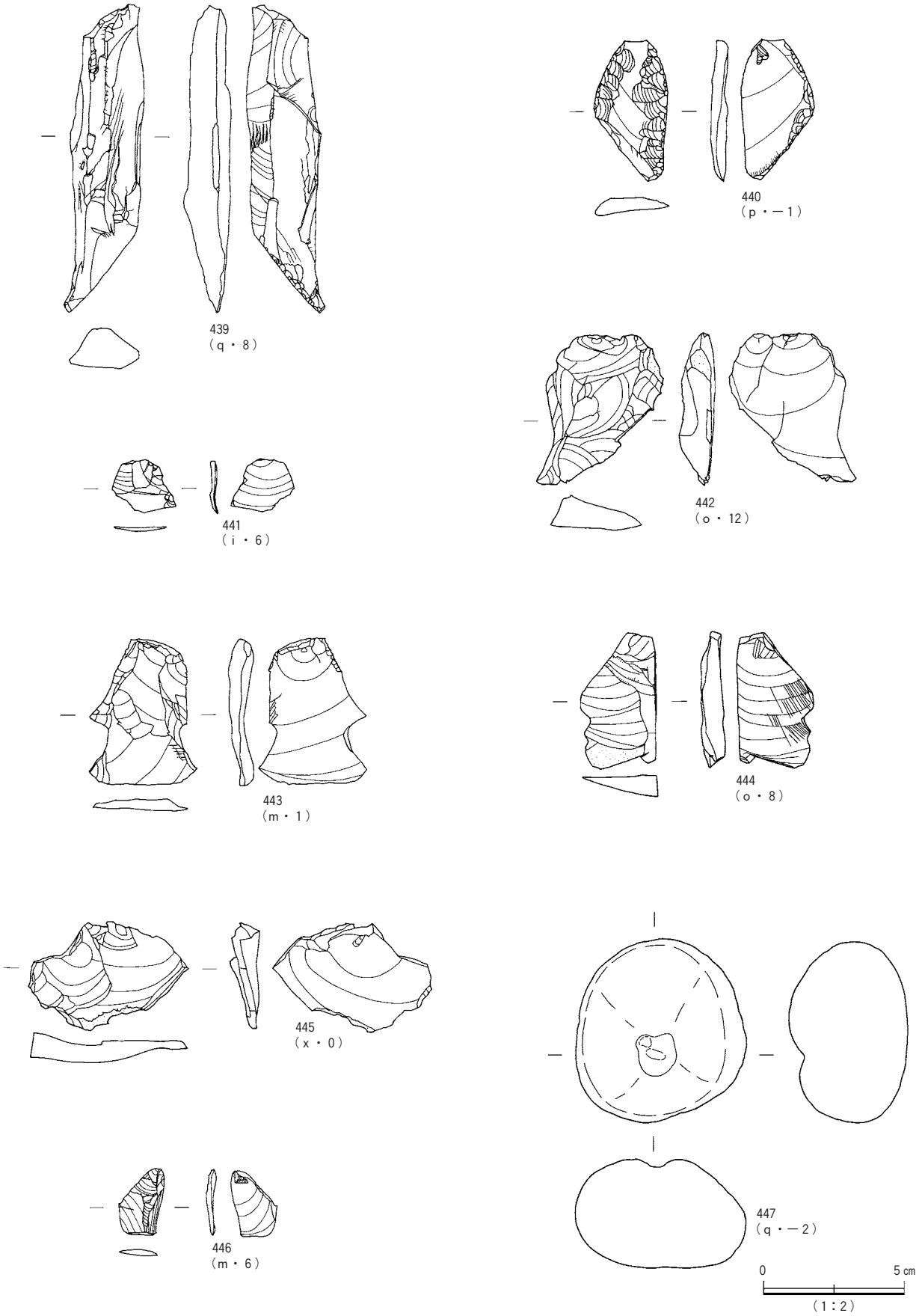
第57図　鉄滓実測図



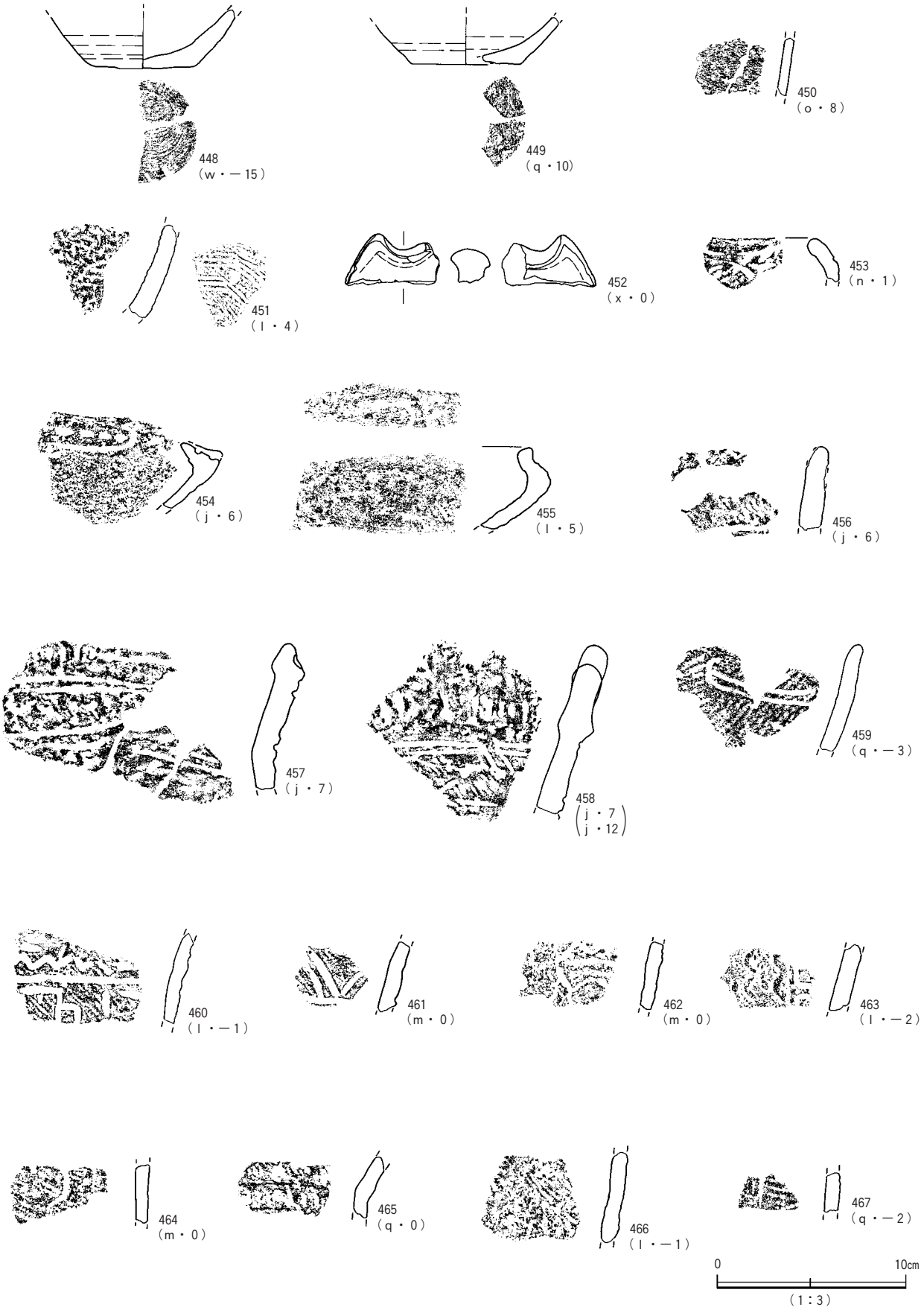
第58図　B地点出土石製品・石器実測図



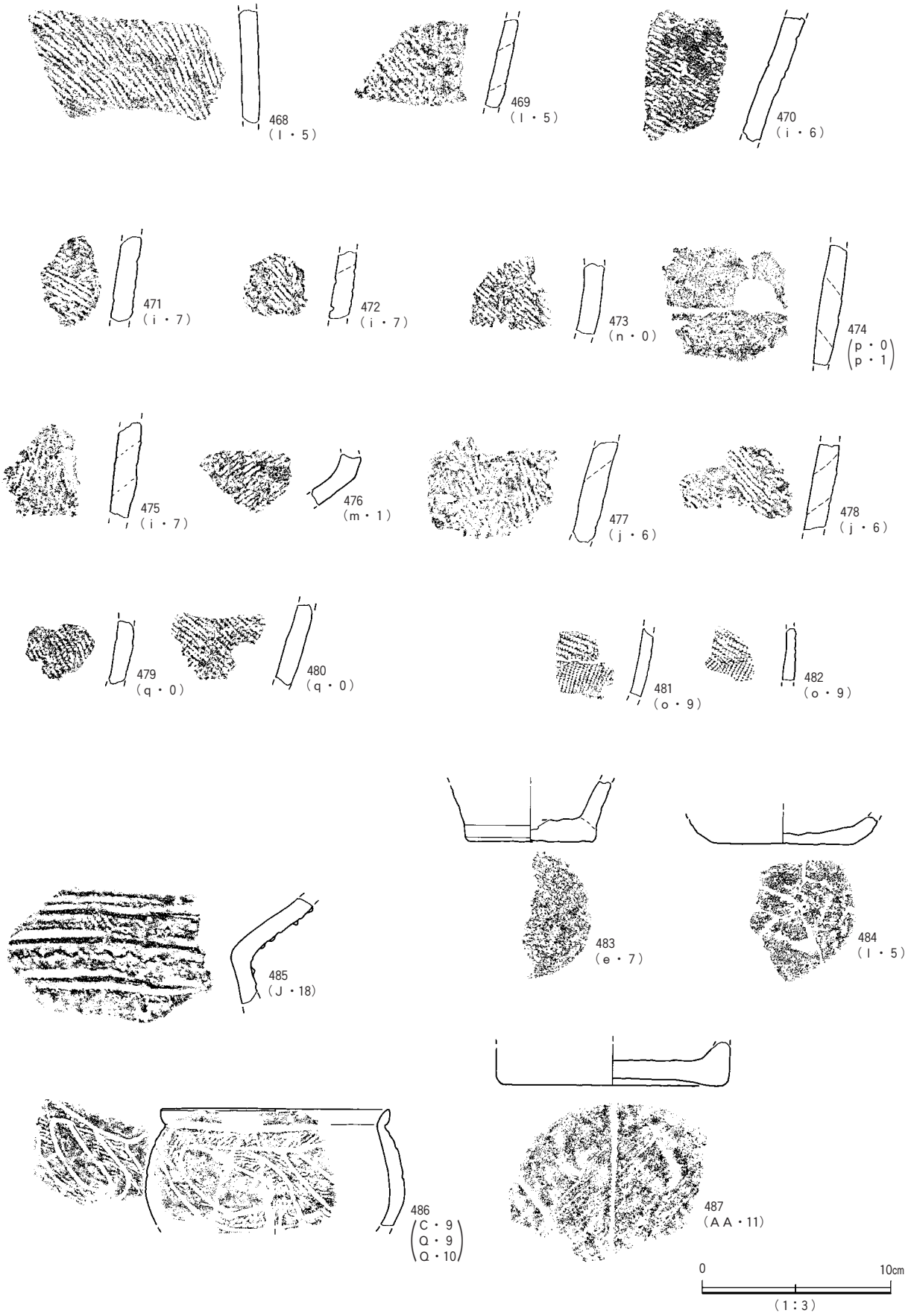
第59図　A地点・B地点出土石器実測図



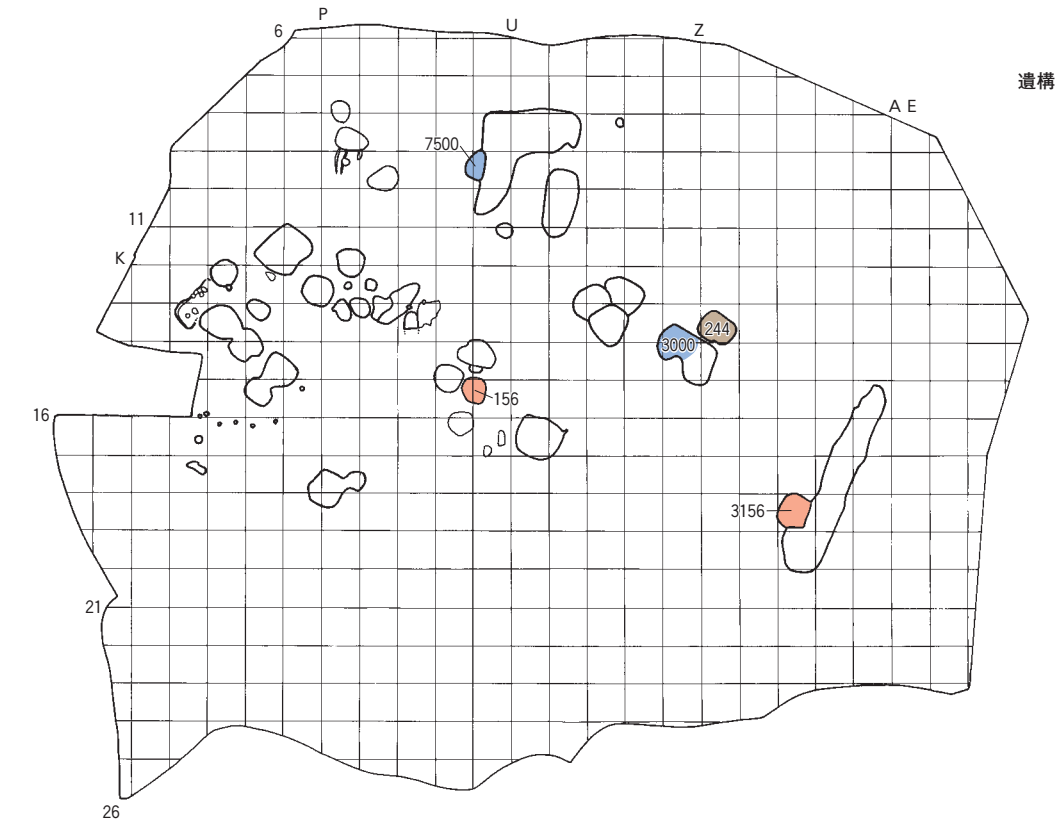
第60図　A地点出土石器・石製品実測図

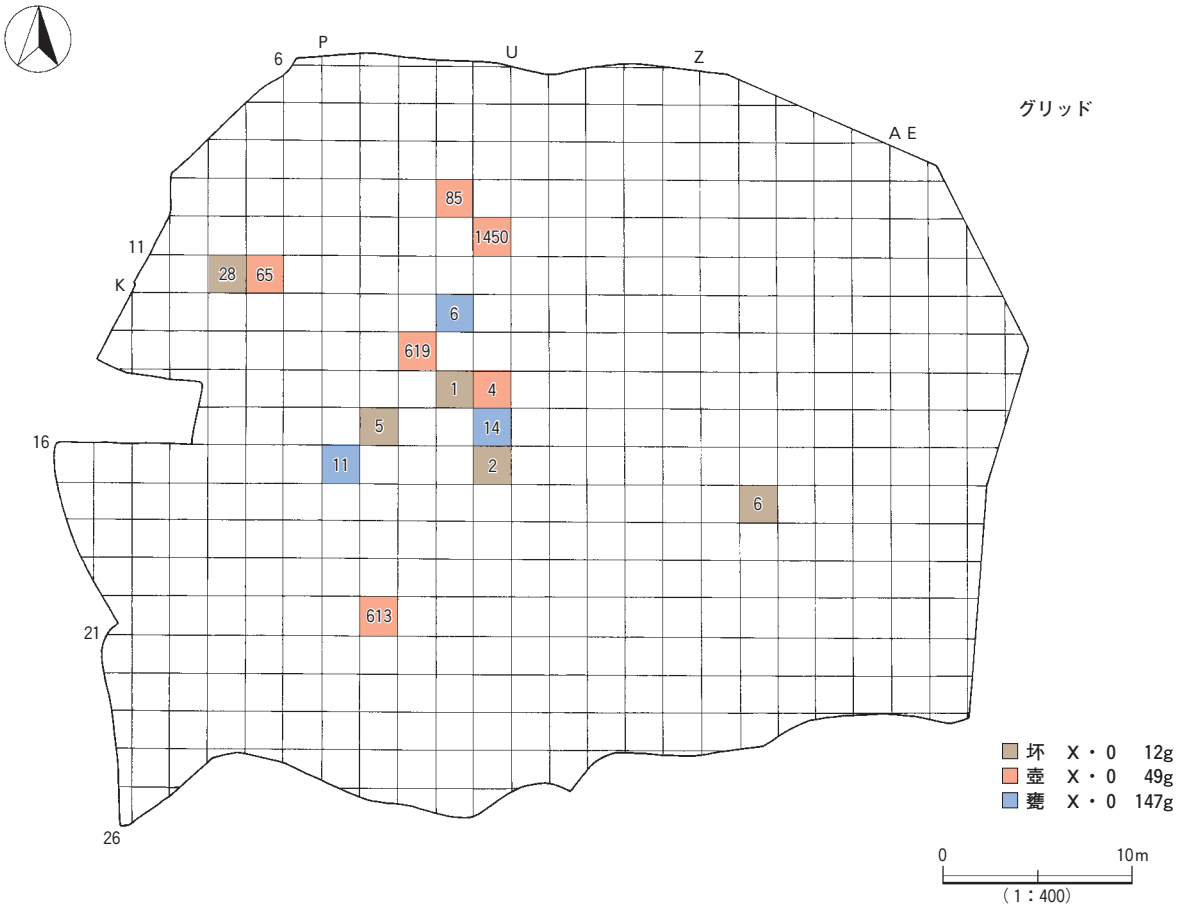


第61図　A地点出土土器実測図

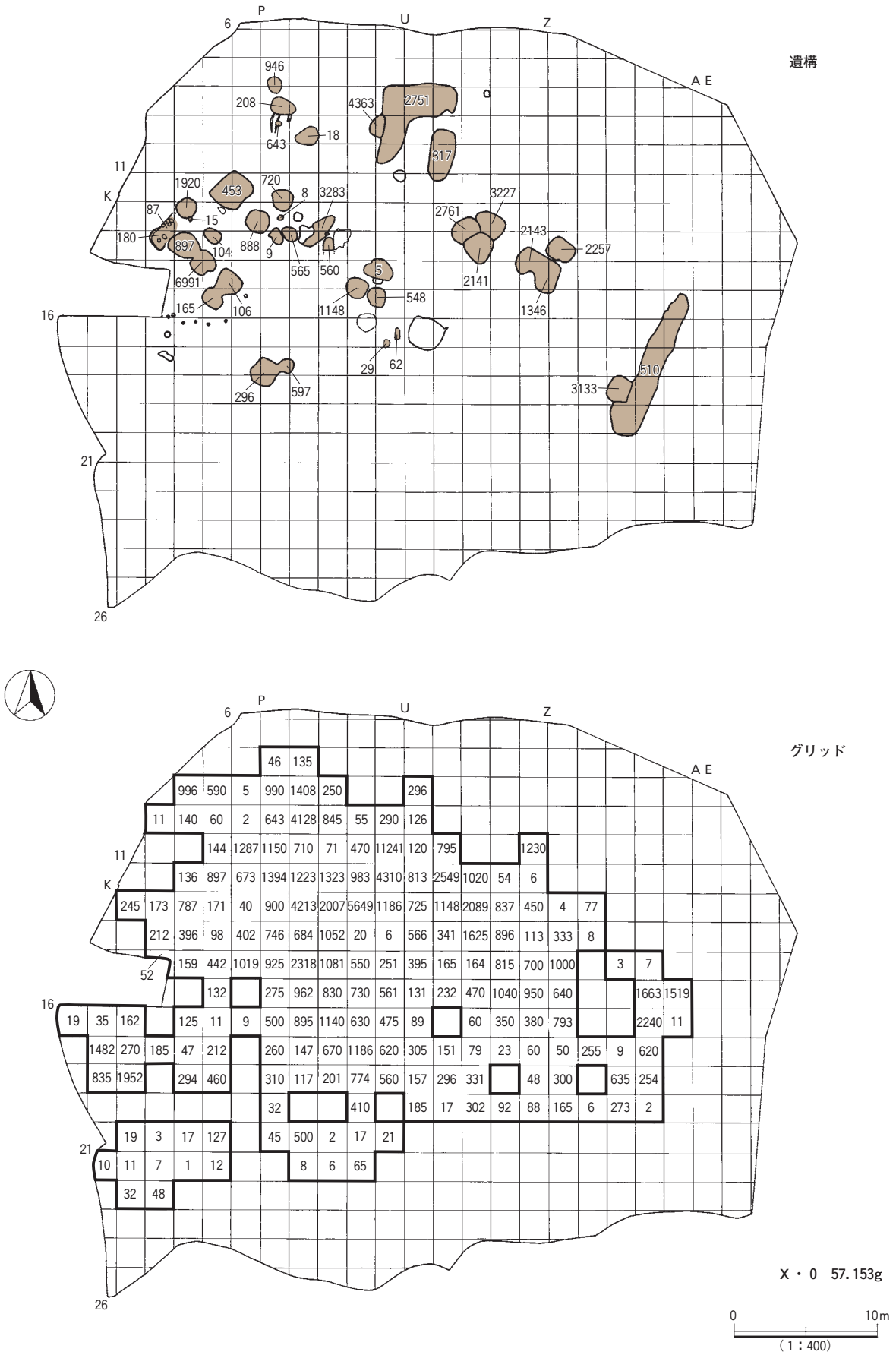


第62図　A地点（468～484）・B地点（485～487）出土土器実測図

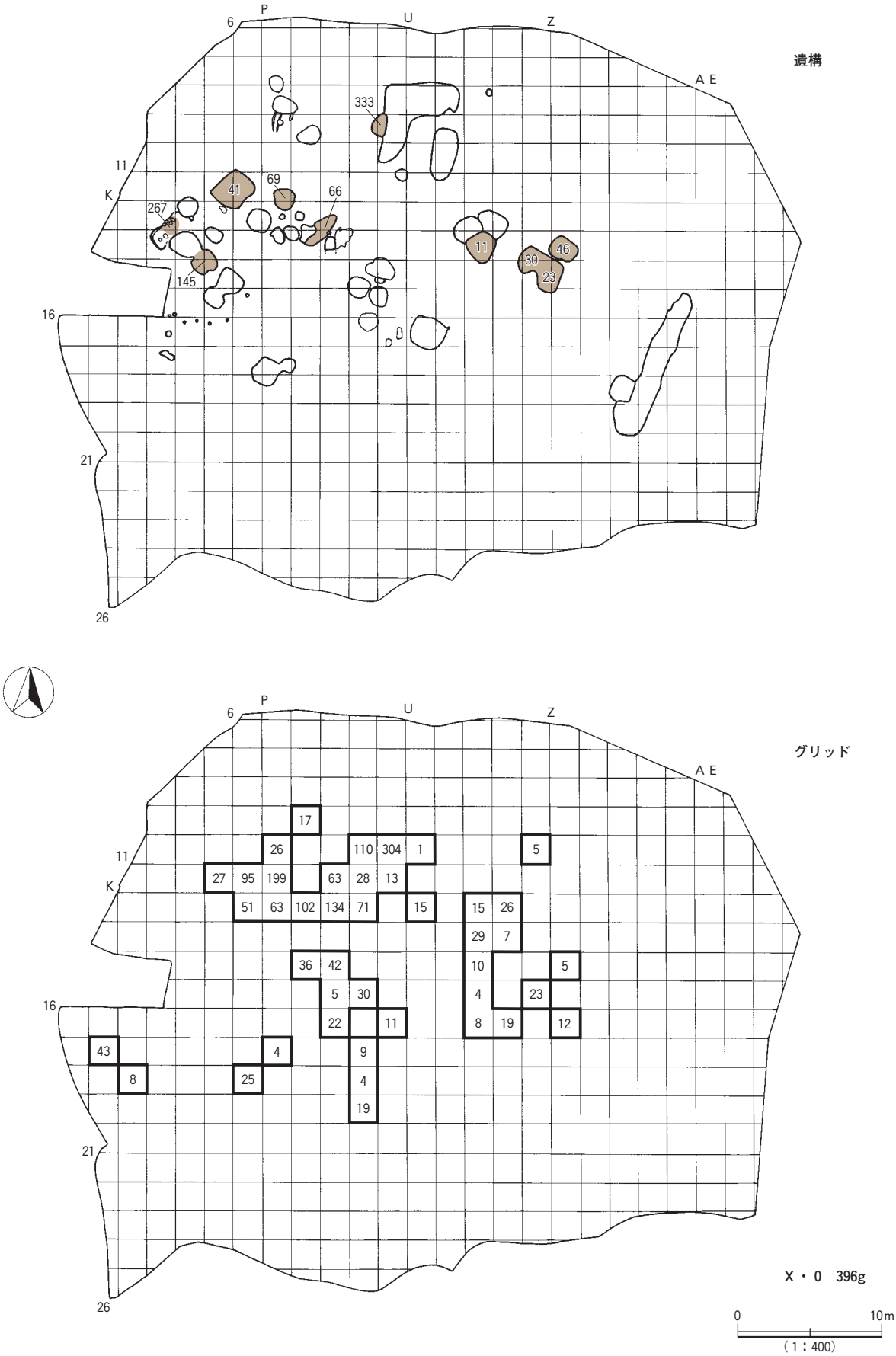




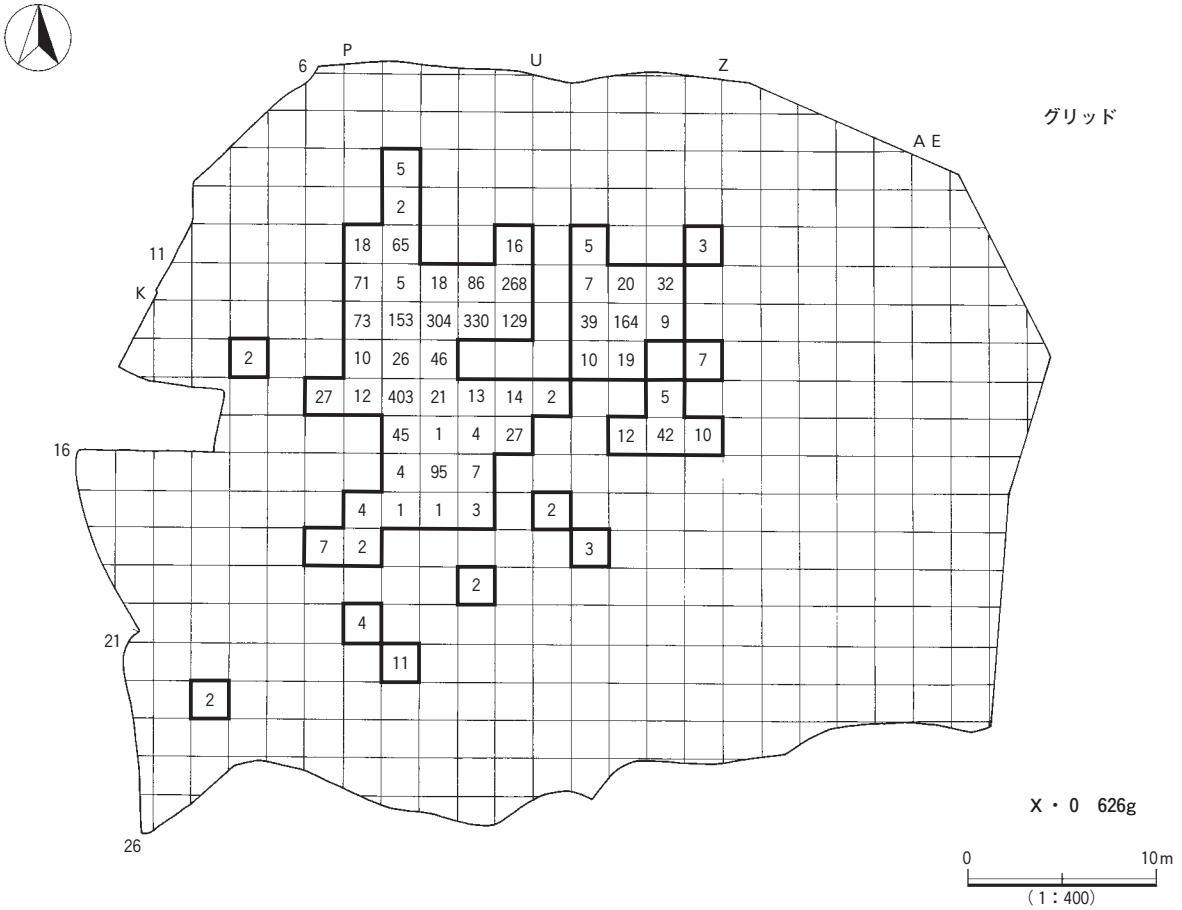
第63図　B地点遺物分布図（1）須恵器



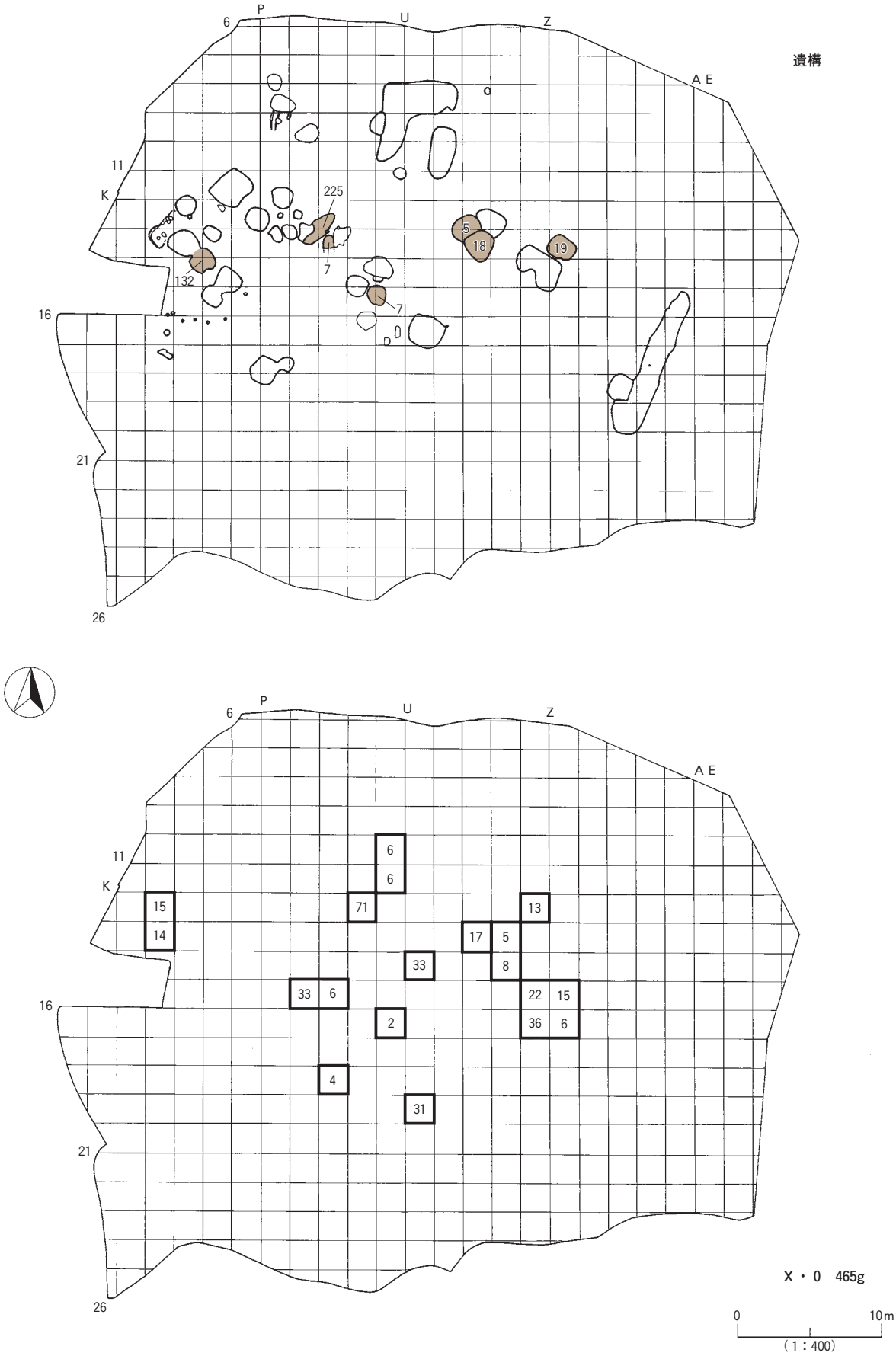
第64図　B地点遺物分布図（2）土師器坏（Ⅰ1）



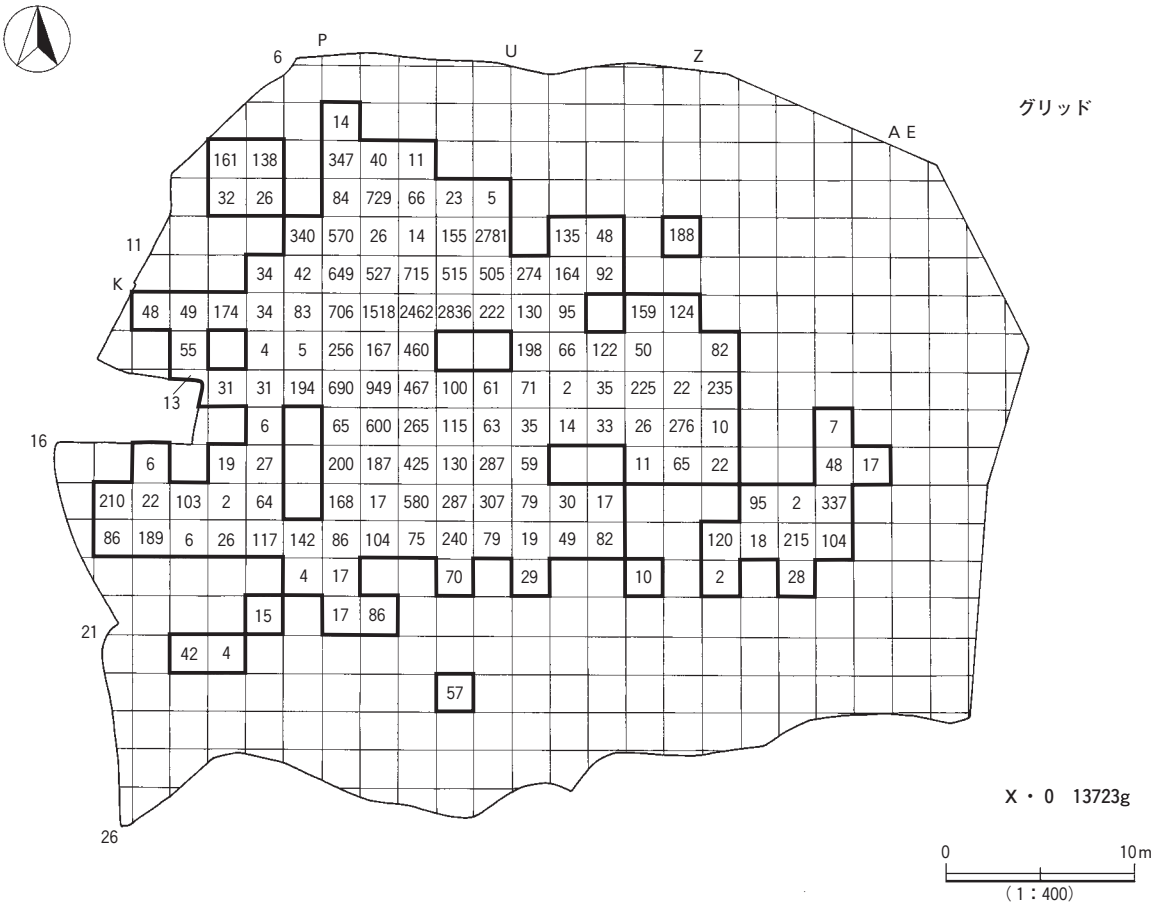
第65図　Ｂ地点遺物分布図（３）土師器坏（Ｉ２～４・７）



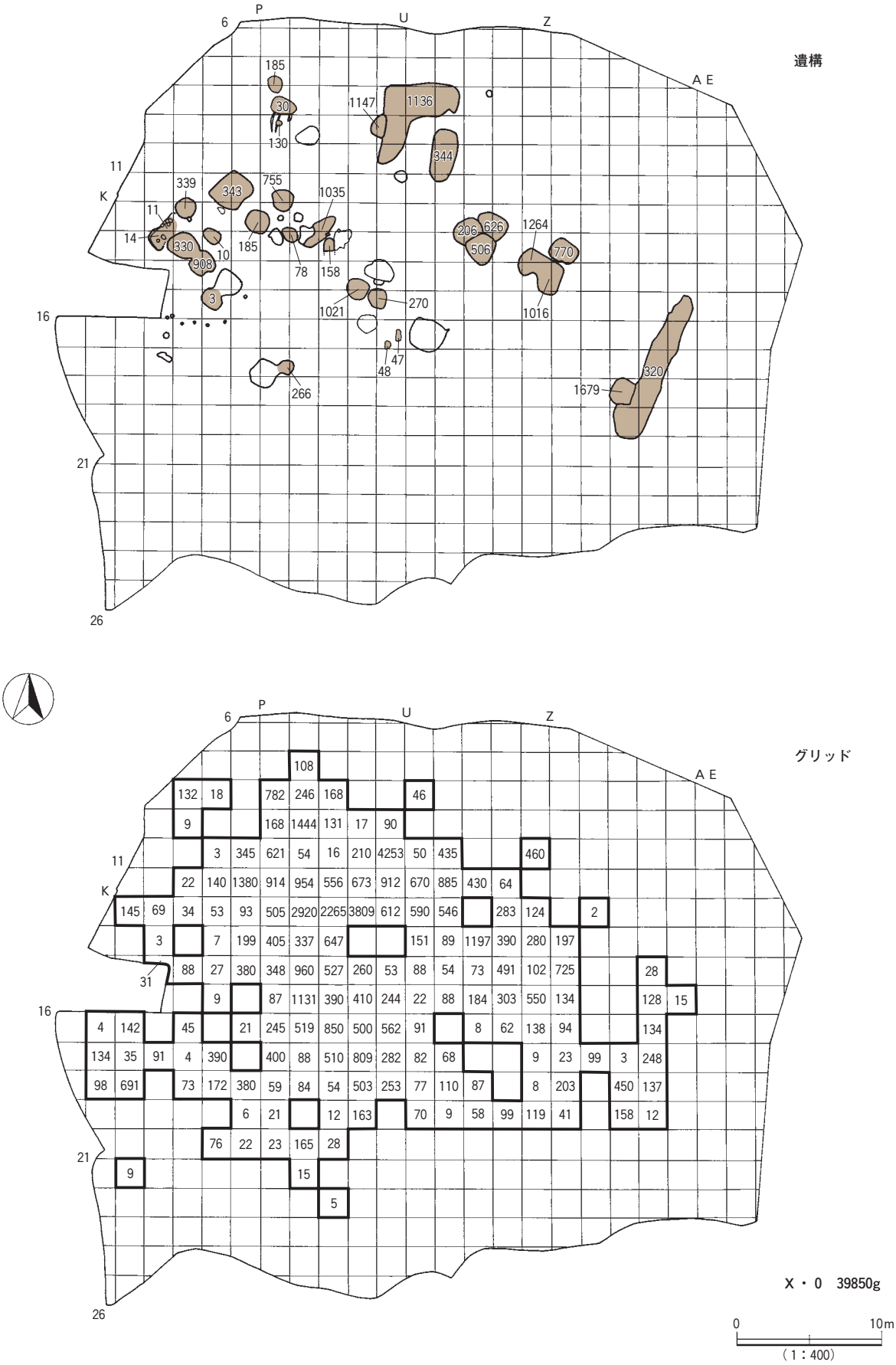
第66図　B地点遺物分布図（4）土師器坏（Ⅰ5・6）



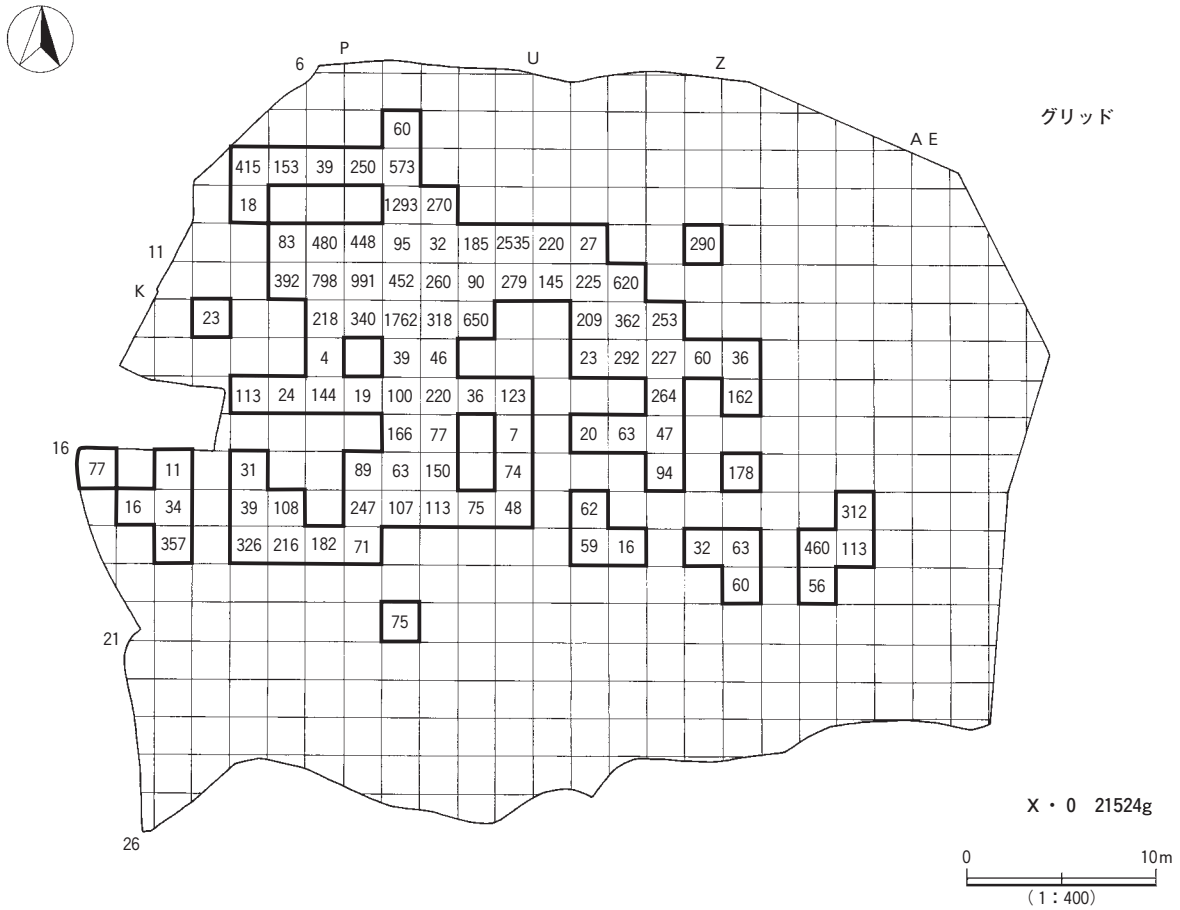
第67図　B地点遺物分布図（5）土師器高台付坏（Ⅱ1・2・5・6）



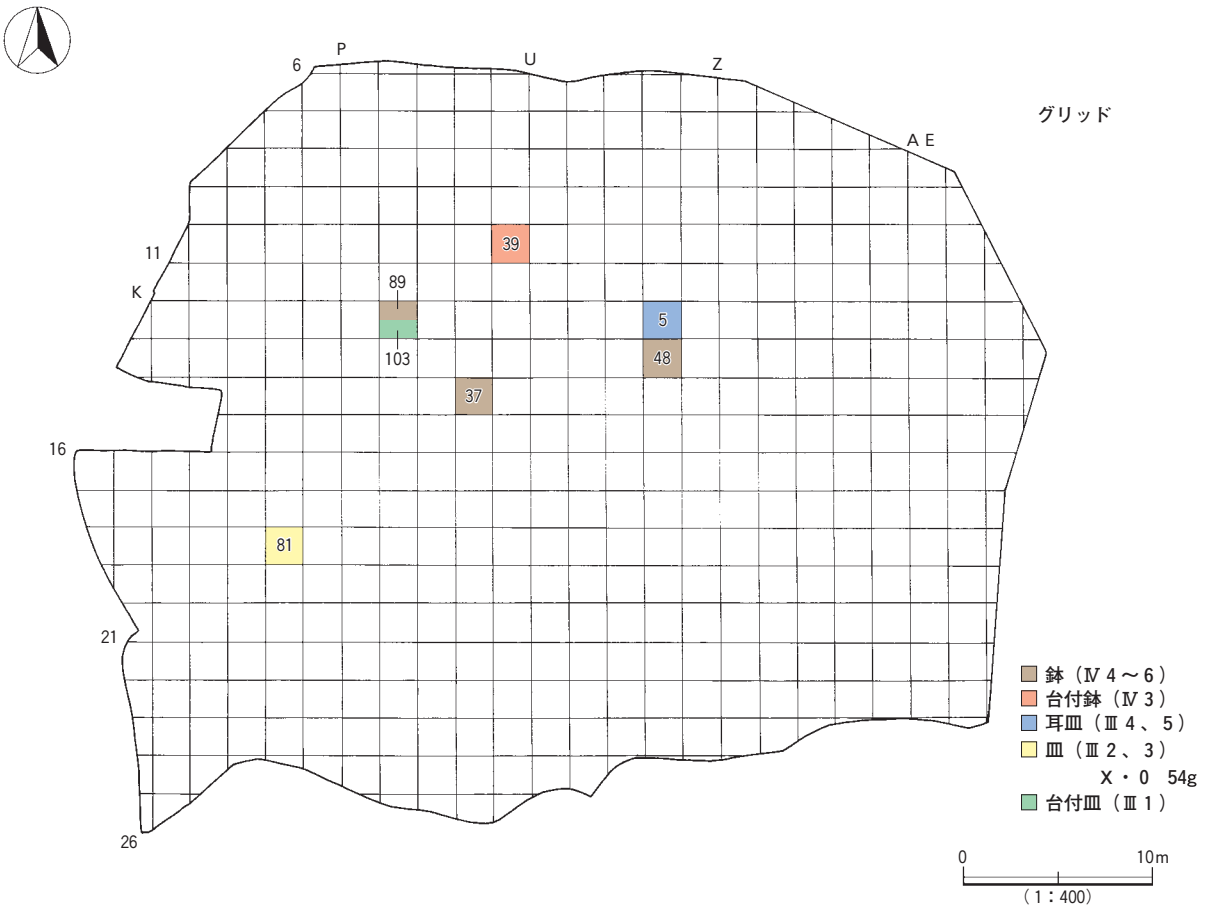
第68図　B地点遺物分布図（6）土師器甕（V1・2）



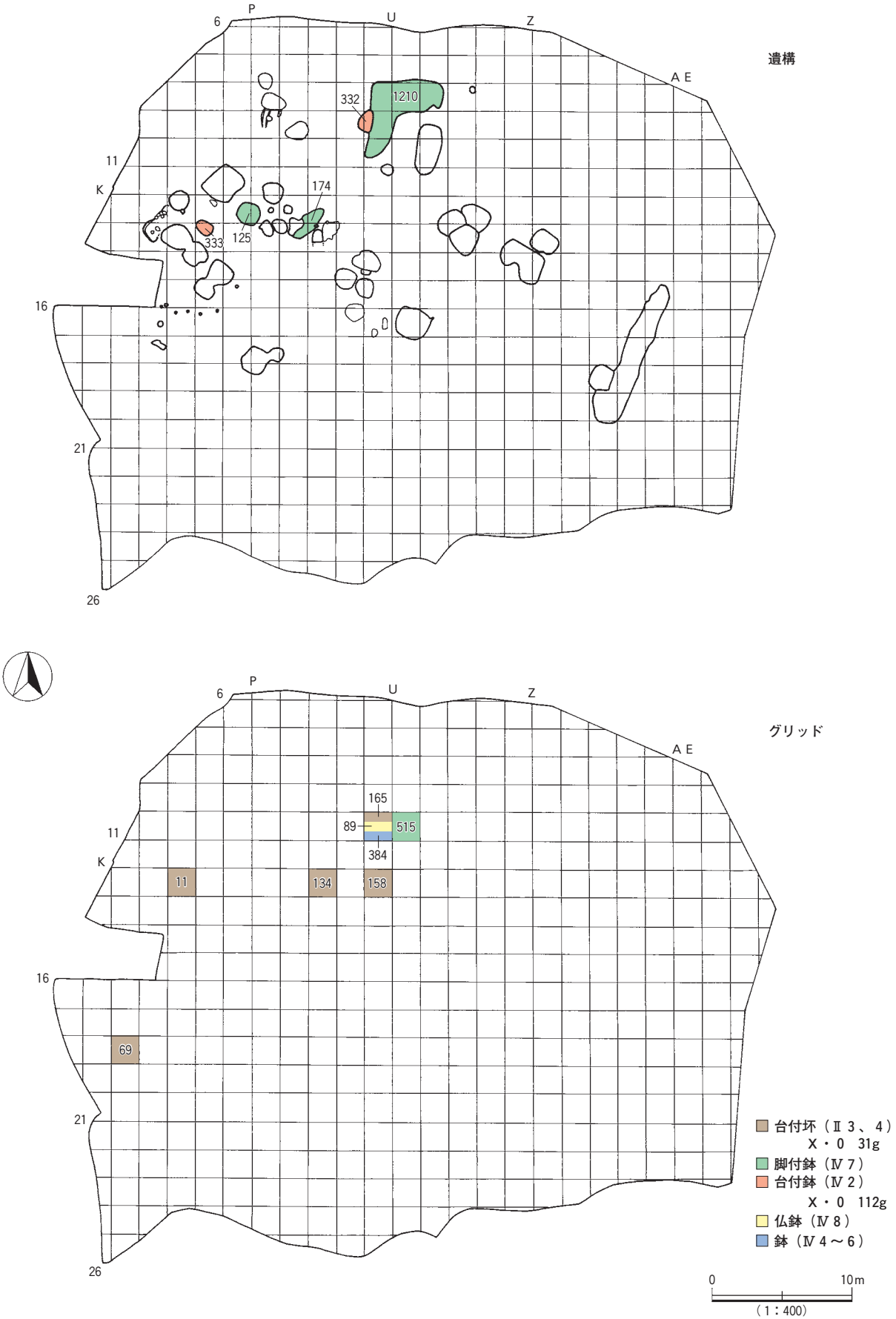
第69図　Ｂ地点遺物分布図（７）土師器甕（Ｖ３～９）



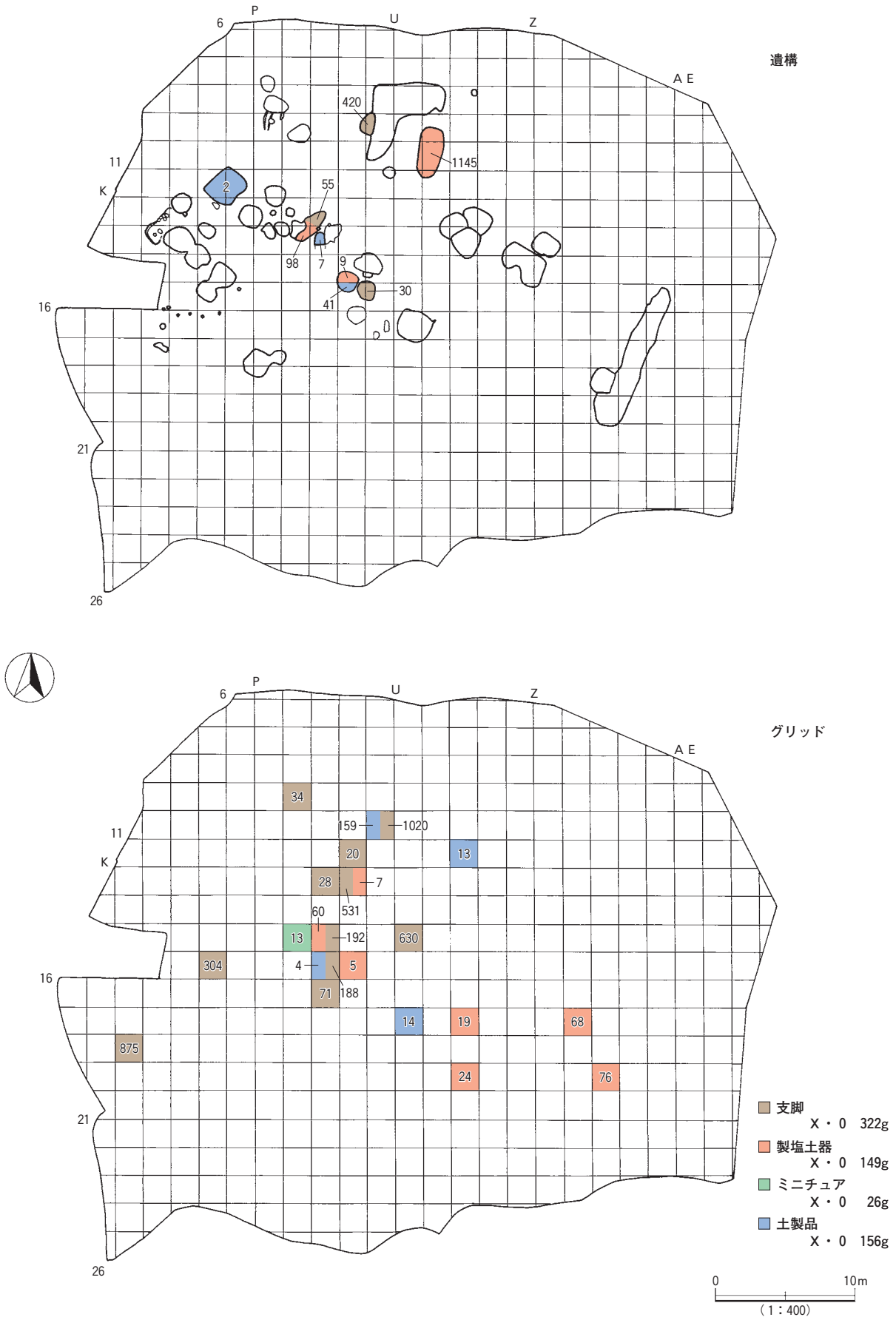
第70図　B地点遺物分布図（8）土師器塝（Ⅵ1・2）



第71図　Ｂ地点遺物分布図（９）土師器



第72図　B地点遺物分布図（10）土師器



第73図　B地点遺物分布図（11）その他

Ⅳ　理化学分析

1　平成17年度　万治ヶ沢遺跡出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、平安時代の窯跡から出土した土器片を対象として、その材質（胎土）の特徴を明らかにし、土器の種類、器種および周辺地質などとの比較から、平安時代の土器製作に関わる資料を得る。

1　試　　料

試料は、万治ヶ沢遺跡Ｂ地点より出土した赤焼土器22点と土師器３点の合計25点である。いずれも焼成の段階で失敗して捨てられたものとされている。赤焼土器は試料番号１～22が付されており、長胴甕や堝、坏などの器種がある。土師器は試料番号23～25が付されており、いずれも坏底部とされている。

各試料の出土地点および器種などは、分析結果を呈示した図１に併記する。

2　分析方法

当社では、これまでに山形県内各地の遺跡から出土した土器の胎土分析を行ってきたが、その対象はほとんどが須恵器であったことから、薄片観察および蛍光Ｘ線分析を用いることが多かった。今回の試料である赤焼土器および土師器は、砂粒を比較的多く含み、須恵器などに比べれば焼成温度が低いために焼成時の高温による鉱物の変質が少ないことなどから、胎土中に含まれる砂粒の重鉱物組成を胎土の特徴とする重鉱物分析が適当であると考えられた。重鉱物分析には、胎土の特徴を類型化し易い、地質との関連性を考えることができる、などの利点がある。以下に処理手順を述べる。

試料は、適量をアルミナ製乳鉢を用いて粉砕、水を加え超音波洗浄装置により分散、＃250の分析篩により水洗、粒径１/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた１/４㎜－１/８㎜の粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物のプレパラートを作製後、偏光顕微鏡下にて同定する。鉱物の同定粒数は、250個を目標とする。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

3　結　　果

結果を表１、図１に示す。今回の試料で認められた主な重鉱物は、斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物の３者であり、他に微量の角閃石や緑レン石などが含まれている。主要な３つの鉱物の量比は、試料によって大きく異なっている。ここでは、その量比により、以下に述べるⅠ～Ⅳ類までの重鉱物組成を設定した。

Ⅰ類：不透明鉱物が非常に多く、それ以外の鉱物の量比が10％程度しかない組成。不透明鉱物以外の鉱物では、斜方輝石が少量含まれ、微量の単斜輝石、角閃石、緑レン石などが含まれる。今回の試料の中では最も多く認められる組成であり、試料番号１～３、６、７、12～15、19～21、23、25の14点の試料がこれに分類される。なお、試料番号24の土師器は、重鉱物の同定粒数が100個に満たなかったためにグラフにはしていないが、不透明鉱物の多い傾向が窺えることと、他の２点の土師器がいずれもⅠ類であることから、これもⅠ類に分類されると考えられる。

Ⅱ類：不透明鉱物が最も多いが、斜方輝石が20％ほど、単斜輝石も10％ほど含まれ、微量の緑レン石を伴う。今回の試料では、試料番号９の１点のみである。

Ⅲ類：不透明鉱物が最も多いが、単斜輝石が10％ほど含まれ、微量の斜方輝石を伴う。今回の試料では、試料番号８、11、22の３点がこれに分類される。

Ⅳ類：不透明鉱物が最も多いが、単斜輝石も20～30％ほど含まれ、試料によっては不透明鉱物とほぼ同量程度となる。また、10％程度の斜方輝石も伴う。今回の試料で

は、Ⅰ類に次いで多く、試料番号４、５、10、16、17、18の６点がこれに分類される。

4　考　　察

今回の分析により、１箇所の窯跡から出土した土器においても、複数種の胎土が混在することが明らかにされた。今回の場合、少なくとも４種類の胎土が存在する。図１のグラフ横に示した表により、胎土分類と対応関係のある土器の属性をみると、出土位置すなわちグリッドとの間には対応関係は認められない。また、赤焼土器と土師器との間においても、土師器の胎土であるⅠ類は、赤焼土器の中にも多数認められることから、今回の試料の中では、両者間の胎土の違いはないと言える。器種と胎土との関係については、１対１の対応関係はないが、以下の対応が認められる。すなわち、坏は土師器も含めて７点全てがⅠ類であり、小型甕３点もⅠ類である。一方、長胴甕には、Ⅰ類からⅣ類までの全てが混在するが、その内訳はⅠ類２点、Ⅱ類１点、Ⅲ類３点、Ⅳ類２点であり、Ⅲ類がやや多い様に見えるが、特に集中するということでもない。さらに、堝については、Ⅰ類とⅣ類が同数の３点ずつに分かれる。この結果から、材料の選択あるいは調整において、器種により異なる事情のあったことが推定される。これについては、各器種の分析事例を増やすことにより、器種ごとの胎土の状況を、より明瞭に捉えることが可能であると考えられる。

胎土中の重鉱物の由来については、窯跡の立地が材料の入手事情によるとすれば、窯跡周辺の堆積物であることになる。万治ヶ沢遺跡周辺の地質は、土谷ほか（1984）や大沢ほか（1988）などにより概観することができる。それらの記載によれば、遺跡の立地する丘陵は、新第三紀中新世の主に凝灰岩層からなる善宝寺層と呼ばれる地質により構成されており、さらに局所的に小連寺ドレライトと呼ばれる火成岩体が貫入している。また、丘陵下の沖積低地は、丘陵から流下する大山川などの河川によってもたらされる上述の地質に由来する砕屑物が堆積していると考えられるが、それに加えて、赤川水系の河川によって、月山火山の噴出物に由来する砕屑物も多く堆積していると考えられる。

土谷ほか（1984）の記載では、善宝寺層中の安山岩の主な重鉱物斑晶は単斜輝石であり、月山火山の噴出物の主な重鉱物斑晶は、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱物の３者となっている。また、その容積比では斜方輝石より単斜輝石の方が若干多い。この記載から、今回の胎土のうち、Ⅲ類およびⅣ類は、月山火山の噴出物の組成が反映されていると見ることができる。したがって、その材料採取地は、丘陵上あるいは丘陵周縁というよりは、赤川水系の影響のある低地にある可能性がある。

一方、Ⅰ類およびⅡ類については、鉄鉱物が多いことは、善法寺層でも月山火山の噴出物でも認められることであるが、単斜輝石よりも斜方輝石が多いという組成は、土谷ほか（1984）の記載する岩石には認められない。しかし、これだけで、Ⅰ類およびⅡ類の材料採取地が遺跡から遠隔地にあったとすることはできない。岩石の組成が、必ずしもそのまま低地堆積物や丘陵上の堆積物に反映されるわけではないことから、その採取地の推定については、実際に遺跡周辺の堆積物を分析して確認する必要がある。

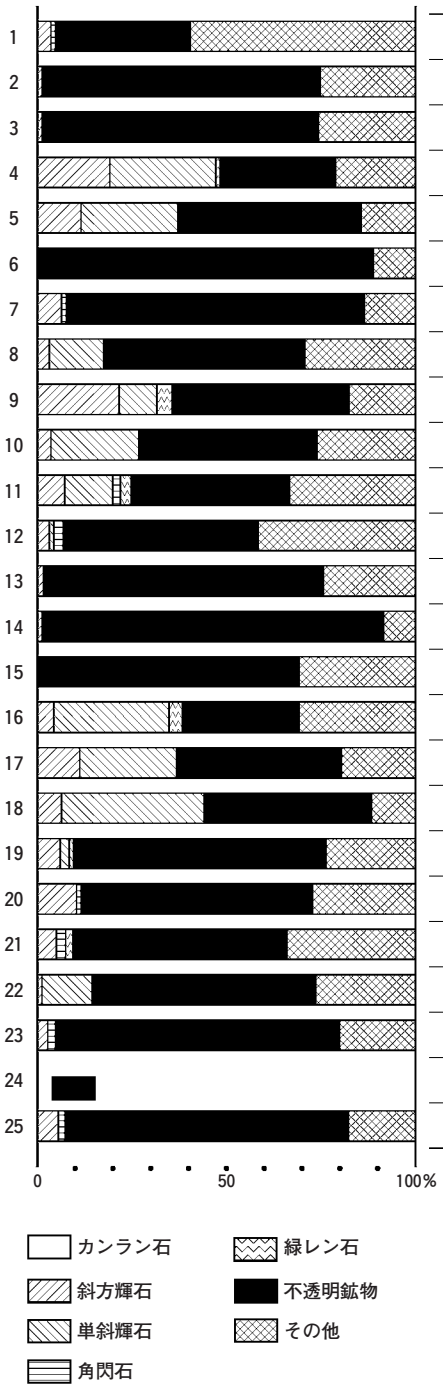
今後は、上述したように万治ヶ沢遺跡出土土器における器種と胎土との対応関係を確認することと、庄内平野南部において、万治ヶ沢遺跡で焼かれた土器がどの程度広がっているかなどを、各地の遺跡の分析事例を得ることにより、検討していきたいと考える。また、その際には、自然堆積物の分析例や、薄片作製観察などにより重鉱物組成以外の胎土の特性を知ることも必要になると考えられる。

引用文献

大沢穠・広島俊男・駒沢正夫・須田芳朗，1988，20万分の１地質図幅「新庄および酒田」，地質調査所．
土谷信之・大沢穠・池辺穣，1984，鶴岡地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１図幅），地質調査所，77ｐ．

表１　重鉱物分析結果

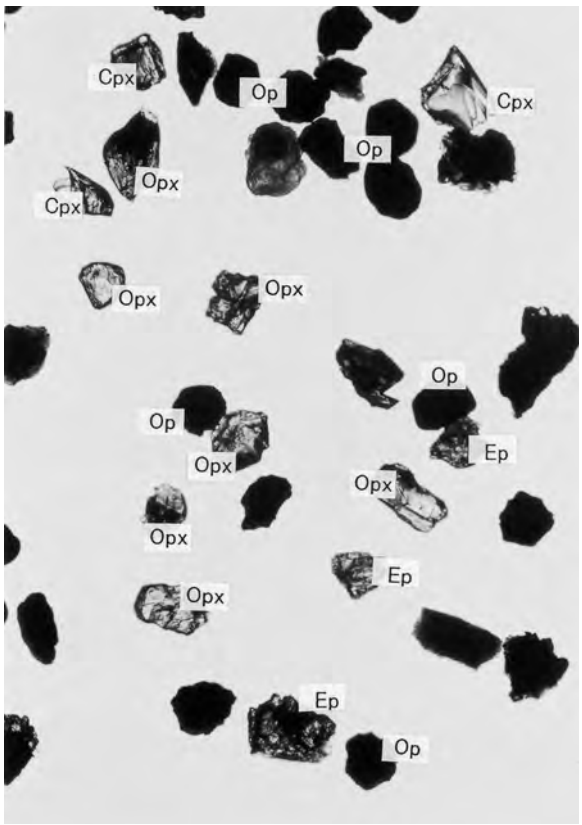
試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	緑レン石	ザクロ石	紅柱石	電気石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計
1	0	9	2	3	0	2	0	0	1	0	0	89	144	250
2	0	3	2	0	0	0	1	0	0	0	2	184	58	250
3	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	183	62	250
4	1	48	70	2	0	0	3	0	1	0	0	76	49	250
5	1	29	64	1	2	2	0	0	0	0	1	121	29	250
6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	222	25	250
7	0	16	1	3	1	0	1	0	0	0	1	197	30	250
8	2	8	36	0	0	0	0	0	0	0	0	133	71	250
9	0	54	25	2	1	1	10	0	0	0	0	117	40	250
10	0	9	58	0	0	1	0	0	0	0	0	118	64	250
11	0	18	32	5	2	0	7	0	0	0	0	105	81	250
12	0	8	3	6	0	0	1	0	0	0	0	129	103	250
13	0	4	1	0	0	0	0	1	0	1	2	185	56	250
14	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	226	20	250
15	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173	76	250
16	1	11	76	2	0	0	9	0	0	0	0	77	74	250
17	0	28	64	1	0	0	1	0	0	0	0	109	47	250
18	0	16	94	0	0	0	0	0	0	0	0	111	29	250
19	0	15	6	2	1	0	3	0	0	0	1	167	55	250
20	0	26	2	3	0	1	0	0	0	0	0	153	65	250
21	0	10	2	5	0	0	4	0	0	0	1	113	65	200
22	1	3	33	1	0	0	0	0	0	0	1	148	63	250
23	1	4	2	3	0	1	0	0	0	0	0	109	25	145
24	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	45	23	70
25	0	9	1	3	0	0	2	0	0	0	1	123	25	164



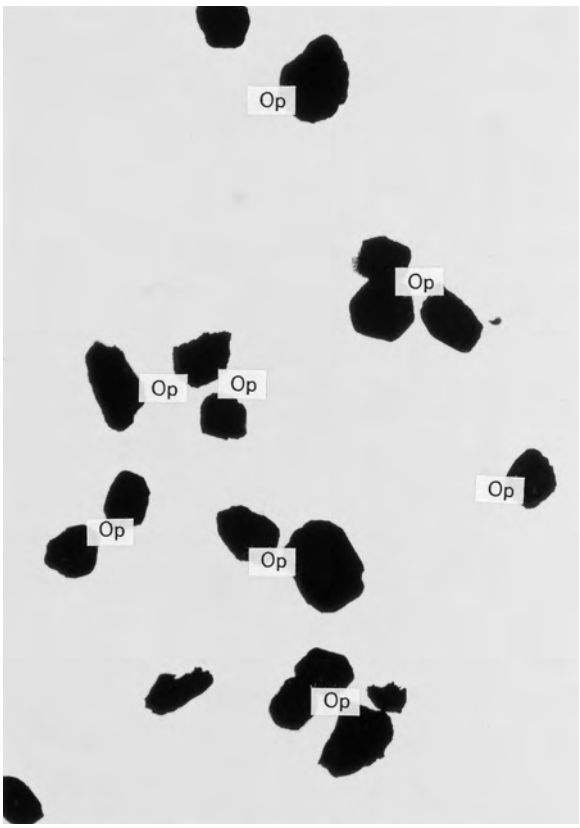
胎土	グリッド	種　別	器　種
Ⅰ	Q・12	赤焼土器	長胴甕体部底付近
Ⅰ	Q・12	赤焼土器	堝？底部付近
Ⅰ	Q・12	赤焼土器	長胴甕体部底付近
Ⅳ	Q・12	赤焼土器	平底甕底部
Ⅳ	Q・13	赤焼土器	堝？底部付近
Ⅰ	Q・14	赤焼土器	堝？底部付近
Ⅰ	Q・14	赤焼土器	小型甕？底部　平底
Ⅲ	Q・12	赤焼土器	長胴甕体部
Ⅱ	Q・12	赤焼土器	長胴甕？底部付近
Ⅳ	Q・12	赤焼土器	堝？体部
Ⅲ	Q・12	赤焼土器	長胴甕体部
Ⅰ	Q・12	赤焼土器	堝？体部
Ⅰ	Q・12	赤焼土器	小型甕底部　平底
Ⅰ	Q・8	赤焼土器	坏　口縁～体部
Ⅰ	Q・8	赤焼土器	坏　口縁～体部
Ⅳ	Q・9	赤焼土器	堝？　口縁～体部？
Ⅳ	Q・9	赤焼土器	長胴甕　底部付近
Ⅳ	Q・9	赤焼土器	長胴甕　底部付近
Ⅰ	Q・9	赤焼土器	小型甕？　底部　平底
Ⅰ	Q・9	赤焼土器	坏　底部
Ⅰ	Q・9	赤焼土器	坏　体部
Ⅲ	Q・9	赤焼土器	長胴甕？　口縁付近
Ⅰ	V・11	土師器内黒	坏底部
Ⅰ	T・11	土師器内黒	坏体部
Ⅰ	X・0	土師器内黒	坏底部

図1　胎土重鉱物組成

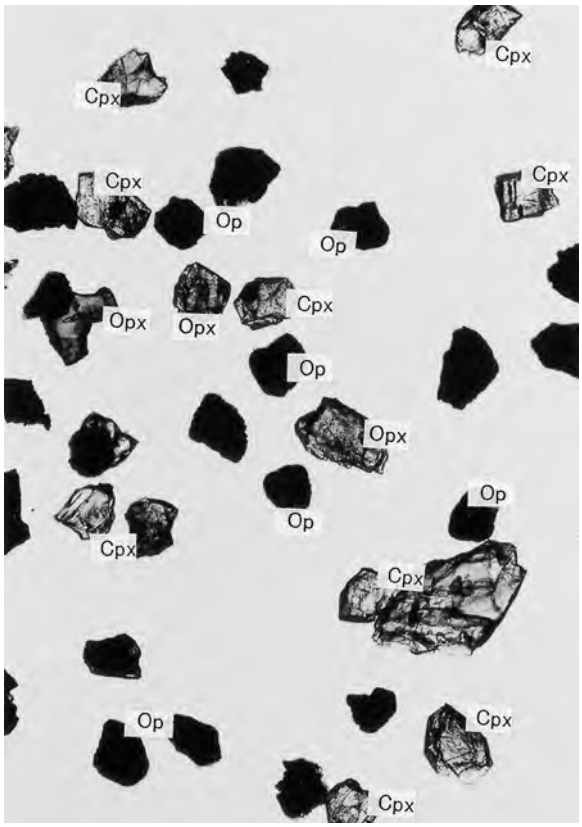
図版１　胎土中の重鉱物



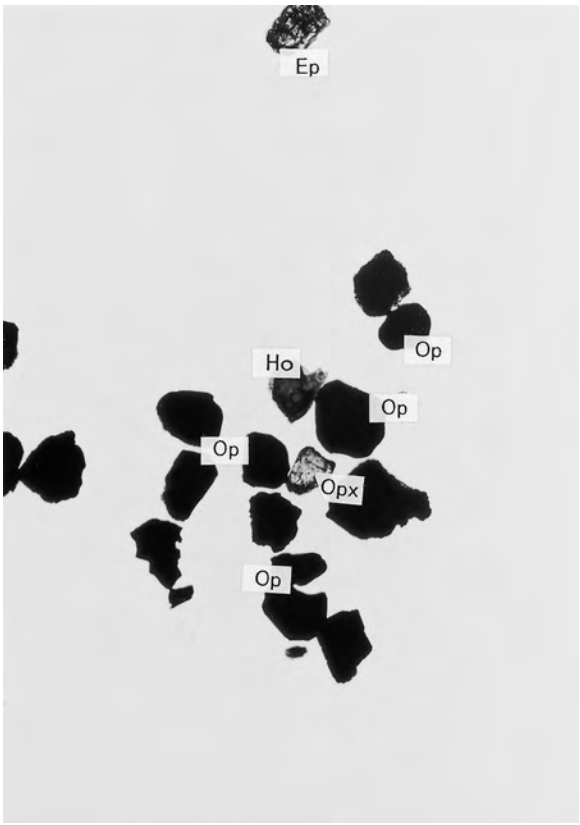
1．試料番号９　Ｑ・12　赤焼土器　長胴甕？　底部付近



2．試料番号14　Ｑ・８　赤焼土器　坏　口縁～体部



3．試料番号18　Ｑ・９　赤焼土器　長胴甕　底部付近



4．試料番号21　Ｑ・９　赤焼土器　坏　体部

Ｏｐｘ：斜方輝石　Ｃｐｘ：単斜輝石　Ｈｏ：角閃石　Ｅｐ：緑レン石　Ｏｐ：不透明鉱物

0.5mm

2　平成18年度　万治ヶ沢遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、調査区内から出土した炭化材および土器付着物を対象として、放射性炭素年代測定を行い、その年代資料を得る。また、万治ヶ沢遺跡より出土した須恵器と赤焼土器の材質（胎土）の特徴を明らかにすることにより、万治ヶ沢遺跡周辺の土器の製作や使用に関わる資料を作成する。

Ⅰ　出土炭化材および土器付着物の年代

1　試　　料

試料は、Ｂ地点の平安時代の赤焼土器焼成遺構とされた遺構の覆土より出土した炭化材８点（№１～５、７～９）と性格不明とされた遺構の覆土より出土した炭化材１点（№６）および土器付着物１点（№10）の合計10点である。なお、性格不明遺構は木炭窯を掘り込んで形成されていることが確認されている。各試料の出土遺構名または出土地点は、結果を呈示した表１に併記する。

2　分析方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N，水酸化ナトリウム１N，塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、ＮＥＣ製コンパクトＡＭＳ・1.5ＳＤＨを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代（ＢＰ）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

3　結　　果

同位体効果による補正を行った測定結果を表１に示す。炭化材９点の年代は、ほぼ1200年前頃の年代にまとまる。これに対して、土器付着物は、約1900年前頃の年代を示している。

また、較正した暦年を表２に示す。暦年較正とは、大気中の^{14}Ｃ濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}Ｃ濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Ｃの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表している。今回の試料は、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正は、測定誤差σ、２σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、２σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

今回の試料を暦年でみると、炭化材は概ね８世紀後半～９世紀後半という年代になり、土器付着物は１世紀頃となる。

4　考　　察

赤焼土器焼成遺構出土炭化材は、８点の試料全点が1200年前頃の放射性炭素年代にまとまる傾向が認められた。このことは、万治ヶ沢遺跡の赤焼土器焼成遺構において、放射性炭素年代で1200年前、較正暦年代では８世紀後半～９世紀後半という年代が、有意な年代であることを示している。この年代を、赤焼土器焼成遺構においてどのように解釈するかは、赤焼土器焼成遺構に関する様々な発掘調査成果を検討した上で判断されるべきであり、現時点では、遺構の年代として決定されるものではない。ただし、万治ヶ沢遺跡出土の赤焼土器の年代を考える上で、今回の測定年代は重要な示唆を与えるものになったと言える。

性格不明遺構出土の炭化材については、放射性炭素年代測定の誤差や精度を考慮すれば、赤焼土器焼成遺構出土炭化材とほぼ同年代であると評価される。

土器付着物の示す放射性炭素年代は、弥生時代に相当するが、付着物の採取された土器は、発掘調査所見によ

表１　放射性炭素年代測定結果

No.	出土地点			種　類	補正年代 ＢＰ	δ13C (‰)	測定年代 ＢＰ	Code No.
	出土地点	時代	性　格					
1	ＳＱ1001	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1190±20	−23.9±0.15	1170±20	ＰＬＮ−959901
2	ＳＱ1018	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1205±20	−25.1±0.17	1210±20	ＰＬＮ−959902
3	ＳＱ1024	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1215±20	−26.23±0.20	1235±20	ＰＬＮ−959903
4	ＳＱ1026	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1220±20	−26.80±0.15	1250±20	ＰＬＮ−959904
5	ＳＱ1033	平安時代	木炭窯	炭化材	1220±20	−26.43±0.14	1245±20	ＰＬＮ−959905
6	ＳＸ1034	平安時代	性格不明遺構	炭化材	1255±20	−27.63±0.16	1300±20	ＰＬＮ−959906
7	ＳＱ1040	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1195±20	−26.26±0.17	1215±20	ＰＬＮ−959907
8	ＳＱ1044	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1220±20	−26.48±0.14	1240±20	ＰＬＮ−959908
9	ＳＱ1049	平安時代	赤焼土器焼成遺構	炭化材	1210±20	−30.19±0.18	1300±20	ＰＬＮ−959909
10	Ｄ・11	平安時代	グリッド	土器付着物	1910±25	−24.62±0.13	1900±25	ＰＬＮ−959910

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)ＢＰ年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

表２　暦年較正結果

No.	補正年代 (ＢＰ)		暦年較正年代（ｃａｌ）									相対比	Code No.
1	1190±22	σ	cal AD 782 − cal AD 789	cal BP 1,168 − 1,161	0.108	ＰＬＮ−959901
			cal AD 811 − cal AD 880	cal BP 1,139 − 1,070	0.892	
		2σ	cal AD 775 − cal AD 892	cal BP 1,175 − 1,058	1.000	
2	1207±21	σ	cal AD 777 − cal AD 828	cal BP 1,173 − 1,122	0.645	ＰＬＮ−959902
			cal AD 839 − cal AD 866	cal BP 1,111 − 1,084	0.355	
		2σ	cal AD 726 − cal AD 737	cal BP 1,224 − 1,213	0.025	
			cal AD 771 − cal AD 887	cal BP 1,179 − 1,063	0.975	
3	1215±22	σ	cal AD 774 − cal AD 828	cal BP 1,176 − 1,122	0.670	ＰＬＮ−959903
			cal AD 838 − cal AD 866	cal BP 1,112 − 1,084	0.330	
		2σ	cal AD 716 − cal AD 743	cal BP 1,234 − 1,207	0.091	
			cal AD 768 − cal AD 886	cal BP 1,182 − 1,064	0.909	
4	1218±22	σ	cal AD 773 − cal AD 829	cal BP 1,177 − 1,121	0.677	ＰＬＮ−959904
			cal AD 837 − cal AD 867	cal BP 1,113 − 1,083	0.323	
		2σ	cal AD 713 − cal AD 745	cal BP 1,237 − 1,205	0.119	
			cal AD 767 − cal AD 885	cal BP 1,183 − 1,065	0.881	
5	1220±22	σ	cal AD 772 − cal AD 829	cal BP 1,178 − 1,121	0.682	ＰＬＮ−959905
			cal AD 837 − cal AD 867	cal BP 1,113 − 1,083	0.318	
		2σ	cal AD 710 − cal AD 746	cal BP 1,240 − 1,204	0.145	
			cal AD 766 − cal AD 885	cal BP 1,184 − 1,065	0.855	
6	1257±22	σ	cal AD 693 − cal AD 748	cal BP 1,257 − 1,202	0.847	ＰＬＮ−959906
			cal AD 764 − cal AD 774	cal BP 1,186 − 1,176	0.153	
		2σ	cal AD 674 − cal AD 782	cal BP 1,276 − 1,168	0.947	
			cal AD 789 − cal AD 811	cal BP 1,161 − 1,139	0.045	
			cal AD 846 − cal AD 854	cal BP 1,104 − 1,096	0.007	
7	1196±22	σ	cal AD 781 − cal AD 791	cal BP 1,169 − 1,159	0.148	ＰＬＮ−959907
			cal AD 807 − cal AD 872	cal BP 1,143 − 1,078	0.852	
		2σ	cal AD 773 − cal AD 891	cal BP 1,177 − 1,059	1.000	
8	1218±22	σ	cal AD 773 − cal AD 829	cal BP 1,177 − 1,121	0.677	ＰＬＮ−959908
			cal AD 837 − cal AD 867	cal BP 1,113 − 1,083	0.323	
		2σ	cal AD 713 − cal AD 745	cal BP 1,237 − 1,205	0.119	
			cal AD 767 − cal AD 885	cal BP 1,183 − 1,065	0.881	
9	1211±22	σ	cal AD 776 − cal AD 828	cal BP 1,174 − 1,122	0.664	ＰＬＮ−959909
			cal AD 839 − cal AD 866	cal BP 1,111 − 1,084	0.336	
		2σ	cal AD 721 − cal AD 741	cal BP 1,229 − 1,209	0.057	
			cal AD 770 − cal AD 887	cal BP 1,180 − 1,063	0.943	
10	1909±23	σ	cal AD 71 − cal AD 92	cal BP 1,879 − 1,858	0.449	ＰＬＮ−959910
			cal AD 98 − cal AD 125	cal BP 1,852 − 1,825	0.551	
		2σ	cal AD 27 − cal AD 40	cal BP 1,923 − 1,910	0.027	
			cal AD 48 − cal AD 134	cal BP 1,902 − 1,816	0.973	

１）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986−2005 M Stuiver and PJReimer）を使用
２）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
３）１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１桁目を丸めていない。
４）統計的に真の値が入る確率はσは68％、２σは95％である
５）相対比は、σ、２σのそれぞれを１とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

り平安時代のものとされている。また、現時点では、万治ヶ沢遺跡から弥生時代の遺物は確認されていない。したがって、今回の測定により得られた年代が、土器の使用年代を示している可能性は低いと考えられる。付着物中に含まれていた炭素分は、おそらく、土器を埋積していた堆積物等に由来するものであるかも知れない。

Ⅱ　土器の胎土分析

1　試　　料

試料は、万治ヶ沢遺跡Ｂ地点より出土した土器片15点と荒沢窯跡より出土した須恵器片５点の合計20点である。万治ヶ沢遺跡出土試料の内訳は、須恵器５点と赤焼土器10点であり、いずれも平安時代のものとされている。また、万治ヶ沢遺跡出土須恵器５点は、万治ヶ沢遺跡外で製作されて、万治ヶ沢遺跡に持ち込まれたと考えられており、これに対して赤焼土器は、焼成遺構とされる遺構が検出されていることもあり、全て万治ヶ沢遺跡で製作されたと考えられている。荒沢窯跡は、前述したように須恵器の生産地遺跡とされている。試料には、№１～20までの番号が付されており、№１～５が万治ヶ沢遺跡出土須恵器、№６～15が万治ヶ沢遺跡出土赤焼土器、№16～20が荒沢窯跡出土須恵器である。各試料の出土地点、器種等は、一覧にして表３に示す。

2　分析方法

当社では、これまでにも山形盆地や庄内平野に分布する古代の遺跡から出土した須恵器の胎土分析を行っている。そこでは、須恵器の胎土の特性（高温焼成と比較的砂粒が少ない）から、薄片作製観察と蛍光Ｘ線分析を併用し、解析を行っている。一方、赤焼土器は、砂粒を比較的多く含み、須恵器などに比べれば焼成温度が低いために焼成時の高温による鉱物の変質が少ないことなどから、胎土中に含まれる砂粒の重鉱物組成を胎土の特徴とする重鉱物分析が適当であると考えられる。重鉱物分析には、胎土の特徴を類型化し易い、地質との関連性を考えることができる、などの利点がある。以上のことから、本報告においても須恵器試料10点については薄片作製観察を行い、赤焼土器試料10点については重鉱物分析を用いる。また、蛍光Ｘ線分析は、両者計20点について行う。以下に各手法の処理過程を述べる。

（１）重鉱物分析

試料は、適量をアルミナ製乳鉢を用いて粉砕、水を加え超音波洗浄装置により分散、＃250の分析篩により水洗、粒径１/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた１/４㎜－１/８㎜の粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物のプレパラートを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉱物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

（２）薄片作製観察

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製する。薄片は岩石学的な手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにする。また、胎土の基質は、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などの方向性の確認や、基質を構成する粘土が焼成の結果、どの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているか、酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載する。

（３）蛍光Ｘ線分析

SiO_2、Al_2O_3、TiO_2、Fe_2O_3、MnO、MgO、CaO、Na_2O、K_2O、P_2O_5の主要10元素およびＲｂ、Ｓｒ、Ｚｒ、Ｂａの微量４元素について蛍光Ｘ線分析法によって分析する。以下に各分析条件を記す。

（１）装　置

理学電機工業社製ＲＩＸ1000（ＦＰ法のグループ定量プログラム）

（２）試料調製

試料を振動ミル（平工製作所製ＴＩ100；10㎖容タングステンカーバイト容器）で微粉砕し、105℃で４時間乾燥する。この微粉砕試料についてガラスビートを以下の条件で作成する。なお、胎土表面に塗彩または釉薬が確認される試料については、これらを除去し、試料として供する。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー（3491Ａ１）

溶剤及び希釈率；融剤（ホウ酸リチウム）5.000ｇ：試料0.500ｇ

剥離剤；ＬｉＩ（溶融中１回投入）

溶融温度；1200℃　約７分

（３）測定条件

Ｘ線管；Ｃｒ（50Kv－50mA）

スペクトル；全元素Ｋα

分光結晶；ＬｉＦ，ＰＥＴ，ＴＡＰ，Ｇｅ

検出器；Ｆ－ＰＣ，ＳＣ

計数時間；ＰｅａＫ40ｓｅｃ，Ｂａｃｋ20ｓｅｃ

３　結　　果

（１）重鉱物分析

結果を表４、図１に示す。今回の試料で認められた主な重鉱物は、斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物の３者であり、他に少量の角閃石と微量の黒雲母や緑レン石などが含まれている。当社では、これまでにも万治ヶ沢遺跡より出土した赤焼土器の分析を行っており、各重鉱物の量比により、Ⅰ～Ⅳ類までの重鉱物組成を設定した。Ⅰ類は不透明鉱物が非常に多く、少量または微量の斜方輝石を伴う組成、Ⅱ類は不透明鉱物が多く、中量の斜方輝石と少量の単斜輝石を伴う組成、Ⅲ類は不透明鉱物が多く、中量～少量の単斜輝石を伴う組成、Ⅳ類は斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物が同量程度に多い組成としている。今回の各試料の重鉱物組成では、№９、12～14の組成がⅠ類に分類され、№６はⅢ類、№７はⅣ類に分類される。№10は単斜輝石が非常に多い組成であり、少量の不透明鉱物と微量の斜方輝石を伴う組成である。ここでは、これをⅤ類とする。№８、11、15については、処理後に得られた重鉱物粒が少量であり、同定粒数が100個にも満たなかったため、グラフにはしていない。比較的多く認められた鉱物から、それぞれ、Ⅳ類、Ⅰ類、Ⅰ類という分類が考えられるが、確定はできない。

なお、上述の胎土分類と各試料の器種との間には、特に対応関係は認められない。

（２）薄片作製鑑定

観察結果を表５に示す。各試料間の特性を比べると、鉱物片の種類構成では、いずれの試料も石英、カリ長石、斜長石および不透明鉱物を含み、ほとんどの試料で黒雲母も含むという特徴が認められ、試料間の差異は不明瞭である。一方、岩石片の種類構成およびシルトサイズの粒子の含有量において、互いに類似する試料と異なる試料とが見出され、以下のような分類ができる。

Ａ類：岩石片の特徴として、チャート、凝灰岩、花崗岩類のいずれか２種類を含む。これに分類される試料は№３～５の３点である。

Ｂ類：シルト粒子を多く含むことが特徴である。岩石片は砂岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、花崗岩類などを含む。これに分類される試料は、№２と16の２点である。

Ｃ類：岩石片の特徴として、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、花崗岩類といった火成岩を含み、Ａ類やＢ類に認められたチャートや砂岩などの堆積岩類が認められないことがあげられる。これに分類される試料は、№17～20の４点である。

Ｄ類：岩石片では、多結晶石英以外に花崗岩類のみしか認められなかったことからＤ類とした。これに分類される試料は、№１の１点である。

（３）蛍光Ｘ線分析

結果を表６に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した（図２～６）。

ａ）化学組成中で最も主要な元素（SiO_2，Al_2O_3）

ｂ）粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素であるＣａＯ、Na_2O、K_2Oの３者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合（Na_2O+K_2O）/（ＣａＯ＋Na_2O+K_2O）を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合K_2O/（Na_2O+K_2O）を縦軸とする。

ｃ）輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、TiO_2、Fe_2O_3、ＭｇＯを選択し、Fe_2O_3を分母としたTiO_2、ＭｇＯの割合を見る。

ｄ）各微量元素を選択する。組み合わせは、Ｒｂ－ＳｒとＺｒ－Ｂａとする。

また、これらの散布図では、須恵器と赤焼土器および須恵器の中では万治ヶ沢遺跡出土品と荒沢窯跡出土品とで、それぞれ異なる記号で示した。作成した５つの散布図を概観すると、赤焼土器と須恵器との分離は、それほ

ど明瞭ではない。それよりも、須恵器の中で、№１、３、５のグループとそれ以外のグループに分離する傾向が認められる。この傾向は、長石類主要元素の散布図とＲｂ－Ｓｒ散布図において明瞭である。ここでは、便宜上、前者のグループをａ類とし、後者をｂ類とする。なお、赤焼土器の中では、特にグループ分けができるような分布は、いずれの図においても認められない。

４　考　　察

（１）赤焼土器について

今回の赤焼土器試料では、以前分析を行った万治ヶ沢遺跡出土試料で最も多く認められたⅠ類が、やはり最も多く認められた。他に、前回の試料ではⅠ類に次いで多く認められたⅣ類とその次に多かったⅢ類が、今回の試料でもそれぞれ１点ずつ認められた。これらの状況は、ほぼ前回の分析結果に従うものとしてよい。しかし、前回の試料では認められなかったⅤ類という胎土も１点ではあるが確認された。ただし、Ⅴ類の組成は、前回の分析においてⅢ類とした胎土の組成と単斜輝石－不透明鉱物間の量比関係が逆転しているだけであり、類似性は窺える。ここでいう類似性とは、共通した地質学的背景が推定されるという意味である。

万治ヶ沢遺跡の地質学的背景は、前報でも述べている。土谷ほか（1984）や大沢ほか（1988）などによれば、万治ヶ沢遺跡の立地する丘陵は、新第三紀中新世の主に凝灰岩層からなる善宝寺層と呼ばれる地質により構成されており、さらに局所的に小連寺ドレライトと呼ばれる火成岩体が貫入している。また、その丘陵下の興屋川原遺跡の立地する沖積低地は、丘陵から流下する大山川などの河川によってもたらされる上述の地質に由来する砕屑物が堆積していると考えられるが、それに加えて、赤川水系の河川によって、月山火山の噴出物に由来する砕屑物も多く堆積していると考えられる。さらに、土谷ほか（1984）の記載では、善宝寺層中の安山岩の主な重鉱物斑晶は単斜輝石であり、月山火山の噴出物の主な重鉱物斑晶は、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱物の３者となっている。また、その容積比では斜方輝石より単斜輝石の方が若干多い。

この記載から、万治ヶ沢遺跡におけるⅢ類およびⅣ類は、月山火山の噴出物の組成が反映されていると考えた。一方、Ⅰ類については、主体となる鉄鉱物は、善法寺層にも月山火山の噴出物にも多く含まれるが、少量含まれる輝石において、単斜輝石よりも斜方輝石が多いという組成は、土谷ほか（1984）の記載する岩石には認められないことを指摘した。しかし、実際にはⅠ類の試料が最も多く認められたことから、Ⅰ類の由来する地域を遺跡から遠隔地にあるとは考えず、周辺の堆積物の重鉱物組成を確認する必要があるとした。今回の分析においても、Ⅰ類の試料が多く認められたことは、Ⅰ類の由来が万治ヶ沢遺跡周辺の堆積物にあるとする所見を支持する結果といえる。なお、前回認められなかったⅤ類については、善宝寺層中の安山岩を起源とする砕屑物が多く含まれている堆積物に由来するのかも知れない。

ところで、今回の分析では、赤焼土器胎土の蛍光Ｘ線分析による化学組成も求めたが、結果に示したように、重鉱物組成に認められたような分類をすることはできなかった。この違いの原因は、それぞれの手法が対象としている胎土の構成要素が異なることによると考えられる。重鉱物組成は、胎土の中でも砂分のみの特徴であり、化学組成は砂分も粘土も含めた胎土全体の特徴である。さらに、化学組成は、鉱物組成の違いを敏感に反映するものでもないという事情（例えば、異なる鉱物でも化学組成は同じということはよくあることである）もある。これらのことから、万治ヶ沢遺跡出土の赤焼土器の場合は、胎土中の砂分の重鉱物組成により、複数種の材料が使用されていることが推定されるが、その違いは、胎土全体の化学組成では不明瞭になってしまう程度の違いであると言える。おそらく、近接した場所で採取された粘土や砂が使用されていることを示唆していると考えられる。

なお、当社では、万治ヶ沢遺跡より東北東へ３㎞ほど離れた沖積低地上に位置する興屋川原遺跡で出土した赤焼土器の分析例がある。重鉱物組成では、今回のⅤ類に相当する試料が比較的多く認められ、Ⅰ類も認められている。また、蛍光Ｘ線分析による化学組成でも、今回と同様の散布図により、ほぼ近似する組成であるといえる。したがって、興屋川原遺跡出土の赤焼土器の多くは、万治ヶ沢遺跡で焼かれた可能性もある。ただし、その中で、斜方輝石、単斜輝石および不透明鉱物の量比はⅣ類に相当するものの、それらに加えて角閃石が少量含まれることからⅥ類とした重鉱物組成の試料も認められている。

現時点では、Ⅵ類の重鉱物組成は、万治ヶ沢遺跡出土試料には認められないことと、その化学組成が、散布図上において、万治ヶ沢遺跡出土試料とは大きく異なることから、興屋川原遺跡で認められたⅥ類の赤焼土器は、万治ヶ沢遺跡で焼かれたものではない可能性があると考えられる。Ⅵ類の特徴である角閃石については、善法寺層の構成する丘陵の中でも熊野長峰付近に分布する田川酸性岩類（矢内ほか，1973）や金峰山付近に分布する母狩山花崗閃緑岩（土谷ほか，1984）などに含まれることから、Ⅵ類の重鉱物組成自体は、興屋川原遺跡や万治ヶ沢遺跡の地質学的背景と異質であるとは言えない。しかし、Ⅵ類とした試料の化学組成の違いが大きいことは、Ⅵ類とした試料の製作地が、興屋川原遺跡や万治ヶ沢遺跡周辺域ではない可能性もある。

今後も、各地の遺跡の分析事例を得ることにより、庄内平野南部における赤焼土器の事情について検討していきたいと考える。その際には、自然堆積物の分析例や、今回の蛍光Ｘ線分析による化学組成のように、重鉱物組成以外の胎土の特性を知ることも必要であると考えられる。

（２）須恵器について

須恵器試料については、薄片観察により、その胎土をＡ～Ｄ類の４つに分類し、蛍光Ｘ線による化学組成では、ａ類とｂ類の２つに分類した。ここで、両者の分類を組み合わせてＡａ類のように表示すると、この分類は、各試料の出土した遺跡に対応している。すなわちＡ類とした３点の試料とＤ類の試料は全て万治ヶ沢遺跡出土試料であり、化学組成も合わせると、Ａａ類が２点、Ａｂ類が１点、Ｄａ類が１点となる。一方、Ｃ類とした４点は全て荒沢遺跡出土試料であり、化学組成を合わせても全点Ｃｂ類となる。Ｂ類とした試料のみ、万治ヶ沢遺跡と荒沢窯跡とに１点ずつ認められ、化学組成を合わせてもいずれもＢｂ類である。各試料の分類は、試料一覧の表３に併記する。荒沢窯跡は生産地遺跡であるから、荒沢窯跡で製作された須恵器には、少なくともＢｂ類とＣｂ類の２種類の胎土が存在したことになる。今回の試料のみから判断すれば、万治ヶ沢遺跡出土須恵器の中で、荒沢窯跡で製作された可能性の高い試料は、Ｂｂ類の№２のみであると考えられ、他の万治ヶ沢出土須恵器は、荒沢窯跡以外で製作された可能性がある。

当社では、これまでに山形盆地、米沢盆地および庄内平野における古代の窯跡（それぞれ二子沢古窯、蛇崩窯跡および泉森窯跡）から出土した須恵器試料およびそれぞれの地域の遺跡出土須恵器試料の分析例があるが、各地域間の胎土の違いは、それほど明瞭ではない。現時点で認められることとして、薄片観察における定性的な特徴では、各地域の試料ともに、鉱物片の種類構成は今回の試料と概ね類似するが、岩石片では流紋岩・デイサイトまたは凝灰岩が比較的多く出現する傾向にあり、チャートなどの堆積岩類は極めて稀である。これは、いずれの地域も共通した地質学的背景（特に新第三紀中新世の堆積岩類、凝灰岩類、溶岩類）を有することが反映されていると考えられる。この特徴は、今回の薄片観察分類におけるＣ類に相当する。Ｃ類は、今回の試料では荒沢遺跡出土試料にのみ認められており、上述した古代の窯跡出土の須恵器胎土の傾向と整合するものといえる。

ここで問題となるのは、Ａ類、Ｂ類およびＤ類の胎土である。いずれの胎土も、上述した山形県内各地の古代の窯跡試料では、あまり認められない岩石片の種類構成を示している。前項の赤焼土器の胎土の考察で比較した興屋川原遺跡では、今回と同様に薄片観察と蛍光Ｘ線分析による須恵器の胎土分析も行っている。興屋川原出土須恵器の薄片観察では、Ａ類は古墳時代の須恵器に対応し、Ｂ類は奈良時代の須恵器に対応する傾向が認められた。そして平安時代の須恵器には、Ａ、Ｂ、Ｃの３類が混在した。なお、Ｄ類は認められていない。これに、今回の化学組成による分類を合わせると、興屋川原出土の古墳時代の須恵器はＡｂ類、奈良時代の須恵器はＢａ類、平安時代の須恵器は、Ａｂ類、Ｂｂ類、そしてＣ類の化学組成は、散布図上でａ類ともｂ類とも大きく異なる分布位置を示すことから、Ｃｃ類となる。したがって、興屋川原遺跡出土の平安時代の須恵器の中には、荒沢窯跡で製作された須恵器がＢｂ類として混在する可能性はあるが、万治ヶ沢遺跡と同様にそれ以外の窯で製作された須恵器も多く混在すると考えられる。また、万治ヶ沢遺跡出土の平安時代須恵器とは胎土分類の種類構成が異なることから、互いに異なる須恵器の供給事情があった可能性が高い。

今後、ある消費地遺跡から出土した須恵器の産地推定を目的とした場合、薄片観察による岩石片の産状と蛍光

Ｘ線分析による化学組成とを合わせて、比較する必要があると考える。いずれにしても、その検討のためには、多数の試料の分析例が必要であるが、その傾向を把握することができれば、産地の推定も可能になることが期待される。

引用文献

大沢穠・広島俊男・駒沢正夫・須田芳朗，1988，20万分の１地質図幅「新庄および酒田」，地質調査所．

土谷信之・大沢穠・池辺穣，1984，鶴岡地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１図幅），地質調査所，77ｐ．

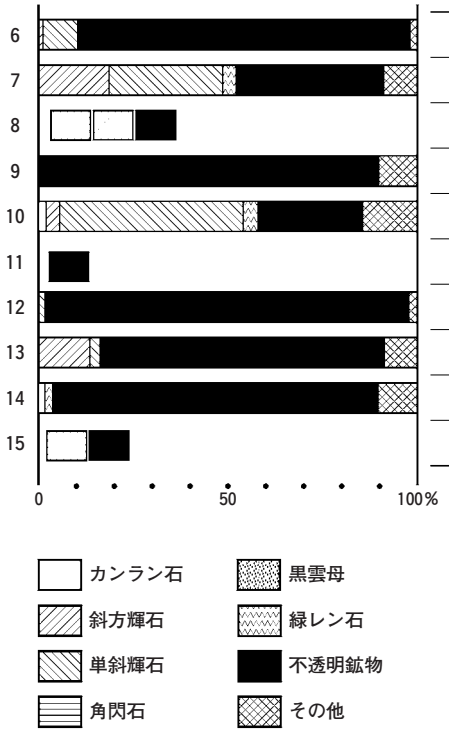
矢内桂三・井上武・大口健志，1973，朝日山地の白亜紀後期田川酸性岩類－新第三系グリーン・タフ層基盤岩の再検討－．地質学雑誌，79，11－22．

表３　土器胎土分析試料一覧および胎土分類

No.	出土遺跡	出土地点	種　別	時　代	器種	部位など	発掘所見等	胎土分類
1	万治ヶ沢	ＳＱ1001（Ｓ・15）	須恵器	平安時代	甕	体部	搬入	Ｄａ
2	万治ヶ沢	ＳＱ1020（Ｐ・13）	須恵器	平安時代	坏	体部～底部	搬入	Ｂｂ
3	万治ヶ沢	ＳＸ1034（ＡＣ・18）	須恵器	平安時代	甕	頸部と体部の境目部分	搬入	Ａａ
4	万治ヶ沢	Ｎ・11	須恵器	平安時代	甕	体部　４片のうちの１片	搬入	Ａｂ
5	万治ヶ沢	Ｒ・17	須恵器	平安時代	壺	底部高台片	搬入	Ａａ
6	万治ヶ沢	ＳＱ1004（Ｐ・７）	赤焼土器	平安時代	堝	口縁～体部	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅲ
7	万治ヶ沢	ＳＱ1018（Ｎ・11）	赤焼土器	平安時代	坏？	口縁～体部	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅳ
8	万治ヶ沢	ＳＱ1020（Ｑ・13）	赤焼土器	平安時代	堝	口縁～体部	万治ヶ沢遺跡で製作	（Ⅳ）
9	万治ヶ沢	ＳＱ1027（Ｚ・14）	赤焼土器	平安時代	坏	口縁～体部　やや厚手	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅰ
10	万治ヶ沢	ＳＱ1033（ＡＢ・19）	赤焼土器	平安時代	甕	口縁～体部	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅴ
11	万治ヶ沢	ＳＱ1037	赤焼土器	平安時代	坏	体部～底部	万治ヶ沢遺跡で製作	（Ⅰ）
12	万治ヶ沢	ＳＱ1046（Ｍ・13）	赤焼土器	平安時代	坏	口縁部　薄手	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅰ
13	万治ヶ沢	ＳＱ1049	赤焼土器	平安時代	甕	体部上半？	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅰ
14	万治ヶ沢	Ｔ・10	赤焼土器	平安時代	坏	口縁～底部直上	万治ヶ沢遺跡で製作	Ⅰ
15	万治ヶ沢	ＡＣ・18	赤焼土器	平安時代	坏	体部～底部	万治ヶ沢遺跡で製作	（Ⅰ）
16	荒沢	Ⅻ（２号窯跡にかかるトレンチ）	須恵器	平安時代	甕	体部	荒沢遺跡で製作	Ｂｂ
17	荒沢	窯跡Ｘ（３号窯跡にかかるトレンチ）	須恵器	平安時代	坏	体部下半	荒沢遺跡で製作	Ｃｂ
18	荒沢	ＲＰ26（４号窯跡の灰原寄り付近）	須恵器	平安時代	蓋	口縁部	荒沢遺跡で製作	Ｃｂ
19	荒沢	Ⅰ（８号窯跡にかかるトレンチ）	須恵器	平安時代	不明		荒沢遺跡で製作	Ｃｂ
20	荒沢	Ⅶ（２号窯跡にかかるトレンチ）	須恵器	平安時代	壺？	肩部	荒沢遺跡で製作	Ｃｂ

表４　胎土重鉱物分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計
6	0	3	23	0	1	0	0	219	4	250
7	0	21	34	2	0	4	1	44	7	113
8	3	7	14	1	0	2	0	44	22	93
9	0	2	0	0	0	0	0	167	17	186
10	5	9	121	2	0	10	0	69	34	250
11	0	0	0	0	0	0	0	75	6	81
12	0	1	3	0	0	0	0	166	3	173
13	0	20	4	1	0	2	2	111	8	148
14	3	2	1	0	2	4	1	157	13	183
15	0	2	1	0	0	0	1	55	3	62



胎土	出土地区	種　別	器　種
Ⅲ	ＳＱ1004（Ｐ・７）	赤焼土器	堝（口縁～体部）
Ⅳ	ＳＱ1018（Ｎ・11）	赤焼土器	坏？（口縁～体部）
（Ⅳ）	ＳＱ1020（Ｑ・13）	赤焼土器	堝（口縁～体部）
Ⅰ	ＳＱ1027（Ｚ・14）	赤焼土器	坏（口縁～体部）
Ⅴ	ＳＱ1033（ＡＢ・19）	赤焼土器	甕（口縁～体部）
（Ⅰ）	ＳＱ1037	赤焼土器	坏（体部～底部）
Ⅰ	ＳＱ1046（Ｍ・13）	赤焼土器	坏（口縁部）
Ⅰ	ＳＱ1049	赤焼土器	甕（体部上半？）
Ⅰ	Ｔ・10	赤焼土器	坏（口縁～底部直上）
（Ⅰ）	ＡＣ・18	赤焼土器	坏（体部～底部）

図１　赤焼土器の胎土重鉱物組成

表５　胎土薄片観察結果

No.	砂粒 全体量	砂粒 淘汰度	砂粒 最大径	砂粒の種類構成 鉱物片 石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	白雲母	黒雲母	緑簾石	ジルコン	不透明鉱物	岩石片 チャート	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	多結晶石英	花崗岩類	珪化岩	その他 スフェルライト	火山ガラス	海綿骨針	植物珪酸体	孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量	長石の溶融度	ムライト化	備考	胎土分類
1	○	×	1.8	△	＋	＋				＋			＋					＋	＋						△	△	×	＋	○	○	石英には高温クラックが発達する。カリ長石は著しく溶融し、コアのみが残存する。	D
2	△	×	2.7	＋	＋	＋		＋		＋			＋		＋	△	＋	＋				＋		＋	△	×	＋	＋	×	×	シルトサイズの粒子が多い。火山ガラスはバブルウォール型を呈する。凝灰岩岩片の周囲には、膨縮組織とみられるリング状の孔隙が形成されている。	B
3	△	△	0.7	＋		△	＋					＋	＋	＋			＋	＋				＋			△	○	×	＋	○	○	石英には高温クラックが発達する。不透明鉱物の周囲には、発泡による孔隙が生じている。試料表面の一部には、幅0.1㎜以下で淡褐色～褐色を呈する釉薬が塗布されており、針状鉱物が晶出している。	A
4	○	×	1.5	△	＋	＋		＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋				＋	＋			＋		＋	△	○	○	＋	×	×	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。黒雲母はほとんど非晶質化している。	A
5	○	×	1.2	△		＋				＋			＋	＋			＋	＋					＋		△	△	×	＋	○	○	シルトサイズの粒子がやや多い。石英には高温クラックが発達する。試料表面には、微細不透明鉱物が塗布されている部分や、幅0.2㎜以下で無色～淡褐色の釉薬が塗布されている部分がある。釉薬中には、針状鉱物が晶出している。	A
16	△	×	1.9	＋	＋	＋				＋	＋		＋				＋	△	＋		＋				△	△	＋	＋	△	△	シルトサイズの粒子が多い。黒雲母はほとんど非晶質化している。	B
17	△	△	0.9	△		＋				＋	＋		＋				＋								△	×	×	＋	○	○	シルトサイズの粒子がやや多い。黒雲母はほとんど非晶質化している。不透明鉱物の周辺に径0.08m以下の板状鉱物が晶出している部分がある。	C
18	○	×	2.1	△	＋	＋	＋			＋			＋			＋	＋	＋	＋						△	×	△	＋	△	×	カリ長石は結晶表面部が微弱に溶融している。黒雲母はほとんど非晶質化している。凝灰岩岩片の周囲には、膨縮組織とみられるリング状の孔隙が形成されている。	C
19	＋	×	1.4	＋	＋	＋		＋	＋	＋	＋		＋			＋		＋		＋		＋			△	○	◎	＋	×	×	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。素地は雲母鉱物質である。	C
20	△	×	1.0	＋	＋	＋				＋			＋			△	＋	＋	＋						△	×	△	＋	△	×	カリ長石は結晶表面部や劈開に沿って微弱に溶融している。黒雲母はほとんど非晶質化している。凝灰岩岩片の周囲には、膨縮組織とみられるリング状の孔隙が形成されている。	C

量比　◎：多量　○：中量　△：少量　＋：微量　×：なし
程度　◎：強い　○：中程度　△：弱い　×：なし

表６　胎土蛍光Ｘ線分析結果（科学組成）

No.	主要元素												微量元素			
	SiO_2 (%)	TiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	MnO (%)	MgO (%)	CaO (%)	Na_2O (%)	K_2O (%)	P_2O_5 (%)	Ig.loss (%)	合計 (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Zr (ppm)	Ba (ppm)
1	70.32	0.76	20.15	2.65	0.01	0.94	0.47	1.09	2.12	0.05	1.45	100.00	93	84	186	461
2	64.56	1.34	22.43	4.20	0.03	1.55	0.24	0.43	1.88	0.04	3.30	100.00	99	57	287	348
3	68.45	0.98	20.49	4.41	0.01	0.92	0.63	0.91	1.63	0.03	1.54	100.00	91	103	260	309
4	64.74	1.04	22.71	4.52	0.02	0.95	0.11	0.27	2.27	0.04	3.33	100.00	120	47	252	342
5	70.10	1.01	19.42	3.76	0.02	1.12	0.47	0.92	1.91	0.04	1.23	100.00	91	84	238	433
6	67.52	1.27	20.80	4.84	0.03	1.63	0.32	0.63	1.76	0.04	1.16	100.00	92	72	287	390
7	64.33	1.11	17.69	3.84	0.02	0.57	0.31	0.78	2.41	0.09	8.85	100.00	138	69	267	515
8	63.12	1.17	19.22	4.35	0.02	0.78	0.33	0.84	2.39	0.14	7.64	100.00	121	73	272	485
9	63.66	1.39	21.88	5.77	0.02	1.46	0.33	0.46	1.65	0.07	3.31	100.00	96	66	285	346
10	62.27	1.36	19.15	4.91	0.02	0.74	0.36	0.73	2.29	0.12	8.05	100.00	98	63	319	401
11	65.14	1.48	20.76	7.44	0.02	1.04	0.17	0.18	1.12	0.06	2.59	100.00	72	39	342	251
12	63.54	1.13	20.47	8.14	0.02	1.39	0.16	0.37	1.45	0.04	3.29	100.00	85	37	238	232
13	61.52	1.14	20.38	3.76	0.02	0.78	0.22	0.72	2.16	0.08	9.22	100.00	120	61	252	453
14	58.91	1.34	20.50	5.02	0.02	0.49	0.15	0.33	1.53	0.32	11.40	100.00	95	42	309	348
15	59.61	1.40	19.69	4.74	0.02	0.40	0.13	0.34	1.62	0.06	11.99	100.00	100	39	319	358
16	67.85	1.28	21.18	4.08	0.01	1.17	0.24	0.36	1.80	0.02	2.02	100.00	99	58	273	347
17	63.93	1.33	23.29	5.48	0.01	1.09	0.23	0.24	1.51	0.02	2.87	100.00	70	33	285	180
18	66.78	1.34	21.41	3.53	0.02	1.21	0.22	0.27	1.48	0.02	3.72	100.00	79	50	301	287
19	61.26	1.16	18.66	4.36	0.01	0.93	0.13	0.41	1.75	0.05	11.28	100.00	117	48	281	366
20	65.36	1.32	22.83	4.71	0.02	1.27	0.21	0.34	1.62	0.02	2.30	100.00	89	48	281	302

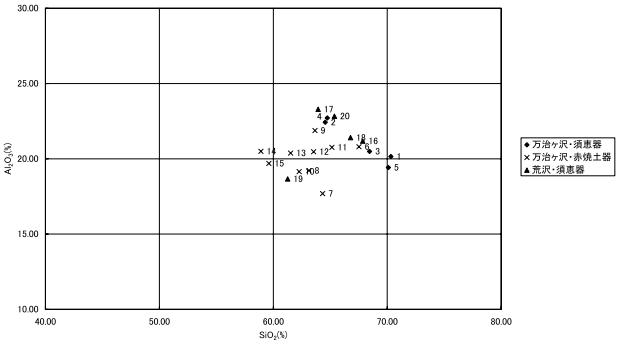


図２　Ｓｉｏ$_2$ーＡｌ$_2$Ｏ$_3$散布図

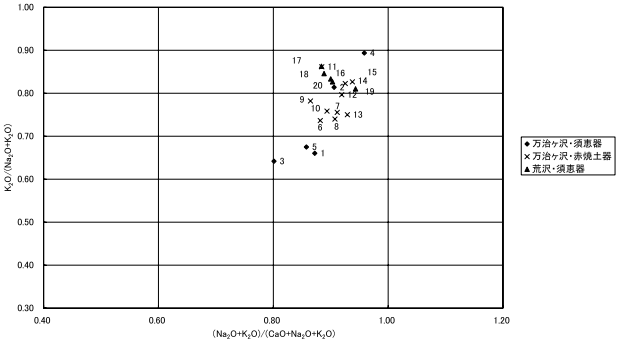


図３　長石類主要元素の散布図

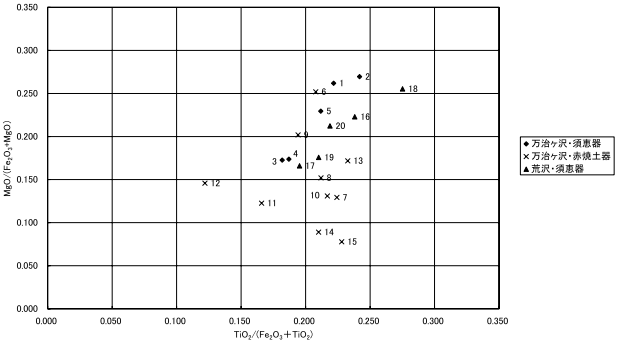


図４　有色鉱物主要元素の散布図

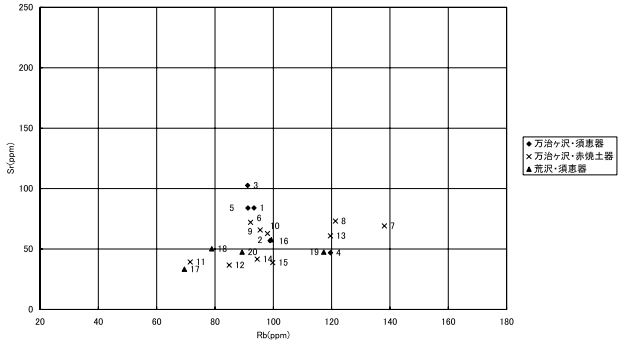


図５　Ｒｂ－Ｓｒ散布図

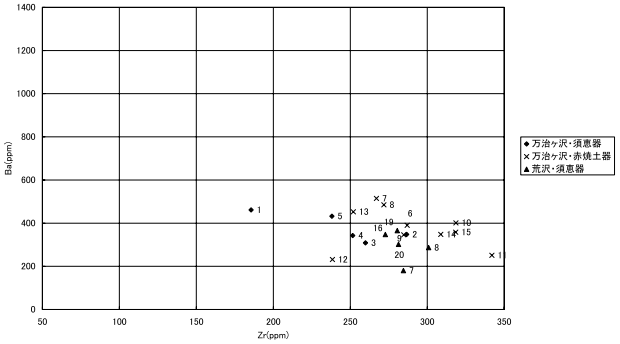
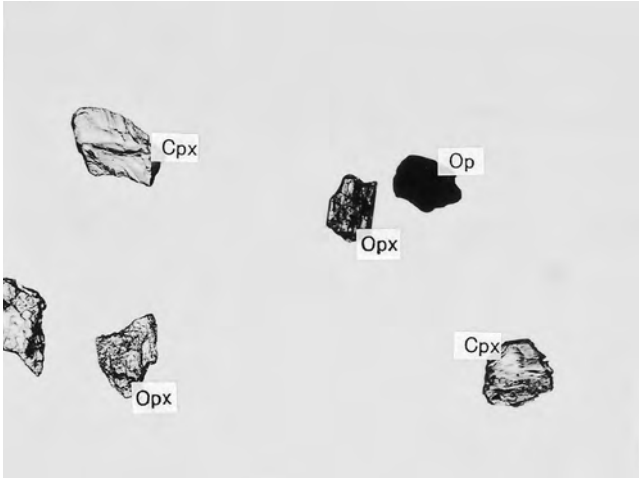
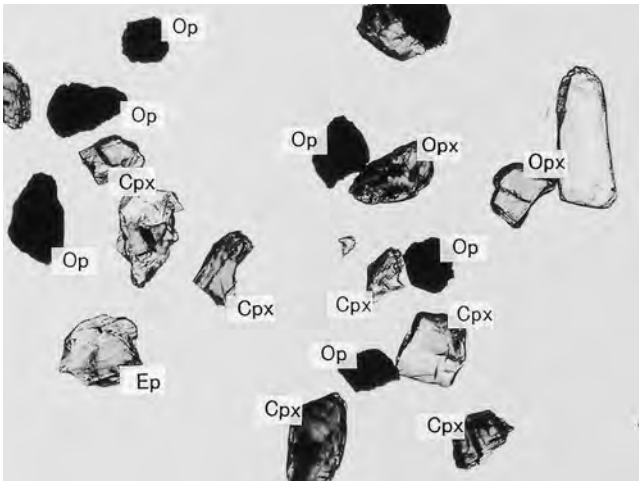


図６　Ｚｒ－Ｂａ散布図

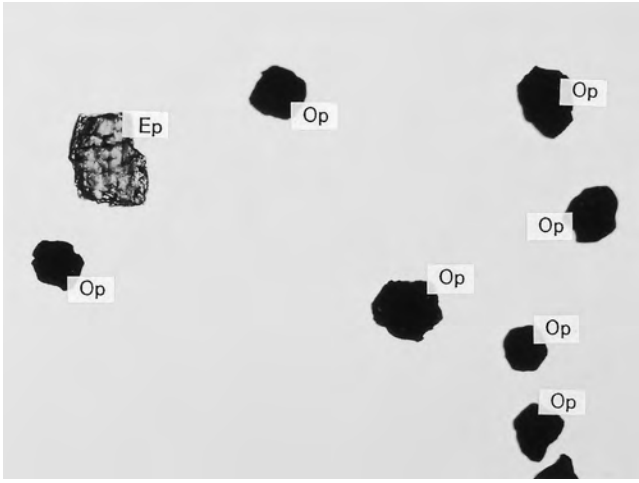
図版１　胎土中の重鉱物・胎土薄片（１）



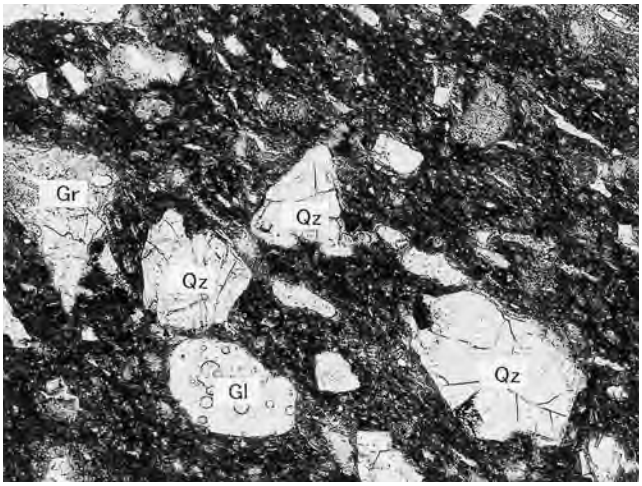
1．重鉱物（No.7　ＳＱ1018（Ｎ－11）赤焼土器　坏？）

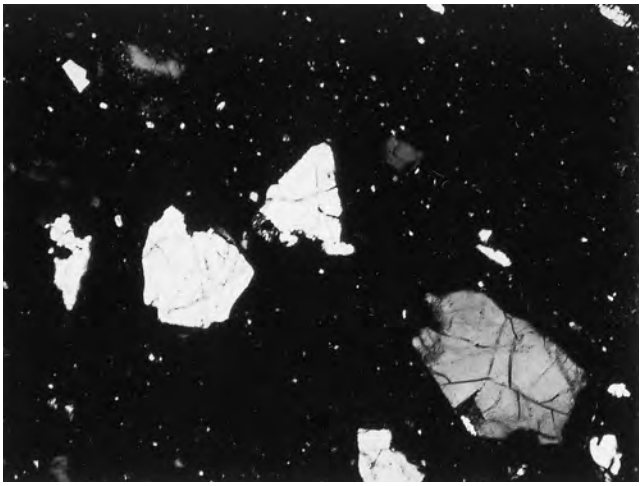


2．重鉱物（No.10　ＳＱ1033（ＡＢ－19）赤焼土器　甕）



3．重鉱物（No.14　ＢＩ層Ｔ－10　赤焼土器　坏）



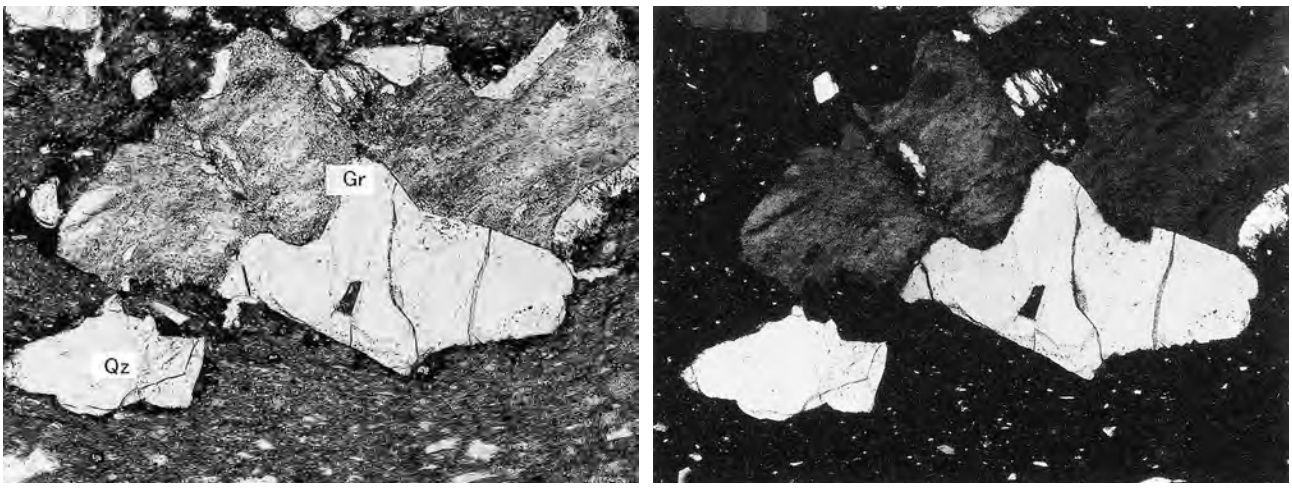


4．薄片（No.1　ＳＱ100（Ｓ－15）須恵器　甕）

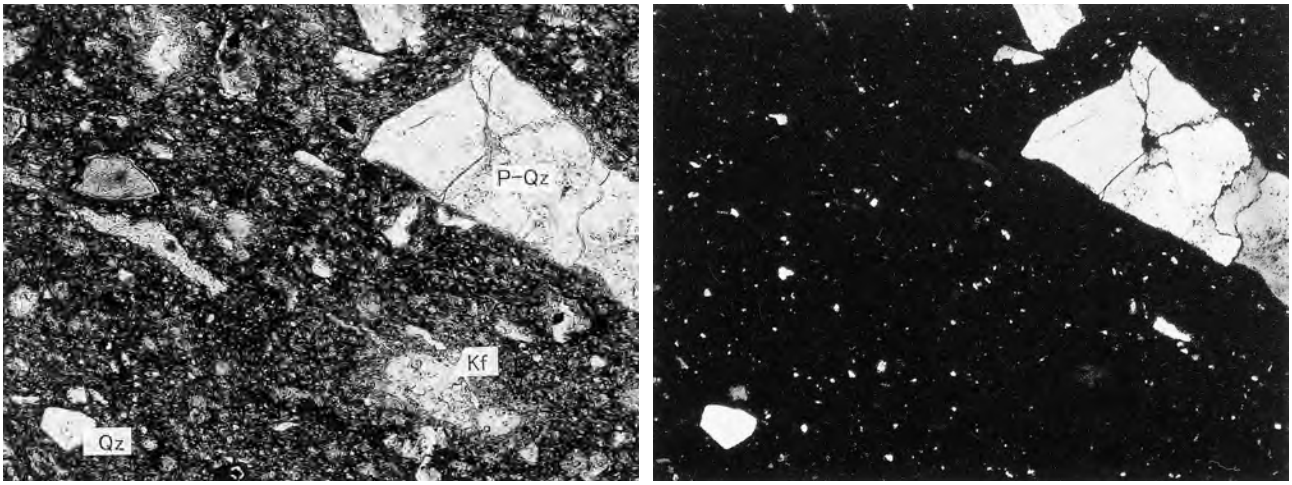
Ｑｚ：石英　Ｏｐｘ：斜方輝石　Ｃｐｘ：単斜輝石　Ｅｐ：緑レン石　Ｏｐ：不透明鉱物
Ｇｒ：花崗岩　ＧＩ：溶融ガラス
薄片写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

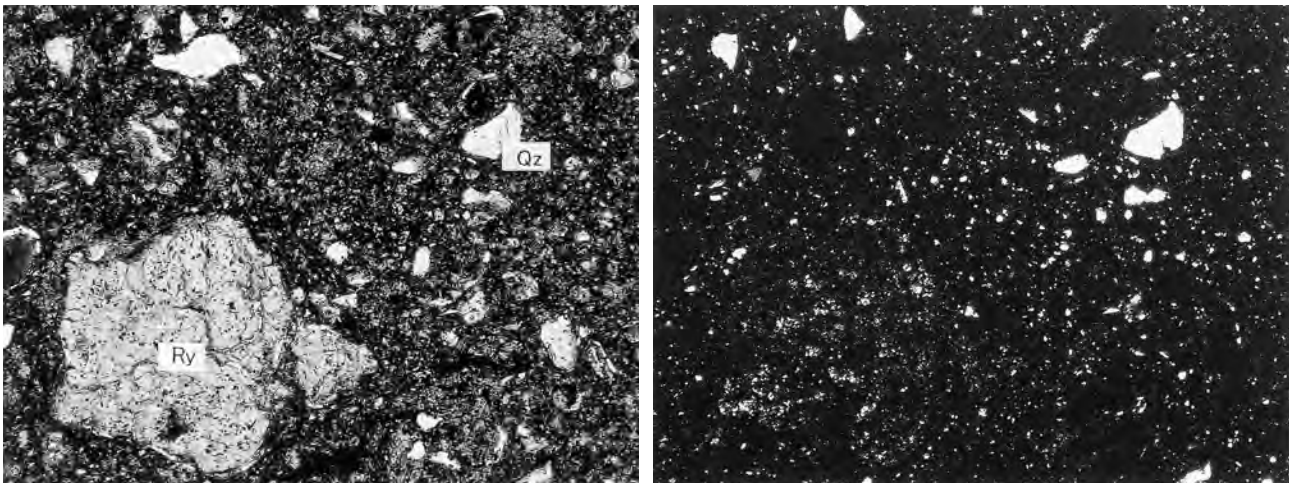
図版２　胎土薄片（２）



5．薄片（No.4　Ｎ－11　須恵器　甕）



6．薄片（No.16　荒沢窯跡　須恵器　甕）



7．薄片（No.20　荒沢窯跡　須恵器　壺？）

Ｑｚ：石英　Ｋｆ：カリ長石　Ｇｒ：花崗岩　Ｒｙ：流紋岩　Ｐ－Ｑｚ：多結晶石英
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

3　平成19年度　万治ヶ沢遺跡出土赤焼土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

当社ではこれまでに、万治ヶ沢遺跡Ｂ地点から出土した炭化材などの放射性炭素年代測定を行い、平安時代の遺構に関する年代資料を作成した。また、出土した須恵器と赤焼土器の材質（胎土）の分析により、万治ヶ沢遺跡で生産された土器の特徴を明らかにするとともに、周辺の遺跡から出土した赤焼土器や平安時代の須恵器の一大産地とされている荒沢窯跡より出土した須恵器との比較も行い、万治ヶ沢遺跡における土器生産の様相について検討を行った。分析結果からは、例えば万治ヶ沢遺跡から東北東へ３㎞ほど離れた沖積低地上に位置する興屋川原遺跡から出土した赤焼土器の多くが万治ヶ沢遺跡で生産された可能性があることや、万治ヶ沢遺跡出土須恵器の中には、荒沢窯跡で生産された須恵器は少ないことなどを推定している。

本報告では、万治ヶ沢遺跡Ｂ地点より出土した赤焼土器を対象とした胎土分析を行い、その特徴である表面の赤い色調の成因について検討する。発掘調査所見では、化粧土のようなものを塗布することによる発色かあるいは、焼成時の状態によって発色が異なったものであるかという２通りの可能性が考えられている。したがって、分析では、土器断面の薄片を作製することにより、その顕微鏡観察を行い、構造的に塗布の可能性があるか否かを検討し、さらに、表面の赤色部分と胎土内部の部分との化学組成をＥＰＭＡ分析により測定し、その差異の程度から塗布物の有無について検討する。なお、これらの分析では、胎土の岩石学的な特徴および化学組成も捉えることとする。

1　試　　料

試料は、万治ヶ沢遺跡Ｂ地点より出土した赤焼土器片８点である。試料には、試料番号１～８までが付されている。これらのうち、試料番号１～３は、発掘調査所見により厚めに赤色部分が付着しているとされた土器であり、試料番号４は、器壁と胎土の色調が異なるとされている。また、試料番号５～７は、万治ヶ沢遺跡から出土した一般的な赤焼土器とされており、その中で試料番号６は器面の色調の変化に富んでいることが指摘されている。試料番号８は胎土の白っぽいものが選択されている。各試料の実測番号、出土地点は、薄片観察結果を呈示した表１に併記する。

薄片観察およびＥＰＭＡ分析は８点全点を対象とする。ただし、ＥＰＭＡ分析においては、試料番号１～４の４点について、赤色部分と胎土内部の２箇所の測定を行い、試料番号５～８については土器表面のみ１箇所の測定を行う。したがって、ＥＰＭＡ分析の測定点数は12点になる。

2　分析方法

（1）薄片作製観察

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製する。薄片は岩石学的な手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにする。また、胎土の基質は、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などの方向性の確認や、基質を構成する粘土が焼成の結果、どの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているか、酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載する。

（2）ＥＰＭＡ分析

供試材は、測定に適した大きさに切断の後、カーボンテープ上に固着させ、導電処理（Ａｕ）を施した後、分析に供する。なお、試料番号１～４については、表面の赤色部分と赤色部分を削り取り胎土内部を露出させた部分とを作製し、それぞれの部位について測定を行う。

分析は、ＥＰＭＡ（Ｘ線マイクロアナライザー）にて検出された元素濃度を、ＺＡＦ法にて酸化物換算し構成成分を求める。使用した装置は、ＪＸＡ－8100型（日本電子製）である。

3　結　　果

（1）薄片作製鑑定

観察結果を表１に示す。含まれる砂粒の全体量は、試料番号３、７、８が中量、試料番号１、２、４が少量、試料番号５、６が微量である。鉱物片の種類構成では、いずれの試料も石英、カリ長石、斜長石、黒雲母および

不透明鉱物を含み、試料番号２、３、６以外の５点の試料には緑廉石が含まれる。また、試料番号３、４、６、７には角閃石または酸化角閃石が認められた。一方、岩石片の種類構成では、試料番号１、５にはチャートまたは泥岩の堆積岩類と凝灰岩および安山岩が認められ、試料番号３には泥岩と凝灰岩、試料番号７にチャートと砂岩が認められた。試料番号４と８には、上述した岩石片はいずれも認められず、花崗岩類の岩石片が認められている。さらに試料番号２と６では、上述した岩石片および花崗岩類も認められずに変質岩が認められている。鉱物片・岩石片以外の砕屑物では、全試料に非晶質粘土粒子および植物珪酸体が認められ、試料番号２、７、８以外の５点には火山ガラスが認められた。

胎土の基質は、いずれの試料もシルト質でセリサイトを多く含むことで共通する。基質の色調について観察すると、試料番号１、２、４の３点については、表面から深度0.1㎜から最大で深度1.5㎜まで赤褐色化している状況が認められた。ただし、赤褐色部の境界は漸移的である。他の試料については、基質全体が褐色化しており、表面と内部の色調の差異はない。

（２）ＥＰＭＡ分析

結果を表２に示す。試料番号１～４までの表面では、Fe_2O_3の含有量が高い傾向が認められ、特に試料番号１と２において顕著である。同時に、これらの試料の表面ではAl_2O_3の含有量が低く、ＭｇＯの含有量が高い傾向も認めることができる。一方、試料番号１～４の内部の組成と試料番号５～８までの組成を比べると、試料番号２以外は、Fe_2O_3が５～６％、SiO_2が60％弱、Al_2O_3が30％前後で共に概ね近似した値を示すと見て良い。試料番号２の内部の組成は、Fe_2O_3は近似するが、SiO_2が70％に近く、Al_2O_3が約20％など、他の試料の組成に比べて、有意と考えられる差が認められる。

４　考　　察

（１）赤色部分について

赤色部分が厚いとされた試料番号１～４のうち、試料番号３を除く３点には、薄片観察によって表面部分での赤褐色化が認められた。このことは、肉眼観察による所見と整合する結果といえる。さらに、試料番号１では、赤褐色部分に不透明鉱物（おそらく磁鉄鉱などの鉄鉱物と考えられる）が若干多く含まれる傾向が観察されている。一方、ＥＰＭＡによる成分分析でも、試料番号１と２に特に顕著に表面部における鉄含有量の卓越が確認された。これらのことから、特に赤色の発色の強い赤焼土器の表面には、鉄分が濃集している可能性が高い。ただし、赤褐色部と内部との境界は、薄片観察では漸移的であったことから、ベンガラのような赤色顔料を塗布したとは考えられない。ＥＰＭＡ分析により、鉄分のみではなく、Al_2O_3やＭｇＯまで有意な差が認められたことも考慮すると、鉄分を多く含んだ粘土を薄く表面に塗布したというような状態が想定できる。この場合、焼成時の焼結により、表面の粘土と土器本体の粘土との境界が不明瞭になった可能性がある。

赤焼土器の赤い色調は、今回の試料番号５～８の薄片観察でも指摘したように、基本的には素地自体が焼成により褐色を呈していることによると思われるが、何らかの理由により、より赤い色調を強調する場合に、鉄分を多く含んだ粘土を塗るようなことがあった可能性がある。

（２）胎土について

当社では、これまでにも山形盆地や庄内平野に分布する古代の遺跡から出土した赤焼土器の胎土分析を行っている。赤焼土器は、砂粒を比較的多く含み、須恵器などに比べれば焼成温度が低いために焼成時の高温による鉱物の変質が少ないことなどから、胎土中に含まれる砂粒の重鉱物組成を胎土の特徴とする重鉱物分析を行ってきた。分析結果では、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、不透明鉱物の各重鉱物の量比により、Ⅰ～Ⅵ類までの重鉱物組成を設定した。これらのうち、万治ヶ沢遺跡出土の赤焼土器では不透明鉱物が非常に多い組成であるⅠ類の胎土が多く認められた。また、角閃石を少量含むⅥ類の胎土は、万治ヶ沢遺跡出土試料の中には認められていない。

今回の薄片観察では、重鉱物以外の砕屑物も含めた砂粒の胎土中の産状を記載した。鉱物片の産状は、いずれも類似しているが、岩石片の産状では、堆積岩類と凝灰岩を含む試料番号１、３、５とそれらを含まずに花崗岩類を含む試料番号４と８という２つのグループを見出すことができる。また、試料番号７は、凝灰岩を含まないが、堆積岩類を含むことや鉱物片では試料番号１と同様に緑廉石を含み、試料番号３と同様に角閃石と白雲母を

表１　胎土薄片観察結果

試料番号	遺物番号	出土地点	砂粒			砂粒の種類構成																														備考
						鉱物片															岩石片							その他								
			全体量	淘汰度	最大径	石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化角閃石	白雲母	黒雲母	ザクロ石	緑廉石	ジルコン	不透明鉱物	チャート	泥岩	砂岩	凝灰岩	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	鉄石英	変質岩（粘土岩）	非晶質粘土粒子	火山ガラス	植物片	植物珪酸体	孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量	
1	72	ＳＱ1028	△	×	0.9	＋	＋	＋				＋		＋		＋		＋		＋	＋	＋					＋	＋		＋	△	△	◎	＋	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。基質はシルト質でセリサイトを多含し、試料表面の片面では表面から1.0～1.5㎜の深度まで赤褐色化している。褐色部には、不透明鉱物がやや多く含まれる傾向がある。
2	113	ＳＸ1034	△	△	0.7	＋	＋	＋				＋				＋						＋			＋	＋	＋			＋	△	○	◎	＋	基質はシルト質で、セリサイトを多く含み、試料表面の片面では表面から0.3㎜以下の深度まで赤褐色化している。
3	382	ＡＣ－15	○	△	0.6	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋			△		＋		＋						＋	＋	＋	＋	＋	△	△	○	△	火山ガラスはバブルウォール型および軽石型が認められ、脱ガラス化しているものもある。基質はシルト質でセリサイトを多含し、全体に褐色化している。
4	95	ＳＱ1032	△	×	1.2	＋	＋	＋		＋		＋		＋	＋	＋						＋	＋				△	＋		＋	△	△	◎	＋	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。基質はシルト質でセリサイトを多く含み、試料表面から0.1～0.2㎜の深度まで赤褐色化している。
5	187	ＳＱ1047	＋	△	0.6	＋	＋	＋				＋		＋		＋	＋			＋	＋			＋			＋	＋		＋	△	△	◎	＋	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。基質はシルト質でセリサイトを多く含み、全体に褐色化している。チャートは鉄石英の可能性あり。
6	81	ＳＱ11029	＋	△	0.3	＋	＋	＋	＋			＋				＋						＋				＋	＋	＋		＋	△	△	◎	＋	火山ガラスはバブルウォール型を呈する。基質はシルト質でセリサイトを多く含み、全体に褐色化している。
7	90	ＳＱ1030	○	×	2.3	＋	＋	＋	＋		＋	＋		＋		＋	＋		＋			＋					△			＋	○	×	◎	＋	基質はシルト質でセリサイトを多く含み、全体に褐色化している。
8	231	Ｍ－12	○	×	2.1	＋	＋	＋			＋	＋		＋		＋						＋	＋				△			＋	○	△	◎	＋	基質はシルト質でセリサイトを多く含み、全体に褐色化している。

量比　◎：多量　○：中量　△：少量　＋：微量　×：なし
程度　◎：強い　○：中程度　△：弱い　×：なし

含むことなどから、前者のグループに入れることができる。試料番号６については、多結晶石英と変質岩を含むことなどから、試料番号２との類似性が指摘されるが、ＥＰＭＡによる化学組成では、試料番号２と有意な差が認められることから、試料番号２と同類の胎土とすることはできない。むしろ、薄片観察において、角閃石や火山ガラスを含むことなど上述した前者のグループとの共通性も見出せる。したがって、試料番号６も試料番号１、３、５と同じ分類と考えることができる。以上のことにより、今回の８点の試料を胎土の特徴から分類するとすれば、試料番号１、３、５、６、７のグループと試料番号４、８のグループ、そして試料番号２という３種類を設定することができる。今回の分析では、重鉱物分析は行っていないため、Ⅰ～Ⅵ類までの分類との対応関係は不明であるが、これまでの傾向から見て、上述の８点中５点（試料番号１、３、５、６、７）が分類されるグループがⅠ類に対応する可能性がある。

なお、今回の試料の胎土中に認められた鉱物片や岩石片は、万治ヶ沢遺跡の立地する丘陵を構成している新第三紀中新世の主に凝灰岩と砂岩、泥岩層からなる善宝寺層（土谷ほか，1984；大沢ほか，1988）に由来すると考えられる。チャートなどは、砂岩や泥岩を構成する砕屑物に由来するものであり、花崗岩類の岩石片も善宝寺層の基盤であり金峰山付近に分布する母狩山花崗閃緑岩（土谷ほか，1984）や熊野長峰付近に分布する田川酸性岩類（矢内ほか，1973）に由来すると考えられる。したがって、上述した薄片観察により分類した各胎土を構成する材料は、重鉱物組成からも推定されたように、万治ヶ沢遺跡周辺の堆積物から採取されたと考えることができる。

今後は、重鉱物分析と薄片観察を併用することにより、より確実な胎土の分類が可能となることが期待される。また、庄内平野南部における赤焼土器の生産と使用の事情について、より具体的な解析をするためには、今後も継続して、各地の遺跡出土赤焼土器の分析事例や遺跡周辺の自然堆積物の分析例を蓄積することが必要であると考えられる。

引用文献

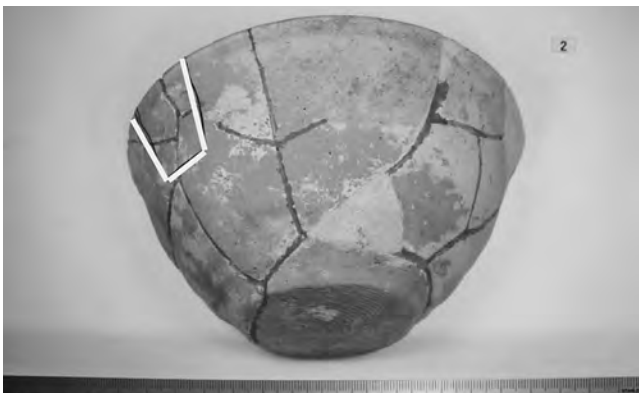
大沢穠・広島俊男・駒沢正夫・須田芳朗，1988，20万分の１地質図幅「新庄および酒田」，地質調査所．
土谷信之・大沢穠・池辺穣，1984，鶴岡地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１図幅），地質調査所，77ｐ．
矢内桂三・井上武・大口健志，1973，朝日山地の白亜紀後期田川酸性岩類－新第三系グリーン・タフ層基盤岩の再検討－．地質学雑誌，79，11－22．

表２　ＥＰＭＡによる成分分析結果

試料番号		Fe_2O_3（%）	SiO_2（%）	Al_2O_3（%）	CaO（%）	MgO（%）	TiO_2（%）	Na_2O（%）	K_2O（%）
1	表面	14.50	50.90	24.50	1.01	2.94	1.67	—	2.51
	内部	6.16	57.70	28.20	0.72	1.36	1.85	—	3.42
2	表面	12.90	59.30	18.20	—	1.67	2.53	—	5.42
	内部	4.45	68.50	21.90	—	0.42	1.87	—	2.92
3	表面	8.89	58.90	26.20	—	1.97	1.53	—	2.54
	内部	7.52	62.10	25.30	0.32	1.10	1.54	—	2.11
4	表面	7.60	57.40	24.50	—	1.62	1.20	0.70	7.04
	内部	6.21	59.80	28.80	—	0.93	1.05	—	3.26
5		5.26	56.50	33.10	—	1.03	1.09	—	3.00
6		6.06	57.70	31.10	—	0.75	1.94	—	2.49
7		6.30	53.60	33.50	—	0.57	1.57	—	2.55
8		6.03	60.60	27.30	—	0.95	1.51	0.55	2.99

図版１　分析部位

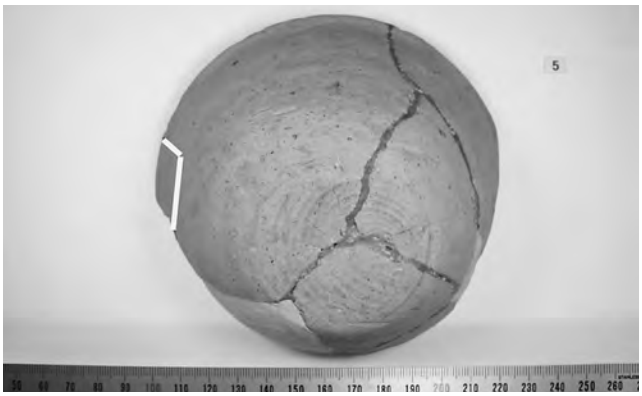
1．試料番号１（挿図番号28－72　ＳＱ1028）



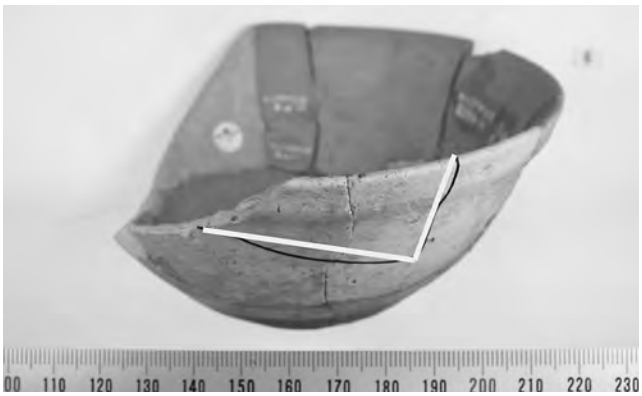
2．試料番号２（挿図番号32－113　　ＳＸ1034）

3．試料番号３（挿図番号53－382　ＡＣ・15）

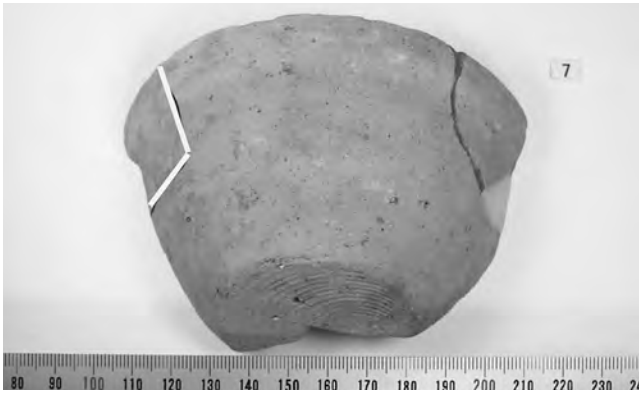
4．試料番号４（挿図番号30－95　ＳＱ1032）



5．試料番号５（挿図番号38－187　ＳＱ1047）



6．試料番号６（挿図番号29－81　ＳＱ1029）

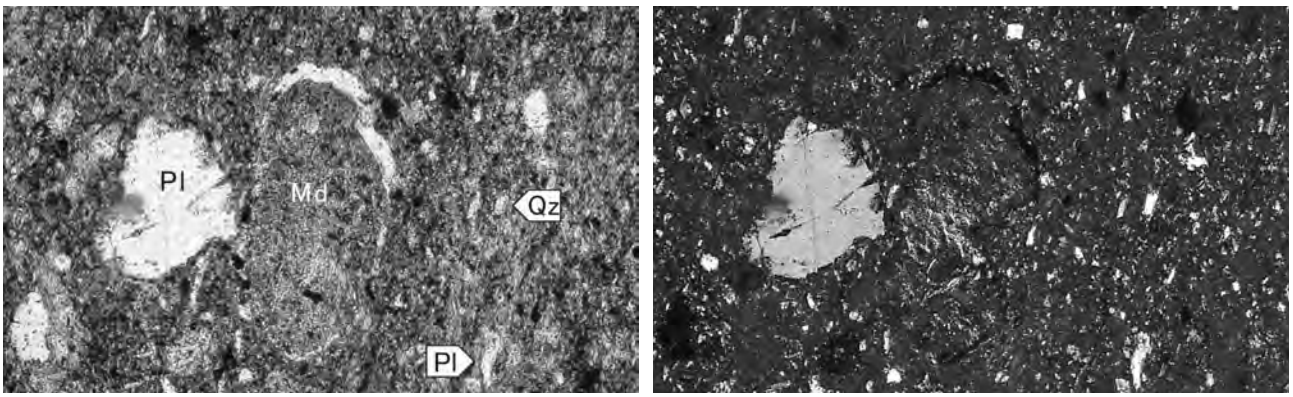


7．試料番号７（挿図番号30－90　ＳＱ1030）

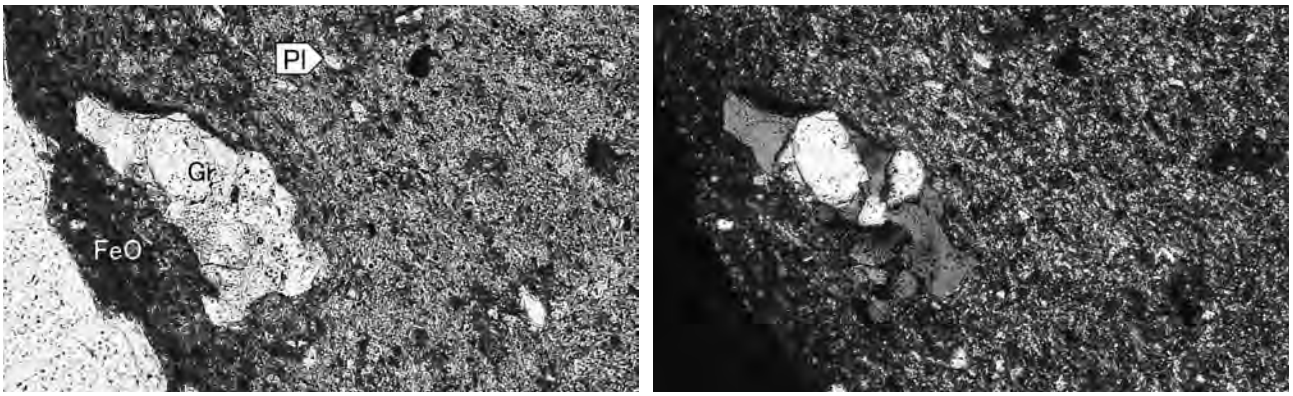
8．試料番号８（挿図番号41－231　Ｍ・12）

分析部位は黄色線で囲った範囲

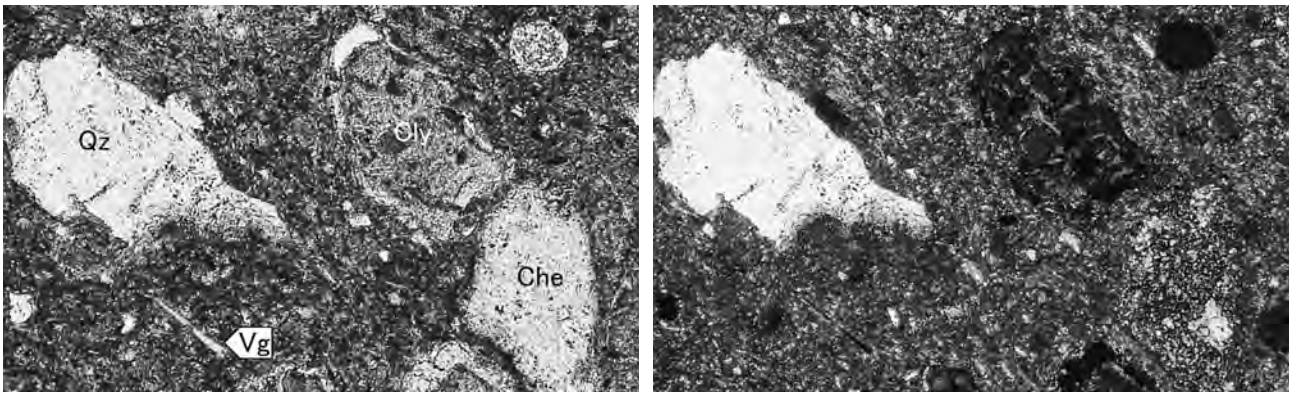
図版２　胎土薄片



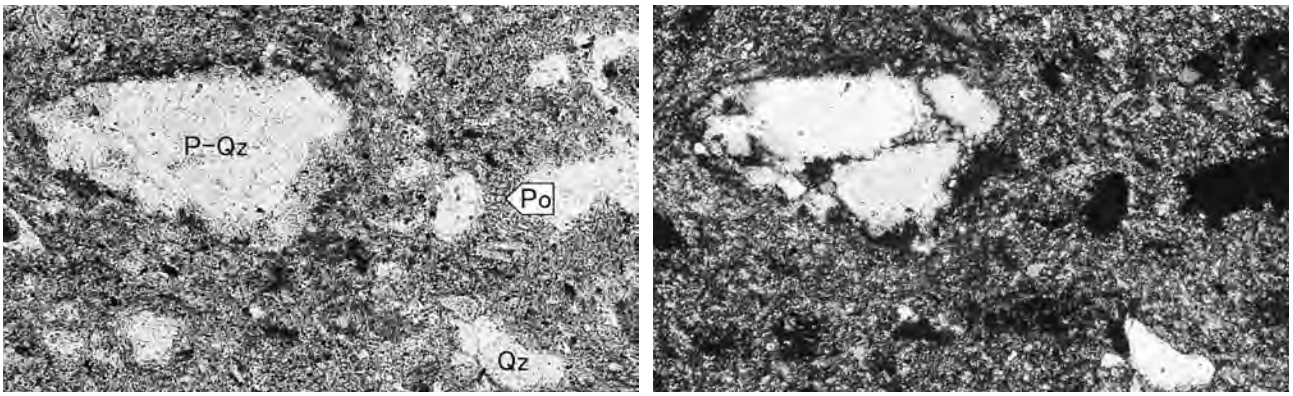
1．試料番号３（挿図番号53－382　ＡＣ－15）



2．試料番号４（挿図番号30－95　ＳＱ1032）



3．試料番号７（挿図番号30－90　ＳＱ1030）

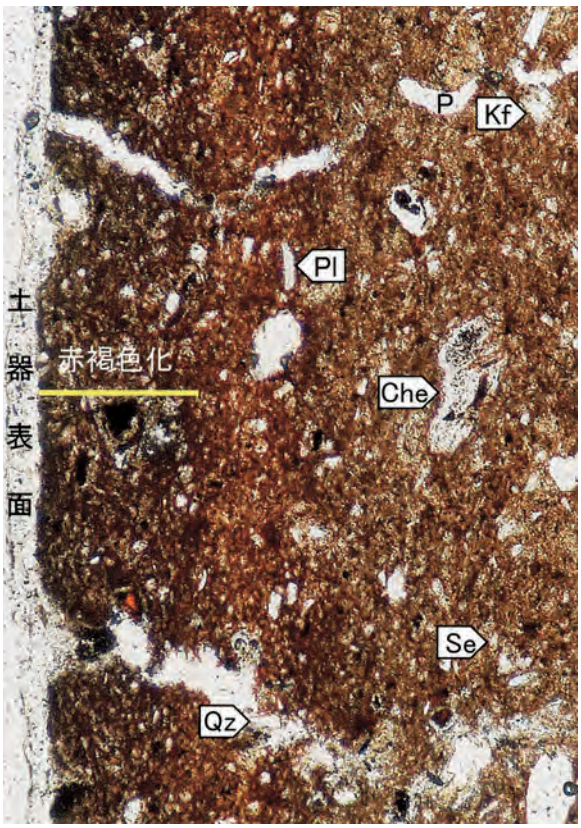


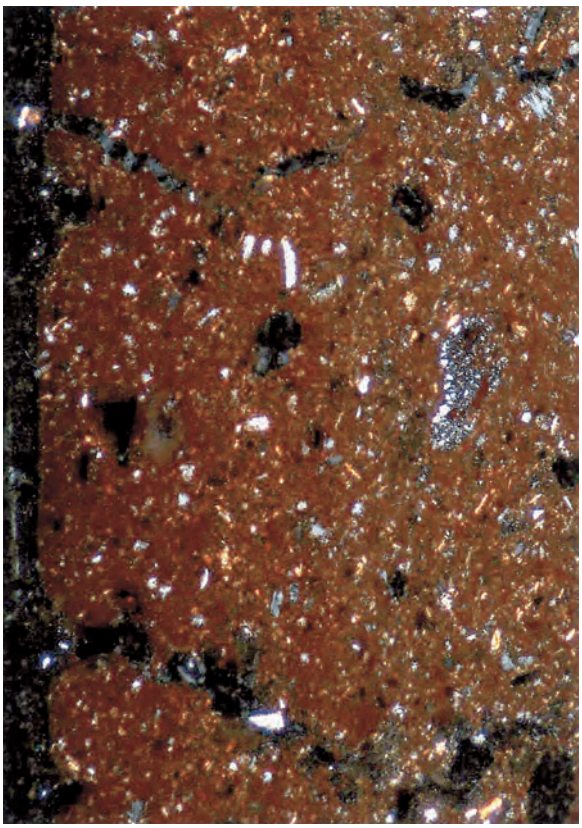
4．試料番号８（挿図番号41－231　Ｍ・12）

Ｑｚ：石英．Ｐｌ：斜長石．Ｃｈｅ：チャート．Ｍｄ：泥岩．Ｐ－Ｑｚ：多結晶石英．Ｇｒ：花崗岩．
Ｃｌｙ：非晶質粘土粒子．Ｖｇ：火山ガラス．Ｐｏ：植物珪酸体．ＦｅＯ：酸化鉄．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

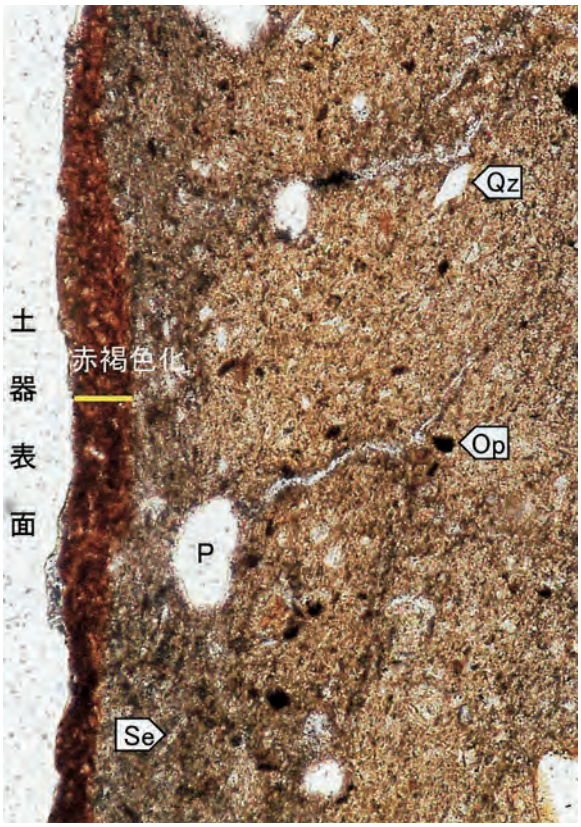
0.5mm

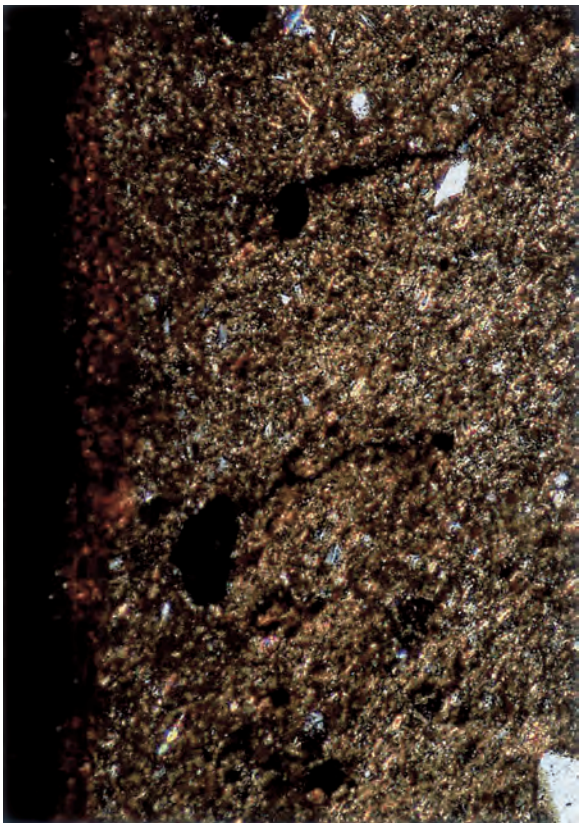
図版３　土器表面の赤褐色化





1．試料番号１（挿図番号28ー72　ＳＱ1028）





2．試料番号２（挿図番号32ー113　ＳＸ1034）

Ｑｚ：石英．Ｋｆ：カリ長石．Ｐｌ：斜長石．Ｏｐ：不透明鉱物．Ｃｈｅ：チャート．
Ｓｅ：セリサイト．Ｐ：孔隙．ＦｅＯ：酸化鉄．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.2mm

4　平成19年度　万治ケ沢遺跡出土の理化学分析

（株）日鐵テクノリサーチ

1　はじめに

平安時代の遺構から出土した鉄滓３点の理化学的調査を行った。本調査品はＢ地点から出土したものである。このＢ地点は、赤焼土器を焼いた窯が多く検出し製鉄用の炭窯も見つかっているが、鍛冶遺構などの直接鉄生産にかかわるものは見つかっていない。しかし、これらの状況から、未調査区域にその存在の可能性が考えられることから、本調査品の成因を探るものである。

2　調査試料

調査試料の一覧を表１に示した。

3　調査項目と試料調製

3.1　外観観察

外観的特徴をデジタルカメラおよび実体顕微鏡により観察・記録した。

デジタルカメラ　Finepix　Ｆ401型（富士写真フィルム工業製）

実体顕微鏡　　ＳＺ－40型（オリンパス光学工業製）

3.2　組織調査

遺物の平均的な箇所を５～15㎜片に切り取り、半分に分割し断面が観察面になるように樹脂埋め込みし組織を固定後、鏡面になるまで研磨し、金属顕微鏡にて観察・記録した。

金属顕微鏡　　ＢＸ51M型（オリンパス光学工業製）

3.3　成分分析

組織観察用に切り取った残りの分について、乳鉢にて微粉砕し半分を成分分析用残りの半分をＸ線回折用に分割した。成分分析用試料は、ＪＩＳ法に準拠した方法にて構成元素を求めた。

分析元素　Ｔ・Ｆｅ、Ｍ・Ｆｅ、ＦｅＯ、Fe_2O_3、SiO_2、Al_2O_3、ＣａＯ、ＭｇＯ、ＭｎＯ、TiO_2、V_2O_5、P_2O_5、K_2O、Na_2Oの14元素。

分析方法　Ｍ・Ｆｅ、ＦｅＯ…容量法

K_2O、Na_2O…原子吸光法

Fe_2O_3…Ｔ・Ｆｅ、Ｍ・Ｆｅ、ＦｅＯからの計算による

他の元素…蛍光Ｘ線法（ガラスビード）

3.4　Ｘ線回折

3.3項で粉砕した残り半分の粉末は、構成組成をＸ線回折装置により構成組成を求めた。

測定条件　ターゲット；Ｃｕ

電圧　　；40kV

電流　　；150mA

走査範囲　；5.0°～100.0°

測定装置　ＲＩＮＴ1000型

（広角ゴニオメータ　リガク製）

4　調査結果と考察

4.1　試料１

写真１に外観と断面マクロ・ミクロ組織を、表２に成分分析結果を示す。また、表３にＸ線回折から得られた主要組成を、図１に回折スペクトルを示す。大きさは102×100×45㎜、重量は634.3ｇを測る。全体的には茶褐色で比較的丸みを帯び重量感のある鉄滓である。底部に相当する面には数㎜の小石が付着する。上部は湾曲した凹みを有し、所々に湯玉状の鉄錆（元は半溶融状態の金属鉄）が存在する。内部の上層部は大小の不規則な空孔が多く存在し、一部は金属鉄であるが殆どは薄い鉄錆層を形成している。中央から下層にかけては、ウスタイト（理論化学組成；ＦｅＯ）、結晶が発達したファヤライト（理論化学組成；$2FeO-SiO_2$）と非晶質珪酸塩からなる。また、ファヤライト中には微細な明灰色鉱物が存在する。図１のＸ線回折結果から、この鉱物は$(Mg,Al,Fe)_2O_4$の組成を持つスピネル鉱物と判断される。表３に示したように、本試料の主要組成はファヤライトとウスタイトで、微量成分としてマグネタイト（Fe_3O_4）とマグネシウム（Ｍｇ）およびアルミニウム（Ａｌ）を固溶したスピネル鉱物である。表２の成分分析から、鉄分は60％強と多く、造滓成分は18％と少ない。本鉄滓は溶融あるいは半溶融した鉄浴と接していた炉底近傍にて生成したものと考えられる。小鍛冶操作にて生成する鉄滓も鉄分の高いものが一般的であるが、構造的には脆弱な構造をしており明らかに異なっている。本鉄滓は小規

模ながら鋼製造操作（精錬操作）段階にて生成したものと考えられる。

4.2　試 料 2

写真２に外観と断面マクロ・ミクロ組織を、表２に成分分析結果を示す。また、表３にＸ線回折から得られた主要組成を、図２にその回折スペクトルを示す。大きさは86×60×48㎜、重量は273.3ｇを測る。全体的には茶褐色であるが凹凸の著しい塊である。底部に相当する面の一部には、小砂利や粘土物質（炉材の破片と考えられる）が付着し、上層部に相当する面は、黒褐色で油脂感があり空孔が多く存在する。内部には大小の空孔が存在するものの前記の№１と異なり薄い鉄錆層は少ない。構成鉱物相は前記の試料と同様に、ウスタイト・ファヤライト・非晶質珪酸塩および僅かなスピネル鉱物からなる。鉄分は53％と多く、造滓成分も28％と若干多い。前記鉄滓に比べて炉の端部側にて生成したものと考えられる。本鉄滓も精錬過程において生成したものといえる。

4.3　試 料 3

写真３に外観と断面マクロ・ミクロ組織を、表２に成分分析結果を示す。また、表３にＸ線回折から得られた主要組成と図３に回折スペクトルを示す。大きさは70×62×19㎜、重量は61.8ｇを測る。前記２試料に比べ薄く板状を呈する。上部に相当する部分は黒褐色で油脂感があり凹凸が著しい。また、下層に相当する部分は茶褐色で一部に鉄錆が存在する。内部は大小の不規則な空孔が多く存在し脆弱な構造を有している。構成鉱物は前記２試料と同様に、ウスタイト・マグネタイト・ファヤライト・非晶質珪酸塩からなり僅かにスピネル鉱物からなる。鉄分は44％弱と３試料のうちでは最も低く、反面、造滓成分が36％と高い。鉄浴の上層部にて生成した比較的流動性の良い鉄滓と考えられる。しかし、外観的形状および断面組織からみて、通常に見られる流状滓とは異なり、粘性が高かったか、あるいは温度が低く十分な流動性を得られないままに生成・固化したものと思われる。本鉄滓も前記２試料と同様に精錬過程において生成したものであるが、前記２試料より最上部にて生成したものと考えられる。

5　ま　と　め

万治ヶ沢遺跡から見つかった鉄滓３点の理化学的調査を行った結果、以下のことが明らかとなった。

１．鉄滓３試料はいずれも、ファヤライトとウスタイトを主組成に、微量組成としてマグネタイトとマグネシウムやアルミニウムを含有するスピネル鉱物および非晶質珪酸塩からなる同様の鉱物組成を有していた。

２．３試料は、それぞれ炉の最下層（№１）･炉端部（№２）・最上層（№３）にて、同時あるいは同様の操業状況にて生成したものと考えられた。

３．鉄滓の組織構造および成分組成から３試料とも、精錬過程にて生成したものと考えられた。

４．本遺構には調査試料以外に鉄生産に結びつくものは見つかっていないが、製鉄用の炭窯が検出していることを勘案すれば、本遺構近傍の未調査地区には鉄関連遺構（例えば、炉跡等）の眠っている可能性が考えられ、今後の調査が期待される。

以上

神奈川材料センター所長　山本広一
調査・解析担当　伊藤薫、山下理子

表１　調査鉄滓の一覧表

試料番号	大きさ		分析項目				挿図番号
	寸法(mm)	重量(g)	外観観察	組織調査	成分分析	X線回折	
1	102×100×45	634.3	○	○	○	○	57－414
2	86×60×48	273.3	○	○	○	○	57－415
3	70×62×19	61.8	○	○	○	○	57－418

表２　成分分析結果（単位；重量％）

試料名	T・Fe	M・Fe	FeO	Fe_2O_3	SiO_2	Al_2O_3	CaO
1	60.91	0.54	57.96	21.90	12.48	3.91	0.64
2	53.63	0.63	53.55	16.26	19.72	5.89	1.06
3	43.96	0.55	40.95	16.56	23.81	7.51	2.23
試料名	**MgO**	**MnO**	**TiO_2**	**V_2O_5**	**P_2O_5**	**K_2O**	**Na_2O**
1	0.44	0.04	0.68	0.055	0.322	0.316	0.109
2	0.77	0.06	0.40	0.030	0.319	0.562	0.157
3	1.38	0.11	0.50	0.150	0.957	1.224	0.215

表３　X線回折結果

試料名	主組成	副組成	微量組成
1	$2FeO \cdot SiO_2$	FeO	Fe_3O_4、$Mg(Al-Fe)_2O_4$
2	$2FeO \cdot SiO_2$	FeO	Fe_3O_4、$Mg(Al-Fe)_2O_4$
3	$2FeO \cdot SiO_2$	FeO	Fe_3O_4、$Mg(Al-Fe)_2O_4$

図１　試料１回折スペクトル

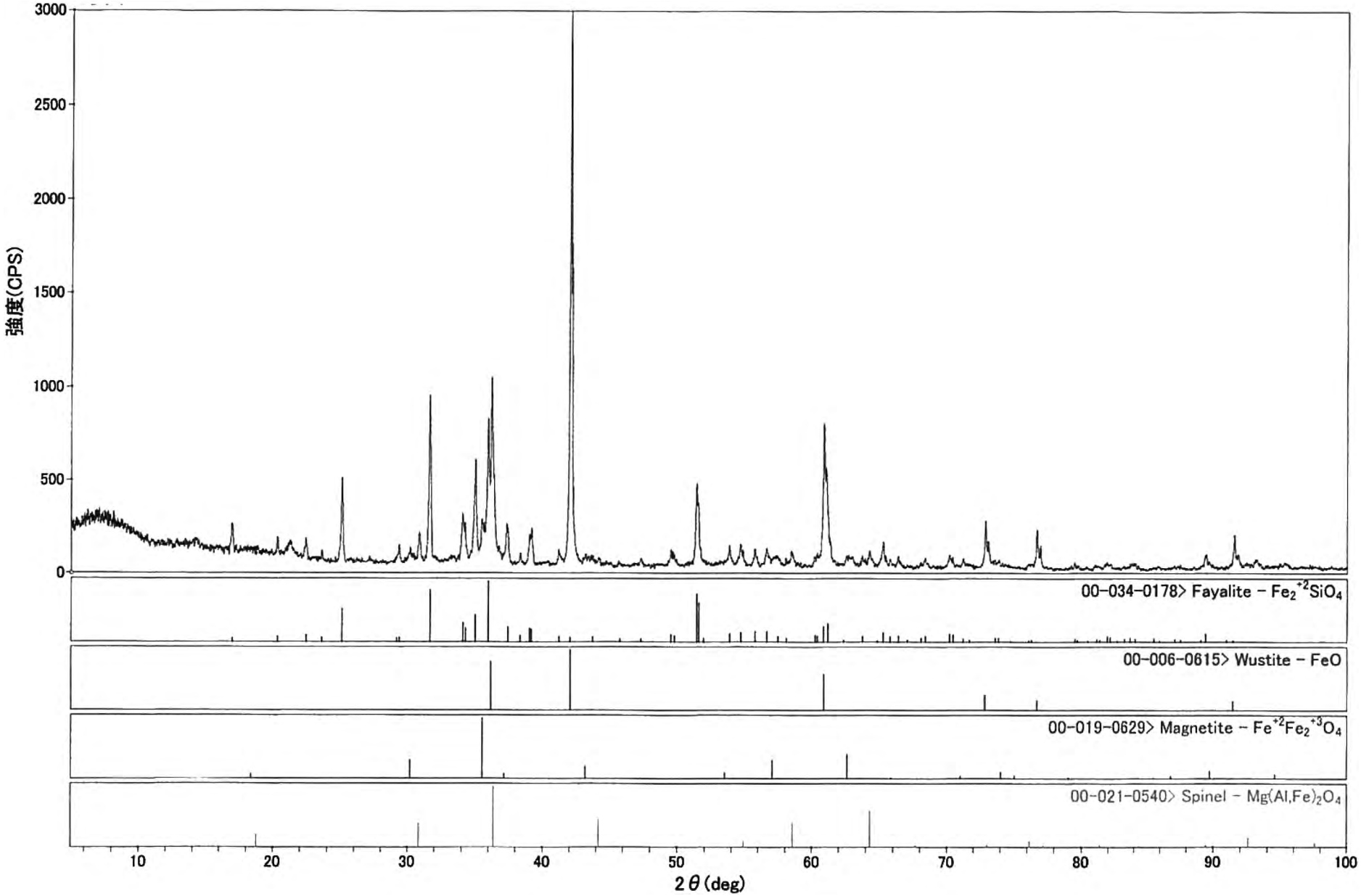


図２　試料２回折スペクトル

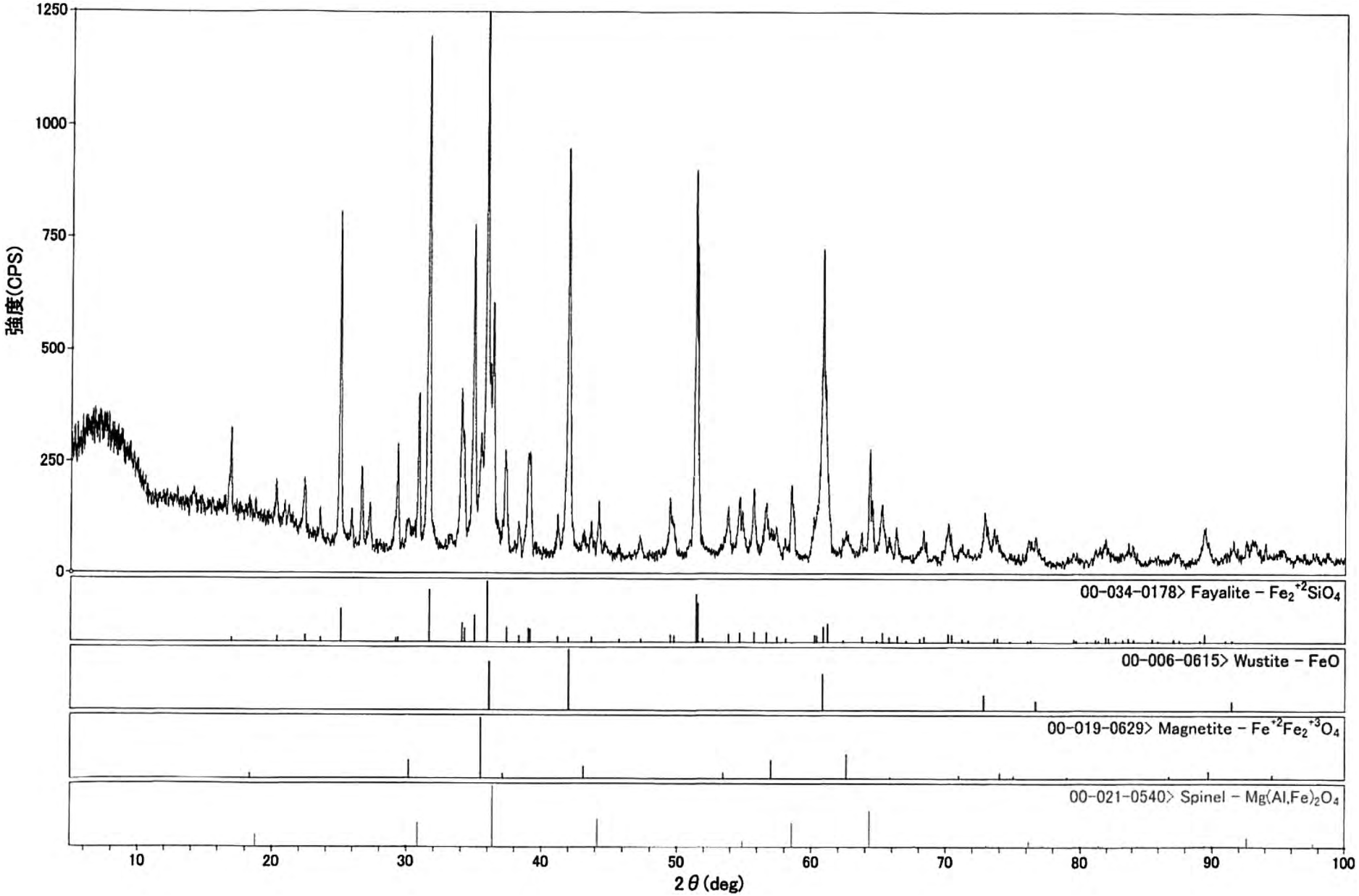
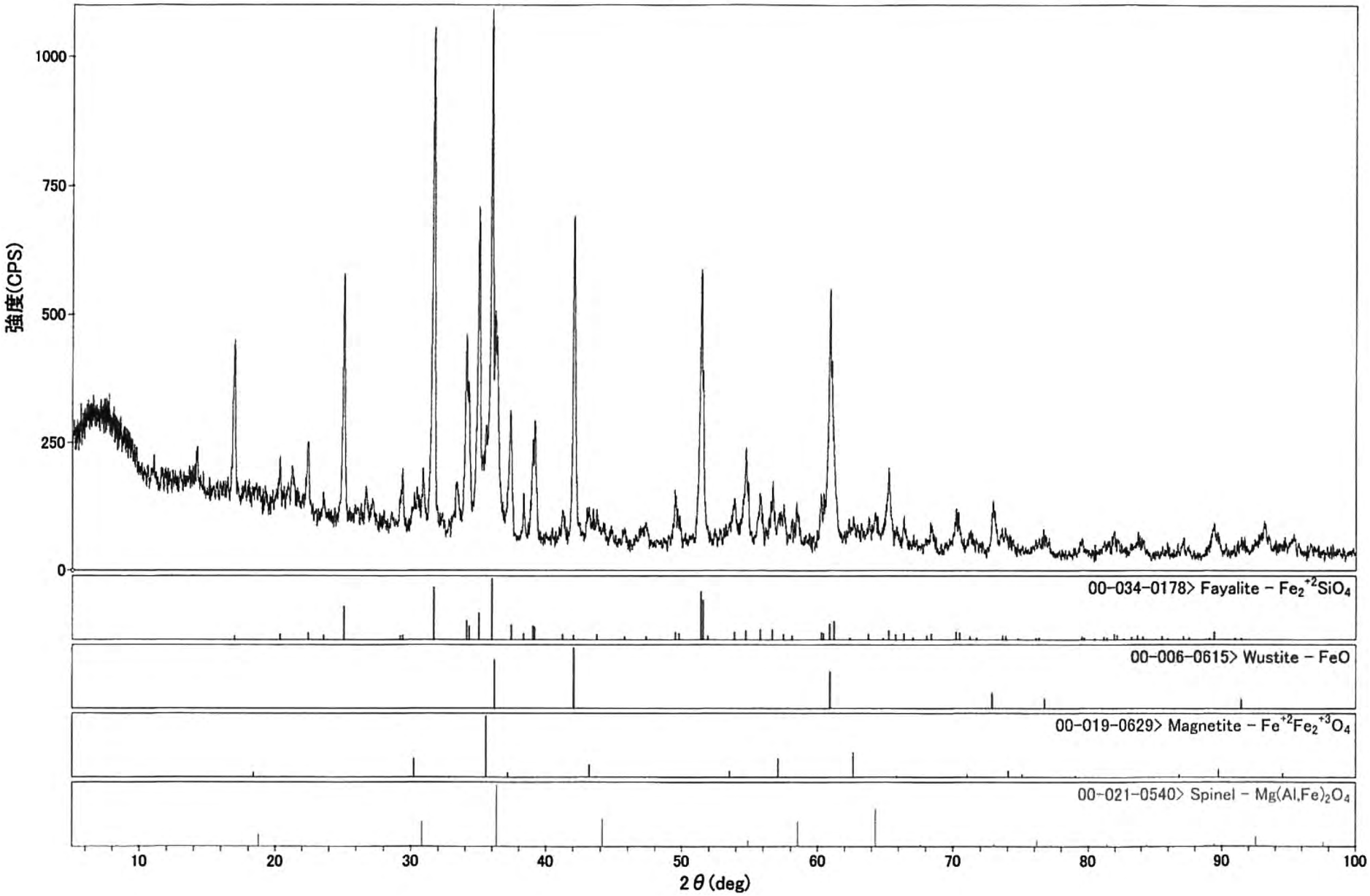
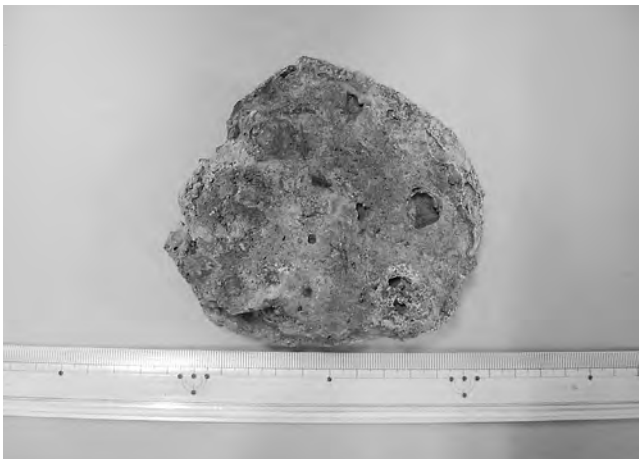


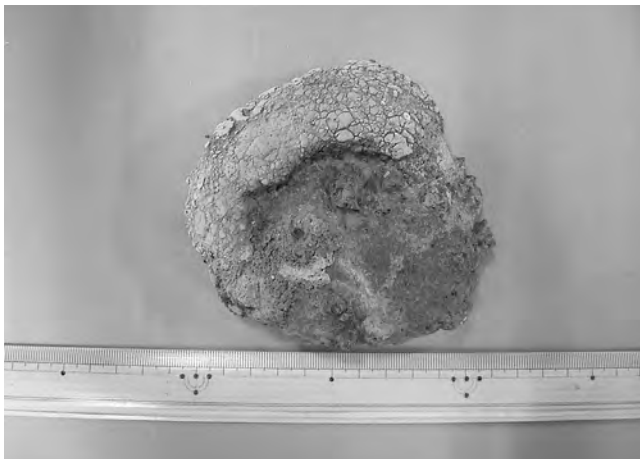
図3　試料3回折スペクトル

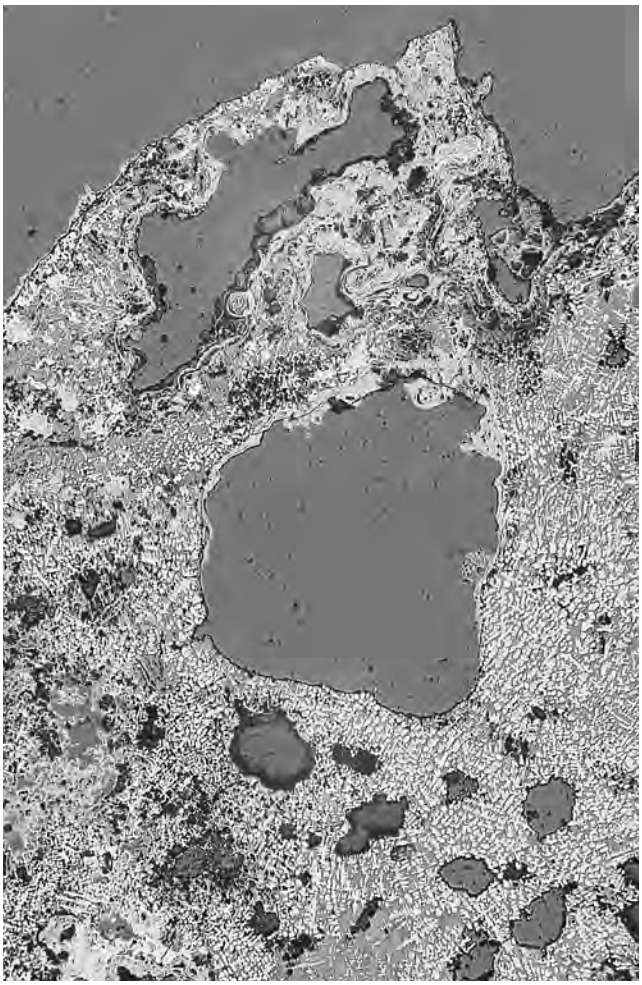


上面

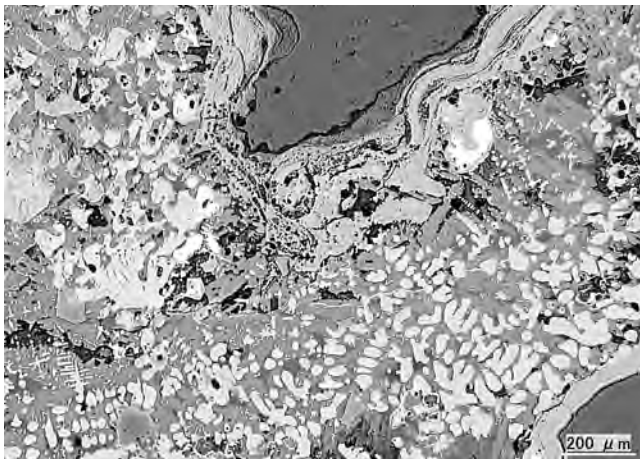


下面





上層部拡大



中央～下層

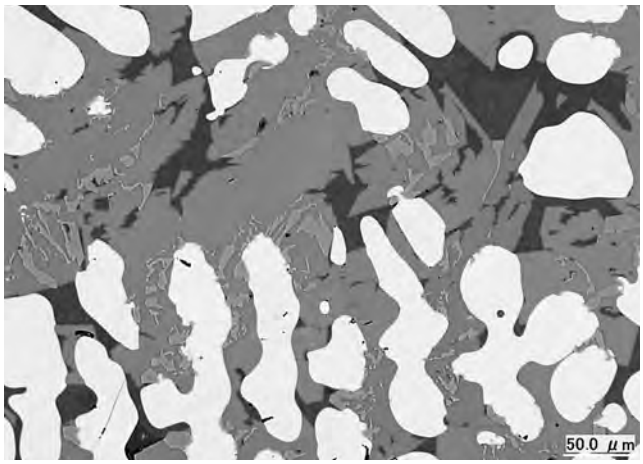
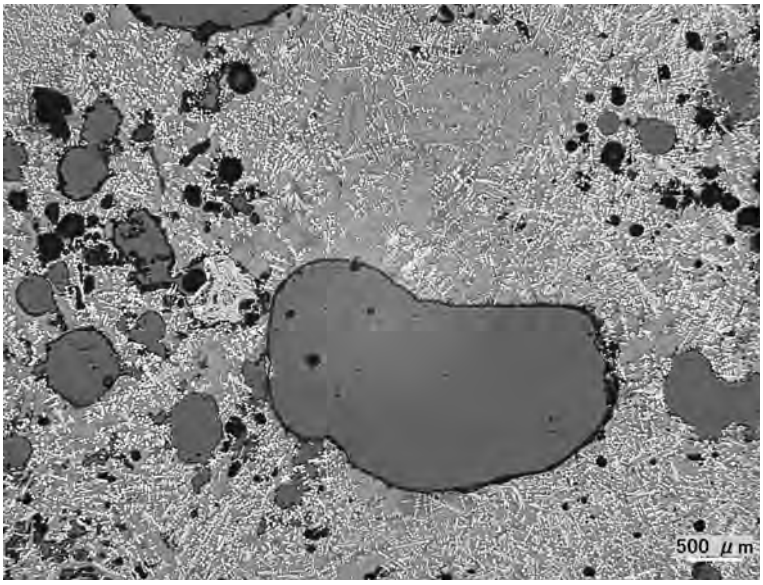
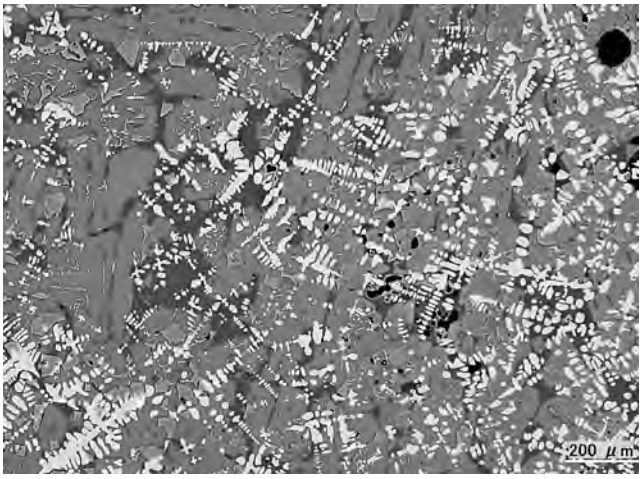


写真１　万治ヶ沢遺跡鉄滓、試料１の外観と断面組織

上面　　下面





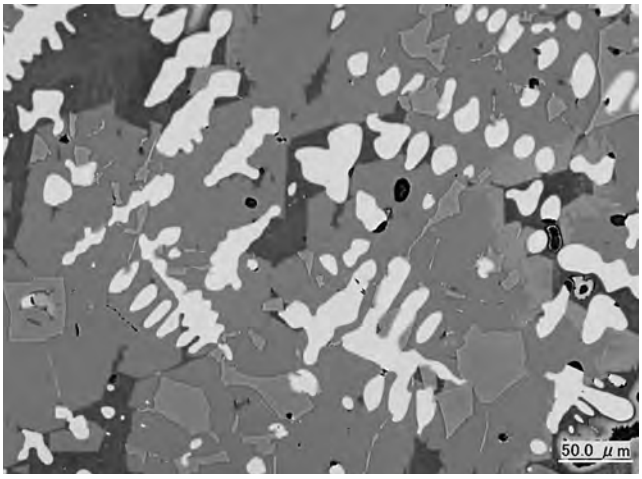
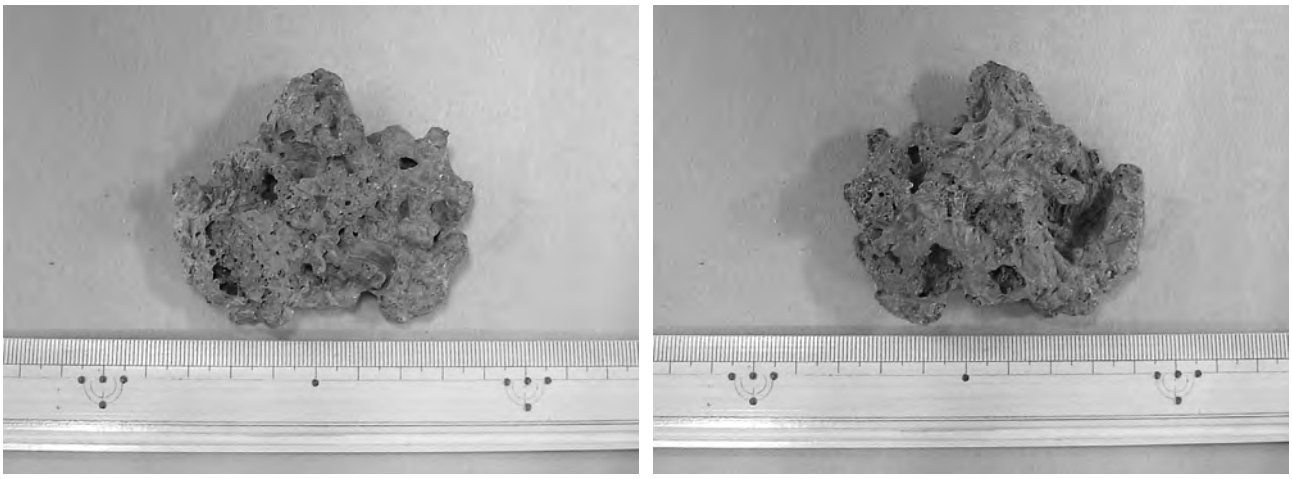
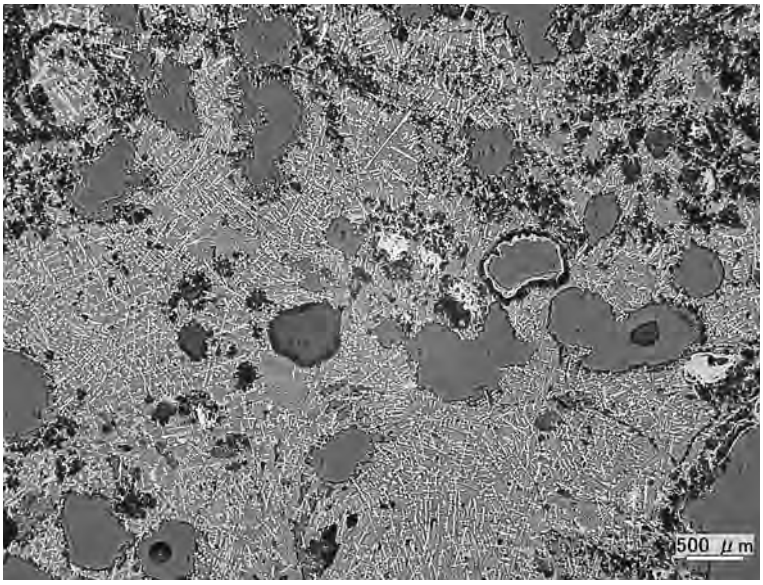
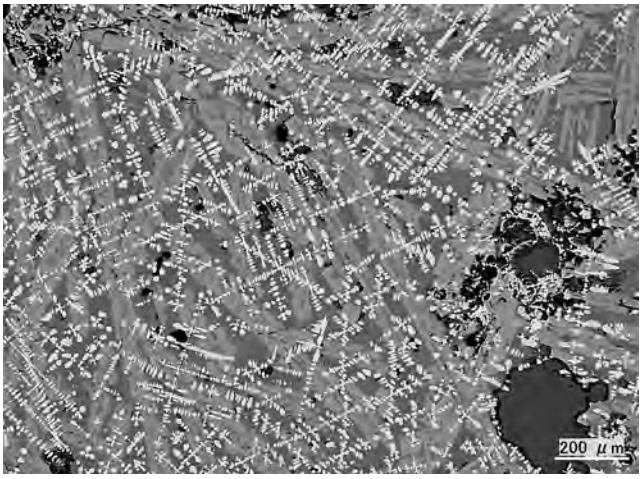


写真２　万治ヶ沢遺跡、試料２の外観と断面組織

上面　　下面







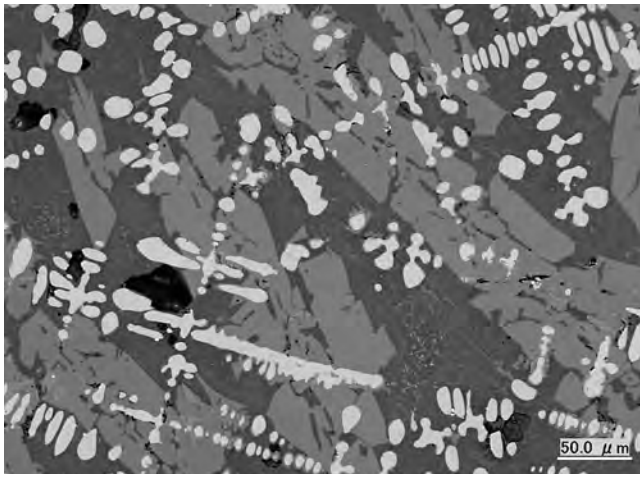


写真 3　万治ヶ沢遺跡、試料 3 の外観と断面組織

Ⅴ　調査のまとめ

1　A地点について

縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で、遺構に関して明確な建物跡を確認することは出来なかった。しかし、ＳＬ42・ＳＰ47・ＳＫ77やいくつかのピットを検出しており、建物跡が存在した可能性がある。

ＳＬ42はＳＫ77の覆土の上面で確認されたので、縄文時代とみられる遺構は少なくとも二時期存在することが考えられる。ＳＬ42とＳＰ47は同時期で、ＳＫ77は先行すると考えられる。ＳＸ70についてはやや湾曲した長方形をなし、覆土は自然堆積と考えられる。人為的な掘り方と考えておきたい。

土器については縄文や文様も剥落しているものが多く、全体の器形が判別できるものの出土はなかった。時期的にはⅠ群～Ⅲ群に分類することが出来る。Ⅰ群は早期末～前期初頭に属するものである。Ⅱ群は中期中葉に属するものである。Ⅲ群は晩期に属するものである。Ⅰ群に属する土器は451である。Ⅱ群に属する土器が最も多く、452～465までである。Ⅲ群に属するものは481・482である。466～480はⅡ群に属すると考えられる。483と484は時期不明である。

遺物からは、中期の痕跡が最も多いが、遺物や遺構が希薄なことなどから、ある程度の規模を持った集落というよりは、狩猟や採集のときなどの一時的な活動の場と考えられる。

平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺物は土師器坏と甕が包含層から出土している。坏（448・449）は無調整の回転糸切りで、時期的には９世紀後半から10世紀前半が考えられる。甕（450）は体部の一部で、長胴甕の一部と考えられる。遺存状態が悪く全形や調整が不明な点が多いが、非ロクロ成形で、ハケメ調整があることから、坏（448・449）の年代よりは古いことが考えられる。

遺構は円形の土坑が多い。覆土の状態で２つに分けることが出来る。Ⅰ類は覆土に炭化粒や焼土を含むＳＫ３・４・５・59・82である。Ⅱ類は木炭粒や焼土を含まず、固くしまるＳＫ２である。Ⅰ類は伏せ焼きで木炭を生産する製炭土坑と考えられる。Ｂ地点の土師器焼成土坑と比較して、大きさや形状に規格性が強い。被熱の度合いも弱く、床面に固い焼土が広がるものは無い。覆土に混じる焼土の割合も少ない。Ⅱ類は性格不明である。Ⅰ・Ⅱ類とも遺物の伴出は無い。

製炭にかかわる遺構と考えられるものにＳＱ81がある。急斜面の等高線に平行するように立地する。全体が検出されていない可能性が高い。形態的にはＡ地点で検出された製炭土坑や、Ｂ地点で検出された地下式窖窯の木炭窯とは異なる。木炭が堆積していたことや、斜面に立地していることなどから、製炭関係の遺構と考えられ、横口付木炭窯の可能性が高い。ただし、大きさ・時期差・地理的位置関係などの面で、先行の調査例と比較して問題がある。仮に横口付木炭窯であった場合、今回の調査で確認した範囲が横口作業場になる可能性が考えられる。

時期不明の遺構

時期不明の遺構として、やや扁平な礫で構成されるＳＸ83がある。礫の流れ込みということも考えられるが、地山にはこのような大きな礫は存在せず、ＳＸ83がある場所が凹地ではなく、等高線に平行な方形状の平坦地にあることから、人為的なものと考えたい。時期を示す遺物はないが、Ⅱ層中にあることから、平安時代以降と考えられる。

2　B地点について

縄文時代　遺構・遺物

縄文時代と考えられる遺構はＳＫ1057・1058の陥し穴である。調査区の南側には沢があり、沢に集まる動物を対象にしたと考えられる。覆土から遺物の出土は無かった。

遺物は土器と石器が出土している。Ａ地点に比べ、石鏃や石箆など、定型石器の割合が高い。土器は中期中葉（Ａ地点のⅡ群）に属する土器と、後期前葉と考えられる土器が出土しているが、量は少ない。485は中期中葉に属し、486は後期前葉に属すると考えられる。487は胎土の様子から中期中葉に属すると考えられる。

平安時代の遺構について

Ⅲ章でも述べたように、現地調査で登録した遺構記号をそのまま踏襲して整理作業を進め、報告書においても現地調査のままの遺構記号で表記し、記述した。しかし、整理を終えて、遺構の性格が明らかになり、現地調査時の遺構の認識と異なるものも出てきたので、ここで整理しておきたい。以下の記述は、遺構記号は現地調査のままだが、遺構の性格の分類は整理後のものであるので、遺構記号と遺構の性格が一致しないものがある。

本書をまとめるにあたり、考えられる遺構の性格をふまえて分類した種類は次の通りである。焼土を伴う遺構、木炭窯跡、土坑、竪穴建物跡、性格不明遺構である。

周辺地形と遺構の占地傾向や、遺跡全体の遺構配置を理解する一助として遺構分布概念図（第８図）を作成した。これはＢ地点周辺の調査前の周辺地形測量図（１/100）に、遺構分布図を重ねたもので、細部の地形は遺構検出時の地形とは異なるが、大まかな立地の傾向はつかめる。

焼土を伴う遺構

遺構の被熱の様子からⅠ～Ⅲ類に細分できる。Ⅰ類は床や壁の広い範囲に被熱して赤色化した焼土が認められるもので、焼土は硬化しているものが多い。Ⅱ類は床や壁の広い範囲で被熱の痕跡が認められるが、Ⅰ類より被熱の度合いが弱く、土色も赤色化ではなく、褐色や黒褐色に止まるものである。形態的にはⅠと同じものが多い。Ⅲ類は円形基調で土坑の形態をなし、床と壁にⅡ類と同じような被熱の痕跡を認めるものである。この点ではⅡ類と同じであるが、覆土の上面（遺構の上面）に焼土を伴うものである。この焼土は二次堆積ではなく、覆土が被熱して赤色化したものである。

検出された遺構は遺存状態が不良だったが、形態は床と壁を持つ土坑状の形態が多い。また、斜面の山側とその両側に壁を持つが、谷側には壁を持たない、断面が逆三角形状の遺構もある。平面形は大きく外形が曲線で構成される円形基調のもの、外形に直線の部分が含まれる方形基調のものに２分される。斜面に立地している場合は、山側が曲線か直線かを重視した。重複関係にあるものも多く、本来の遺構の平面形がわからないものも多い。この平面形態は遺構の遺存状況や、平面形の捉え方など主観的な要素が多く含まれるので、便宜的な分類である。数的にはⅠに分類されるものが一番多く19基を数え、Ⅱは８基、Ⅲは１基である。以下分類ごとに性格を考えていく。

Ⅰ類に分類されるものは、ＳＱ1003･1005･1006･1023･1007･1019･1040･1041･1026･1028･1029･1030･1039･1047･1048・1042・1043・1053・1018ＥＬ１の19基である。遺構の性格としては、遺構の被熱の状態や形態、遺跡全体での土師器の出土量の多さなどから、土師器焼成坑と考えられるものである。

Ⅱ類に分類されるものは、ＳＱ1001･1020･1037･1027･1044・1025、ＳＸ1049、ＳＱ1046の８基である。平面形態はⅠと同じであるが、円形基調のものが多い。また、ＳＸ1049のように、平面は円形基調だが、断面は横方向に丸く抉るように膨らみを持つものもある。遺構の性格としては、被熱の痕跡が見られることから、意識的に遺構内で何かを燃焼したと考えられる。Ⅱ類の遺構の性格を想起させるものにＳＱ1044と、ＳＱ1046の遺物出土状況がある。これら２つの遺構からは坏を中心とした完形または完形に近い土師器がまとまって出土しており、床面の被熱の痕跡と土器のまとまりが重なる。またＳＱ1044では144・149、ＳＱ1046では151・154・163・170のように黒斑がみられるものや、ＳＱ1046では160のように木炭粒が付着している土器も出土している。以上の状況から、土師器焼成坑の可能性が考えられる。ただ、Ⅰ類とは被熱の度合いが異なるのは明瞭であり、仮にⅠ類とⅡ類が同じ土師器焼成坑だとすれば、それが被熱時間の差なのか、被熱温度の差なのか、あるいは焼成方法や技術の違いなのか不明な点がある。

Ⅲ類に分類されるものはＳＱ1002の１基で、基本的には、床と壁の広い範囲に被熱の痕跡を認めることからⅡ類と同じ性格の可能性を考える。今回分類に際して重要視した床や壁の被熱を伴う遺構（Ⅰ・Ⅱ類）と、焼土を

伴う別の遺構との重複とも考えられるが、遺構の覆土上面に焼土を伴うことから、Ⅰ・Ⅱ類とは分離し、Ⅲ類を設けた（Ⅲ章でも述べてあるが、ＳＱ1037は覆土上面の焼土が、他の焼土と関連がある可能性があるので、本類から除外した）。

なお、土師器焼成坑の被熱面下部の断ち割りを行っていないため、被熱面の下部構造については不明である。表34に本書での分類を、土師器焼成坑の分類基準である望月分類に当てはめた一覧を示す。

第34表　土師器焼成坑一覧

遺構	分類	平面	断面	望月分類
1003	Ⅰ	円形？	四角	Ｂ類
1005	Ⅰ	方形	三角	ＡⅠａ２？
1006	Ⅰ	不明	不明	不明
1023	Ⅰ	方形	三角	ＡⅠａ２？
1007	Ⅰ	円形	四角	ＢⅠｂ
1019	Ⅰ	不明	不明	不明
1040	Ⅰ	方形	三角	ＡⅠａ２？
1041	Ⅰ	方形	三角	ＡⅠａ２？
1026	Ⅰ	方形	レンズ状	ＡⅠａ２？
1028	Ⅰ	円形？	レンズ状	ＢⅠｂ？
1029	Ⅰ	方形？	レンズ状	ＡⅡａ？
1030	Ⅰ	方形	レンズ状	ＡⅡａ？
1039	Ⅰ	円形	三角	ＢⅠｂ
1047	Ⅰ	方形	三角	ＡⅡｂ？
1048	Ⅰ	方形	三角	ＡⅡｂ？
1042	Ⅰ	方形	三角	不明
1043	Ⅰ	方形	レンズ状	ＢⅠｄ？
1053	Ⅰ	不明	不明	不明
1018ＥＬ１	Ⅰ	方形	レンズ状	Ａ類
1001	Ⅱ	円形	レンズ状	ＢⅠｂ
1020	Ⅱ	円形	四角	Ｂ類
1037	Ⅱ	円形	四角	ＢⅠｂ
1027	Ⅱ	方形	レンズ状	ＡⅠａ２？
1044	Ⅱ	円形	三角	ＢⅠａ
1025	Ⅱ	方形	四角	不明
1049	Ⅱ	円形	球形	不明
1046	Ⅱ	方形	三角	ＡⅠａ２？
1002	Ⅲ	円形	レンズ状	ＢⅠｂ

木炭窯跡

木炭窯は地下式窖窯の木炭窯で、作業場や焚口・燃焼室などが明瞭なもの（ＳＱ1032・ＳＱ1033）と、不明瞭なもの（ＳＱ1024）とがある。これら３基を木炭窯とした理由は、窯体内や近辺から須恵器が出土しておらず、灰原が形成されていない点、窯体内の被熱度合いが須恵器窯と比べて弱い点、遺跡全体の出土遺物に対して須恵器の量が極端に少なく、不良品が無い点、を理由とした。時期的には、ＳＱ1032は第30図93～94・96～103・31図109～111の土器群より古く、切り合い関係からＳＱ1024はさらに古くなる。また、ＳＱ1033はＡＣ15～16グリッド出土の土器群（第53図378～389）よりも古いことが考えられる。３基とも窯体に伴う遺物は出土していないが、前述のようにＳＱ1032・1033の覆土の上から出土した土器群から、操業時期はおおまかであるが９世紀後半から10世紀前半と考えられる。

土　坑

ＳＱ1004、ＳＫ1036･1054･1031、ＳＱ1045、ＳＸ1059がある。このうち、ＳＱ1004、ＳＫ1036、ＳＱ1045、ＳＸ1059が遺物を伴っており、他のものは遺物の伴出はなかった。大型で不正な隅丸方形のＳＸ1059、やや大きめで円形基調のＳＱ1004・1045、小型で方形または円形で深さのあるＳＫ1036・1054・1031がある。ＳＸ1034の平面形は隅丸方形で、断面はすり鉢状をなす。比較的多くの土器が出土している。本遺構から出土した須恵器壺（32－118）の破片は広範囲に散乱し、土師器の出土状況と対照的なあり方を示す。用途は不明である。ＳＱ1004は平安時代の遺構の中で最も標高が高く、遺物も比較的多く出土している。また覆土には木炭や焼土も含まれておらず、直下には土師器焼成坑が重複することから、土器捨て場ではなく、土師器焼成に関わる施設という捉え方が出来る。ＳＱ1045については用途不明である。ＳＫ1036・1054・1031については形状からロクロピットの可能性も考えられる。

竪穴建物跡

ＳＱ1018が該当する。基本的には土師器焼成にかかわる遺構と考えるが、形状がほぼ方形で、他の単体で検出されている土師器焼成坑と形状や規模が大きく異なることから、竪穴建物跡とした。３つの焼土が同時に存在したと考えにくいが、前後関係を捉える事は出来なかった。遺構内からは比較的多くの土師器が出土していることから、建物内の土師器焼成坑の可能性が考えられる。ＥＬ１は被熱度も強く、焼土の範囲がやや窪んでいる。Ⅰ類に分類することが可能である。その場合は望月分類のＡ類に当てはまると考えられる。ＥＬ２も床と壁の被熱度が強い。断面が凹形にはならないことから土師器焼成坑とは考えにくい。ＥＬ３は被熱度が最も弱く、被熱範囲が狭いので、土師器焼成坑とは考えにくい。ＥＬ２・３

の成因や性格は不明である。

性格不明遺構

ＳＸ1021・1022・1010・1011・1012・1034がある。このうち、ＳＸ1010・1011・1012は焼土である。二次堆積ではなく、その場で被熱して焼土化したと考えられる。土師器焼成坑としたものは、被熱した焼土が面的であるのに対して、被熱層が厚みを持ち、放射状に熱が伝わったような印象を受ける。焼土の遺存状態が、ＳＱ1019やＳＱ1053とした土師器焼成坑と考えられるものとは明らかに異なる。どのような状態で被熱したかは不明である。

ＳＸ1021・1022は隣接しており、ＳＸ1021は不整形で、ＳＸ1022は長円形であったと考えられる。形状は異なるが、比較的遺物が多く出土し、覆土には焼土や炭化物が混じるという点や、土師器焼成坑に囲まれた立地状況という、類似点も多い。この付近は遺構が比較的密集していることや、植林された杉の根が多かったということを考えると、本来あった遺構が作り変えによって破壊されたり、杉の根や伐根によって破壊されたということも考えられる。状況からは土師器焼成に関わる何らかの遺構と捉えておきたい。

ＳＸ1059は不整形な隅丸方形をなし、底面には大きな窪みがあり、計画的につくられた遺構とは考えにくい。床面の一部が粘土層を掘り込むことから、土師器の素地となる粘土の採掘坑と考える。

Ｂ地点の平安時代の土器の種別分類について

今回の万治ヶ沢遺跡の調査では、平安時代の土器の種別分類は、焼成方法の違いで須恵器と土師器の二つに分類した。須恵器は還元焔焼成されたものとし、土師器は酸化焔焼成されたものとした。

従来酸化焔焼成の土器については、県内をはじめ東北地方を中心に土師器のほかに「あかやき土器」や「赤焼土器」などと呼ばれる一群を設定することがあった。その代表的なものとして無調整の坏や、胴部下半に叩き出しを行い丸底に成形した長胴甕・堝などがある。それらの土器群に対しては、「須恵器の技法を用いて酸化焔焼成された土器」という点では大方の共通理解があるように思える。しかし、その中身の指すところになると、「太平洋側の宮城・岩手県では先の桑原氏に代表されるように、坏・皿等の供膳形態に主眼を置く傾向があり、山形・新潟県の日本海側では、それに甕、堝の煮沸形態も含めて理解しようとする傾向が見られる。」(1984渋谷)というように、陸奥国や出羽国といった歴史的な背景や、発掘資料の蓄積の度合いによって幅があったようである。また、出羽国の本県と秋田県でも捉え方が異なり、さらに県内においても北陸地方の影響の強い庄内地方と、陸奥国の影響の強い内陸地方でも当該期の土器様相が異なることから、土器群の理解について各地域の影響が認められた。

先にも述べたように、土器の成・整形においてロクロやタタキなどの須恵器の技術が用いられ、酸化焔焼成されていることについては大方の共通理解があると思われるが、その焼成施設については黒斑が見られないことから窯の存在が予想された。実際に山海窯跡では窖窯（登窯）の窯体内から供膳形態の坏や煮沸形態の甕や堝が出土した。しかし、焼壁土坑や焼成土坑などと呼ばれる土坑からも同じ内容を持つ土器群が出土することも事実である。これらの事実が、最大公約数的な「須恵器の技法を用いて酸化焔で焼成された土器」を指す土器群に対して、設定当初から「あかやき土器」「赤焼土器」「赤焼き土器」「赤褐色を呈する土器」「須恵系土器」(以下便宜的に「赤焼土器」と呼称する）などと多様な呼称が存在し、また必要だった所以ともいえる。その背景には「還元焔焼成＝登窯の使用」という須恵器の焼成方法に立脚するのか、黒斑が見られるものが存在することから「酸化焔焼成＝野焼き」という土師器の焼成方法に立脚するのかという焼成方法の違いのみで理解するのではなく、土師器という古墳時代以来の在地的な土器生産の歴史のなかに、どのようにして須恵器という律令的な土器生産が組み入れられていったか、あるいはどのように相互干渉を持って土器生産が行われたのかという、当時の地域社会の中で理解しようとした結果であったともいえるのではないだろうか。そのため、土師器・須恵器という、時代差や地域差はあっても普遍的な概念を持つ用語に対して、赤焼土器という地域性・土器の生産技術・時代背景という特殊性を含んだ概念で理解しようとしたことが、「須恵器の技法を用いて酸化焔焼成された土器」の理解を複雑にしてきた要因でなかろうか。

今回の調査でも、現地調査から整理作業の途中までは赤焼土器の呼称を用いて作業を進めてきた。しかし、今

回本書をまとめるにあたり、調査成果から以下の事柄を抽出した。

①供膳形態の坏のほかに、煮沸形態の長胴甕や平底甕に黒斑が見られたこと。

②須恵器を焼成した窖窯（登窯）が見つからなかったこと。

③土師器を焼成したと考えられる土坑が見つかったこと。

④全出土量に対して須恵器の占める割合がごく少量であり、供膳形態の坏１点以外は壺や甕などの貯蔵形態で、酸化焔焼成の土器と器種が競合しないこと。

という以上の４つの観点から、万治ヶ沢遺跡出土の土器に対して、土坑で焼成されたのではないかという仮説から、土師器の範疇で理解できるのではないかという結論に達した。また出土した酸化焔焼成の土器が、焼成中のアクシデントにより失敗したり、焼成不良だったために捨てられたと考えても、特に坏類では感覚的ではあるが、硬質化が足りず、色彩も茶褐色で、胎土も内面の黒色処理を行う土師器に近いという印象がある。よって今回は赤焼土器の用語は用いず､「須恵器の技法を用いて酸化焔焼成された土器」に対しては、赤焼土器の概念は踏まえつつも土師器に統一した。

土師器の器種分類について

土師器の器種分類は、供膳具・煮沸形態の機能的な面に重点を置き、供膳具は坏・高台坏・皿・鉢に分類し、煮沸形態は甕・堝に分類した。今回は貯蔵形態の土師器の出土はなかった。器種毎の分類は表36と、図74・75図に示した。器種の分類にあたっては、調整の有無や器形の違いに重きを置いて分類を行った。坏の１類に関しては、細分するために器高指数と底径指数（表24～31）の相関からａ～ｆの５つに細分した。個々の資料が無調整で数も多く、器形的も法量的にもそれほど大きな違いが無い今回の場合は、分類の普遍性を求める上ではある程度有効だったと考える。

今回の資料は焼成不良のものも多く、復元時の歪みや、実測時の選択によって本来の器形とは異なる形で資料化された個体もあると思われるが、生産遺跡という性格上、出来るだけ多くの資料提示を行うという意図から資料化を図ったものである。したがって、実測図や、実測図から資料化した器高指数・底径指数は本来遺物が持つ属性を正しく表すとは限らないが、大まかな傾向や属性は得られると考える。また、分類した器種に属する個体数が少数だったり、１点という場合もあり、イレギュラー的なことも考えられるが、生産地の一端を示すためにもあえて分類し、資料化を行った。

表17～21は遺構・グリッド毎の器種集計表で、破片数と重量で示した。それをもとに図にしたのが第65～75図の遺物分布図である。図では破片数ではなく重量（復元済の土器に関しては接着剤と補填材の重量も含む）で分布を示している。また整理の過程で、器種や種別の変更があったために、表と図で数値が一致しない場合があるが、大まかな種別や器種毎の遺物の分布傾向はつかめると思う。

また坏に関しては、遺構毎に出土した坏の外形を重ね合わせたものを第76・77図に示した。底部と中心線を基準に実測図の外形を重ね合わせたものである。器高指数や底径指数が比率で示されるために、法量や器形の把握がしにくいが、器形を重ね合わせたことによって、視覚的に法量や器形の相関をつかむことが出来る。以下は器種毎の細分の観点である。

坏（Ⅰ）は大きく無調整の坏（１）と調整のある坏（２～７）に分けることが出来る。無調整に坏に関しては器高指数と底径指数により５つ（ａ～ｆ）に細分した。細分については指数による細分のため、必ずしも土器の法量の多少とは一致しない。また坏のなかに、口唇部に厚みを持つもの（49・67・81・90など）や屈曲するもの（91・103・105など）があり、器形上の特徴でもある。ある程度の個体数もあることから意図的に行われたものと考える。３は底部切り離し後に底部の回転ケズリを行う。体部外面は下半部に回転ケズリ調整を施す。４も底部切り離し後に底部の回転ケズリを行う。体部外面下半部には回転ケズリを施し、外面口縁部付近には横方向の非常に平滑で丁寧なミガキを施す。体部内面の口縁部付近は横方向の、体部下半は縦方向の磨き調整を施す。５も底部切り離し後に底部の回転ケズリを行い、体部外面の下半部は回転ケズリを施し、外面口縁部付近には横方向の非常に平滑で丁寧なミガキを施す。体部内面の口縁部付近は横方向の、体部下半は縦方向のミガキを施す。

ここまでは４と同じで、５の場合は内面の黒色処理を施す。３～５は底部切り離し後に底部の回転ケズリが行われ、体部下半にも回転ケズリを行うという非常に丁寧な作りである。このことは、成形時と、調整時の２回ロクロを使用することになり、しかも体部下半部の回転ケズリは、ケズリの幅が狭いことから、ある程度の速さで回転させながらケズリを行ったことが考えられ、ロクロに熟練していたことが考えられる。６は基本的には１と同じ内外面とも無調整であるが、内面に黒色処理を施す。通常黒色処理を施す場合にはその前段としてミガキが行われるが、本例の場合はそれがない。しかし内面は黒色処理を意識してか、平滑に仕上げられている。７は体部の外面・内面とも丁寧なミガキを施し、内面は黒色処理を行わない。外面のミガキは、坏や高台坏で体部外面にミガキを施すものに比べ、筆の軸のような、ある程度幅があり、丸みのある工具でのミガキを行う。ミガキの痕跡も器面に明瞭に残る。坏（Ⅰ４）や高台坏（Ⅱ１）とも考えられるが、前述のミガキの特徴や、底部が欠損しており全形が不明のため、それらとは別に分類した。

高台坏（Ⅱ）は６つに細分したが、高台については付高台１～３・５と、削り出し高台４・６の２種類に分類できる。４・６を削り出し高台とした理由は、外見上高台部分を強調するために高台脇にケズリがあること、高台内と高台の高低差があまりないこと、354などは三日月高台になっていること、291は高台内にあえて高台を強調するかのようなケズリ調整があること、高台が剥落した跡がないこと、逆に高台を接着した跡もみられないこと、などの理由からである。１は体部外面の下半部には回転ケズリを施し、外面口縁付近には横方向の平滑で非常に丁寧なミガキを施す。体部内面の口縁部付近は横方向の、下半部は縦方向のミガキを施す。高台は付高台で、高台内にケズリ調整を施す。非常に丁寧な作りで、器壁も薄く口唇部を意識した作りである。２は体部外面が摩滅しているが、無調整と思われる。内面は平滑なミガキを施す。付高台で、高台内は高台の接着のためと思われるナデを行う。ほかの高台坏の高台が低いのに対し、２の高台は高く、外面の立ち上がり部分に接着させる。３は体部下半に回転ケズリを施し、外面口縁部付近には横方向の平滑なミガキを施す。体部内面の口縁部付近は横方向の、体部下半は縦方向のミガキを施し、内面を黒色処理する。高台の高さはあまりなく、付高台である。４も体部下半に回転ケズリを施し、外面口縁部付近には横方向の平滑なミガキを施す。体部内面の口縁部付近は横方向の、体部下半は縦方向のミガキを施し、内面を黒色処理する。３と異なるのは削り出し高台ということである。５は見込みの部分が皿よりも急に立ち上がるために高台坏に分類したが、台付皿の可能性もある。付高台で、高台内には高台接着のためと思われる菊花状のナデが観察できる。６も見込みの部分が皿よりも急に立ち上がるので高台坏に分類した。器面の摩滅が著しく、詳細な観察が出来ないが、削り出し高台とした前述の事柄が当てはまると考えられるので削り出し高台に分類した。

皿（Ⅲ）は出土資料が少ないが５つに細分した。１は遺存状態が悪く、調整等は不明だが、付高台の皿である。２は高台の付かないものである。３は回転糸切で無調整の皿である。４・５は耳皿と考えられるもので、４は柱状高台で、５は付高台である。

鉢（Ⅳ）は８種類に細分した。坏や高台坏に似た器形のものが存在するが、鉢は便宜上口径幅が200㎜以上のものとした。１は坏（Ⅰ４）と調整が非常に類似するが、口径が200㎜ 以上なので鉢に区別した。非常に薄く、丁寧な作りである。２は付高台で、体部の内面はミガキを施し、体部外面の下半部はケズリ、上半部はミガキを施す。高台内もケズリを施す。非常に丁寧な作りである。３は高めの付高台で、高台坏（Ⅱ２）にも同じような器形があるが、口径が200㎜を超えると思われるので鉢に分類した。４は破片資料であるが、体部が直線で急に立ち上がり、カキメが見られる。口縁が外反するものとそうでないものがある。５は体部がほぼ直線で、約45度前後で立ち上がる。体部は無調整である。６も体部は直線で、約45度前後で立ち上がるが、体部にケズリ調整が入る。７は脚付きの鉢で、基本的に３脚と考えられる。底部は平底で、体部は基本的に無調整だが、脚の接合部付近では接合の際のナデやケズリなどの調整が見られる。４～６は破片のみで全形が不明であるが、器厚や破片下端の断面などから、平底と考えられる。５・６は７と同一器種と成りうる可能性もある。８は鉄鉢型土器で、体部にケズリ調整を施す。

甕（Ⅴ）

甕は、ロクロ成形で、調整を施すもの（１～２・10～

11）と、ロクロ成形で無調整のもの（３～９）とに大きく２つに分類した。12・13は破片で全形がわからないが、煮沸形態だろうということで甕に分類した。１と２は長胴の甕で、底部は叩き出しによる成形が行われ、丸底となる。ロクロ成形の時にヘラ状の工具を用いるために、カキメが残る。１と２の違いは、１は口縁と体部の屈曲がはっきりし、胴部が張るものである。２は口縁と体部の屈曲がはっきりせず、胴部があまり張らないものである。１と２は口縁の形態でさらに細分が可能である。３～９は小型の平底甕である。体部は無調整で、ロクロ成形のときに工具を用いないのでロクロメである。口縁と体部の屈曲の度合いや、胴部の張り、口縁の形態で細分した。10・11はおそらく平底の甕になると思われるが、小型平底甕と異なり、工具を用いてロクロ成形を行っているために、カキメが残る。10は体部下半に縦方向のハケメが施される。11は体部下半に縦方向のケズリが施される。12は頸部と体部の境に突帯を持つ。13は胴部に突帯をもち、タタキが施される。14は現時点の底部の観察からは非ロクロ成形であると考えられるが、内面底部の立ち上がり部分には回転ナデ調整が見られるので、回転による成形が行われた可能性が考えられる。平底の長胴甕と考えられる。体部外面にはケズリが施される。底部が一番特徴的で、砂底の底部で、ドーナツ状に砂が付着している。ロクロの使用の有無に関しては、今後の完形資料での観察結果に待ちたい。12～14は器形的にはやや異質だが、今回出土した甕類と比べても胎土に違和感はないことから、搬入品ではなく、遺跡内で焼成されたと考えられる。

堝（Ⅵ）

堝は器厚が厚く体部が湾曲し、体部下半にタタキを施すものであり、この２点が鉢（Ⅳ２～６）と大きく異なる点である。このことは、丸底に成形するために、叩き出しを行うことに由来すると思われる。大きく２つに分類した。１は口縁の先端部がつまみあがるもので、２は外反するものである。２は先端の形状でさらに細分できる。

以上が今回出土した土師器についての器種分類であるが、土師器については焼成遺構が見つかっていることから、遺跡内で生産されたと考えたい。そのほか製塩土器や支脚などの土製品も未使用と思われる状態で出土していることから、遺跡内の土師器焼成遺構で生産されたと考えたい。また、脚付きの鉢（Ⅳ７）や鉄鉢型土器（Ⅳ８）など、希少性のある器種が生産されている。これらは、一般集落以外の供給先が予想される遺物である。

土師器坏の胎土について

土師器坏で、個体によって表面は赤褐色で、内面は灰白色というものがあり、赤褐色の部分が層になっているものが確認された。代表的なものに72がある。理化学分析の結果では、鉄分を多く含んだ粘土を塗布していた可能性が指摘されている。同じ鶴岡市の西谷地遺跡からは、８世紀後半の「赤彩される酸化焔焼成の坏類の一群」が理化学分析の結果「成形後に酸化鉄を多く含む粘土を回転させながら刷毛塗りの後､900度程度で焼成し赤く発色させたもの」とされている。本遺跡の場合は、赤色化した部分に厚みがあり、回転刷毛塗りは考えにくく、別の方法で塗られたことが考えられる。また、旧八幡町の小平２遺跡からは、ベンガラを塗った土器が出土している。意図的に土器を赤色化させて、他の土器と色彩的に区別化しようとする行為が、奈良・平安時代の庄内地方ではある程度普遍的に行われていた可能性がある。技術的な系譜や赤色化の背景が、どの時代まで連続的に遡ることが出来るのかを探ることが今後の課題であろう。

また、胎土が白っぽいもの（231など）もあり、感覚的ではあるが、焼きの甘いものに多いように感じられた。同様に焼きの甘いものに、器面の表面に剥落やはじけが認められるもの（102・122・194など）があり、土中での遺存状況や二次焼成の可能性も考えられるが、消費地ではあまり見られない痕跡なので、焼成時に起こった状況と考えることが出来るのではないだろうか。

同じ鶴岡市の塔の腰遺跡から出土した赤焼土器の坏（本書の土師器坏の１類）の胎土が①～⑤の５つに分類されており、そのうち①～④は、肉眼的であるが本遺跡の坏１類の胎土や焼き上がりと類似している。このようなことから、塔の腰遺跡の坏も土師器焼成坑で焼成された可能性が考えられる。

須恵器の器種分類について

今回出土した須恵器は少数であることから、土師器のような分類表や分類図の作成は行わなかったが、坏･甕･

壺が出土している。これらについては、他所で生産されて、万治ヶ沢遺跡に持ち込まれたと考えたい。

坏はＳＱ1025から出土しているが土師器坏の分類に当てはめると１ｄに分類される。

製塩土器について

今回の調査では、器形全体がわかる製塩土器が１点（54）と、口縁部の資料２点（44・401）を図示した。円筒形土製支脚の可能性も考えられるが、体部に孔やスリットを持たないことから、容器ということに重きを置いて、製塩土器に分類した。二次的な被熱の痕跡は見受けられないので、遺跡内で土師器と一緒に焼成されたと考えたい。

支脚について

今回の調査で円柱状の土製支脚がまとまって出土しており、中空になるものが４点、中実のものが３点である。従来の出土例と比較して大型の印象を受け、また頭部が凹型をなすことが特徴とも言える。掘立柱建物跡が主体の庄内地方では、住居の構造が良くわかっていないが、頭部の凹部が丸底甕の底部形態と合致することから、竈に据付の支脚の可能性も考えたい。

土器のまとまりについて

今回の調査では、遺構に伴うと考えられる資料はＳＱ1044・1046以外得ることが出来なかった。それ以外の資料は遺構の覆土からの出土と、グリッドである程度まとまりを持って出土した土器で、資料的な面では一括性に欠ける。遺構の資料を扱う際も覆土からの出土という非常に制約のあるものになってしまったが、以下の①～④を抽出した。

①ＳＱ1044・1046以外で、遺構単位である程度数量的にまとまって出土したものは以下の通りである。

●ＳＸ1021　●ＳＱ1025　●ＳＱ1026、1027
●ＳＱ1028、1029、1030　●ＳＸ1049

②グリッド単位で、ある程度まとまりを持って出土していると考えられる資料は以下の通りである。抽出した観点は、出土したグリッドが複数の遺構と重なりがないこと、１または２グリッドから集中して出土していること、完形または完形に近い土器が出土していること、という点である。抽出したのは以下の通りである。

●Ｍ・８グリッド　●Ｓ・12グリッド
●Ｊ・17～18グリッド　●ＡＣ・15～16グリッド
●Ｖ・８グリッド

③ＡＣ15～16グリッド出土の土師器は、ＳＱ1033の覆土の上位から出土したので、ＳＱ1033の埋没時よりは新しいと考えることが出来る。ＡＣ15～16グリッド出土の土器群と、ＳＸ1034は直接的な層位関係は持たないが、調査の経過や土層の堆積からすると、ＡＣ15～16グリッドから出土した土器群はＳＸ1034より新しいことが考えられる。Ｖ・８グリッド出土の一群も、ＳＱ1032の埋没した堆積土の上から出土したので、ＳＱ1032の埋没時よりも新しいということが考えられる。

④明確な遺構の重複関係が認められ、覆土からではあるが遺物が伴うのは以下の通りである。

・ＳＱ1029→1028→1030

以上の①～④のうち、③と④から坏の外形の変化を示したのが第78図の坏の変遷図である。これは③と④に該当する各遺構と、ＡＣ・15～16から出土した坏の外形を重ねたものである。前述のように、覆土とグリッドからの出土であることで、層位的に不安定な要素を含んでいる。またそれぞれの土器群に時期差があっても、外形や法量等の比較では、細かい相違より、全体として相似の方が見いだされる。この事は器高指数と底径指数からも裏付けられている。これらの時期差は、器形や法量にはあらわれないほどに密接したものと考えられる。しかし、相反するようであるが個別の事例を見ていくと、それぞれ土器群ごとの特徴が見受けられる。ＳＱ1029→ＳＱ1028→ＳＱ1030の変遷を見ていくと、ＳＱ1029では体部の下部はやや膨らむもの（81・82など）があるが、直線的に立ち上がり、口縁も体部の延長で立ち上がり、あまり変化のないもの（86・87）もある。ＳＱ1028では体部が直線的に立ち上がり、口縁部は体部の延長で立ち上がるもの（75・76など）もあるが、口縁部が外に反るなど、変化のあるもの（71・72など）も出てくる。ＳＱ1030は個体数が少ないが、口縁部に屈曲や厚みを持つ（90･91）など口縁部に特徴のあるものが出てくる。

ＳＸ1049→Ｖ・８では、ＳＸ1049の坏は体部がやや内湾気味に立ち上がるもの（198・199など）と、比較的直線的に立ち上がるもの（201・202）があるが、口縁部の

先端はあまり変化がなく、体部の延長気味に立ち上がるものが多い。Ｖ・８では体部が直線的に立ち上がるもの（100・101など）もあるが、やや内湾に立ち上がるもの（97・98）や、口縁部に厚みがあったり外側に反るもの（93・99など）が多くなる。

ＳＸ1034→ＡＣ15～16では、ＳＸ1034の個体数が少ないが、器厚が薄く、内湾気味に立ち上がり、口縁も体部の延長に立ち上がるものが多い。ＡＣ15～16も器厚が薄いものが多く、口縁は外側に反るもの（381・383・387など）が多くなる。土器群ごとの特徴はうかがえるが、明確に時期差を区別できないほどに、近接した時期差の表れともとらえることが出来るのではないだろうか。

土器の年代について

今回の調査では、直接的に年代を示す資料の出土はなかったので、先学の成果に基づいて年代を考えたい。先学の成果として、山形県全体を生産地と消費地に分けて編年を組み立てた阿部（1998）、阿部・水戸（1999）の一連の作業と、庄内地方北部の集落跡の遺構単位で遺物を抽出し、詳細な土器の変遷を組み立て、火山灰と法量分布から実年代を考察した植松（2008）の作業がある。

ここでは、「土器のまとまりについて」で述べたように、それぞれの遺構から出土した土器群の時代差は、器形や法量で区別できるほど明確ではないと考えられるので、遺跡全体での年代を考えることにしたい。

基本的に庄内地方の９世紀後葉の土器様相は、坏類は須恵器が急激に減少し、土師器がそのほとんどを占める。須恵器は壺や甕などの貯蔵形態が多くなる。10世紀にはいると、坏は須恵器が姿を消し、土師器の坏になり、内黒や両黒の高台坏が一定量を占めるようになる。このような庄内地方の土器様相のなかで、万治ヶ沢遺跡の坏の組成をみると、無調整の坏（Ⅰ・１）が主体を占め、それに内黒の高台坏（Ⅱ３・４）が伴うことから、大きくは10世紀の年代が考えられる。

坏（Ⅰ・１とⅡ３・４）の土器の組成を考えると、阿部（1998）では10世紀第１四半期の上高田Ⅰｂ期新に並行すると考えられる。生産遺跡では、阿部･水戸（1999）の９世紀第４四半期～10世紀台四半期の山海窯跡群ＳＫ18・96・17焼壁土坑に並行すると考えられるが、坏Ⅱ３・４が欠落する。植松（2008）では内黒の高台坏（Ⅱ３・４）の類似からⅥ期 - ２期（10世紀第一四半期前半・新）に並行すると考えられる。Ⅰ３・４・５やⅡ１のように底部のほかに器面の両面に調整を施すような坏はあまり類例が無いが、Ⅰ５の類例は、新潟県発久遺跡（1991新潟県旧笹神村教育委員会）で出土しており、その年代が８～９世紀の年代が考えられているようである。また、須賀井（2003）によれば県内でも８世紀後半に、坏の成形が古墳時代以来の非ロクロからロクロ成形への転換の様相を示すとされており、底部のほかに内外面に調整を施す坏類の技術的・歴史的な系譜を探る上で参考になると考えられる。

今回の調査では覆土に火山灰と考えられる白色粘土を含む遺構として、ＳＱ1018・1020・1047、ＳＸ1022がある（ただし、火山灰と考えられるものは理化学分析にかけていないので、火山灰とは断定できない。）。白色粘土がブロック状に堆積しており、土器との関係が明確でないが、白色粘土が十和田ａ火山灰としてみた場合、それぞれの遺構の出土土器と、植松（2008）と比較しても器形や組成には矛盾がないと思われる。よって、万治ヶ沢遺跡で生産された土師器の年代は10世紀の第１四半期の土器群ととらえてよさそうである。しかし、59のように須恵器の坏や、119の壺は時期的に古くなると考えられるが、他所から持ち込まれて万治ヶ沢遺跡で使用されたと考えれば、土師器の年代観に影響はないと考えられる。

平安時代における万治ヶ沢遺跡の性格について

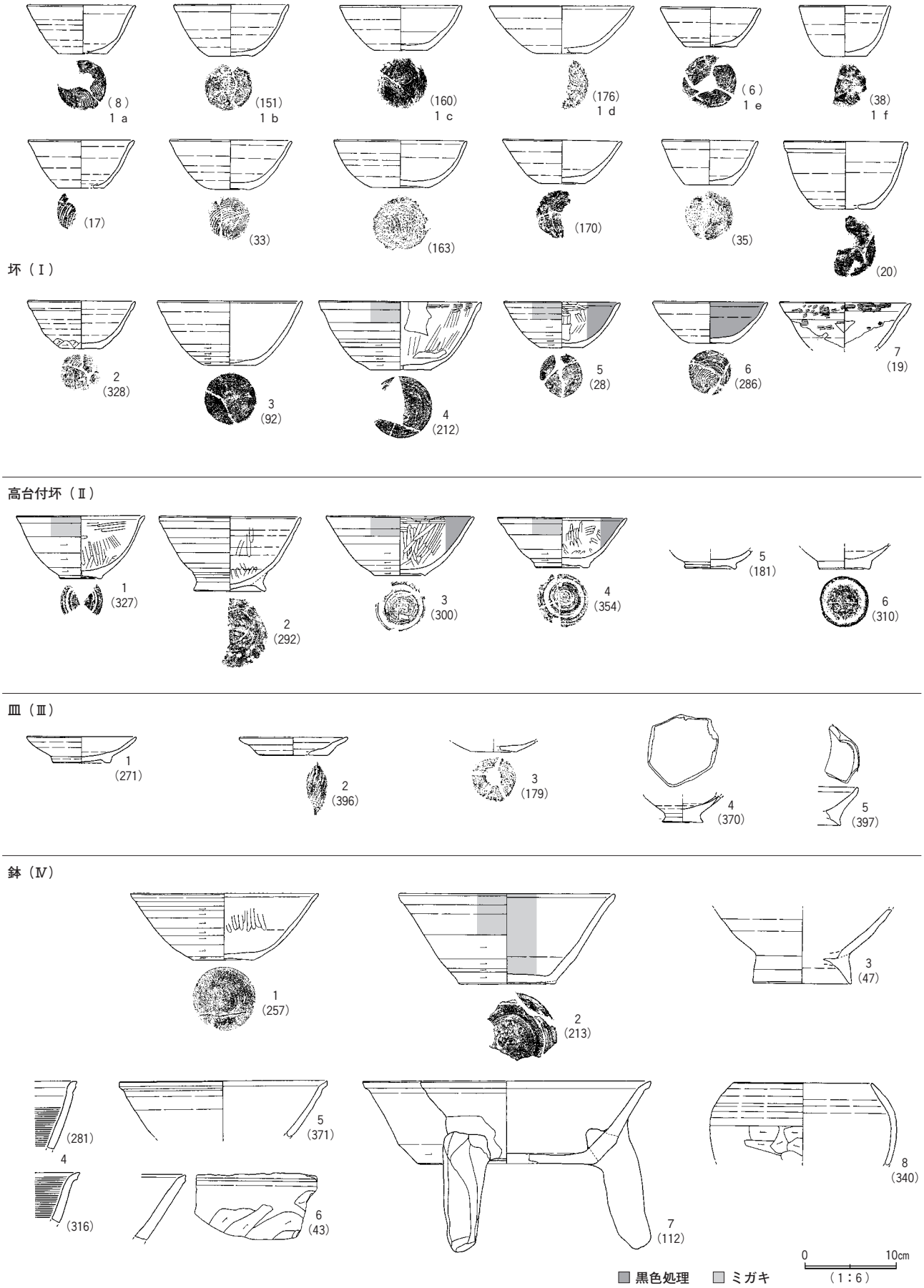
「平安時代の遺構について」で述べたとおり、土師器焼成遺構と、製炭遺構が見つかっていることから、土師器と木炭の生産遺跡である。時期は、出土した土師器から10世紀第１四半期かそれよりも古い時期と考えられる。出土した鉄滓の理化学分析の結果では、製鉄炉の最下層・炉端部・最上層で、精錬の過程で生成されたとの結果が得られている。そのほかに羽口が出土している。遺跡範囲からは製鉄炉や廃滓場などの直接製鉄に関わる遺構は見つからなかったが、周辺は砂鉄が多い地域でもあり、緩やかな丘陵が広がり、沢には水があるなど、製鉄を行う立地環境が整っている。また秋田県・福島県・新潟県などの調査でも、製炭遺構の近くからは製鉄遺構が見つかっており、両者は一体の関係でもあることから、今回の調査区の近隣に、製鉄遺構の存在が十分に予想される。

また、工人達の住居や工房の存在も予想される。

菅原（1997）は土師器生産体制を①土師器生産専業型、②須恵器精算付随型、③手工業コンビナート内生産型、④集落内生産型、の４つに分類している。その中で③の手工業コンビナート生産型は､「窯業部門と製鉄関連部門の一体生産が行われ、大規模な手工業生産地を形成している」とある。今回の調査区内からは製鉄関連部門に関わる遺構は見つからなかったが、前述のように近隣に製鉄関連の遺構の存在が予想されることから、万治ヶ沢遺跡を上記の分類に当てはめると、③の手工業コンビナート内生産型に分類されると思う。さらに伊藤（2002）は、秋田県内では、手工業コンビナート内生産型は９世紀後半以降、特に９世紀第４四半期から10世紀第１四半期頃に多く、地域的には八郎潟東側周辺から米代川下流周辺に集中するとしている。出羽国北半の秋田県では、手工業型コンビナート内生産型が９世紀第４四半期から10世紀第１四半期に多いと言う事実が、同じ出羽国南半の山形県でも確認できたと言うことは、出羽国内での土器や製鉄などの手工業生産体制を考える上で、一つの手がかりとなるであろう。

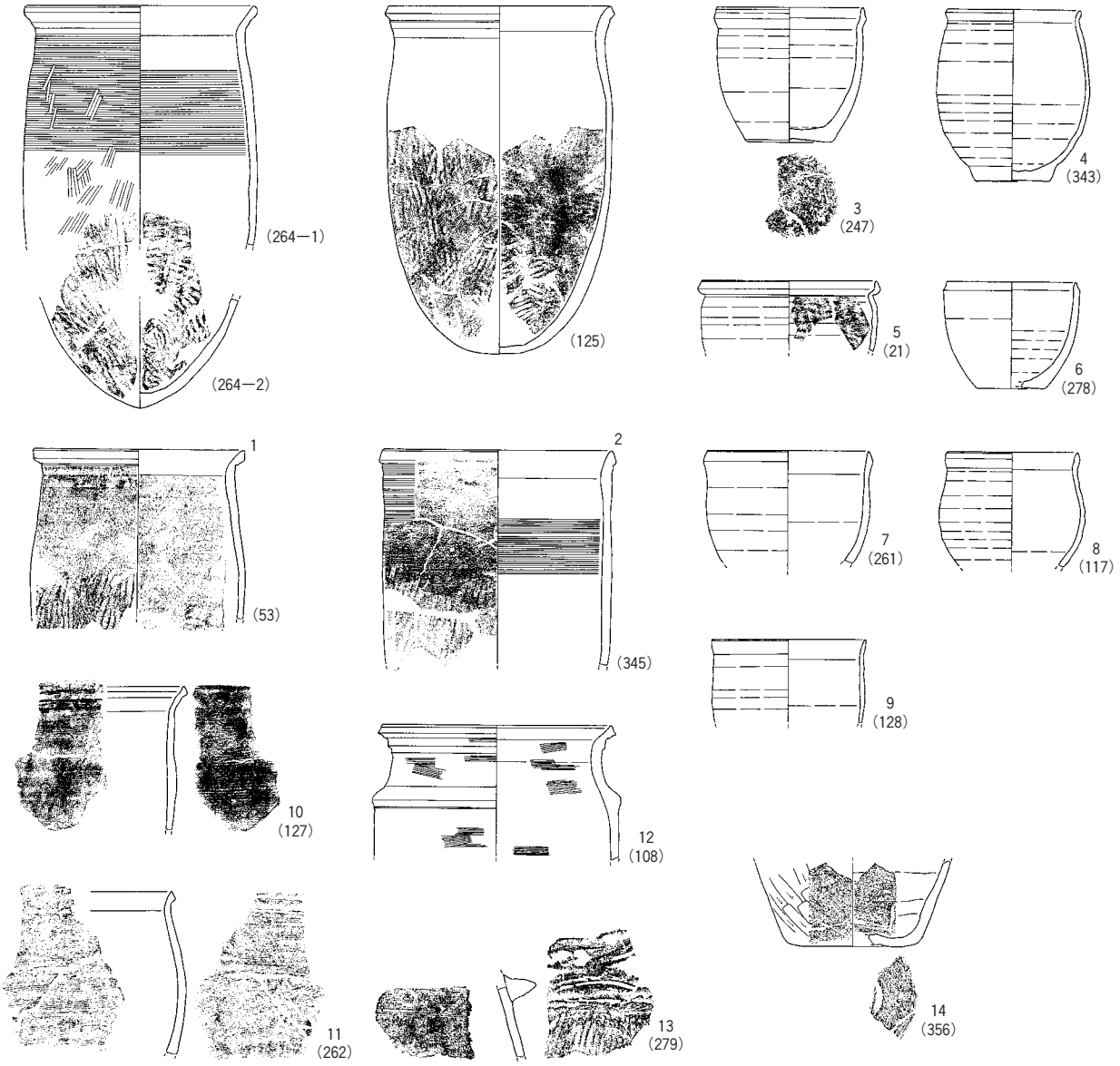
さらに、土器の製作を考えた場合、出土した長胴甕や堝にはタタキの技法が見られ、坏にはミガキや黒色処理を行うなど、調整には須恵器と土師器の両方の技法が取り入れられている。焼成には酸化焔の技法が取り入れられるなど、須恵器と土師器の両方の技術がみられる。ある程度斜面に囲まれて、地理的にまとまりがあると考えられる今回の調査範囲からは、須恵器を焼成した窖窯は見つかっていない（もしかしたら近隣には存在する可能性もあるが）ことから、万治ヶ沢遺跡の場合は須恵器の工人と土師器の工人の密接な交流の状態をさらに進めて、工人が両方の技術を会得していたと考えることができないだろうか。10世紀に入ると坏類は土師器のみとなり、須恵器は貯蔵形態の壺や甕に限られてくるなど、須恵器と土師器の器種が相互補完するようになり、それに伴い従前のような土師器工人と須恵器工人がそれぞれを製作するよりも、両方の技術を持った工人が作り分けを行った方が合理的といえる。製鉄とあわせて考えた場合に、製鉄には大量の木炭が必要になり、木炭の原料である木材は土器生産でも必ず必要で、土器生産と鉄の生産で共通する原料の木材の確保が大きな課題であろう。そのようななかで、手工業コンビナート内生産型であれば、土器生産の経営者と鉄製生産の経営者が同じと考えられる。大量に消費する木材資源の有効利用のためにも、土器生産においてより木材の消費量が少ない土師器で対応可能な器種については土師器で、貯蔵形態は須恵器でという作り分けの明確化も可能なのではないだろうか。そのような背景が手工業コンビナート内生産型を生んだ遠因にはならないだろうか。

調査の成果から、万治ヶ沢遺跡の周辺では土師器や土製品の生産のほかに、製鉄も行っていたことが十分に予想され、万治ヶ沢遺跡も含まれる荒沢古窯跡群や鶴岡南部古窯跡群を含めた庄内南部古窯群を考えれば、土器から鉄までをある程度の期間にわたって生産していたことが考えられる。その中で万治ヶ沢遺跡では、10世紀の初め頃に土師器の生産と、製鉄のための製炭を担っていた遺跡といえる。翻れば、庄内地方の南部において、継続的に一定量の鉄と土器の需要があり、その生産を支える社会的な基盤が確立していたといえよう。今後の課題として、生産されたものの供給先と、生産を支えた社会的基盤の解明が待たれるところである。

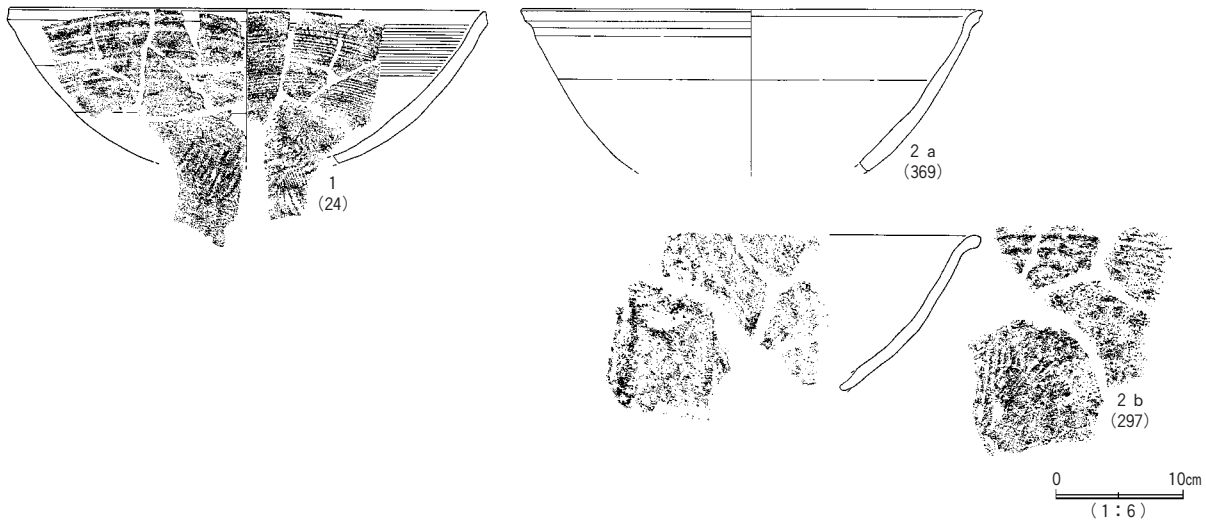


第74図　B地点土師器器種分類図（1）

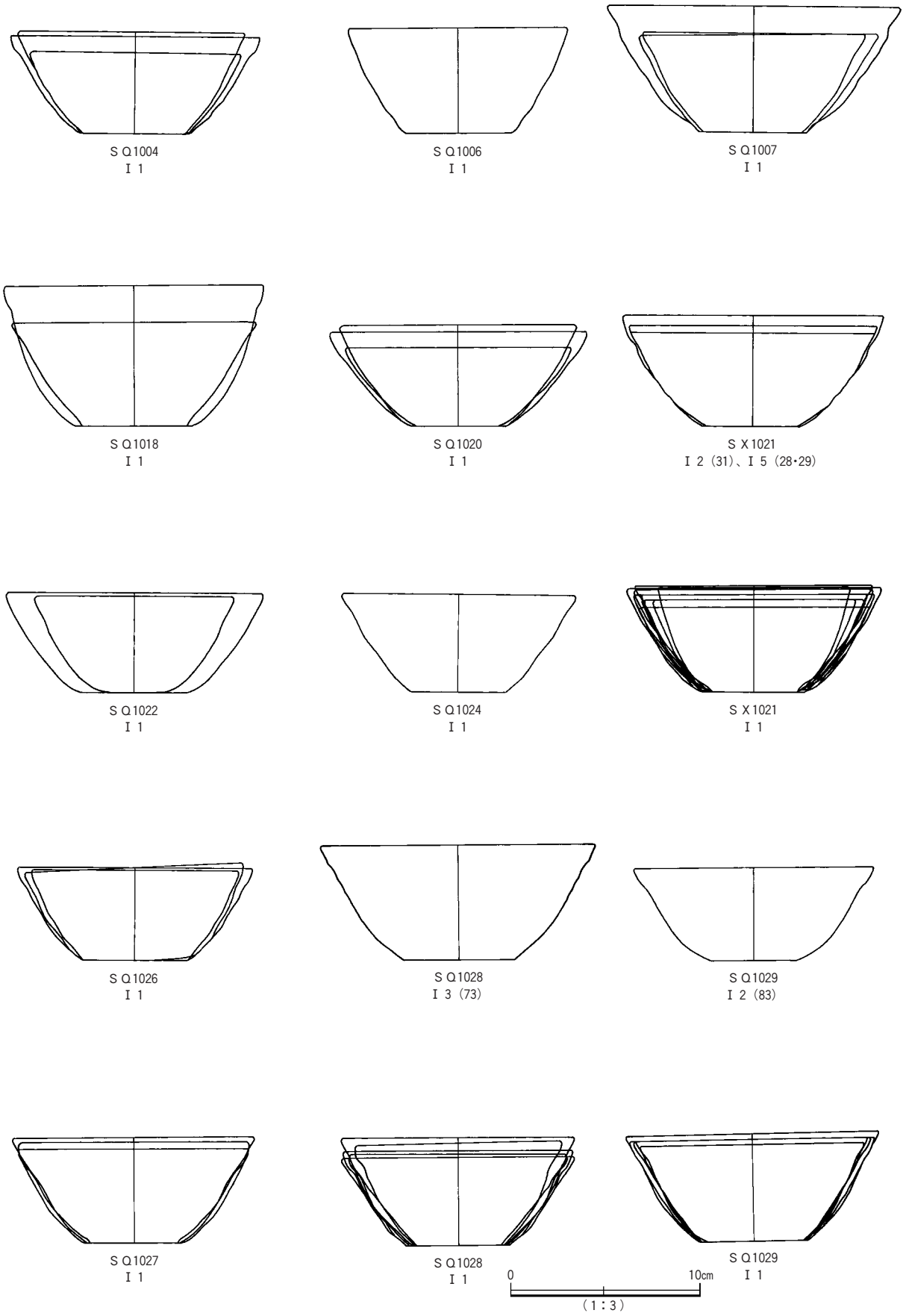
甕（Ⅴ）



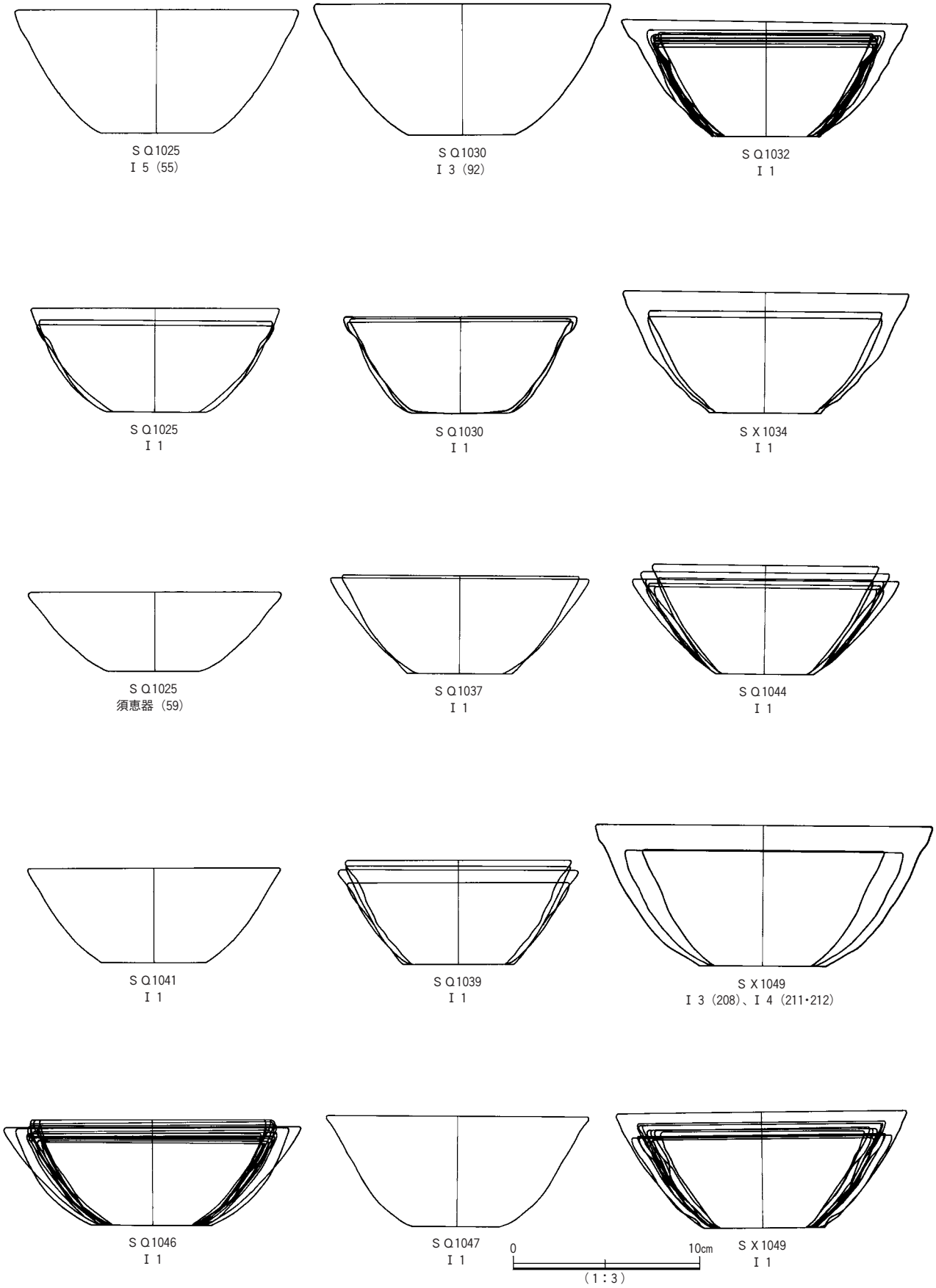
鍋（Ⅵ）



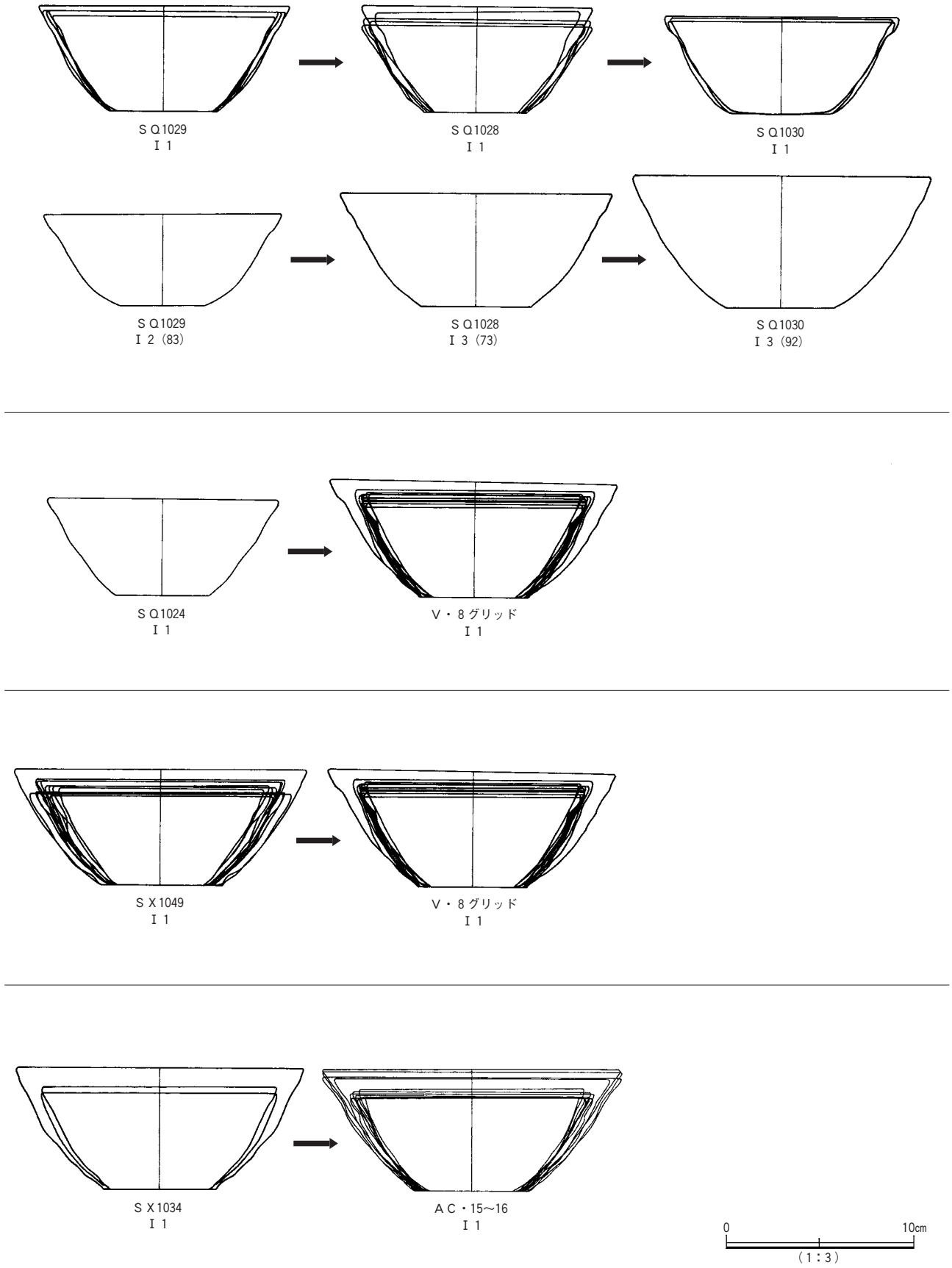
第75図　Ｂ地点土師器器種分類図（２）


S Q1004
Ⅰ1
S Q1006
Ⅰ1
S Q1007
Ⅰ1
S Q1018
Ⅰ1
S Q1020
Ⅰ1
S X1021
Ⅰ2（31）、Ⅰ5（28･29）
S Q1022
Ⅰ1
S Q1024
Ⅰ1
S X1021
Ⅰ1
S Q1026
Ⅰ1
S Q1028
Ⅰ3（73）
S Q1029
Ⅰ2（83）
S Q1027
Ⅰ1
S Q1028
Ⅰ1
S Q1029
Ⅰ1
0
10cm
（1：3）

第76図　坏外形（1）


ＳＱ1025
Ⅰ５（55）
ＳＱ1030
Ⅰ３（92）
ＳＱ1032
Ⅰ１
ＳＱ1025
Ⅰ１
ＳＱ1030
Ⅰ１
ＳＸ1034
Ⅰ１
ＳＱ1025
須恵器（59）
ＳＱ1037
Ⅰ１
ＳＱ1044
Ⅰ１
ＳＱ1041
Ⅰ１
ＳＱ1039
Ⅰ１
ＳＸ1049
Ⅰ３（208）、Ⅰ４（211･212）
ＳＱ1046
Ⅰ１
ＳＱ1047
Ⅰ１
0
10cm
（1：3）
ＳＸ1049
Ⅰ１

第77図　坏外形（２）



第78図　Ｂ地点土師器坏変遷図

表36　B地点出土土師器　器種分類表

器種	小分類	細分類	ロクロ使用	底部調整	体部外面調整	体部内面調整	内面黒色処理	底部形態	底部切り離し	分類の観点	備考
坏（Ⅰ）	1	a	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	器高指数40.0～49.9　底径指数40.0～49.9	
		b	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	器高指数40.0～49.9　底径指数30.0～39.9	
		c	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	器高指数30.0～39.9　底径指数40.0～49.9	
		d	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	器高指数30.0～39.9　底径指数30.0～39.9	
		e	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	底径指数50.0以上	
		f	使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	器高指数50.0以上	
	2		使用	無	下部に手持ちヘラケズリ	ロクロ	無	平底	回転糸切		
	3		使用	回転ケズリ	回転ケズリ	ロクロ	無	平底	回転糸切？		
	4		使用	回転ケズリ	回転ケズリ・ミガキ	ミガキ	無	平底	回転糸切？		
	5		使用	回転ケズリ	回転ケズリ・ミガキ	ミガキ	有	平底	回転糸切？		内黒土器
	6		使用	無	ロクロ	ロクロ	有	平底	回転糸切		黒色土器。内面は工具を用いてのミガキは認められない。なめし皮などを用いた成形か？
	7		使用	不明	ミガキ	ミガキ	無	不明	不明		
高台坏（Ⅱ）	1		使用	回転ケズリ	回転ケズリ・ミガキ	ミガキ	無	付高台	回転糸切？	高台が低い	
	2		使用	ナデ	ロクロ	ミガキ	無	付高台	回転糸切？	高台の高い	
	3		使用	回転ケズリ	回転ケズリ・ミガキ	ミガキ	有	付高台	回転糸切？		内黒土器
	4		使用	回転ケズリ、ミガキ	回転ケズリ・ミガキ	ミガキ	有	削出高台？	回転糸切？		内黒土器
	5		使用	菊花状のナデ？	不明	不明	無	付高台	回転糸切？	台付皿より見込部分の立上りが急	台付皿の可能性もあり
	6		使用	不明	不明	不明	無	削出高台？	回転糸切？	台付皿より見込部分の立上りが急	
皿（Ⅲ）	1		使用	不明	不明	不明	無	付高台	回転糸切？		器面摩滅のため調整等不明
	2		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	静止糸切？		
	3		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切		
	4		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	静止糸切？	柱状高台	耳皿、370に似ることから243と398も一括した
	5		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	付高台	不明		高台付耳皿
鉢（Ⅳ）口径が200㎜以上	1		使用	回転ケズリ	回転ケズリ	ミガキ	無	平底	回転糸切？	坏より法量が大きく、胎土の混入物も坏より多い。	
	2		使用	回転ケズリ	回転ケズリ	ミガキ	無	付高台		高台の幅が広く低い	
	3		使用	不明	ロクロ	ロクロ？（内面摩滅のため不明）	無	付高台		高台の幅が狭く高い	
	4		使用	不明	カキメ	カキメ	無	不明		体部がほぼ直線で、体部が急角度で立上る	
	5		使用	不明	カキメ？	カキメ？	無	不明		体部がほぼ直線で、体部が45度前後で立上る	鉢５～７は破片資料が多いので詳細は不明な点が多い。５・６は７と同一器種の可能性もありうる。
	6		使用	不明	ケズリ	カキメ？	無	平底？		体部がほぼ直線で、体部が45度前後で立上る。５とは、体部ケズリ調整の有無で異なる。	
	7		使用	無	カキメ、ケズリ	カキメ、ヘラナデ	無	付脚			脚付鉢
	8		使用	不明	ロクロ、ケズリ	ロクロ	無	不明			鉄鉢型土器
甕（Ⅴ）	1		使用	タタキ	カキメ、タタキ	カキメ、アテ痕	無	丸底		口縁と体部の屈曲がはっきりし、胴部が膨らむ。口縁の形態でさらに細分が可能。	長胴丸底甕
	2		使用	タタキ	カキメ、タタキ	カキメ、アテ痕	無	丸底？		口縁と体部の屈曲がはっきりせず、胴部があまり膨らまない。口縁の形態で、さらに細分が可能。	長胴丸底甕
	3		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	口縁と体部に僅かな屈曲があり、同部が張らないもの	小型平底甕
	4		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	口縁と体部に僅かな屈曲があり、同部が張るもの	小型平底甕
	5		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底？		口縁と体部の屈曲がはっきりするもの	小型平底甕
	6		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底	回転糸切	口縁を摘み上げるように成形するもの	小型平底甕で、やや大型のもの（278）と小型のもの（297）がある。
	7		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底？		口縁部に厚みを持ち、口縁と体部の境がはっきりしないもの	小型平底甕
	8		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底？		口縁と体部の厚さがほぼ同じで、胴部が張るもの	小型平底甕
	9		使用	無	ロクロ	ロクロ	無	平底？		口縁と体部の厚さがほぼ同じで、胴部が張らないもの	小型平底甕
	10		使用	不明	カキメ、ハケメ	カキメ	無	平底？		体部外面下部に縦方向のハケメ調整を行う。	平底甕？　３～９の平底甕と異なり、工具を用いてロクロ成形を行う。
	11		使用	不明	カキメ、ケズリ	カキメ	無	平底？		体部外面下部に縦方向のケズリ調整を行う。	平底甕？　３～９の平底甕と異なり、工具を用いてロクロ成形を行う。
	12		使用	不明	カキメ	カキメ	無	不明		頸部と体部の境に突帯を持つ	
	13		使用	不明	タタキ	アテ痕	無	不明		胴部に突帯を持つもの	突帯付甕
	14		不使用？	無	ケズリ	ヘラナデ	無	砂底		底部中央部が上げ底風になる	
壺（Ⅵ）	1		使用	タタキ	タタキ	アテ痕	無	丸底		体部は丸みを持ち、口縁の先端が真上方向につまみあがるもの	
	2	a	使用	タタキ	タタキ	アテ痕	無	丸底？		体部は丸みを持ち、口縁の先端が横方向に開く。先端が尖る。	
		b	使用	タタキ	タタキ	アテ痕	無	丸底？		体部は丸みを持ち、口縁の先端が横方向に開く。先端が丸い。	

引用参考文献

小井川和夫　1981　長者原貝塚　上新田遺跡　宮城県文化財調査報告78集　宮城県教育委員会
渋谷孝雄　1982　境田Ｃ遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第62集　山形県教育委員会
佐藤庄一　1983　新青渡遺跡第１次発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第67集　山形県教育委員会
渋谷孝雄　1984　境田Ｃ′・Ｄ遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第76集　山形県教育委員会
阿部明彦　1984　宅田遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第72集　山形県教育委員会
阿部明彦　1985　手蔵田遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第87集　山形県教育委員会
上郷文化財愛護会　1988　神社仏閣調査　埋蔵文化財調査（鶴岡市）上郷文化財愛護会編
川上貞雄　1991　発久遺跡発掘調査報告書　笹神村文化財調査報告書８　新潟県笹神村教育委員会
名和・長橋・伊藤・氏家　1991　山谷新田遺跡　山海窯跡群発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第170集
山形県教育委員会
名和達郎・水戸弘美　1992　山海窯跡群第２次　山楯７・８遺跡　山楯館跡発掘調査報告書
山形県埋蔵文化財調査報告書第172集　山形県教育委員会
山形県埋蔵文化財センター　1995　出羽の古窯跡（山形県）　第３回課内学習会資料　財団法人山形県埋蔵文化財センター
浅黄喜悦・高橋敏　1996　西谷地第３次発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第33集
財団法人山形県埋蔵文化財センター
木立雅朗　1997「土師器焼成坑を定義するために」　古代の土師器生産と焼成　窯研究会編　真陽社
望月精司　1997「土師器焼成坑の分類」　古代の土師器生産と焼成　窯研究会編　真陽社
菅原祥夫　1997「東北東部－古代陸奥の国の土師器生産体制と土師器焼成坑－」　古代の土師器生産と焼成
窯研究会編　真陽社
水戸弘美　1997　塔の腰遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第50集
財団法人山形県埋蔵文化財センター
阿部明彦　1998「城柵と地域社会の変容　庄内平野の様相」　第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料
古代城柵官衙遺跡検討会
1998「東北地方の古代集落第２分冊」　古代城柵官衙遺跡検討会
阿部明彦・水戸弘美　1999「山形県の古代土器編年」　第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料　古代城柵官衙遺跡検討会
吉田江美子・渋谷純子　2001「山形県内の製塩土器について」　庄内考古学21号　庄内考古学研究会
伊藤武士　2002　古代出羽国北半の土師器生産体制と土師器焼成遺構について
第４回東北古代土器研究会（青森大会）資料　東北古代土器研究会
須賀井新人　2003「出羽南半における黒色土器の編年」　山形考古７巻３号　山形考古学会
山口博之　2004　小平２遺跡　小平３遺跡発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第128集
財団法人山形県埋蔵文化財センター
飯村均　2005　律令国家の対蝦夷対策・相馬の製鉄遺跡群　新泉社
利部修　2008　出羽の古代土器　同成社
植松暁彦　2008「庄内北部の10～11世紀代の土器様相」　研究紀要５　財団法人山形県埋蔵文化財センター

写真図版

調査区から見た鳥海山

調査区全景　左手前Ａ地点・右奥Ｂ地点（南西から）

Ａ地点遠景（北西から）奥の連なる山は金峰山（左）と母狩山（右手の高い頂き）

A地点全景航空写真（写真上が北方向）

B地点全景航空写真（写真右が北方向）

遺跡遠景（北西から）

A地点調査風景（南から）

A地点調査前状況（南東から）

A地点全景（南東から）

B地点調査前状況（南西から）

B地点調査前状況（北東から）

B地点斜面部調査前状況（南西から）

B地点平坦部調査前状況（東から）

B地点北側斜面部面整理状況

B地点伐根処理作業

A地点面整理状況

B地点調査状況

A地点遺物記録作業

調査説明会（平成17年8月6日）

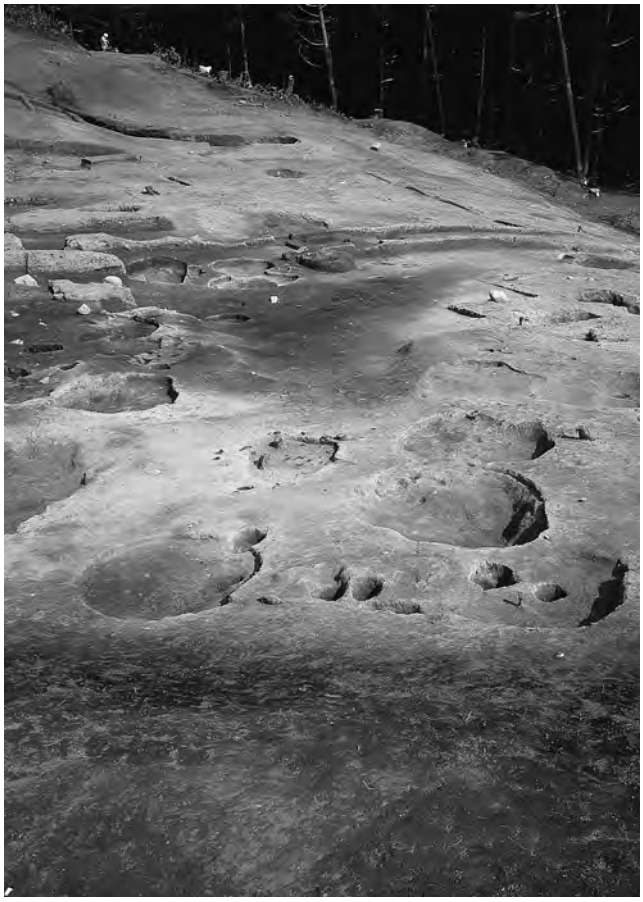
B地点（53 ― 404）出土状況（V・15）

B地点（31 ― 119）出土状況（S X 1034）

Ｂ地点ＳＱ 1003（手前）・ＳＱ 1002（左奥）・ＳＱ 1001（右奥）完掘状況（北東から）

Ｂ地点ＳＱ 1029（手前）・ＳＱ 1030（左奥）・ＳＱ 1028（右奥）完掘状況（北東から）

Ｂ地点ＳＱ 1018 完掘状況（北西から）

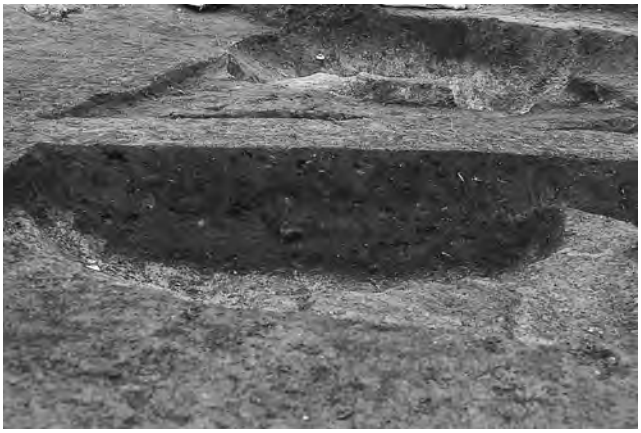


Ｂ地点SQ 1044（左）・SQ 1040（中）・SQ 1041（右）完掘状況（北西から）

Ｂ地点ＳＱ 1037（左手前）・ＳＱ 1007（中奥）・ＳＱ 1018（右）完掘状況（北東から）

Ｂ地点ＳＸ 1049（左）・ＳＱ 1032 前庭部完掘状況（南から）右はＳＱ 1032

ＳＱ 1032 前庭部土層断面（南西から）第 12 図



ＳＱ 1001 断面（南西から）

ＳＱ 1002 断面（南西から）

ＳＱ 1003 断面（北から）

ＳＱ 1003 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1001・1002・1003 完掘状況（南西から）

ＳＱ 1004・1005・1006 検出状況（南から）

ＳＱ 1004・1005・1006 検出状況（南から）

ＳＱ 1004・1005・1006 完掘状況（南西から）

ＳＱ 1004 断面（西から）

ＳＱ 1004 完掘状況（南西から）

ＳＱ 1005 断面（西から）

ＳＱ 1005 完掘状況（南から）

ＳＱ 1006 完掘状況（西から）

ＳＱ 1023 焼土検出状況（南から）

ＳＱ 1023 断面（西から）

ＳＱ 1023 完掘状況（東から）

ＳＱ 1007 断面（西から）

ＳＱ 1007 完掘状況（南から）

ＳＱ 1019 完掘状況（東から）

ＳＱ 1020 断面（南から）

ＳＸ 1022 断面（南から）

ＳＸ 1022 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1037 断面（東から）

ＳＱ 1037 完掘状況（北東から）

ＳＱ 1026 断面（南から）

ＳＱ 1025 断面（南から）

ＳＱ 1026 断面（西から）

ＳＱ 1025 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1027（手前）・1026（奥）完掘状況（南西から）

ＳＱ 1018 断面（西から）

ＳＱ 1018 完掘状況（北東から）

ＳＱ 1040 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1041 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1044 遺物出土状況（南東から）

ＳＱ 1044 断面（西から）

ＳＱ 1044 遺物出土状況（南東から）

ＳＱ 1044・ＳＰ 1055 完掘状況（東から）

ＳＸ 1010 完掘状況（南西から）

ＳＸ 1011 完掘状況（南から）

ＳＸ 1012 完掘状況（南から）

ＳＸ 1059 完掘状況（北東から）

ＳＱ 1028 断面（南から）

ＳＱ 1029 断面（南から）

ＳＱ 1030（左）・ＳＱ 1029（右）断面（東から）

ＳＸ 1049 完掘状況（南西から）

ＳＱ 1024 断面（南から）

ＳＱ 1024 断面（南西から）

ＳＱ 1024 完掘状況近接（南から）

ＳＱ 1024 断面（西から）

ＳＱ 1032 内部状況（東から）

ＳＱ 1032（左写真の左側近接）（南から）

ＳＱ 1024 煙道（ＳＱ 1032 窯体右側）近接（南から）

ＳＱ 1032 煙道（南から）

ＳＱ 1039 断面（南西から）

ＳＱ 1046 断面（南西から）

ＳＱ 1046 完掘状況（北東から）

ＳＱ 1039 完掘状況（北東から）

ＳＱ 1045 南断面（南から）

ＳＱ 1039 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1047（左）・1048（右）断面（南東から）

ＳＱ 1047（左）・1048（右）完掘状況（南東から）

ＳＱ 1033 断面北側（南西から）

ＳＱ 1033 断面（南西から）

ＳＱ 1033 断面・断面やや中央（南西から）

ＳＱ 1033 断面中央（北西から）

ＳＱ 1033 断面南側（北西から）

ＳＱ 1033 完掘状況（北西から）

ＳＱ 1033 完掘状況（南西から）

ＳＱ 1042・1043 完掘状況（東から）

ＳＱ 1042・1043 断面（南東から）

ＳＱ 1042 完掘状況（南東から）

ＳＱ 1053 完掘状況（南から）

ＳＫ 1057 完掘状況（東から）

ＳＫ２検出状況（南から）

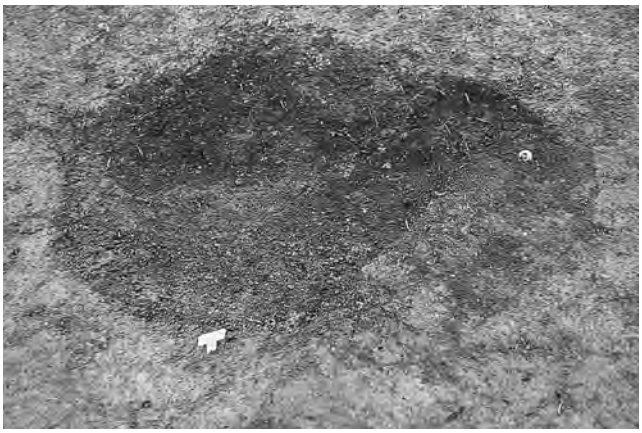
ＳＫ２断面（南東から）

ＳＫ３検出状況（南東から）

ＳＫ３断面（南東から）

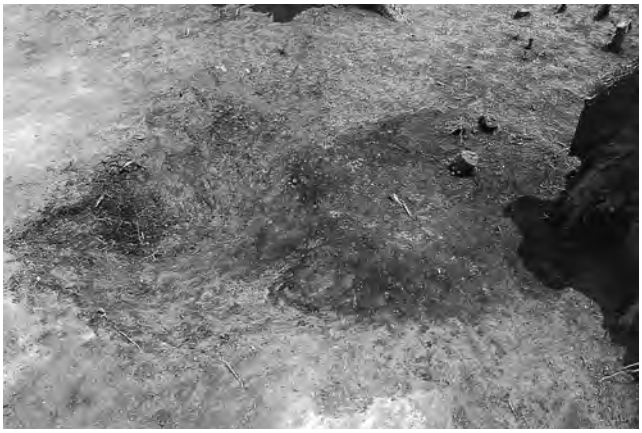
ＳＫ４検出状況（南から）

ＳＫ４断面（南から）



ＳＫ５検出状況（南から）

ＳＫ５断面（南から）



ＳＫ 59 検出状況（南から）

ＳＫ 82 断面（南西から）

ＳＬ 42 検出状況（南東から）

ｎ・４～ｋ・３グリッド断面（南西から）

ＳＸ 85 検出状況（南西から）

ＳＸ 70 断面（南西から）

ＳＱ 81 完掘状況（南から）

ＳＸ 83 検出状況（南から）

1

2

3

4

5

6

7

8

9

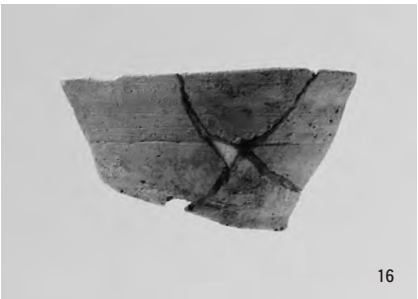
10

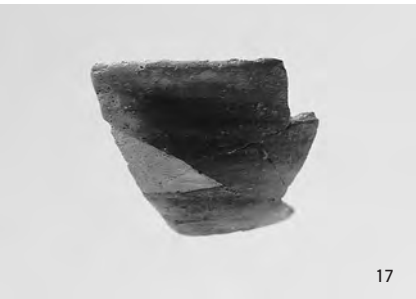
11

12

13

14


16


17

15

18

19

20

21

23

25

22

24

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

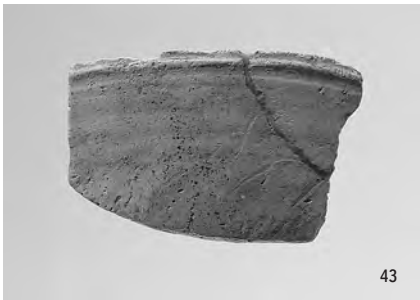
38

39

40

41

42


43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

58

56

57

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

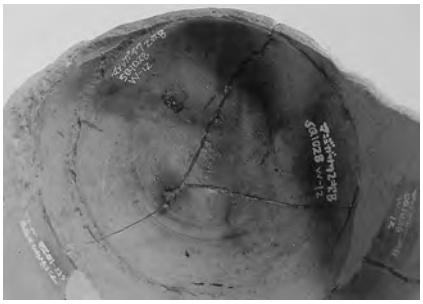
69

70

71

72

73


74 内面立上り部分の粘土接合痕と緋襷

75

76

74

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

110

109

111

113

114

115

116

117

119

112

118

120

121

122

123

125

124

126

127

128

129

130

131

132

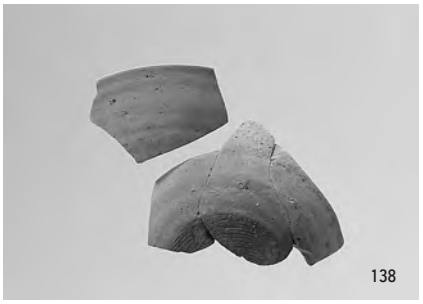
133

134

135

136

137


138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

216

213

215

214

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

264 — 1

262

263

264 — 2

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

283

284

282

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

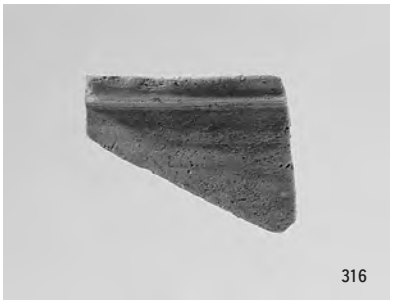
311

312

313

314

315


316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

344

341

342

343

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

369

368

372

370

371

376

373

374

375

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

392

393

394

395

369

398

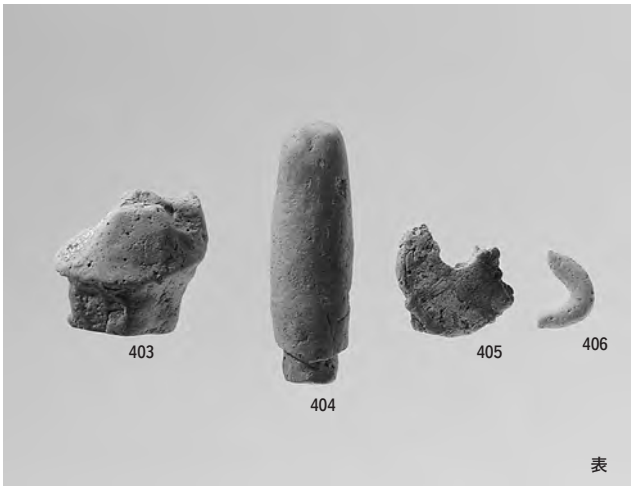
399

400

397

401

402



407

408

409

410

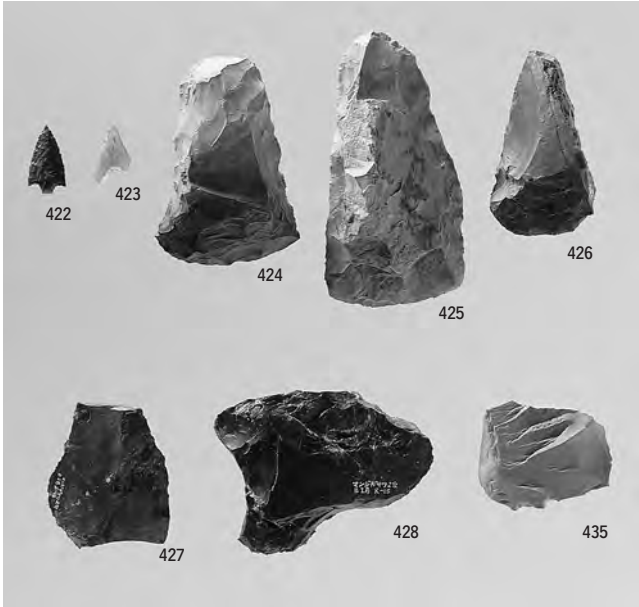
411

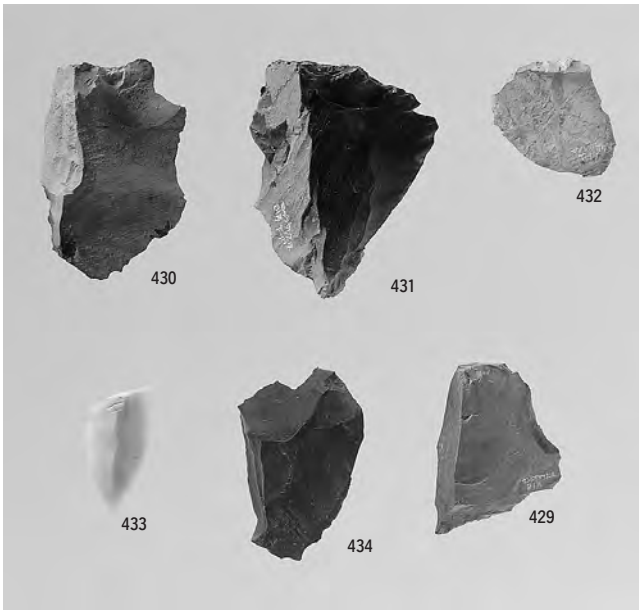
412

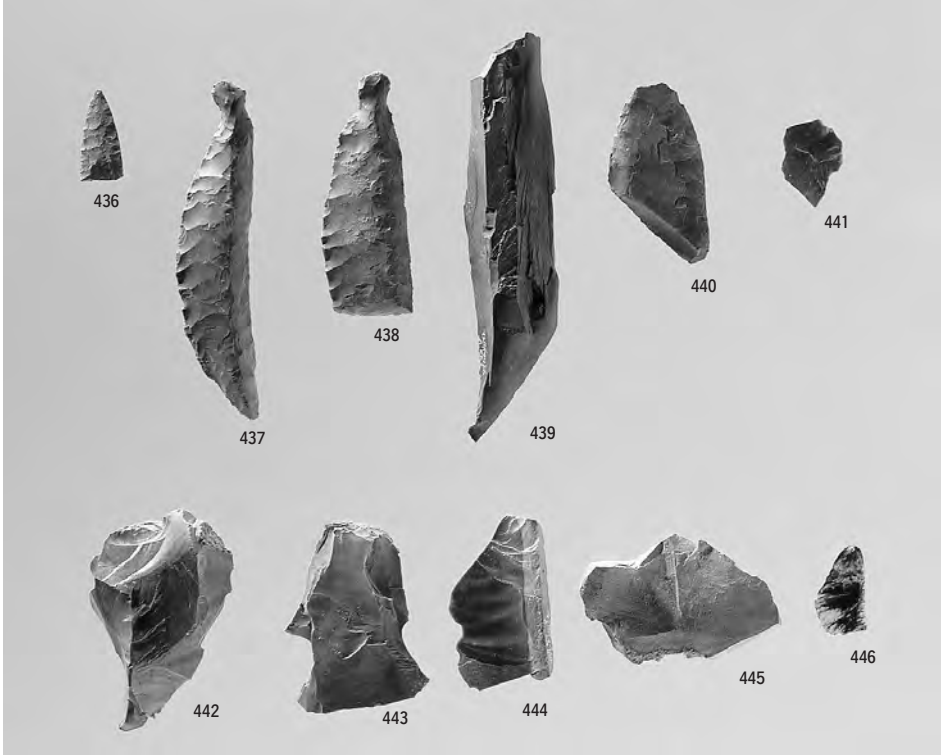
413

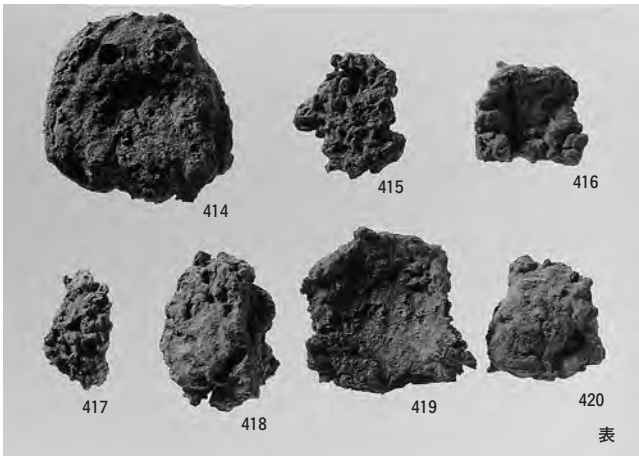
421

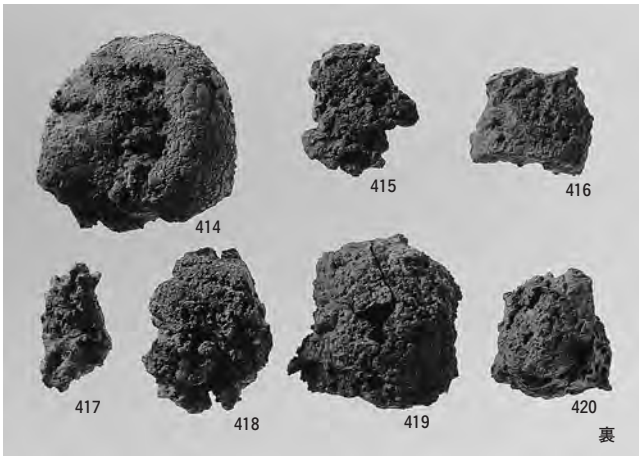
447


422
423
424
425
426
427
428
435


430
431
432
433
434
429

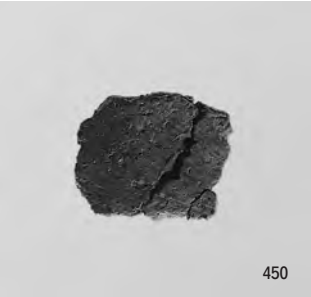

436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446


414
415
416
417
418
419
420
表


414
415
416
417
418
419
420
裏

448

449

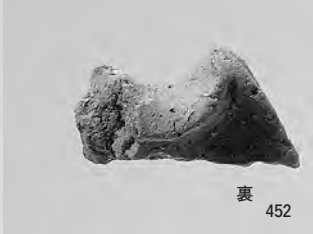

450

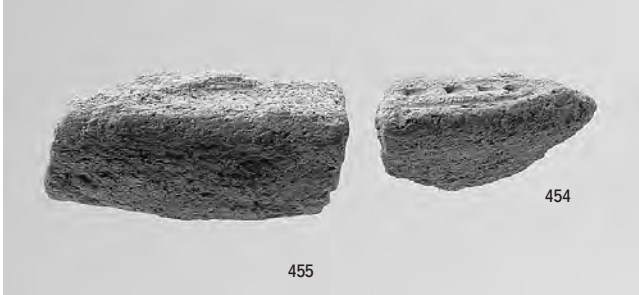
453

表

裏
451

表


裏
452


454
455

458
457

456

459

460

461

462

463

464

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

476

477

478

479 480

481 482

483

484

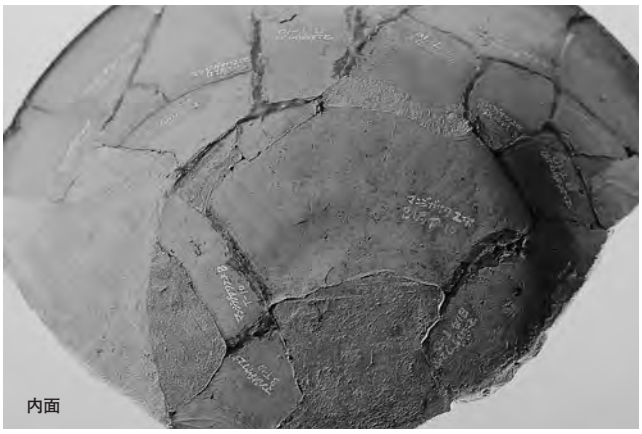
485

486

487

体部上半横方向のミガキ　立上り～底部縦方向のミガキ（39－213）

体部上半部横方向のミガキ　下半部回転ケズリ　付高台　底部回転ケズリ　黒斑



体部上半部横方向のミガキ　体部下半～底部縦方向のミガキ（39－212）

体部上半部横方向のミガキ　下半部横方向の回転ケズリ　底部回転ケズリ

体部上半横方向のミガキ　体部下半部～底部縦方向のミガキ　付着物（42－237）

体部外面上半部横方向のミガキ　下半部横方向の回転ケズリ　底部回転ケズリ

立ち上がり部分　手持ちヘラケズリ（49 － 328）

体部外面上半部横ミガキ下半部横方向回転ケズリ　底部回転ケズリ　付高台（49－327）

体部外面横方向回転ケズリ　底部回転ケズリ　内面無調整(39－208)

体部外面外面横方向のケズリ　底部回転ケズリ　内面無調整(30－92)

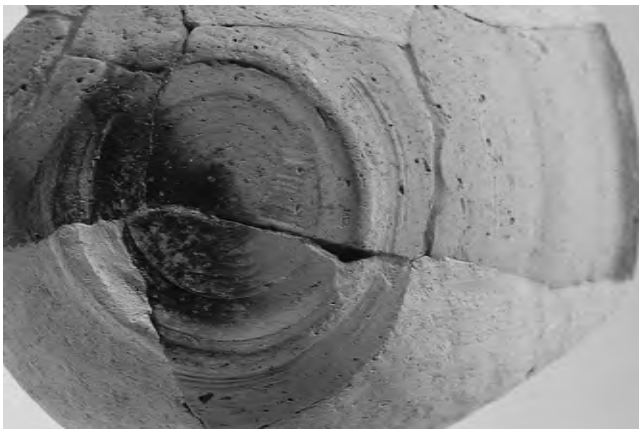
体部外面横方向回転ケズリ　底部回転ケズリ　内面ミガキ黒色処理(25－28)

体部外面横方向回転ケズリ　底部回転ケズリ　内面ミガキ黒色処理(43－257)

底部調整　底部回転ケズリ　削り出し高台？（46 － 294）

底部調整　底部回転ケズリ　削り出し高台？（46 － 291）

底部調整　底部回転ケズリ　削り出し高台？（51 － 354）



底部調整　底部回転ケズリ　付高台？（47 － 300）

脚部接合状況と立ち上がり部分のケズリ調整（32 ― 112）

内面の輪積み痕（27 ― 54）

外面の調整と脚部の接合（26 ― 42）

内面の調整（26 ― 42）

脚部内面（56 ― 410）

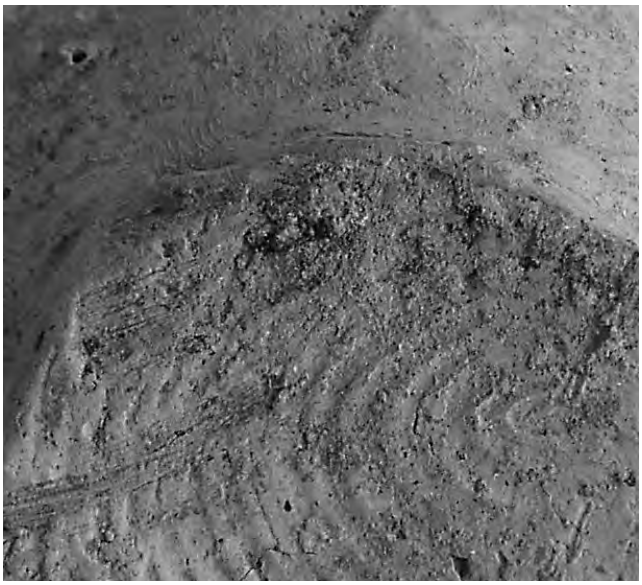
脚部内面（56 ― 411）

板状土製品表（T・10）

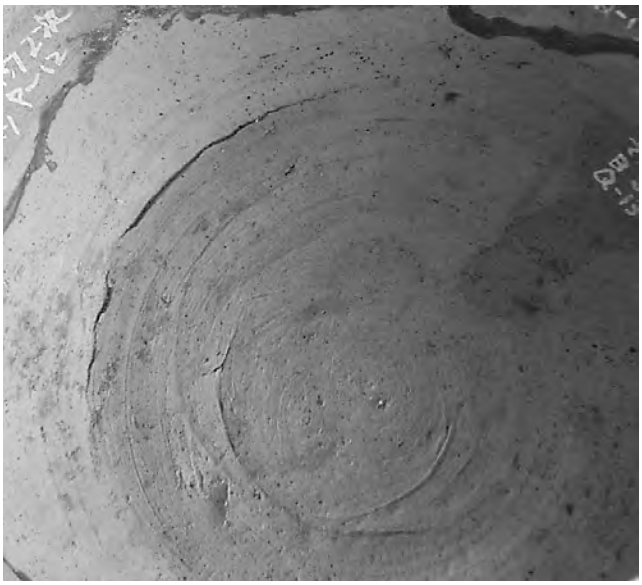
板状土製品裏（T・10）

羽口斜め（X・O）

底部砂底（51 ― 356）



底部木炭粒の付着（23 ― 13）



内面立上り部分の粘土接合痕（25 ― 32）

報告書抄録

ふりがな	まんじがさわいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	万治ヶ沢遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第172集
編著者名	鈴木良仁
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号　TEL 023－672－5301
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
まんじがさわいせき 万治ヶ沢遺跡	やまがたけん 山形県 つるおかし 鶴岡市 おおあざやびき 大字矢引 あざまんじがさわ 字万治ヶ沢	6203	平成16年度 新規登録	38度 42分 42秒	139度 44分 32秒	第１次 20041201～ 20041203 第２次 20050509～ 20050820	第１次 171㎡ 第２次 3,600㎡	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
まんじがさわいせき 万治ヶ沢遺跡	集落跡 生産跡	縄文時代 平安時代	Ａ地点　土坑　1 炉跡　1 Ｂ地点　陥し穴　2 Ａ地点　木炭窯　6 Ｂ地点　土師器焼成遺構　28 木炭窯　3	縄文土器 石器 縄文土器 石器 土師器 土師器 須恵器 土製品	数は少ないが、縄文時代の土器や石器がＡ・Ｂ地点から出土した。Ａ地点からは陥し穴が検出された。 平安時代の遺構は、Ａ地点からは炭窯が検出された。Ｂ地点からは多数の土師器の焼成遺構と、木炭窯が検出された。 （文化財認定箱数：136）

要約	縄文時代　Ａ地点からは縄文時代中期の土器を中心に、土器や石器が出土した。炉跡や土坑が検出されたが、狩や採集などの一時的な活動の場と考えられる。Ｂ地点からは陥し穴のほかに、石器が出土した。狩の場であったと考えられる。 平安時代　Ａ地点からは、遺物の出土はごく僅かだが、遺構としては木炭窯が検出された。Ｂ地点からは多数の土師器の焼成遺構と、大型の木炭窯が検出された。遺構は検出されなかったが、製鉄に関わる鉄滓や羽口も出土していることから、この付近は土器や鉄の生産拠点だったことが考えられる。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第172集

万治ヶ沢遺跡発掘調査報告書

2009 年 3 月 31 日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号
電話　023－672－5301
印刷　山形印刷株式会社
〒990－2323　山形県山形市桜田東三丁目 7 番 31 号
電話　023－622－6291